

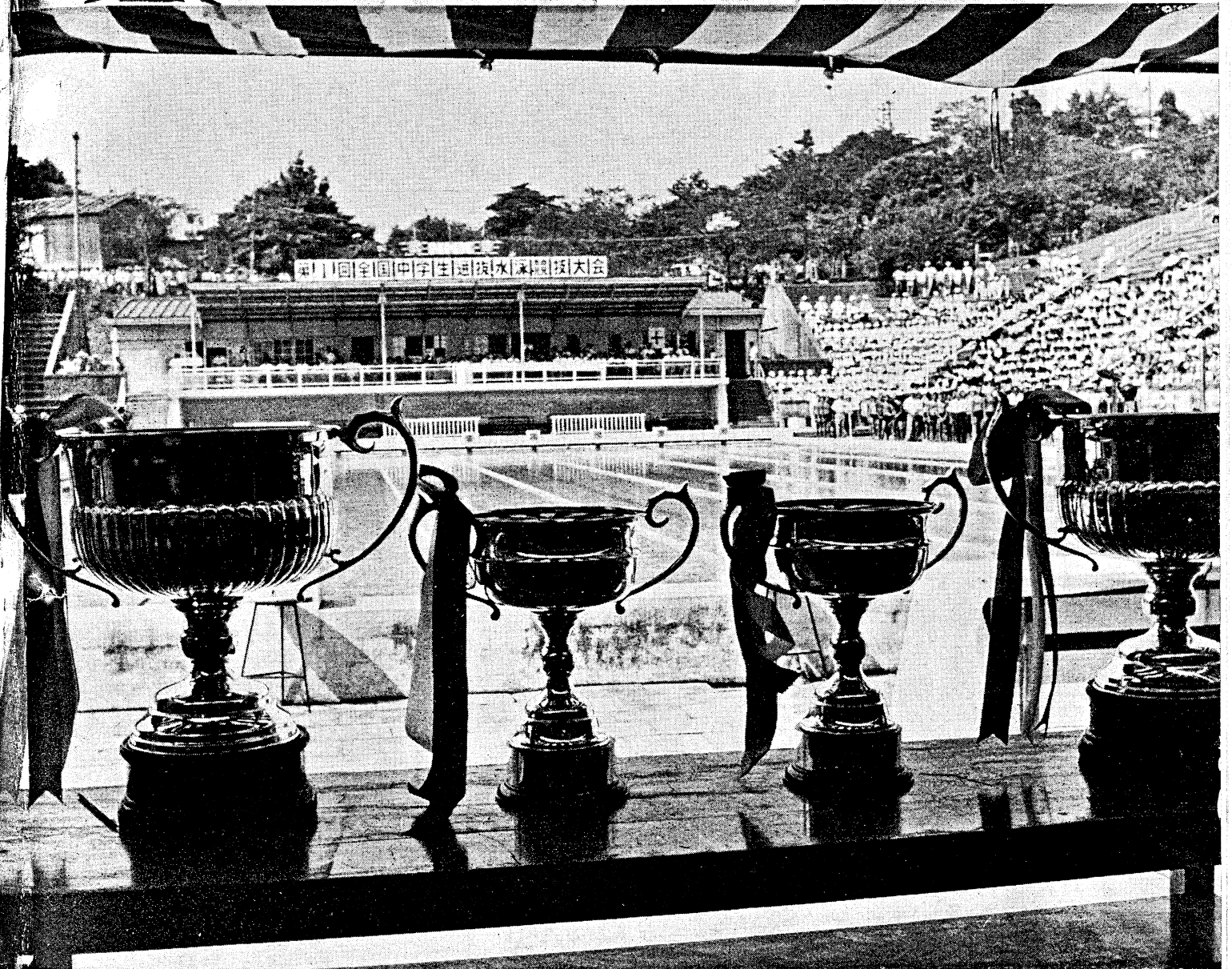
日本水泳連盟
機 関 誌

水 泳

第 141・142 号

昭 和 36 年 12 月

光



No. 141・142 "SUIEI" Dec. 1961

NIPPON SUIEI RENMEI
(Amateur Swimming Federation of Japan)

目

次

豪州派遣選手	2
女子競泳チームハワイへ派遣	3
高石会長紫綬褒賞を受賞さる	3
豪州へコーチ派遣	3
座談会 シーズンを終り東京オリンピック大会への展望	4
水連便り	21
第1回全国中学生選抜水泳大会	23
ユニバーシアード大会関係報告	29
(1) 1961年度ユニバーシアード参加	古橋 広之進 29
(2) 水球ユニバーシアード大会参加及び遠征報告	神田 明善 34
(3) 水球欧州遠征チーム, 水球審判, 視察報告書	名取 正也 44
全米選手権大会等関係報告書	49
(1) 全米選手権大会に参加して	加藤 茂 49
(2) アメリカに遠征して	岡田 正一 57
(3) 滞米感想	鈴木 重幸 62
(4) アメリカに遠征して	三枝 美貴子 64
(5) 滞米日記	川田 友之 66
全米男子選手権詳報	74
日本の水泳選手は思いがけぬ贈物を準備している	松本博士訳・エヌ・クリューコフ エム・ナバートニユフ 80
日・米・伯・亜国際水上競技大会(大阪)	82
日・米親善水上競技大会(名古屋)	82
日本高校選手権	83
第37回日本学生選手権水上競技大会	93
第1回中学生選抜水泳競技大会	90
第16回国民体育大会夏季大会水上競技大会雑感	益田 宗 107
FINA規則(抄)	110
オリンピック・プールの基本設計について	深谷 俊明 118
日本競泳史上男子100傑(10)	島田 桃一郎 119
九泳法の説明図	122

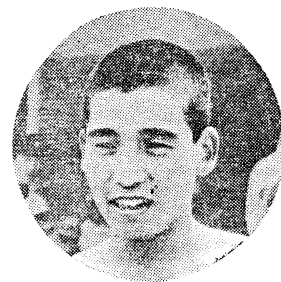
豪州派遣選手



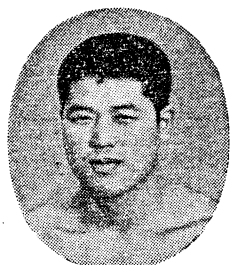
田口正治
監督
(水連競泳強化委員長
立大出)



藤本達夫
(中央大学)



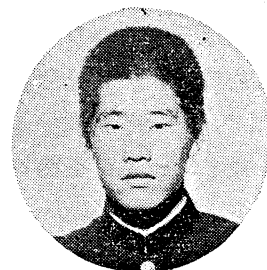
佐藤好助
(八幡製鉄株式会社)



石原勝記
選手 自由形
(ブリジストン・タイ
ヤ株式会社 日大出)



中川清
平 泳
(早稲田大学)



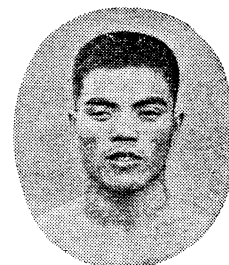
福島滋雄
背 泳
(日本大学)



山中毅
(大洋漁業株式会社
早大出)



重松盛人
(八幡製鉄株式会社)



富田一雄
(ブリジストン・タイ
ヤ株式会社 日大出)



福井誠
(八幡製鉄株式会社)



吉無田春男
バタフライ
(早稲田大学)

女子競泳チームハワイへ派遣

水泳連盟においては、昭和36年度の強化事業の一環として女子競泳チームの海外派遣を計画し、当初フィリッピン或はインドネシアへ派遣することを考慮していたが、受入先において適当な競技会もないことその他の事情からハワイへ派遣することを決め、先般選考委員会を開き次のとおり監督、選手等を決定した。

監督		高木恒夫	九州ブロック強化委員長								
コーチ兼選手	自由形	佐藤喜子	ロート製薬	23	奈良	100m	1:04.7	200m	2:23.4	400m	5:12.7
主将	背泳	田中聡子	八幡製鉄	19	熊本	50m	33.8	100m	1:11.2	200m	2:33.2
	自由形	辻本妙子	高条高	17	奈良	100m	1:08.8				
	〃	江坂君子	樺山高	18	愛知	100m	1:07.5	400m	5:14.5	800m	10:59.2
	平泳	田上和子	八代三中	15	熊本	100m	1:24.8	200m	3:01.8		
	バタフライ	中西美智代	五条高	15	奈良	100m	1:15.3	200m	2:53.0		

(記録は自己最高記録、)



高石会長紫綬褒賞を受賞さる

今般さきに内閣は、日本水泳連盟会長高石勝男氏に対し、紫綬褒賞を授賞することに決定11月3日の文化の日に文部省において授賞式が行われた。

なお同会長は、11月1日皇居においてとり行わ

れた皇居園遊会にも招待されたが、重ねてのこの榮譽は多年水泳界及び日本スポーツ界に尽された同会長の喜びは一入なるものがあるとともに水泳界こそぞっての喜びとしてまことに慶賀に堪えない次第である。



村上勝芳氏

豪州へコーチ派遣

今般水泳連盟では、東京大会に備えるため豪州における水泳コーチの指導の実際その他につき、実地に見聞するため、次のとおり日本における第一線指導者を現地に派遣することに決定した。

村上勝芳(競泳強化委員、日大監督)

小柳清志(競泳強化副委員長、早大コーチ)

なお、村上氏は既に10月24日出発し現地にあるが、当面はナラビンにおける全豪コーチ会議に出



小柳清志氏

席し、つぶさに同会議の実際を検討した上各地での競技会等を視察することになっており、次いで小柳氏も、11月23日日本を出発したが、豪州選手権を初め各競技会やコーチの活動状況等を視察することになっている。両氏は夫々3カ月近く滞在上の上帰国することになっているが、東京大会を控えて両氏の渡豪には大きな期待が寄せられている。

座 談 会

シーズンを終り東京オリンピック大会への展望

日 時 昭和36年10月18日(水) 午後6時
場 所 日本水泳連盟事務所

出席者

高石勝男(会長)	根上博(専務理事)
小池礼三(強化対策本部長)	田口正治(競泳強化委員長)
柴原恒雄(飛込強化委員長)	鷗田武(水球強化委員長)
川田友之(常務理事, 外国委員長)	古橋広之進(常務理事, 学生会名誉会計)
栗村中丸(常務理事, 編集委員長)	坂本亮四郎(編集委員, 記録委員)

栗村 本日は御多忙中有難う御座いました。本日は特に高石会長以下当連盟の幹部の方々を初め、各部門の強化責任者各位に御出席願っておりますので、本年度のシーズンを終えたこの機会に、回顧と申しますか、問題点なり或は検討を要すべき事項につき忌憚なくお話し合い願いますことは、東京オリンピック大会をいかに乗り切るかというためにも、非常に意義か深いものがあると思います。

もとより、種々検討を要すべき点があろうかと思いますが、これはとりもなおさず、このようにもってゆくべきだという前向きの姿勢で絶えずスタデイされるべきことは申すまでもないことと思います。

討論の問題点を大別しますと、国内的施策の面と対外的国際面に分れると思いますが、国内的には高石会長の非常なお骨折りで行われた第1回中学生選抜大会を初め各ブロックへの強化スタッフの派遣、陸上トレーニング方法の趣旨の徹底等があり、また国際的な面では、室内選手権大会や全日本選手権大会に豪州、米国等の一流選手の招聘やユニバーシアード大会への学生チームの派遣、初めての試みであった中、高校生のアメリカ遠征など強化第一年度としては、内外ともに盛沢山と申しますか非常に意義のある計画なり行事が行われ多忙をきわめた次第です。従いまして話題も広範かつ多岐にわたるものと思いますが、強化第1

年度としては、会長初めスタッフの方々の御苦心が実り相当な実績と成果を齎し得たものとするものであります。

以上を骨子としまして、来年度以降東京大会への強化面につきお話しを伺いたいと存じます。会の進行は、根上さんに司会と申しますか、座談の進め方につきお願い申し上げたいと思います。先ず最初に会長からお願い申します。

高石 本年は只今お話しがあったように、沢山な行事を行ってきましたが、お引受けしたばかりの年でもあり、時間的に充分準備し計画的、組織的に整然とやれなかったことはまことに止むを得なかったものと思います。しかしながら、東京大会を控えての強化第1年度としては、先ず日本の水泳連盟の実体をつかむ、そしてつかんだその実体を基礎として、今後は新たな組織だった計画性を持ったものを考えるべきである。これが最初のねらいでしたが、その点では中学生全国大会も出来ましたし、選手全体の層もつかみ得たことは成功だったと思います。ただ冒頭に言えることは、オリンピックの翌年は世界的傾向として或る程度足ぶみするというか低調だというのが通例ですが、それとは全く逆に今年の世界水泳界特にアメリカは、想像に絶する伸びかたをした、これがわれわれとしては予想外であったことは今後行うべき大きな課題をわれわれに与へられたものと考えます。従って、今後は目標をより高くする必要があ

る、来年度の目標を立てるにはより目標を高くしなければならぬと思うわけでありませう。

根上 会長、全くその通りですね。陣容が変わったことがスタートが遅れたものだと思います。何と言いますか、駄足で戦斗配置についた、しかし、駄足ではあるが、着々と方向をみつけながら来たと思います。そういうのが今年の実情だと思いませんか。

高石 その通りですね。

根上 田口さん、今振り返ってみると今年はどうすればよかった、ああもすればよかったと言いますか、種々反省なり、構想なりその他やりたかったこともあったのではないですか。

田口 3月に強化委員会の組織ができ4月になるとシーズン・インとなり、基本的指導方針等を打ち立てるのにも時間的に全く余裕がなかったと思います。例へば、泳法や練習方法にしても一写千里でやったわけですが、その基本方針にしても振り返ってみると実際は余裕がなかったと思います。しかし今年はいま水泳人口をふやす、底辺を広くするというので、全国に巡回指導に廻り、それから中・高校生を中心として大体3,700名程の指導者、選手を把握できましたので、ほぼ初期の目的は達せられたのではないかと考えています。記録的に前からの記録を統計上からみても、オリンピックの翌年は大体横ばいということになっているようですが、本年は10傑平均が伸びています。更に中学生から東京大会に使えるような選手の卵がみられたことは、喜ばしい現象と思います。

根上 田口さんの方のご苦労は大変だったことだと思います。いわゆる参謀本部の考えというか、その指導が下部組織に流れ滲透し、実績が上ってくるには時間がかかるとは思います。同時に地方の方々の強化に対する御努力については、これまた強化本部以上に増して大変だったと思います。そしてその実績がここに来て現れるか或は明年以降になって現れるということが言へるのではないかと思います。

会長 そう思いますね。

田口 その点根上さんが言われた通り飛躍的に記録の面では出るのではなく、着々と来年、さ来年あたり大きく現れるのではないかと思います。

根上 柴原さん飛込の方はどうですか。同じよ

うなことが言へるのじやないですか。

柴原 強化委員会が発足し何から発足してよいか考えましたが、ローマ大会の翌年でもあり、どうしても種目の高率のものをとっていかねばならないとの結論が出たわけですね。しかしそれにはどうしてもその種目に夢中でとびつくのではよい結果が生れないということから、何かねらうものが必要ではないか。そこで一番基礎になる準備練習にもっとロードをかけ、それで本年度は種目よりも基礎的なものをやり、それで飛込練習に必要な体力をつくるべきであると考えたわけですね。しかし矢張りシーズンになると、どうしても種目に飛びつく流れになってしまうのですが、今年の冬は特に飛込に必要なトレーニングの方法と同時に体操をやり、それを地方へ持っていきたいと考えています。体力をつくってしまう、これが一番の目的と考えています。まあ、男子飛込はまあまあ得点上は、第1年度としては、初期の目的のこまできたと思う。それにはそれ以上のものになると、考え方としてはもう少し馬力をつける必要があるのではないかと、練習に負ける体力では駄目だと思えます。

それで今年のオフ・シーズンには、ただ水に入ることが練習であるという考え方を改め、オフ・シーズンはシーズン中にできないことをやり、シーズンに入るべきであるとの形に持っていく考えです。

根上 今言われた通りたしかに基礎体力の増強が世界的な傾向ですね。これについてですね。過去水泳連盟が諸先生方に伺ったことですが、例へば似て非なる運動は適当ではないという線を出したわけだが、地方の方々はご意見がおありになるとは思いますが、そういう点を今後も種々解明しつつ必要なんだということ認識されながらやる必要があるのではないかと思っています。特に飛込は、体操が良い成績を得ていることから日本人に適した競技種目ではないかと思いますが、柴原さんの過去の実績から考えてみればですね、優勝入賞してもよい種目ではないかと思えますね。

そういうことから言って、特にトラポリンなどをとり入れることはできませんか。

柴原 これは来月には外国の会社との技術提携ができ向うの材料が入ってきます。しかしこれを

やることは、危険が伴いますので別な指導者を得て危険だということを考えてやる必要があるようです。しかしこれは空中の感をつけるには非常によいと思います。

根上 基礎体力をつくることは是非必要だと思いますが、適性を調べるには航空自衛隊の飛行機乗りの回転する機械がありますが、これと同じようにテストさせ適性が高いとかどうか調べることもなんかどうでせうかね。

柴原 それも、勿論私は必要と思います。私は直接見ていませんが、前に映画などで見たものによると、もっと高度のものが必要じゃないかと思えます。向うの場合から言っても、もっと急激なものが必要ではないかと思えます。

小池 あれは大勢の内から適性なものを選ぶという一つの門であって、矢張り高度な肉体的な技術を必要とするものは、ああいうものに訓練されながら進歩するものがある。一がいに駄目だとは言へないと思う。

柴原 駄目だということではありません。ただ実際には今やっている連中は、恐くそういう機械にかければ、皆パスしてしまふ。実際に浮いた頂点でものをとつかまえてしまふという速度が必要だろうと思う。

根上 非常に難かしいね。

小池 兵隊なんかの場合、兵隊は2,000人、3,000人もおって、歩兵とか通信兵に分けるような場合は、そういう公算でやって良いだろうが、矢張り機械で計れないような最高度なものを発揮させるのじや非常になんというか、精密なものを造る必要があるな。

根上 だからね、高い連中は別だが、例へば教官の対象になる下の方の連中のところね。

柴原 適性検査の方法としては、良い方法だろうと思えますね。ただ、体が動いてしまっていたら絶対とらえられないんですね。だからどこでとらえるか。体がスート浮いた、とまったところで完全にとらえてしまった方がうまくいくんだろうと思う。

根上 だけどね。考えてみると横道になるが、今はプロペラと違ってジェット、ロケットでしょう。だから前と違って相当高度なことをやってるんでしょ。だからああいう無重力状態にある時

ものを判断し体を変えてゆくというようなことがあるんじゃないですかね。

柴原 今のトラポリンあたりは非常に良いと思えますね。

高石 飛込について言へることは、今度の東京オリンピックは入賞或は優勝をねらいたいと思えますが、何と言っても今までに選手層の薄かったことが問題ですね。しかし最近では今年の高校大会をみても浜松だとか、熊本、名古屋、高知など出なかったところからかなり選手が出ている。余り出なかったところからポツポツ出てきたことは事実です。私は飛込の施設のあるところに選手を造り出す努力が足りなかったのではないかと思う。それでも自然発生的に出てきたのであって、東京大会の目標には遅いかも知れませんが、この傾向をもっと助長するようなことをしなければいかんと思えますね。

柴原 最近各地から指導者を出してくれと言ってきています。なかなか適当な人がおらないのでこまっている現状ですが、現地から強い要求は受けてはいるんです。

高石 その点では日体大がやり出したことは、種をまくには非常によいと思えますね。将来のためには非常によいことだと思う。

根上 各地区に飛込の施設ができていますが、年に1回の競技会だけに使って、あとは使わないというじやこまりますね。

どうですか水球の方は、水球は私は屢々かみついてばかりいて申訳ありませんが(笑)どうですか

鷗田 強化委員会が発足してから種々考えましたが、先ず当面の目標をユニバシアード大会を中心にして考え、勝負強い古顔を中心にしていくか或は3年後の東京大会に備え今後伸びると思われる若手を含めていくかどうか、考えを集約しましてとにかく目標は東京大会ですから素質のある者を連れて行きこの大会を通じ種々体験させるべきだと考えたわけです。結果としては、一引分二敗という無残なことに終わってしまいました。収穫としては、60秒を切れる選手が4名程いまして、そのスピードはたしかにヨーロッパの連中に伍して遅くはなかったわけですが、しかしどうして持っているスピードが生かせなかったか、仮にノーマークでチャンスを造った場合何故得点にならなかつ

たか等現在種々検討中で既に結論は出ています。ともかくユニバーシアード大会の経験から東京大会にどう持ってゆくか目下若手を中心に検討中ですが、いわゆる泥くさがさが欠けているように思います。もっと泥くさくてもかまわない。持ったボールは離さないという根性がほしいと思う。パワーがあれば泥くさはあってもかまわない、執念深さというものを徹底させたい。なんというか精神的な訓練をもっと養い、いわゆる相手を踏み越えても持ったボールは離さない、こういう気持ち強く持たせたいと考えています。

技術的な面について申しまして、丁度水球技術には1から5までであるとしてですね、1の泳ぎ、これはスピードの点からいいところへはきています。しかし中間の基本的ゲームこれを2,3,4としますと、これが個人的テクニックがうわっすべりの点があって弱体であったため、力が出しきれしていない。そう言った点で反省し2,3,4を強化して5に結びつけていけば或る程度根上さんが心配されるようなことはなくなるものと思っています。そうすれば16位のチームではない自信は持っています。ただ惜しむらくは、われわれの努力が足りなかったためうわっすべりであったことは言へると思います。

今後の強化方針としては、集約的に重点的に一歩一歩前進するよう大学のコーチ、監督の人達と相談しやっけてゆきたいと思っています。37年、38年には、海外遠征で肉をつけていき、さっき申した2,3,4の勉強をして参りたいと思っています。強化練習の場合だけでなく、大学の練習にもこれで行きたいと考えています。

根上 私はいろいろと拝見してはいますね、競泳などは無名の選手が有名になるチャンスは非常に多いと思いますが、水球はチーム・ゲームですから長い経験がものをいうと思います。ですから議論で方向づけられるのも結構ですが、議論即実戦の研究もやるべきじゃないですか。泳がないばかりでフォームばかり研究するのは問題があるのじゃないのですか。

ユニバーシアード大会に行ってきた北沢団長の話しでは、水球に関しては大変だぞと言っていました。体格が全然違う、ボールを動かすボール・ワークも大きな手で自由に動かしていたこ

とも話しておられました。そういった連中に立ち向っていくには、実戦主義でないといけないのじゃないか。だから日本式の水球をあみ出してゆき、それが実戦主義で鍛えられていかなければならないと思います。端的に言ってですね、水球は試合の数が少ないのじゃないかと感じます。大きなプールでなくては出来ないとか言っていないで、25mでも20mでもいいですからどんなプールでもやる気が必要ですね。

鷗田 50mのプールでなければポロは出来ないということは考えておりません。

高石 私は、私なりの見方をしているのですがね。ラグビーなどは、大きなビック・ゲームになると極めて静かですよ。ヒール・アウトとかなんとか言ってるのは、ハーフだけです。素人のラグビーはとかくうるさいようです。日本の水球は極めてやかましい。声を出さなくては動けない、できないのですかね。声を出さなくてもボールがそこにきてれば声を出すべきではないですね。外国はどうですか。

鷗田 その通りと思います。外人の場合は多少声を出してはいますが、日本程うるさくはないですね。

高石 声を出さなくとも動けるようであればいけない。声を出すということは、プレイする者が助けを呼ぶことになります。リードする者にだけ指図するのならば判りますが。高校や大学でも実にやかましいと思いますね。

根上 FINAルールは監督は上から指図してはいけないということになっているのですが、公然と日本で許されることが問題ですね。

小池 昔はサッカーなどつまらないと思っていましたが面白いと思ったのはベルリンの帰りにイギリスでしたか、プロサッカーを見ましたがね、実に面白いと思いましたよ。キックするとタマのゆくところにチャント味方のものがあるんですね。ボールをほおったから人がゆくんじゃない。持ったタマでも、キープの仕方でも優劣があったら、ケガでとられることはないんですね。そこまでゆくにはどうしたらいいか問題だと思いますね。

高石 試合の数が問題だと思いますね。知らず知らずのうちにそこまでゆくと思います。

根上 仮にナショナルチームというか、代表軍をつくりそれに対して毎日違うことを当はめてやる、例へば足を引っ張り、それをまた振り切るとか、また或ときはあてる方にきたない限りをつくしてやるとか、言ってみればそんなような練習をする考えはありませんか。

鷗田 そういうことですね。そこでこれがナショナルチームだという選手を15名造り現在人選中です。

根上 今まで余り問題でなかったアメリカあたりが、たんとか上位進出しようとして練習しているようですが、川田さんその点今度アメリカへ行かれてどうですか。

川田 ロサンゼルスだけでなんですが、今度の東京オリンピックのアメリカのチームは、俺たちで編成していこうじゃないか、そのためにはどうしたらよいかということを話し合ったわけですね。エライコーチを呼ぶとか、しょっちゅう遠征してよいチームと試合するということでしたが、なんでもかんでも皆集めて楽しもうじゃないかということが賛成が多かった。2月から10月にかけてロサンゼルスオリンピックプールは、夜6時から9時まではポロ専用で3ゲーム必ずやる。初めは3ゲームやる人間がいなかったわけですね、そのうち人が誘い合ってやるようになり、今年の登録チームはロサンゼルス地区だけで、つまりサウザン、パシフィック、アソシエーションだけで40チームできたわけです。今ではオリンピックプールでやらしてくれ、そのためにはドコとドコとがかってきたんだということが殺到してきた。1部2部3部と別れていますが、そこで6時から初まるチームは、さっき話しがあつたように実にうるさい、しかし楽しそうにやっている、しかし最後のチームは8時頃やりますがメンバーも揃っているんですね。年に1人が120ゲームやります。今年あたりは東部のチームに絶対に負けたいと言っています。要するにゲーム数が非常に多いことが強化策に役立っているのではないかと思います。

根上 鷗田さん、アメリカもメルボルンに来た頃は大了たことはなかったですね。

鷗田 そうでした。

川田 アメリカの順位は、前は飛込が上だったですね。今は競泳が伸びて飛込、シンクロ、その

次がポロですね。ポロは、なに競泳の次ぐらいにゆくんだという気がいって一年中通して毎日3ゲームづつやっています。相当真剣なもんです。

小池 チャンピオンをとったらそのチームは、常にチャレンジを受けなければならないということにしたらどうですか。申込があつたら常に受けなければならない。選手権とられてしまうんだから(笑)。

根上 個人ゲームと違って考え方を相当研究する必要があると思いますね。日本でもアイスホッケーなんかは、都会チームは比較的強いわけですね。これは室内スケートリングがあるせいでしょう。ところが、あれだって営業ですからふだんは貸さないわけです。だから大学のチームなんか夜、夜中に行つては借りてやっているわけですね。水球の人達もその位の熱意をもってやる位でないと駄目じゃないですか。

鷗田 大体夜10時、10時半頃まではやっています。しかし社会人も多いものですから昼間はできないので夜やっているわけです。

根上 それこそそういう場合は本部長にお願いしてですね。夕飯位出して貰うとか、夜遅くなる場合は車に乗って帰れるということにしたらどうでせうか。

小池 しぼってくれば出来ませうね。

根上 地方からの若手の伸びを待ってたんでは3年では間に合いませんね。

鷗田 今月一応6名程大学のジュニアに入れる位の選手が出ていますが、泳ぎもあり、体もあり今までにない素質のある選手が出ていましてまあこの2、3年にない盛況であると思っています。まだ完成してはいませんが。

根上 小池さん、今年の強化の計画なり、反省、見透しというようなことは委員長から話しを聞きましたが、しめくりということで本部長として如何ですか。

小池 その前にね、飛込、ポロでも競泳でも体力的にですね、昨日体操を見ましたが、鞍馬なんかかなり長時間緊張して継続的にやっているが、ああいう体力と我々の体力とどうかしら、かなり差があるもんでせうか。操体は腕んなか強いと思いますがね。

根上 体操の場合は、大学に入り社会人になり

初めて力が出てくるのではないですか。それにしても全般的な筋肉は強いと思うな。

川田 ピークが遅いようですね。人間の成育期に達して始めて技倆が完成するのでせうね。水泳の場合、飛込、ポロにしても水泳という関連性があるので技倆が完成する年齢が早いのではないでせうか。体力的にはどうですかね。

小池 腹筋の場合負けていないのじゃないかと思えますね。

柴原 腹筋なんかよくなかったらいけないですね。軽い奴は軽い奴なりの力しかないのでは駄目ですね。アメリカのサミー・リーあたりは、あれだけの体、5尺3寸位で見ただけでも相当の力が入ってくる。

小池 私は本部長といっても、大体予算とか、その他お手伝いしたということで、その他のことは各委員長にお願いしましたが、概ね初期の目的を達成したと言いたいのですが、強化本部としては、海外交流、国内体制の整備、中学生問題等一応施策的にはかっこうがついたものと思います。今後残された問題として、私はアメリカのエイジグループシステムの話しを聞きますが、これに関しては中学生対策として東京大会を兼ねてやってみたいと思うのは、アメリカのエイジグループをそのまま丸のみすることは難しいと思います。

日本の場合には幸い中学生、高校というものが、小学生まで入れることは問題はありませんが、こういうようなものを将来の大綱を立てるためには、東京大会には多少遅まきの感はありますが考えるべきではないか。やった方が近い将来のためにもよいのじゃないか。今のまま3年間を1グループとしたもの、いわゆるエイジグループといえるかどうかはとにかく、あのままでよいかどうか。例へばブロック大会を活用して中学生の1年生だけのグループの競技会をやらしてみる必要がありはしないか。エイジグループの問題ではそのようなことを考えてみたいと思っています。

水球、飛込についてはよく判らないが、飛込はメルボルン大会を見ましたが、優勝の予感がします。それに米国あたりに行って勉強してることがよいならそれもよし、水球は風当たりが強いけど、考えようによっては、もうそこまで強ければあとはやるのは楽ですから。少くとも反省という

よりも希望ですが、日本でやって日本が全部ダウンではこまるということです。勝って貰うことしかありません。

競泳の場合は、日本も常識的にはかなり進歩している。例をあげても、平泳、背泳、バタフライこの辺は常識的には進歩しています。しかし従来劣勢と言われたアメリカの平泳がまさに脅威的な記録を出してしまった。南米のサントスを含めたアメリカの短距離勢も、とにかく量的にすごい選手が沢山いるということで離された感じがしますが、これに対する対策を今後どうするかということは、日本の水泳として一番問題ではないかと思う。しかし、ジャストレムスキーが29秒出したからこれではもう駄目だでは駄目だと思う。日本としては、35秒だったら34秒になり、34秒は32秒に持ってゆくというように絶えず続けていけば、必ずどこかにチャンスは出ると思う。去年35秒までだったから今年はひとつ33秒まで持ってゆくという努力が絶対必要ですね。今年はその意味で進歩したと思うんです。今後皆真剣に取り組んでくれると思いますが、基礎体力の効果をプラスすれば、来年も今年位と同じ幅の進歩があるのではないか。しかし、どっかに特に短距離を対象にして常識を破るような進歩がないものか。ないとは思いますが、短距離に対しては特殊な手段が講じられないものかどうか。これを来年の課題にして取り組んでみたいと思います。

根上 先程会長が言われた通り、今年は海外遠征等では日本の水泳界初まって以来の多忙な年であったわけですが、この忙しい中で最も関心を持った話題としては、アメリカのエイジグループの活躍、組織が大きな話題ではないか、これに対抗するには日本は中学生の大会ではないかと思えます。第1回の大会は、会長の格段のご努力でできましたが、大会を持つに至ったという文部省の許可（次官通達）がおりてから実施するまでの準備期間がなかったため、私共の考えておった程成功したかどうか、しかし各競技団体が垂涎していた中学生の全国大会を水泳連盟が皮切りでやった喜びの方が大きいのではないか。ともかく一番何と言ってもこの涉に当られ非常なご苦心をされた会長から苦心談といえますか、お願いします。

高石 中学生大会は、今までかなりシビアに

押へられていたわけです。これが解けるについては、それだけ非常に大きな難関があったと皆さん予想しておられるようですが、東京オリンピック大会が近づいた、水泳を何とか勝たせなくてはならないとの一般の理解が手伝ったこと、また第一に文部省が頭から何んとか水泳に関しては、許してやろうという考え方に立脚しものを進めてくれたことは一番解決の元になっていたと思っています。その点では、私は非常に感謝しています。それだけ一般の理解が大きいから、水泳に対する理解の現れだと思うんで中学生に許されたものと思えますが、これを喜ぶと同時に水泳に対する期待の現れは同時に下駄を預けられたという感じです。この体制が2年前に出来ていたらと今更言い訳もできませんし、許すからには水泳連盟が東京大会に備えてかくありたいということ、かなり弾力的な許し方をして貰いたいと思います。

さき程話があったように、アメリカの今年の伸び方はエイジグループの競技が成功の原因だというのが、エイジグループの競技は、今日初まったのではなくかなり前からやっていて、それが今年実を結んだというよりも、その結果の片鱗が現れたのです。今後もっとこわいのではないかと思います。われわれ水連を引きづってゆこうとする者たちが、かなり世界水泳界のおもむきから遠ざかっているのは非常に損だと思えます。今後水連としてやらしてほしいことは中学生の大会を全国大会に限らないでもっとゆるめてほしい。せめて具体的には、国体には中学生を出さしてほしいと思う。これが今私が考えている中学生に対する考え方です。そこまで進んでゆるめて貰いたいと考えています。そこで今後はこの問題を各方面をお願いしてゆきたいと思えます。

根上 この問題は国体委員会の問題であり、文部省の考え方によると思えますが、一府県の代表であり県の教育委員会なりの責任者がついていけば、まあ現在は男子高校だとか、社会人というか実業団は1府県12名マキシマムに出しているのですから、これを中学生の場合、仮に男子6名、女子6名が一府県の参加数とすればそう大きい数ではなくなるのじゃないか。大変であることには違いないが、可能性は大いにあると思えます。

高石 中体連の方でも中学生の全国大会を開い

てから、かなり中学生の水泳競技には理解を深めて頂いてきたと思う。前程の困難さはないのじゃないか、希望的観測ではありますかね。

根上 主催県の問題で共催団体がはっきり実施の団体ということまでできたわけです。このことは、なんといいですか、われわれの頭から抜いて考えられない問題ではないかと思えます。従来までは、水泳なら水泳は、水連が加盟団体を集め計画し、実行することで出来ました。今後は共催団体と協議し共に実施していかなければならなくなったという新に出た線が強くなったという問題もあります。

小池 これはなんというか、世の中がこういうふうになると矢張り共同といわずいろんなものを動員していかないと、出来なくなった、良いものが出来なくなったということになったようですね。高度成長の現れですかね(笑)

さっき言い洩らしましたが、強化のための予算のことですが、本年度はご承知の通りですが、来年度以降の見透しは本年度の3倍位は使えると思っております。予算は国内予算にしても、国外にしても一応枠で決められますが、あくまで予算ですから本当に水泳連盟が自信があり、またその裏付があつてかくあるべきであるというなら、いわゆるごり押しではなく予算増は実現可能と思えます。競泳にしても飛込、水球でもこれだけは是非必要であるという具体的計画があれば、どしどし言って下されば、私は予算獲得は出来るだけ頑張る積りだし、その点人後に落ちない、他にひけはとらない自信は持っている積りです。

田口 大いに意を強くしました(笑)強化策としましてはね。ご承知のように36年度は中学生の全国大会の実施が決定したことと共に全国的な強化組織の確立と実際的な活動により、東京大会への基礎が十分出来たと思っております。このままの活動で東京大会にぶつけても或程度の成果は得られるものと考えています。がしかし、米、豪に打勝って、嘗ての水泳日本を再現するためには、先程来から話があった基礎体力の強化と精神的な意欲を大いに鍛えあげることが、37年度に残された強化策の課題だと思えます。また同時に技術的には、短距離選手、特種目選手に対する練習法と

試合運びに対する研究だと思えます。更に基礎体力をつくるためには、選手や指導者の皆さんが水泳のトレーニングを重視して意欲的に実施することが最も大切だと思えます。

しかし、なんと言っても、競泳は精神的な問題が最も大きな中心をなすものであり、どうもこの点積極的な意欲に欠けるような気がします。これはそのまま練習量に影響してきますので、今後は指導者もそして選手も意欲を出すことを何としても考えるべきではないか。要はですね、日本の青少年の教化が必要と思えます。

小池 両方とも相俟って非常に苦しい、トレーニングを要求してそれに態度を規制していけば、やり終えたことに関し選手には自信が付き、プライドも持つし逆に意欲を出すことになるから、いくらやらしても意欲がないから駄目だということではなく、裏腹になっていますから、矢張り意欲があればそれについてくるものがあるし、それをこなさせれば、その上に意欲が加わってくるのですから、一方的にとりあげないようにして貰いたいと思う。

田口 意欲という点では、例へば今度中学生や高校生が、アメリカに遠征したことも、これは身近な一つの意欲を持たした現れではないかと思えます。

川田 アメリカチームの監督として、今夏来日したマイク・ペップが、全米選手権大会の時の日本遠征の公式報告の中にですね、日本の水泳の結果をみて、それだけで日本を過少評価してはいかん、今までにない科学的な新しい強化策が、非常に強力な組織的強化策が日本国中に一様にできている。これは東京大会までに相当なものになると言っていましたね。

エイジグループ組織がなくて今までの力を持っていた。今度強化策を取りあげたのだからで、今後大変なものになるということをペップが過少評価してはいけなかったんだと思えますね。

小池 今年私の見たところで非常に嬉しいと思ったことは、中学生の体格がよい、伸び伸びとできていることですね。

根上 小池さん。普通の高等学校と中学のある学校に行ってみるとですとね。中学生の方が高校生より大体において体位がよいことは、はっきり

言へますね。

試案ですが、秋のプール納めかプール開きでもどこの学校でもやりますが、そんな時期をとらえて、1府県1会場なんてのものじゃなく、5会場でも10会場でも競技会というか記録会をやってですね。よい結果が生まれたら、どんどん送って、そして集計の上何じゆいまではアメリカ式にでもメダルをつけてやって表彰するようにでもしたらどうですか。現在では、これは強化委員会の仕事ではなく、普及委員会の方の仕事ですが、国民皆泳の方がテレビなんか1会場だけやって、全国的に津々浦々で催しがやる筈になってるのですが、行われていないのじゃないですか。こう言ったものを振り返ってみて水連としてのいき方があるのじゃないかと考えますが、まあ、私共もここ3年程中心から遠ざかっていましたから。1年目位はなんですが、2年目位から俺もひとつやってやろう、それを貰うじゃないかと思ってくるようになる。夏休みなんか泳ぐやつが増えるのじゃないか。全国大会はやらなくてはならない。

根上 これはやらなくてはいけない。選りすぐったものを。今のは納会の時だから。例へば、台東区でもよいでせう。一府県が費用がかからないように警察や労働省あたりと手を組んでもいいんですね。

田口 私達の時は、バッチをくれたですね。われわれの時は、中学生なりにあれが欲しくて頑張ったもんですよ。

高石 私は、それは来年は国民皆泳のあの日に小学生をやりたいと思う。

根上 小学生をやるとなると、学校がある内ですね。7月半ばから20日迄ですね。

高石 学校のある内ですかね。

小池 小学生の内、泳げないのが何人で済んだと。全部の内泳げるのが何%位か。皆泳的な表彰の仕方も面白いと思うな。

田口 私の知っているところで、2、3小学校の対抗試合をやっているところがあります。審判長で行きましたよ。

高石 奈良県は全県の小学校大会を教育委員会の公認でやっていました。

根上 加盟団体も、そういう面で一ヶ所どっかでやって、県自体で集計しそれを連盟に持ち寄

り、そうしてメダルでもやれば張り切りますね。ところが、矢張り関心を持たせるには、何と言っても日本の泳ぎの英雄を造らなきやならないと思いますが、その役目は古橋さんの方の学生会の方じゃないかと思うが、そういう意味でどうですか、古橋さん。

古橋 矢張り田口さんがさっき話したように、日本を背負って立つんだという、世界一になるんだというムードが足りないような気がしてならない。一つには或る程度社会性からも来ているのじゃないか。最近は一ユニバーシアード大会だけの経験で直接選手を持っていませんので判りませんが、プールが近いので見に行きますが、どうも下積みの何か足りないような気がしてならない。

昔と比較しますと記録は伸びていますが、或は体力的によくなったとか、練習方法がよいとかその他色々あることは勿論あろうが、何れにしてもアメリカ、オーストラリア以上のことをやる要がある。仮に日本人とアメリカ人とで差があるのなら、少くとも彼等以上にやらなくては駄目なんだ。恐らく同じレベルにはいかないと思います。昔しと今とでは、条件が色々違っています。今迄はわれわれも小学校時代から、中学、大学とやってきた。ところが、中学生も今年から初まってきましたが、とにかく高校にしても大学も非常に期間が短い。従って、高校、大学の時代に相当加重になるような練習をやらないと成果が得られない。ともかく世界一になる意欲と同時に、そのものにぶつかっていく意志が欠けているように思いますので、これからはこういう面を大いに進めていく必要があると思います。

根上 確かにそういう点がありますね。今の学校の方針を見ていると、子供がスポーツに走らないように仕向けている感じがありますね。それが意欲が出ない一原因だと思う。今の教育の在り方は、今日の教育の方法が良いかどうか、これは次の時代に或はまたその次の時代に判ることですが、宿題だけが長く、進学率がいいとどれもこれもやれということ、皆大臣になれ、学者になれというわけの積りではないだろうから、まあスポーツの面をもう少し考えて貰わなければ……。

田口 教育面を云々するのはいかんことだが、どうも形而上学的に走り過ぎるですね。

高石 例へば、先程話しのあった中学生の問題ですが、禁止し制限するについては、理由はあるんですよ。それで、やっちゃ悪い理由はあるんですね。だから感じたことは、しかしやった方が悪い理由もあるに違いない。その何れが大きいのか、プラスが大きいのか、マイナスもあるけれど、プラスもある。プラスが大きければ、マイナスは犠牲にしても良いと思う。ところが、プラスは全然考えられずに、マイナスだけ取り上げられている感がある。そういうことが、スポーツを制限している指導理念になっていると思います。色々話合ってみました、プラスの面は全然タッチしない。本当ですよ。こういうマイナス、こういうマイナスがあるじゃないか、だけなんですよ理由は。

田口 プラスは棚上げなんですよ（笑）

高石 われわれは、プラスが大きければマイナスを犠牲にしても良いのじゃないかと思いますがね。

根上 その通りですね。

高石 その辺は根本的な問題なんで、教育者の人達が深くもっと掘り下げて、プラス、マイナスを比較しその上で判断されたら良いのじゃないかと印象を強く受けましたね。

田口 今度の陸上トレーニングは、本当に単調なものでしてね、やる気がなかったら全然意味がない。先生方も勿論ですが、選手自体がやらなくなっちゃならない、やるんだという気がなくては効果がないもんですよ。どこまで真剣に取り組んでくれるか心配してます。

根上 戦後、軽音楽が盛んになりましたが、今の大学生なんか見ていると、ラジオをかけ放して勉強している向もある（笑）だから運動しながら勉強している方向がでている（笑）ですから、さっき古橋さんが言ったように、大学生は大人なんだから、一つうんと頭を切り換えてやって貰わないと、実業団にだんだん喰われてしまう。日本の水泳をリードするものは大学生ではなく、逆に実業団だということになってしまいます。

古橋 前よりたくさんやらないと、時間的に追いつかなくなる面もある。

根上 ありますね。

古橋 それと同時に、田口さんが言われた通り、種々体制が出来たわけだから、これからが大

変だと思ふ。会長から話しがあったように、冬のトレーニングは賛成ですね。目下日本で欠けているものは、そういうような基礎的なものが全然なもので、言ってみれば2階から出発しているようなものです。特に例のインターバル、トレーニングにばかり気をとられ、必然的に下積みの長い距離をしかも力を入れずに泳ぐ段階を経ずに、どちらかという、長いものより短いものに頑張る傾向にきている気がします。従って、昔しやっていたことに良いことも沢山あるのですから、それをどんどん生かし、その中から苦しみを味って、自分というものを一つずつ造ってゆく。その上で力をつける、そして、インターバルならインターバルの中で築いてゆく。そうでないと、今話したように1階を抜きで2階から上っていくというような感じでは、いけないのじゃないかと思うのです。

ここらあたりで分析していくと、今は基礎体育が第一です。基礎的なことをやる。やればほかのことも恐く満足がいくように出来ると思う。今の体力的なものと同用していけば、そうすれば強いものが築かれていくんじゃないか。大学の選手を1回しか連れて行きませんでした、何かそういうものが欠けているのじゃないかという気がしましたね。恐く来年度の課題は、色々多いと思いますが、今進んでそう言ったことをやれば、迫力がつき、力がついてくると思います。しかし具体的にやるとなると種々問題があるとは思いますが。

田口 学生部会を通じ、大学生諸君に指導して欲しいのですがね。今の大学生は、日本を背負って立つ気持でもう少し指導性を欲しいと思いますね。トレーニングを実施することについて、大学のupper級生を集めて話したんだが、自分達の時代ではオリンピックに出られないという気が非常に強いですね。もう一歩進んで、自分が出られないんだから、この際兄さん株になって、高校生や中学生を自分が指導してやらなくてはならないんだというような思想というか、考え方を学生部会を通じてやって貰いたいですね。

古橋 これはこれからのわれわれの課題なんですよ。今までが、そういうムードを造ってこなかったでせう。今すぐ要求しても無理ですよ。除々にわれわれもやっていくし、下の方からだんだん身につけていって貰うんですよ。そういうのが、

将来40才になれば指導者にもなるし、社会に出て新しい人を育てていくような段階になって来ると思うんです。そういうものが、今全然ないんでせう。

強化本部が出来て第一年目でせう。直ぐやろうと言って要求しても今直ぐは無理ですが、これから少しずつ基本方針を、大学生が中学生や高校生を指導していく方向に持っていけると思います。

根上 そういうことでユニバーシアードに連れていかれて、良い成績を取られたことは、学生諸君が自信を得たということではないですか。

古橋 まあ、国際大会に優勝する雰囲気を持たして貰ったということと同時に、アメリカを除くその他の国でも、安閑としていれば負けてしまうんだというような感じを持ったことも或る程度あったし、それから、これからは自分達でやっけないと、アメリカや豪州にやられてしまうんだという感じを持ったんです。その意味では、大きな収穫だったと思うんです。

それで、少くとも田口さんが言われたように、私共の中学生時代ですか、大学生を見ると、非常に偉大な選手だという感じを受けたし、尊敬したもんです。われわれは年をとってきたから、そう思わないかも知れないが、なんとなく大学生らしくない感じがしてならない(笑)昔しは、どっちかという、勿論監督なりコーチには非常に立派な方がおられました、自分自身で築いた、自分自身と斗って来たという感じが多かった。従って私の場合は、試合場に行っても自分を征服して行ってきましたから土壇場へきても少しも困らなかったと言へます。今は皆に寄りすがって1人で大きな中に放り出されてしまうと、心細くなってしまふというような、か弱い選手が多いんじゃないかと思ふ。

高石 そういうことが言へるな。

根上 どうでせう。帰りにポルトガルに寄ってこられて来たわけですが、あちらの様子は。

古橋 全般的にスポーツに対し、非常に平和的な感じですね。今迄の隘路としては、水泳というものはヨーロッパにおいては、或る特定の国は強かったが、まだスポーツ全般の中では、一番遅れたスポーツじゃないかと思ふ。そこで、彼等としては、われわれもその場に入り皆と一諸に戦

っていききたいという気持が非常に強いようです。ユニバーシアード大会でもそうでしたが、われわれのところへ来て、君達は どうして強くなったんだという質問もありまして、相当に真剣なものがありました。そういうようなわけで、当面の敵はアメリカや豪州であるかも知れないが、段階を踏んできたら相当強くなると思いますし、警戒していく必要がありますね。

もう一つ印象的なことは、トロイが来て話したんですが、日本の水泳はレベルアップしたが、これからはロケットの打合いになるんだと彼は話していました。これからは、如何に優秀なロケットを上げるかは、後2年なり3年なりの東京大会迄の課題だと思います。

根上 確かにそう言へますね。アメリカがエイジグループ80万ですかの選手を擁してしまいが、日本は中学生15,000人にしてもですね、最終的には20何名づつの選手、10何名位づつの選手でやるのでずから、高さを競うんで、底辺の広さを競うのじゃないのですから。その意味で田口さん頼みますよ。

川田 田口さん、全米大会の1,500mの1着サアリが16才、2着のソマーズが19才、3着ラルフが17才、4着ウオールが16才、5着ファーレイ17才。それから100m優勝のスチーブクラーク17才、2着のライオンス17才、3着スプライツァ19才、チャックマン19才、マックドナウ18才（編者注ドス・サントスは4着）でして、結局今のアメリカの力を如実に現わしている証拠だと思いますね。

古橋 日本なんかの場合、一番言へることは、基礎的なそういう訓練が足りないために泳ぎが崩れてしまう。例へば、200mのレースでも、150m迄は非常に良い泳ぎをしているが、後の50mが駄目になってしまう。だからジャストレムスキーやストックの泳ぎを見てもですね。とにかく初めから終り迄同じ泳ぎをしていることは、相当な鍛練の裏付があるような気がします。

川田 私が今度行って非常に特異に感じたことは、彼等の方がフォームが良いのですね。

根上 日本人よりも？

川田 そうなんです。昔しは、日米対抗でも日人は、きれいな左右同形の泳ぎで、ごこちない泳ぎはアメリカなんです。今は逆なんです。そ

れで16、7才の選手権をとったファイナリストに聞いてみると、水泳歴は10年です。だから、非常にハードトレーニングで長い間、かつ泳ぎ込んでそしてフォームをチェックしていくということではこうなっただけですね。

田口 それを3年間なり、4年間で鍛えなければならぬですね（笑）

根上 3年やそこらと言いますが、その前があるわけだから、そう悲観しないで大すにやっして下さいよ（笑）

田口 38年度になれば、自信をもってトップレベルの年齢を引下げることが言へます。ところが今は平均をとると21才ですよ。これば矢張り18才から17才に下げなければ駄目だと思う。今の中学、高校の低学年を強化していかなければならない。

根上 この点では、今の注目すべきアメリカの水泳界をシンクロを連れていかれたとは言へ、その後の仕事でアメリカの事情を見てこられた川田さんから一つ。

川田 一番感心したことは、エイジグループの水泳学校に行っている子供達が、実に意欲的に泳いでいることですね。男も女も、大も小も皆同じです。それらの男の子には、お前女に負けるな、女なんか負けてどうするんだという具合に気力を吹き込むんですね。だから遮二無二に泳いでいますね。そして、どこのプールでもね。行くと3組位が泳いでいますが、えらい波の中で頑張っていますよ。それと一番驚いたことは、鈴木重孝君や胡麻鶴君も見てますが、生半可なターンをやる子供がいると、そこへコーチが来て、足でバースと蹴るんですよ。蹴られるとまた一生懸命泳ぐんですよ。傍で見ているのは母親なんです。母親も喜んで見てるんですよ。これはアメリカでは親も気力を持って子供を育てている証拠なんですね。どうしてそうなんだと聞いてみると、今じゃ水泳をやって心身を鍛えることが、選手になるのじゃなく、アメリカの良い国民になる一つの運動の一つなんです。不良化防止運動とオリンピックがうまくマッチしちやっただけですね。

それが一つと、アメリカの全米大会ですが、役員全部が実に敬虔な立場で各々のポストに忠実なんです。それで選手がそれに応えて、またそれに応えただけの成果をどんどん挙げるんです。世

界記録をざらに出したんですね。普通は、1秒か2秒位のところを、5秒も6秒も破ってるんですね。怒られるかも知れませんが、その雰囲気は日本の選手権大会の雰囲気と聊か違ったものがありますね。

栗村 全米大会だけで世界新記録が26も出ましたね。

川田 そして、何と言いまわしていいか、フアシタスチックということを書いていましたからね。夢想だにしない結果が現われた。こんなことを誰も予想しなかった。だから来年、さ来年、オリンピックのことを考えると、嬉しくて、嬉しくてどうしようもない位希望に溢れているんだということを皆が言っていました。

それから羨ましいことは、一番感心したことはどうして強くなったかと聞いたら、俺達はプールは有ったが、皆レクリエーションのためのプールだった。日本は競泳用のプールだ。しかし、俺達は競泳用のプールを造って貰うのは待てられないから、レクリエーション用プールで競泳を練習したんだ。それが良い成功の暁を迎えてるんだということを、エドオルソンという水泳気違いの役員が誇らしげに言っていました。

根上 まあしかし、戦後の日本は、古橋君のあの偉業で国民が或る程度自信を持ったし、われわれもそれを誇りに思っています。それが、今や社会全般に平和になり切ってしまうんじゃないかと思うのです。アメリカは、逆にこの前の満州事変とか支那事変あたりの、精神作興というか、日本の良い面ばかり向うに行ってしまうと、日本は逆に向うの悪いところばかり見てやっている。

川田 そうなんですよ。古橋君が泳いだ頃に、今のは何秒でターンしましたとか、プールとスタンドが本当に一体となって必死だった。国民の関心がプールに集まった。今はやっぱりそれをねらったかも知れませんが、全米大会でも、地方の大会でも大会を盛り上げるためにアナウンサーがプールの一番良い場所に居て、プールをリードします。何コースの誰は手を上げてくれ、そうするとその選手は手を上げてそれに応える。観衆は拍手をもって迎えるということで、仮にその傍に中山正善さんが居られるとすると、この方はこういう人だと紹介すると、中山さんは観衆に向ってど

うも有難うというようなスピーチをする、という具合です。100mの決勝でも、クラークが何秒でターンするか、ターンジャッジ手を上げてくれというと、ターンジャッジは、バット手を上げる。そうすると、今のは24秒でターンしたとサッと言えます。ゴールになって競合してくると、53秒、54秒という具合に秒読みをするんです。皆んながそれに誘い込まれるように盛り上げてくるんですね。そのようにうまく演出するんです。

根上 それはね、川田さん。日本なんか、競馬なんか場内放送があって、それが今何番の馬が出ていますとか言って、客も皆それを聞いているようにやっていますね。そういうように競技運営の面も勉強しなければいけませんね。

田口 今やっているのは、結果だけのアナウンスですね。

根上 「唯今の結果ア……。」というあれはいかにも水泳らしい印象を与えているが、あれはメガフォンの時代にやったもんなんですね、あれは。

田口 本当の解説者になってやらに駄目ですね。

根上 だから水泳のベテランが、話しのうまい人が、私のように話しの下手なのはこまるけれどね(笑)

高石 とにかく和田さんから手紙が来ましてね。全米選手権を見たでしょう、これに対抗する日本の選手の東京大会迄の苦勞が察しられる。今の状態では、東京大会で出られると思われる高校選手を送っているわけですから、あの高校選手を元手にして東京大会を戦わなくてはならない水泳連盟は非常に難儀だと思う。東都知事も渡米した際寄られて、このことを心配して帰られたという手紙が来たんですがね。ところが私は、アメリカがどんなに強くても、努力次第で追いつけると思うんですよ。ただ、この春以来外国選手が来る度に調べて見た結果、とにかく日本人は筋力が足りないという結論ですね。われわれも経験したことです。泳ぎはどんなに頑張ろうと思っても、力がつきたら駄目なんで手の施しようがないということです。だから高校生なんかでも、100mは59秒そこそこだと、これ以上もっとピッチを上げ、頑張ってくれば早くなることは間違いのない。ただその点、陸上における筋力の養成ということが

私達が怠っていた、非常に遅れておった原因だと思うんですよ。その意味で今度出来た陸上トレーニングに大きな期待をかけているんです。

しかし水泳の選手は、泳ぐことは好きだが、陸上でやることは余り熱心じゃない。だから今のアメリカ、豪州の選手が強いということは、陸上トレーニングは水の中より主にしてやっているんですね。日本の水泳選手諸君が、これをやらなくては勝てないんだという意識を、はっきりした意識を持って、着実にさっき田口君が言ったように意欲的にやってくれさえすれば、私は3年で追いつけると思うんです。

根上 しかしその通りですが、意欲がない、意欲がないと言われますがね。私は選手も相当意欲を持っていてと思うんですよ。というのは、今度の国体で会津若松でやりました時にですね。掲示板で今晚体操を教えますと貼出したら、先生に附添われた生徒が、「先生よく聞いて来て下さいよ。どういふよなことを言うか聞いてきて下さいよ」というようなことを頻りに言っていた生徒がいましたよ。それを聞いて私はひそかにこれは大丈夫だと思いましたよ。東京に居て心配しているよりも、もっと地方に居る子供方は気持の上では、張り切っているのじゃないかと感じたんですがね。

田口 国体に出て来るようなのは、一応府県でもトップレベルじゃないのか。国体に洩れるようなのは、今言うような必要があるのじゃないですか。

高石 それとも一つ羨ましいと思うことは、今度村上君が豪州に行って、先ず最初にぶつかるのは指導者の会議ですね。アメリカでも定期的にやっている。私はね、日本にはそれが無いんですからね。強化委員会があって、種々相談しておっても、実際年中選手を育てていてくれるいわゆる「地」の指導者の会合がないことは非常に淋しいと思います。それで私は、出来ることなら、中学、高校、大学インカレはもとより、中学、高校の10位ぐらいに入った学校の先生方を集めて、そういう会合を是非設けたいと思う。そういう習慣をつけるとよいと思います。

田口 良いですね。

川田 大体どこでも同じやり方なんですけどね。

大体豪州のことをアメリカが真似してやってるんですが、要するに、エール大学ならエール大学のBという選手が居るとしますね。それがCというコーチと一緒にきて泳がしてみてね、そしてこう指導した、こう指導した、そうしたらこういう結果になって、こうなったと言って説明する。この人間は、こういう癖だから、こういう指導してるんだと皆に言うわけです。そうしますと集まったコーチが色々質問するわけです。それがまた次の種目、次の人間に順繰りにやって実に真剣に討議してるんですね。

根上 1種目というか、1人説明するのが30分質問するのが分と10言ってましたね。

川田 そうですね。そしてね、2日位やる。それがおかしいことは、豪州はシーズン初めにやるんですね。アメリカもシーズン初めにやっているんです。私は、時期の問題はあなた方の問題だが、日本でも要するに必ずしも正当な指導している場合と、そうでない場合があるんでね。皆の目で見て教えたりする必要ががあると思いますね。

根上 この問題は、矢張りやる時はどういう形でやるかということをはっきり示して、こういうテーマでお前はこう指導しろとか、はっきりしてしないと、今迄は数次にわたって指導者の会議があったわけですが、見ていると質問会みたいですね。それで思うんですが、最初に出しているデータといいますか、研究課題が少な過ぎるのじゃないかという気がするんです。

古橋 日本の場合、良い案が出ても余り取り上げることをしようとしなくて、良い案があっても吸収力が非常に遅いんですね。恐らく3年か4年後になってから、初めて昔しのことを思い出して出てくるということが、今迄は概して多かったように思う。それと来る人が良い案を持ってても、なかなか取り上げようとしなくてというようなことが概して多かったんじゃないかと思うんです。疑うというか。

根上 それも同じように、先程古橋さんが言ったように、例へば練習方法にしてもこれだと決めてしまおうでせう。インターバルだというと、ただ早くチャッチャカ、チャッチャカやるのが、インターバルだと思う。そのほかに練習方法がないのかということ少しも頭の中に入らない。そういう

心配は、チヨットあると思うんです。

川田 フォーラム（研究会）という言葉を使っていますね。

田口 会長が言われた通り、指導者をどの程度集めるかは別として是非やりたいですね。

高石 私は定期的に年々水泳連盟の行事としてシーズンが済んだ直後とか、とにかくやる必要があると思いますね。

根上 そうですね。それは矢張り初めにこういうものを研究してきてくれとかしてどんどんやらないと、こちらでただ説明するとか、並び大名で聞いておって、時々質問するというような。

田口 刹那主義じゃいかん。

根上 そういう刹那主義ではいけない。確信のないことを言うでせう。そうすると研究が足りないじゃないかとかいうんですね。

高石 今迄は指導者を地方から集めても、東京の人が指導したわけですね。そうでなしに、あの人達を主軸にした会を持ちたいですね。あの人達は皆意見を持っていると思う。今迄はただ御説ごもっともで聞いて帰っただけですね。

根上 それを何回もやるでせう。人が変れば良いが、同じ人が来るわけですね。だから水連は何を言うんだと次第にそういう考えになってくるわけです（笑）あのことは知っとる。あのことをまた言ってくれたというのじゃ有難くないですね。

田口 それは研究会でなしに、講習会だからそういう結果が出たんだと思う。

高石 真面目な研究会を持ったら良いと思いますね。

川田 シンクロの全米選手権へ行ったんですがね。これは華やかな競技会でしたが、今の日本のレベルから言うと、飯田紀子さんはアメリカ式のスタンツを身につければ、3位と言いたいところですが、5位以内に確実に入ります。ところが、日本はスタンツをやらなかった。解釈も足を上げれば良いのじゃない。水中動作迄決まってるんですね。それを身につけてなかったもんだから、向うに行き15日位有名なコーチ3人ばかりつけて習ったんですが、試合前でもあり急にこわしてもいけないと思い、当人も全幅的にそれに改る度胸もなかったもんですから、必ずしもアメリカ式にならなかったが、大分アメリカ式になりました。ス

タンツの順位は、100人中26番、演技では3番目の筈です。それで飯田さんがソロをやった後、5分位迫手が鳴りやまないんです。ですからアメリカ式のスタンツを早く手に入れて、その普及を図ればレベルとしては遅くスタートしたものじゃありますが、低いものではありません。これがシンクロのお土産です。

根上 田口さんね、この座談会の話しとなるかどうか別ですが、競技会の規則とか、泳法のルールとか色々あるわけですか、そういうことも今後はFINAのルールと合わせるようにしながらやりますが、地方の人達に集まって貰うことよりも指導者の人達は地方へ出てゆく機会が多いと思いますが、そういう人達は技術的な面で指導される時は、まあそつはないと思いますが、水連の方針であるとか、水泳の規則がどうなっているかというような時にはよく研究してきて貰いたい。委員長がその点よく説明しておいて貰ったほうが良いと思いますね。

例へば、背泳の場合でターニングの際にオミットはないなんていうことを言って帰った人があるとか、スタートが変わったとか変わらないだとか説明したとか、色々質疑が出てくるわけです。平泳の泳ぎ方を見ても、頭をもぐってしまうのがいけないんで、そのほかには規則がないのかというと、左右同形とかなんとか規則が全部あるわけですね。今の日本では、プレストに関しては頭が水にもぐった、もぐらないというばかり言っている。そういうようなことも併せて研究して貰いたいと思います。

田口 泳法のパンフレットに全部書いてあるんですね。強化委員会の連中は皆それを読んで行ってる筈です。

根上 ところが案外読んでないね。滲透してない（笑）最後に坂本さんデータを頂いたが説明願います。

坂本（別表）ご覧になれば大体おわかりになると思いますが、2、3説明を要する点もありますので……。

成長率の方は、個人種目10種目を対象としまして世界、日本及びアメリカの昨年度との比較を検討したものです。また勢力分布表は、世界ランキングにランクされた選手層とその順位を点数化し

たもので、10傑は世界のトップクラスを、30傑はB、Cクラスも含めた選手層の意味であります。なお、点数化した理由は、仮りにA、B2国が5名でフランクされているとしても、A国は首位から5位まで、B国は6位から10位迄の場合、同じ評価では不公平ですので、首位を10点、2位を9点以下1点ずつ減じ順位を点数化したものであります。

30傑の場合は、首位を30点、2位を29点としました。昨年度との比較によりまして各国の消長の一端がわかるかと思えます。

田口 これは男子ばかりで、女子は無いんですか。

坂本 女子も作ってありますが、余り煩雑になりますし、機関誌1月号に載せる予定ですので割愛しました。なお、外国の情報は、今後もまだ入ってくるものと思えますので、この表は多少修正の要があるかと思われます。

根上 端的に言って、東京大会の選手権種目です。個人種目だけ何秒位一体目標にしたら、われわれが何秒位出したら優勝できるかということです。

栗村 仮にこのリストによれば、100mの場合ドス・サントスが53秒6ですから、少なくとも3秒台は出るかどうかというような言い方で？

根上 そうですね。

高石 この間平野さんから手紙貰ったんですが、サントスの53秒6の時の5つの時計は、4つが3秒6、1つが3秒7だったそうです。しかし彼はターンでひどくしくじった、最後にロープに2回引っかかったそうです。だからロープに引っかかっていなければ2秒台は出たと書いてありました。

根上 短距離は長距離とチョイト成り立ちが違うから、やっぱり若いよりも或程度年齢がいつているという方が具合が良いことはあるでせうね。

田口 東京大会の優勝記録の予測、ねらいの話が出たんですが、われわれの方では37、8、9年度の目標記録を出しているわけですが、それから言いますと。

根上 それがないと田口さんの方の方針が立たんわけだよ(笑)

田口 出てるんですよ。それによると、現在53

秒が出てるから必ずしも東京大会には53秒台が出なき、優勝出来ないということは、東京大会の場合はそう考えられるべきものではない。私は54秒そこそこの記録ですね。

根上 400からずーと聞かせて下さい。

田口 400はこの前のローマ大会の時は4分18秒3で優勝しているわけです。東京大会には、少くとも4分10秒以内でなければ優勝できない。

根上 10秒以内、

田口 1,500は、ローマ大会が17分19秒6なんですね。これを目標を17分10秒そこそこ。

平泳は、ローマ大会が2分37秒4で優勝してましたが、これは大きくちぢまって2分32秒程度で優勝できるのじゃないか。30秒切ってますがね。ジャストレムスキーが。

バタフライは、ローマ大会が2分12秒8、東京大会は2分10秒以内。まあ9秒台です。

バックが、2分13秒以内。

根上 12秒もういってますよ。

田口 だからオリンピックの記録と世界記録とは必ずしも一致してはいないと思うんです。

川田 田口さん、今のタイムは日本の選手の予想される記録ですか。

根上 目標ですよ。

田口 日本選手をそこ迄持っていきたいという記録ですよ。

根上 柴原さん、どうですか。点数じゃなんですが。

柴原 これはですね。今度の場合一種目3人出れば、それだけ1人損するというようなことで、消極的かも知れませんが、実際にそういうことが出てくると思うんです。恐くこれは大体今迄の実績から、データから言って、3番、4番、5番位のところはいつでも不明なんです。ですから4位でありうるというねらい方は出来ると思うんですが、これは矢張り目標は3位です。

根上 水球は。

鷗田 決勝リーグに残ることです。そのために予選のオランダ、ドイツ、ルーマニアあの辺はどうしても喰わなくては。

根上 予想としてはどうですか。イタリー、ハンガリー？

鷗田 イタリー、ハンガリー、ソ連、ユーゴス

世界勢力分布表

(男子)

	10 傑					30 傑				
	本年度		昨年度		較差	本年度		昨年度		較差
	ランク 選手数	得点	ランク 選手数	得点		ランク 選手数	得点	ランク 選手数	得点	
アメリカ	(54)	329	(45)	263	⑨ 66	(116)	2,035	(119)	1,999	③ 36
日本	(14)	66	(13)	68	① 2	(77)	1,036	(45)	655	③② 381
オーストラリア	(11)	56	(12)	83	① 27	(24)	449	(32)	602	⑧ 153
ソ連	(8)	39	(5)	20	③ 19	(20)	302	(14)	185	⑥ 117
東ドイツ	(3)	11	(6)	36	③ 25	(15)	211	(22)	313	⑦ 102
西ドイツ	(2)	9	(2)	2	7	(7)	131	(10)	105	③ 26
ハンガリー	(2)	9	(3)	10	① 1	(5)	77	(8)	110	③ 33
フランス	(1)	1	(1)	7	6	(5)	69	(1)	27	④ 42
チェコ	(1)	2	(1)	4	2	(5)	68	(2)	31	③ 37
スウェーデン	(1)	4			① 4	(5)	53	(5)	36	17
アルゼンチン	(1)	9			① 9	(2)	44	(3)	24	① 20
イギリス			(2)	9	② 9	(5)	38	(6)	97	① 59
ブラジル	(1)	10	(1)	6	4	(1)	30	(1)	26	4
フィンランド						(3)	28	(1)	7	② 21
中共	(1)	5	(3)	23	② 18	(1)	25	(4)	102	③ 77
イタリア			(1)	5	① 5	(3)	18	(4)	67	① 49
ユーゴ						(3)	17	(3)	35	18
南アフリカ			(2)	8	② 8	(2)	16	(6)	74	④ 58
ポーランド			(1)	2	① 2	(1)	3	(3)	35	② 32
カナダ			(1)	1	① 1			(6)	75	⑥ 75
オランダ			(1)	3	① 3			(1)	23	① 23
以下略										

れにはとてもじゃないがどうも。さすがオランダ、ルーマニア位だったら決して負けないと思っています。

根上 そういうことで頑張って貰いたいと思います。

栗村 本日は長時間どうも有難う御座いました。

世界成長率

(36. 10. 15現在)

	首 位			10 傑 平 均			30 傑 平 均		
	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	較 差 %
100m 自由形	53.6	(54.8)	2.24	55.16	(55.36)	0.36	56.05	(55.89)	△ 0.29
200m "	2:00.4	(01.6)	1.00	2:02.42	(03.20)	0.64	2:04.57	(04.88)	0.25
400m "	4:17.5	(15.9)	△ 0.39	4:23.12	(22.62)	△ 0.19	4:29.70	(27.62)	△ 0.11
1500m "	17:21.8	(11.0)	△ 1.04	17:41.19	(38.79)	△ 0.23	18:08.35	(03.81)	△ 0.39
100m 平 泳	1:07.5	(11.0)	5.18	1:10.80	(12.16)	1.92	1:12.45	(13.16)	0.98
200m "	2:29.6	(36.9)	4.88	2:35.11	(38.25)	2.02	2:38.09	(39.55)	0.92
100m バタフライ	58.6	(58.7)	0.17	59.73	(00.75)	1.71	1:01.22	(01.88)	1.08
200m "	2:12.6	(12.8)	0.15	2:16.16	(15.97)	△ 0.14	2:19.20	(19.38)	0.13
100m 背 泳	1:01.3	(01.9)	0.98	1:02.34	(02.74)	0.64	1:03.77	(03.74)	△ 0.05
200m "	2:11.5	(16.0)	3.42	2:17.20	(19.27)	1.51	2:20.96	(22.79)	1.30
平 均			1.66			0.82			0.38

日 本 成 長 率

世界ランキング選手数

	首 位			10 傑 平 均			10 傑		30 傑	
	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	本 年 度	昨 年 度
100m 自由形	56.4	(56.0)	△ 0.71	57.13	(57.41)	0.49	—	—	4	(1)
200m "	2:00.4	(01.6)	1.00	2:05.36	(06.83)	1.17	3	(3)	5	(3)
400m "	4:17.5	(20.8)	1.28	4:31.19	(32.64)	0.55	1	(2)	5	(3)
1500m "	17:25.5	(25.0)	△ 0.05	18:19.98	(33.43)	1.22	1	(1)	8	(3)
100m 平 泳	1:11.0	(12.6)	2.25	1:12.78	(13.90)	1.54	2	(1)	11	(6)
200m "	2:35.7	(36.9)	0.77	2:38.12	(40.50)	1.51	2	(2)	11	(6)
100m バタフライ	1:01.1	(01.5)	0.65	1:02.11	(02.72)	0.98	1	(2)	8	(7)
200m m	2:17.4	(17.8)	0.29	2:19.43	(20.85)	1.02	3	(1)	13	(9)
100m 背 泳	1:04.2	(03.5)	△ 1.09	1:05.46	(06.35)	1.36	—	—	6	(2)
200m "	2:19.8	(20.7)	0.64	2:23.64	26.43	1.91	1	(1)	6	(5)
平 均			0.50			1.18	計 14	(13)	77	(45)

ア メ リ カ 成 長 率

世界ランキング選手数

	首 位			10 傑 平 均			10 傑		30 傑	
	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	較 差 %	本 年 度	昨 年 度	本 年 度	昨 年 度
100m 自由形	54.4	(54.8)	0.74	55.65	(55.56)	△ 0.16	6	(6)	13	(18)
200m "	2:01.5	(02.9)	1.15	2:03.93	(04.06)	0.10	4	(5)	15	(17)
400m "	4:22.9	(19.2)	△ 1.41	4:27.04	(26.90)	△ 0.05	4	(4)	15	(12)
1500m "	17:21.8	(30.0)	0.79	18:01.30	(06.68)	0.50	6	(3)	9	(9)
100m 平 泳	1:07.5	(11.8)	6.37	1:12.19	(13.86)	2.31	4	(2)	8	(6)
200m "	2:29.6	(37.2)	5.08	2:37.79	(40.60)	1.78	5	(3)	7	(5)
100m バタフライ	58.6	(58.7)	0.17	1:00.20	(01.05)	1.41	7	(6)	16	(15)
200m "	2:12.6	(12.8)	0.15	2:18.62	(17.73)	△ 0.74	5	(6)	9	(10)
100m 背 泳	1:01.3	(01.9)	0.98	1:03.19	(03.44)	0.40	7	(4)	14	(12)
200m "	2:11.5	(16.0)	3.42	2:18.83	(20.63)	1.30	6	(6)	10	(15)
平 均			1.74			0.70	計 54	(45)	116	(119)

水 連 便 り

豪州派遣選手決定す

かねてより豪州水泳連盟から、来春1月日本及び米国のトップ・スイマーを豪州に招聘し日・豪米三国対抗競技会を開催したい旨要請があったが、10月5日派遣選手選考委員会を開き協議した結果、次の10選手を代表派遣選手とすることを決定した。なお、監督には強化競泳委員長長の田口正治氏とすることも併せて決定された。

選手団は12月下旬出発、1月4日シドニー、1月6日ブリスベン、1月8日ホバート、1月10日メルボルンの日程で1月12日オーストラリア発帰国となっている。

なお、目下のところアメリカチームの参加は事情により見込みがない由である。(選手団氏名は別掲)

アジア大会準備状況

第4回アジア大会は、明37年インドネシアのジャカルタで開催されるが、同国としては前回の開催地日本での大成功に刺激されてか、ソ連の技術援助を受ける等して現在着々準備を進めている模様である。水泳についても今夏の全日本大会に男女選手20数名を派遣するなど熱意の程をみせ強化に腐心している。またこの12月にはブレ、アジア大会を開催し気運の盛り上りを企図しているようである。しかし外務省等の帰国者の話しを総合すると、目下のところは選手村は1室2名だが、冷房装置もなく湯も出ないとか、輸送事情特に自動車難がひどいとか役員、選手諸氏にとっては頭が痛い問題が多いようである。とにかく大会の成功を心より祈るものである。

親善使節としても成功

アメリカへ遠征した高校生、中学生は、なんせ世界一流の強剛との初めてのレースだっただけに記録的にはまあまあ結果ではあったが、各地への旅行を通じ終始規律正しく節度を守って行動したことは立派であった。

また、ブルガリアのソフィヤで開催されたユニバーシアード大会に派遣された古橋監督以下の学生チームは、同大会終了後ポルトガル在住の横地氏(早大OB同国水泳コーチ)のあっせんで同国に飛び交歓競技会に出場し帰国したが、最近在日ポルトガル大使より、日本選手団の活躍をたたえ非常に成果を齎した旨の書翰があった。同国大統領が観戦に見える程の熱の入れ方を考えても単なる外交辞令とは考えられないものがあるようである。

冬期陸上トレーニングの実施

水泳連盟では、かねてより米、豪選手にひけをとらないようにするには、強力な筋力を養成すべき要があるとの観点から、オフシーズンにおける陸上トレーニングを積極的に実施することになった。この問題に関しては、高石会長が就任されて以来、熱心に検討が続けられ、特に来日した豪州や米国選手につき基礎体力特に筋力の測定等を実施した結果、とにかく今のままでは日本人は到底米豪等選手にはかなわない。すなわち、水中での練習だけでは絶対に勝てない。どうしても、陸上トレーニングを加えて筋力や持久力の養成を行う必要があるとの観点から競泳強化委員会が中心となり、東京大学の協力を得た上「泳力強化のための陸上トレーニング」なる指導実施要領ともいべきテキストを作成した。そして過般スタッフによる指導講習会が開かれ、更にそれらの受講者が全国各地に派遣され、直接関係者に指導普及を行った次第である。競泳強化委員会としては、これを更に各ブロックの末端にまで周知徹底させるべく意を注いでいる。

ともあれ、従来単にその必要なことは力説されながら、実行に移されていなかった「陸上トレーニング」が今回組織的、積極的にとりあげられたことは、東京大会を間近かに控えた現在、大きな期待が寄せられている。

清川正二氏帰国さる

長い間ニューヨークやロンドン等在外勤務をしておられた清川正二氏(ロサンゼルス・オリンピック大会100m背泳優勝者)は、この程兼松KK名古屋支店長として栄転され帰国した。10月2日の常務理事会には特に出席され、外国の水泳事情等につき話しがあったが、今後の同氏の活躍は期待されている。

米・豪恐れるに足らず

今夏来日したアメリカ選手や南米選手は、さすがに世界一流の実力を遺憾なく発揮し、我々に種々な教訓を与えたが、さきに渡米した中、高校生の監督等として全米選手権大会などをまのあたり見てこられた諸氏も、一様にアメリカの底力の恐るべきことを示唆されておられた。

たしかに、組織的、集団的なエイジ、グループは、次代の後継者が無理のない形で、コンスタントに現われてくる基盤となり、大きな原動力となっていることは疑い得ないし、さらに幼少期からの泳力、泳法に対する訓練も独特な練習方法を採用していることは、日本にとって

も好個の勉強となるものが多いようである。

加えて、アメリカの場合、水泳は成長期への過程にある子弟達を不良化防止という社会政策的？な観点から育成、保護するための一方法として、コーチはもとより家庭ぐるみ楽しみ育てるということにも、アメリカらしい在り方がうかがわれて興味深いものがある。しかし単に不良化防止と言って済まされない何か骨となるものがこれら一連の教化策乃至練習過程にきざみこまれつつあるようである。このことに関しては、別項座談会記事にもあるように、アメリカから帰られた川田常務理事が、実際に見てきた話として、コーチのプールにおける子供へのきびしい態度は想像以上なものがあり、それは最早練習というより鍛練というにふさわしいものが感ぜられたという話しからも、アメリカにおける所謂レクリエーションとしての、或はエンジョイするスポーツとしての水泳は、昔語りとなっでしまったのではないかとさえ考えられる。

会長も言われるように、アメリカの今の強さの原因はエイジグループ組織にあるとしても、エイジグループの競技は今に初まったのではなく前から行われていたものであり、それが今年その片鱗が現れたのであって、今後こそより警戒する要があると言われたことは全く同感である。しからば日本の場合はどうであろうか。社会環境や、家庭生活、まして学校教育方針等の相違から考えても、このような仕組はそのままで受入れることの難かしいことはわかるが、現状を何らかの形で打開する方途を講じない限り、米、豪に打勝つことはできないであろう。幸い会長の格段の御努力で中学生大会の開催の運びに至ったことは、何ととっても大きな前進であり、更に少年達に大きな夢と意欲を持たせるためにも、これを学年別にするとか、或は困難はあろうが国体出場の機会を与えることも一案であろうし、また問題はあろうが、一歩進めて小学生に対する何らかの措置をとることも緊急の課題となって表面化されねばなるまい。

何れにしても、アメリカ方式の鵜呑みはできないのだから、少くとも日本の実情に即応した適切な配慮が望まれるわけであるが、3年という時間的制約はさておき寧ろこの際は将来の大綱を立てるために、着実にそして現実に立脚した施策を果敢に講ずべきではないかと考える。
(プールサイド)

水球コーチ、レナト氏来る

水球委員会においては、かねてより東京大会に備えるため世界の一流コーチを招聘すべくハンガリーのライキ氏に白羽の矢をたて折衝中であつたが、種々の都合により来日が不可能視されるに至つたので、検討の結果ユー

ゴスラビヤのレナト氏を招聘することに決定、折衝の上この程空路来日した。なお、同氏は12月より2月末まで約3ヵ月間にわたり日本水球代表チームを初め第一線選手の指導に当る。

全国理事会開かる

去る11月18日(土)丸ノ内会館において、全国理事会が開催されたが、本理事会は、7月の定例全国代議員会の際約束した水連規約及び、各種競技規則等の改正案並びに来年度競技日程案等につき審議することになり、併せて当面の諸問題につき出席各理事より活潑な意見の開陳があり、盛会であつた。

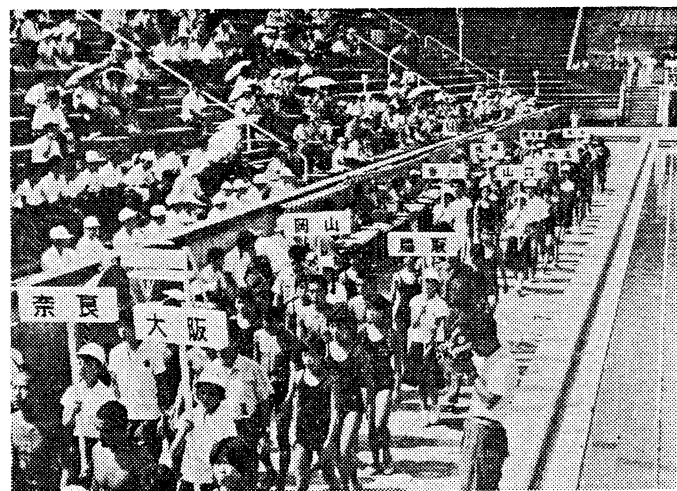
なお、冒頭高石会長よりこれからの3年間は全期間がシーズンであり、その意味からも各位の格段の協力を期待する旨力強い挨拶があつた。主な議事々項は次のとおりである。

報告事項

- (1) 高石会長紫綬褒賞授賞される。
 - (2) オリンピック選手村。周知の如く曲折を経た結果代々木ワシントンハイツと決定し、同時に総合体育館(プールも併設)も建設されることになったが、着工は37年12月、完成は39年8月の予定である。
 - (3) 東京大会の会期。39年10月11日から16日間または17日間の予定。水泳は10月13日からの予定。
 - (4) 国体水泳競技の名称改正。実業団を一般男、女子に女子は一般女子と高校女子に分れる。
 - (5) オリンピック候補。強化本部では一般、高校、中学別に男女合計240名程度のオリンピック候補をランキング発表後決定する。水球、飛込を併せ約300名となる。
 - (6) 基礎体力の強化。陸上トレーニングを実施するほかチェストウエイトを約200台購入し配付する。
- #### 2. 審議事項
- (1) 37年度競技日程(案)。外国遠征、アジア大会等の日程ともならみ合せ合理的な競技日程を決めることとした。
 - (2) 水泳連盟規約(案)「水上」を「水泳競技」に、「審判員計時員を公認とする」こと、加盟団体のA、Bクラス別を廃止する。理事会の決議を経て借入金をすることができる旨を規定。専務理事を理事長に名誉主事を廃止する。また、名誉会長、顧問、参与会賓、会友制度を設ける。等である。
 - (3) 競泳規則改正(案)400mの個人メドレーを加入した。平泳、バタフライのターンとゴールのタッチの際の表現は夫々附則条項で補足し誤解の生じないようにすること等である。なお、競泳、水球、飛込とも夫々附則条項で必要事項を補うこととした。

第1回全国中学生選抜水泳大会

於 浜松市 宮元城 プール

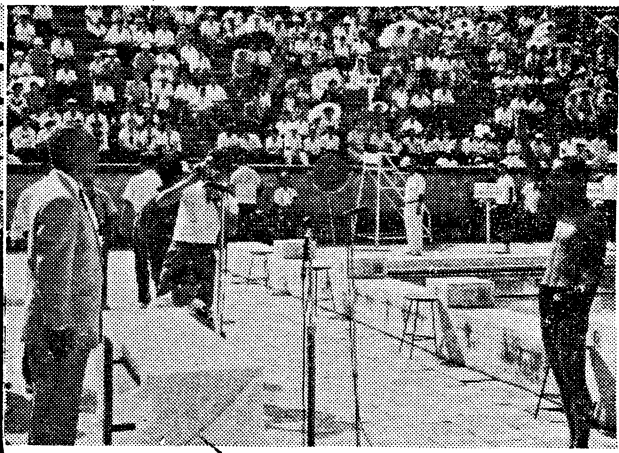


(本頁は入場式風景)

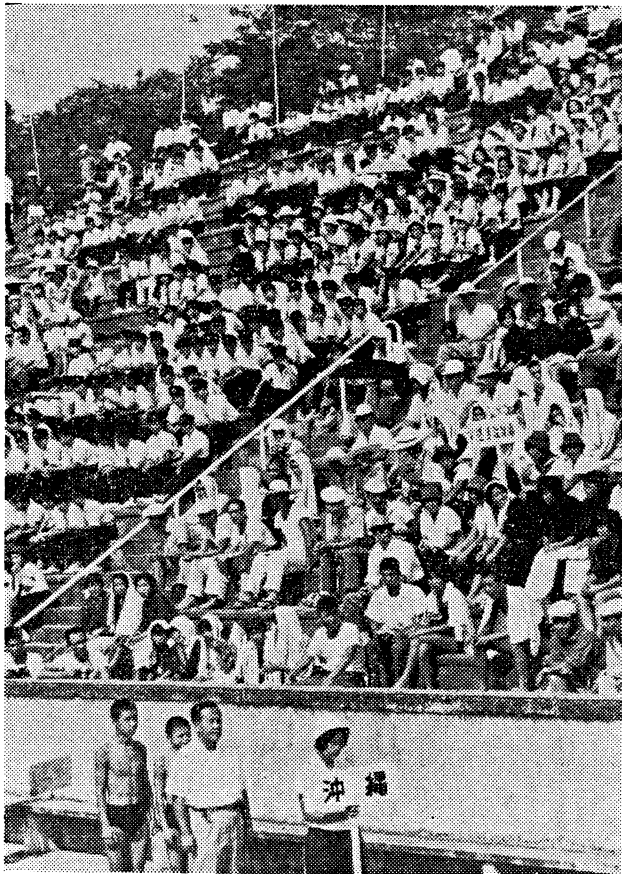
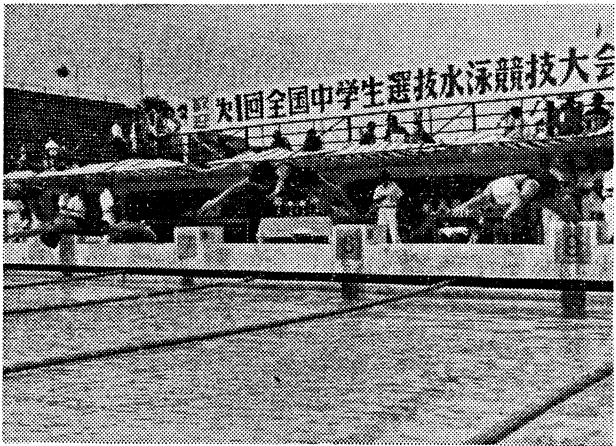
(開 会 式 風 景)



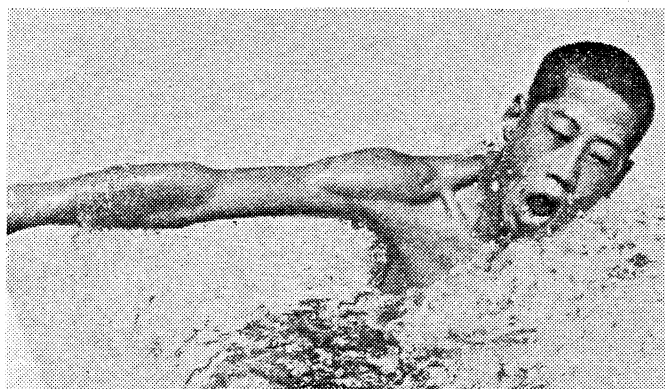
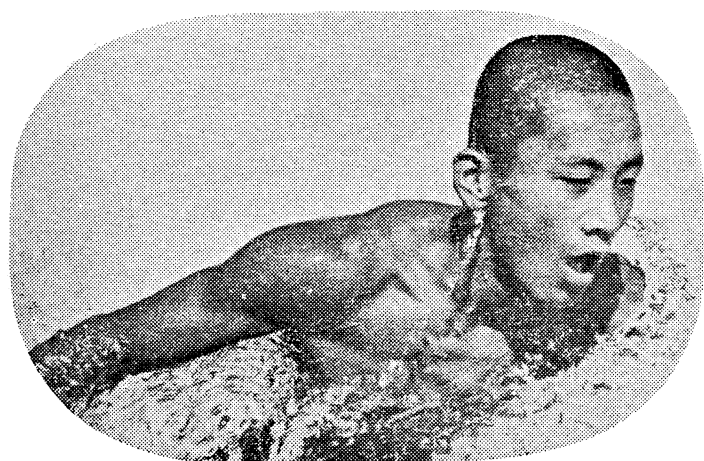
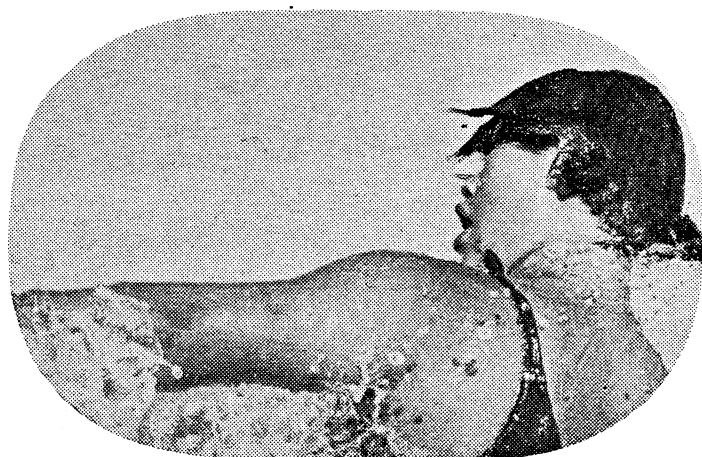
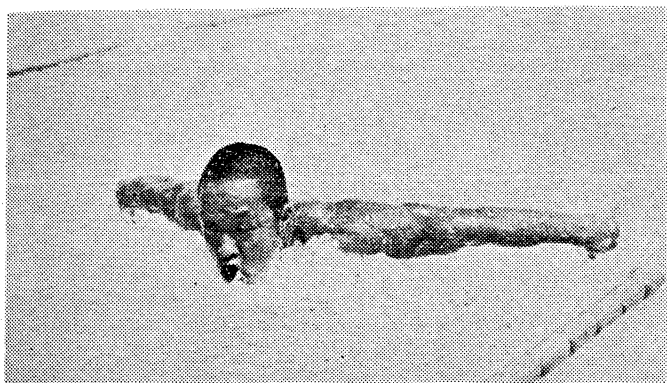
高石水連会長の挨拶

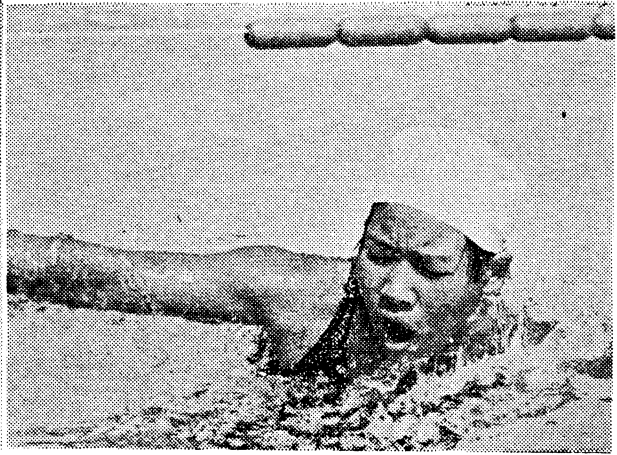
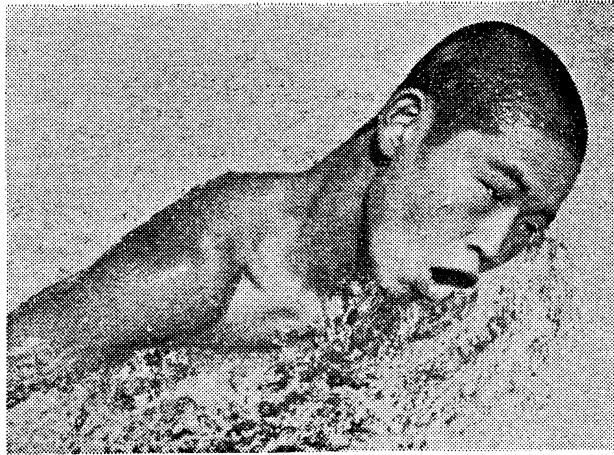


中学生代表の選手宣誓 左は高石水連会長



力泳する男女中学生選手





渡米中学生

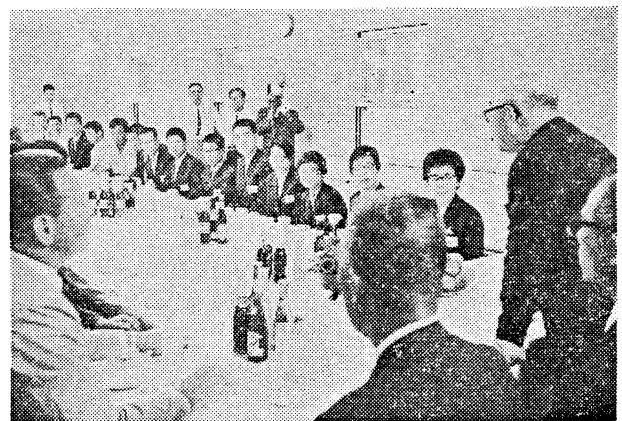


羽田発一路アメリカへ。上から三枝監督、管、木田、田上、川上、早川の諸選手。

(読売新聞社提供)



帰国風景(羽田にて)
左より川田常務理事、三枝監督と中学生選手団。



ロスアンゼルスにおけを歓迎会において
挨拶される中山正善氏と左へ岡田コーチ、
鈴木マネジャー。



日米交歓風景

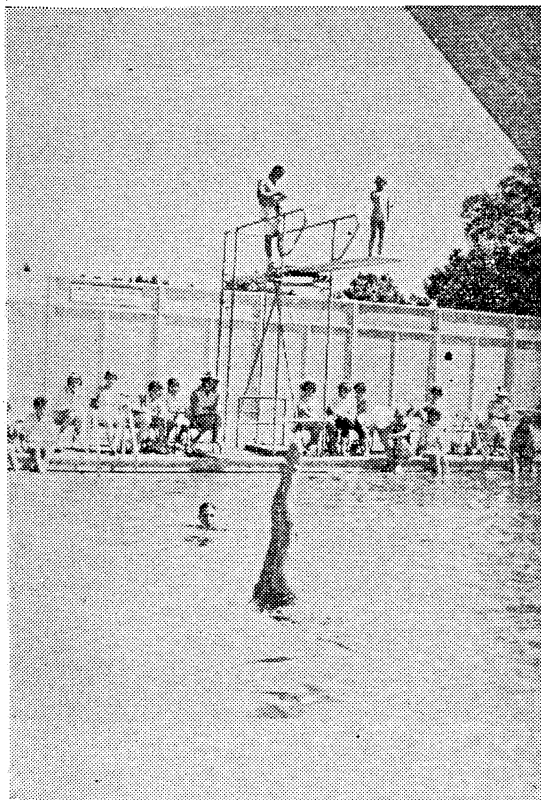


フレズノ・プールにおいて

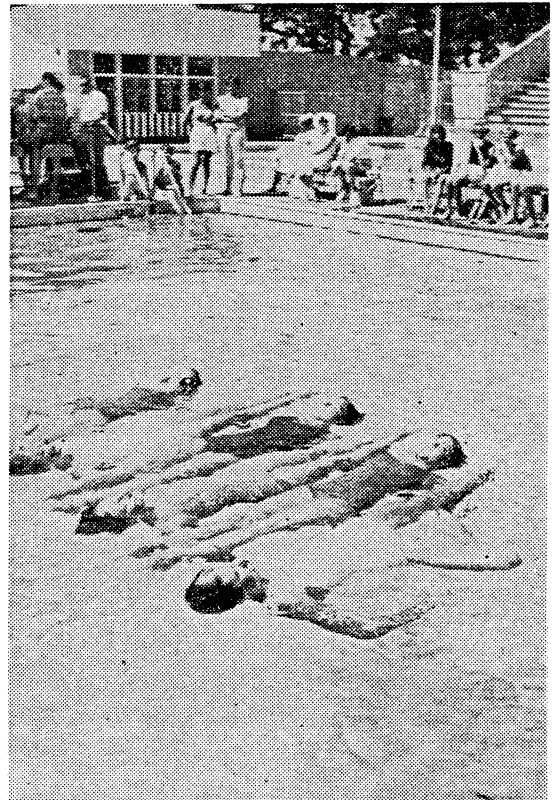


米国ジュニア選手との交歓風景
左より 田上, 早川, 川上, 一人おいて三枝監督

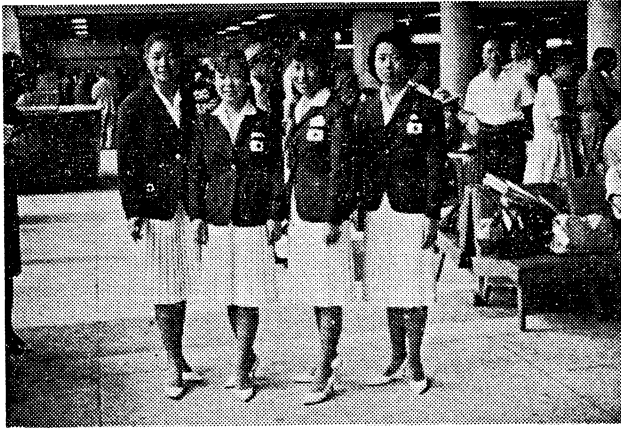
渡米シンクロチーム



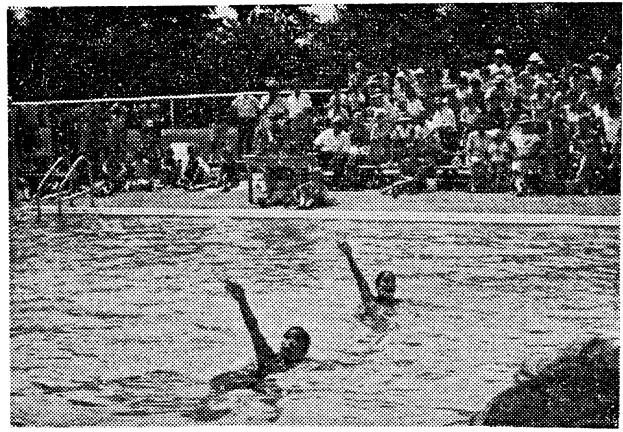
ルエラ・ソマーズ (米) のスタンツ。



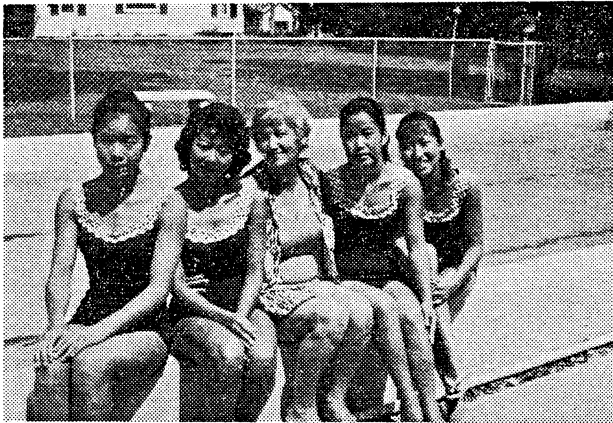
マリオンettes・クラブのメンバーの練習風景。



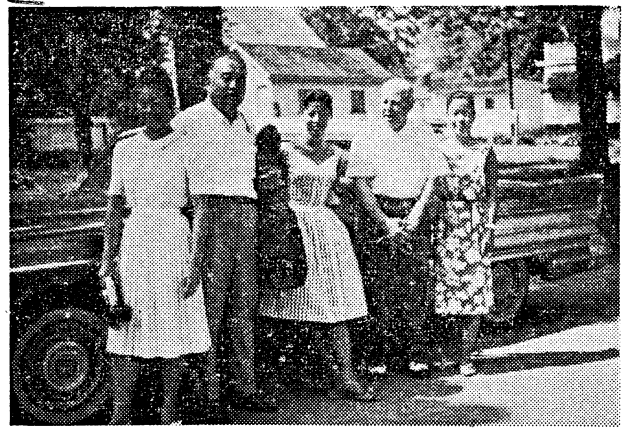
羽田空港にて
左から島崎鈴子，佐藤セツ子，鈴木佐智子
島田紀子。



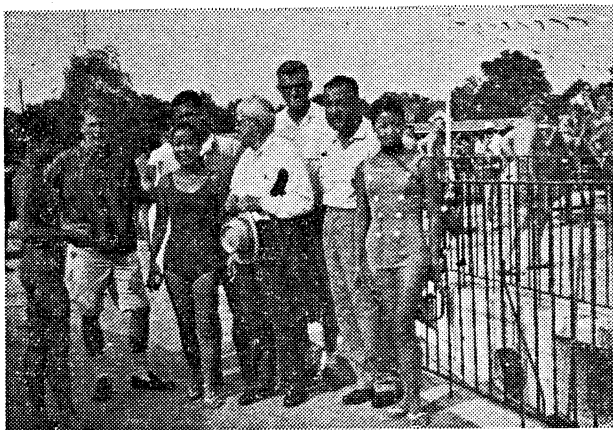
ジュニア競技 ペリアのデュエット試合中
左から島崎さん，佐藤さん。



ニュージャージー州の昨年来日したミセス・
ハームス宅にて，ハームス夫人と。



オハイオ州ペリアにて 今年来日した米チ
ームコーチのマイク・ベッベ氏と。



ニュージャージー州 ブロックサイドプール
にて全米選手権の3日目，米コーチのキッパ
ス氏が訪れてくれる。



帰国風景 羽田空港にて

ユニバーシアード大会関係報告

(1) 1961年度ユニバーシアード (UNIVERSIADE) 参加

日本水泳チーム (競泳及飛込)

日本チーム監督 古橋 広之進

1. 選手役員選考

日本水泳連盟は、東京オリンピック強化対策4年計画の一環として、8月25日から9月3日迄の10日間、ブルガリア共和国の首都ソフィアで行われる1961年度ユニバーシアード大会に日本学生チームの派遣を決定し、日本選手権大会を以て選手選考にあてた。その結果次の選手役員24名が選考されチームを結成することとなった。

監督兼競泳コーチ	古橋広之進
飛込コーチ	馬場 豊
水球コーチ	神田 明善
水球国際審判員	名取 正也
選手 競 泳	福井 清
	清水 啓吉
	藤本 達夫
	松木登八郎
	敷石 義秋
	福島 滋雄
	吉無田春男
飛 込	土佐 忠雄
	金戸 俊介
水 球	飯田 矩緯
	房野 康滋
	青山 礼三
	井上 宏
	柴田 徹
	横山 隆
	藤本 重信
	清水 洋二
	竹内 和也
	梶月 啓左
	桑原 重治

(註) 水球チームは別途報告のため、本報告書から除きます。

2. 選考から日本出発迄

従来は、特別の場合を除き決定した選手で合宿練習を

行いコンディションの調整とチームワークを固めて遠征するのが通例となっていたが、今回は選考大会の後にインターカレヂが控えているという異例なスケジュールとあって合宿練習はやめ、この間の一切を各大学のコーチと本人に任せ、しかも日程の関係でインターカレヂの最終日の夜出発という慌しいスケジュールになってしまった。

勿論限られた期間に出発の準備、注射、旅券の申請といった手続もあり、落ち着いて練習も出来なかったというのが各人の本音であったようだ。

それでもこの間事故者もなく、予定通り16日の7時30分祥平館集合を以って正式なチームの結成とし、その足で羽田に向かった。

3. 日本出発からハンガリー大会終了迄

水連関係者をはじめ家族、各大学のOB、同僚各位の多数の見送りを受けてS.A.S.機が離陸したのが夜中の12時近かった。途中アンカレヂ、コペンハーゲン、ウインを経て第一の目的地ブタペスト (ハンガリー) に着いたのが17日の夕方7時50分だった。

この夜の空港は、じっとしていても汗の流れる様な出発時の東京の暑さとうって違って、風の強いうすら寒い如何にも東欧らしい印象を受けた。

出迎えには、見なれた顔ライキ氏をはじめ水連の各幹部役員が顔を揃え心温る歓迎を受けた。

努力したが、東京出発迄に入国許可が下りなかったため、先づ入国の許可、手続きに手間取りホテルに向ったのが10時過ぎ、それから夜食を兼ねて歓迎会が行われた。ホテルは、ハンガリー水連の心遣いでダニューヴ河のほとりのマルジツィグットという静かな部屋があたり、ブタペストでの4日間を過すことになった。

早朝から夜遅く迄、アイリーンという女性が通訳を兼ね、我々チームのすべての世話役にあてられ、プールの往復にはバス、それにホテルの食堂も特別に用意され、全く心からの歓迎であった。

選手は長旅と、それにインターカレヂを終えて休む暇のない慌しい旅行と、予想外の気候の変化に相当の疲れ

をみせ、食欲不振のもの、風邪気味のものが多く、体調を整える間もなく試合を行わざるを得ない状態だった。

従って練習についても水になれることに主眼を置き、合せて幾分スピードの調整を計る程度のものしか出来ず、試合の日を迎えた。

大会はレンガ造りの、古いブタペストの市民プールがあてられ、水温を温める装置がついた50mの泳ぎやすそうなプールだった。連日満員とはいかないが、約8割程度のスタンドを埋める観衆をのんで19、20日の両日、何れも夕方の5時30分から行われた。大会には日本選手の他に、ユーゴ、フランス、オーストリーの選手が参加し、国際大会の名称で行われた。日本選手及び地元その他選手の成績は次の通りであった。ハンガリー大会成績表参照のこと。

ハンガリーも一部の男子、女子の選手を除いてそれ程目だった選手も少なく、往年のハンガリーを知る我々には幾分物足りなさを感じ、それも戦後の複雑な国内情勢が災いしているのかも知れない。

本大会を通じ印象に残った選手は、男子ではハンガリーの短距離のドバイ、背泳のカイサニー（ユーゴ）の2人、女子では平泳のキラーマン、背泳のピアセンティニー（フランス）で、何れも国際級の選手で概して好記録をマークしていた。

一方日本の選手は福井（短距離）吉無田（バタフライ）が夫々100mで自己の最高記録をマークしたものの全員余り尖い泳ぎは見られず、日本からの余勢で泳いでいる感じで芳しくなかった。

それというのも、先に述べた通りのコンディションで試合を迎えた為で致し方なかった。試合のこの2日間も風が強く、うすら寒い日が続き、プールも波立ちスタンドは殆どが冬支度といった日本ではみられない光景だった。

4日間のブタペスト滞在中水連の心ゆくばかりのお世話を感激しながら、ソフィアでの活躍を期して別れる日がやって来た。

4. ユニバーシアード大会

21日、ブタペストからウィーン経由で一気にソフィア入りした。空港到着は夕方の8時頃、ひっそりとした感じの空港だったが、それでもユニバーシアード選手歓迎のアーチが大きくかかげられていた。簡単な手続で出迎えの女子学生の花束贈呈があり、そのまま選手村に向ったが、寂しい町風景、大会の気分はみじんも感じられなかった。ブタペストに較べ幾分暖かさを取戻した感じの気候で、快晴の日が続いた。

ここでの滞在は8月21日から9月2日迄、そして我々

の総ては8月26日から29日の4日間の大会にかけられている。選手村は想像よりもはるかに立派なもので、我々は4号館の4階に陣取った。食物も決してうまいものはなかったが、相当な心づくしが何えるものであった。生活はタイクツする程見聞きするものがなく、単純な毎日の連続だった。試合の気分も殆ど感ぜられない程、静かな大会で、ソフィアという地のりと、大学生ばかりがそうさせたのか、オリンピックの様な興奮は全く感じられなかった。

水泳は約20ヶ国が申込みを行い、各国ともその顔ぶれは殆ど見当のつかない連中ばかりで、唯、ソ連の平泳のユニコフ、南アの中長距離のマクラハランの2人だけが有名な選手であった。それでも何処から強敵が現われるかも知れないので、一応各国の状況を探ることにした。

幸い水泳関係の技術委員会でメンバーの確認の際、夫々本年度の最高記録を発表することになり、はじめて各国の情勢がつかめた。そこで夫れらの選手の泳ぎを見たく探したが、何れも記録の発表程泳ぎの優れている者は目にとまらなかった。最も困難が予想されたのは自由形短距離、それに背泳には記録の優れた連中がひしめいて居り、又長距離には南アのマクラハラン、平泳には世界記録を出したことのあるユニコフは強敵だった。唯、バタフライには殆ど目立った選手は見当らなかった。

又、一方飛込の選手に付ては全く分らず、試合で争うより致し方なかった。

練習プールはダイアナ、リパブリック、チェルベノの3つが競泳、飛込はチェルベノを除く2つが当てられた。ブルガリヤのプールの特徴は何れもハンガリー同様屋外プールでも水温を温める設備があり、それも水道からの直接の水が11度しかないという実情がら当然のことである。従って温め方によって水温の上下が激しく、20度を下廻る水温にぶつかる日もあり、選手にとっては全く調子の整え方が難しかったと思う。それといって練習を休むわけにもゆかず、寒さになれている欧州勢に較べて全く気の毒であった。

こんな条件が続くと十分な練習、コンディションの調整もつかず、おまけに各種目1人ずつのメンバーしか持たないチームにとっては1人の選手もこわされず、その点選手の自覚は勿論、我々役員としても消極的な手のうち様しかなく大会を迎える結果となった。種目は背泳の100mを除いては何れもオリンピックの種目であったが、飛込はずっと以前の古い形式時代の種目そのままで、この点技術委員会、組織委員会に対し再三の抗議を申込んだが改められず結局、今後考えるといった返事が結論となり、こんなところにもはじめて参加する未知の悲哀を感じた。

大会は予定通り26日から4日間、午前、午後に分れて行われ、午前は予選、準決、午後は決勝の一本にしぼられた。

26日は400m自由形、200mバタフライが行われた。400m自由形、藤本は体のコンディションが飛行機の疲れからくるった感じで出発当時より相当やせていた。こんな具合で体力はめっきり落ちていたが泳ぎの調子はベテランらしくよく整って尖さこそなかったが上手な泳ぎをしていた。一方松木は午前の予選では人が違った様な泳ぎをし全く見られなかったが、それでも午後の決勝では松木の本来に近い泳ぎをみせた。結局、強敵マクマハラを終始マークして自分本来のペースをまもった藤本が優勝し、松木も3着に入る予想通りの成績をあげ幸先よいスタートをきった。

200mバタフライ、吉無田は始めから相手を問題とせず積極的な出足を見せたが、後半の50mががっくり落ち記録的には低調だった。

然しその力、泳ぎは抜群で注目の優勝を遂げた。

27日は100m自由形、200m平泳が行われた。100m自由形、清水、福井の出場であぶなげなく予選・準決を通過したが、始めから激戦が予想されただけあって強剛が並び油断を許さぬ情勢だったが、清水、福井ともあせらず、落ち着いた泳ぎで1、3着を占めたのは予想以上の成果だった。

200m平泳、強敵ユニコフを相手に廻しての敷石との一騎打ちは早くから話題を呼び、日本にとっても全勝優勝が出来るか否かの山場に立ったが、不運にも前夜の陽ノネテンが災いし予選から元気のない泳ぎをみせ到底優勝はおぼつかない最悪の事態となったが、各選手の元気づけでよく頑張り2着にはなったもののタッチの差に追い込んだ泳ぎは逆に賞賛されてよい。

28日は100m背泳、400mリレーが行われた。

100m背泳、福島に力に必的する様な選手も見当り、はじめから楽観を許さないレースとなったが、持前のラストパートで優勝をさらい健闘した。

400mリレー、清水、福井、吉無田、藤本の顔ぶれは各国に較べ断然たる強みで、特に吉無田の健闘によりあぶなげない優勝を手にした。

29日の最終日は1500m自由形、400mメドレーリレーが行われた。

1500m、松木、藤本の出場で何ちらかにチャンスを期待したが、400mで藤本に優勝をさらわれたマクマハラはこの種目にマンを期し必勝の体勢で立向って来た。一時は我方に勝算があるかの様に見えるが、さすがオリンピックで入賞した実績をもつだけあって自信のあるレースを進め、結局、両者の激しい振り切り作戦も効を得

ず2、3着に終わったが、この結果はむしろ力からして当然の結果であったかも知れない。

400mのメドレーリレー、福島、敷石、吉無田、清水のメンバーで立向ったが、この種目は欧州勢も強く相当な覚悟でのぞまないと優勝出来ない事態が予想され、はじめから激しいレースとなった。結局、平泳とバタフライが勝負どころで、随分あぶない勝負だったが最後迄力を抜かず気迫で勝った様なレースだった。

4日間のレース、試合前のコンディションからして種目によっては相当な苦戦が予想されたが、よく各選手とも悪条件に負けず健闘し、記録的には殆どとるところがなかったものの、持てる力をふるに發揮して各種目とも優秀な成績をあげた事は立派だったと思う。インターカレ以来連続の試合、而も予想をはるかに下廻る悪コンディション、試合の行われたプールあたりは凡そ記録を望める様なものでなく、その証拠に各国の選手とも前振れに似合わず低調な記録に終わってしまった。競泳の健闘もさることながら、飛込に於ては板、高とも優勝をさらひ、その実力ぶりを如何なく發揮し、特に注目の難関を克服して優秀な成績を収めたことは、各国の話題となる程で東京大会への一歩として力強いものを感じい。

5. ポルトガル大会

ユニバーシアード大会を終えゆっくり休養する間もなく9月2日リスボンに向った。欧州の端から端迄、それに乗替えの多い旅行は暑さも手伝って更に疲をよんだ様な気がした。横地氏の心からの厚意と彼が築きあげたポルトガルでの業績で、我々に対する関心は想像以上のものだった。試合は3日、4日の両日、スポーツ、アルゼエス、クラブでポルトガル大統領を迎えて行われな。33mの而も飛込と併用のプールで、試合の行われる夜間はその照明も完全なものではなく、記録をねうって泳ぐ様な環境ではなかったが、それでも全力をあげて泳ぎ一部の種目に好記録をマークした。ポルトガルは目下アフリカのアンゴラ問題をかかえ、優秀な選手を兵隊にとられたこともあって水泳界は余りレベルは高くない。然し若手の中には横地氏の指導もあって除々に上昇線を辿りつつあり、将来に多くをたくしている。目についた選手は長距離に2人ばかりいる程度が現情で未だ世界の一線迄には程遠い感じがした。

6. 結 び

以上8月16日羽田を発ってから9月11日の帰国迄、約1ヶ月足らずの旅行で、ハンガリー大会、ユニバーシアード大会、ポルトガル大会の3つの試会を行い、その後イタリアを経由帰国したわけだが、この間我々の力不足

にも拘らず、選手諸氏に於てはよく協力を惜しまず、悪条件にもめげ常に全力をあげて闘ってくれた事は学生選手としての自覚と水泳日本の伝統の賜ものであったと思う。

各地大会の成果に付ては私の私見を以て簡単にその感想を記録にとどめたが、これは監督としての責任に於てその情勢を記した迄である。長い激しい遠征であったが幸いに大した事故者もなくここに帰国する事が出来たのはひとえに皆様の御支援の賜と思っている。

今度の遠征を通じ私として強く感じたことを再度記して結びの言葉とし、東京大会へのいささかの指進となれば幸いである。

一種目1人の遠征は勿論経費とのかみ合せ上やも得ない問題だが、出来れば今後2人以上とした方がよい。それは特に今度のスニバシアード大会の様に種目が多い上、国を以て代表する様な試合の場合、種目1人ではこの選手をこわせばその種目の成果はゼロとなり、リレーに至

っては全く多くを望めず、その為コーチ、選手ともコンディションを意識し過ぎて消極的な練習しか出来ない。従って成果は余り上らない結果となる。参加した選手の全部ではないが、どうも基礎練習がかけている感を強くもった。これは鍛える体力と泳ぎによって築き上げられる内臓機関の強化、筋力の増進といった点が不十分の様な感じでもっと強くてよい筈の選手がのび悩んでいる状態を見のがすわけには行かない。練習はもっと苦しいものでなくてはならないし、研究を重ねてこそ前進が約束される筈である。そして常に量と質の原則は何れが欠けても駄目だし何れに片寄ってもいけないことを忘れてはならない。今度の遠征で外国の選手、コーチとし何れの国も陸上その他の競技に比し水泳の遅れを意識し、何とかして一流国にのし上ろうと考えている状態が伺え、その研究の熱心さと努力はやがてみのるものと思われ決して安閑はしてはいられない。(筆者は本連盟常務理事、学生部会名誉会計、強化対策本部長)

国際学生スポーツ大会成績表

昭和36年8月26日～8月29日
於ブルガリヤ、ソフィヤ
(リパブリカ・プール)

1. 100m 自由形決勝 (競泳)				
1. 清水啓吾 (日本)	57.4	1:06.4	2:18.0	3:31.1 4:44.8
2. ソロモン (ポーランド)	57.6	5:58.2	7:13.0	8:27.8 9:42.1
3. 福井清 (日本)	57.9	10:57.0	12:12.3	13:26.7 14:41.3
4. アルッチナ (ポーランド)	58.3	15:56.6	17:11.0	18:21.6
5. ライムチャライ (インドネシア)	58.4	3. 藤本達夫 (日本) 18:23.1		
6. エフレエモフ (ソ連)	58.7	1:05.8	2:17.0	3:31.5 4:44.7
2. 400m 自由形決勝				
1. 藤本達夫 (日本) 4:30.9 (大会新)		5:58.9	7:12.7	8:27.7 9:42.1
		10:56.8	12:12.1	13:25.3 14:39.5
		15:54.8	17:09.5	18:23.1
2. マクハラン (南ア) 4:32.3		4. パプコー (ソ連) 18:35.5		
3. 松木登八郎 (日本) 4:35.1		5. ボオンテク (オランダ) 19:05.3		
		6. ボオドオキー (ハンガリー) 19:08.5		
4. ボンテクー (オランダ) 4:37.7		4. 200m 平泳決勝		
5. キイコオビイク (ユーゴ) 4:44.4		1. ユニコフ (ソ連) 2:41.4		
3. 1500m 自由形決勝				
1. マクハラン (南ア) 18:19.8		2. 敷石義秋 (日本) 2:41.5		
		3. シロッガー (ドイツ) 2:43.2		
1:06.2 2:18.4 3:31.2 4:45.3		4. ボオリイッチ (ユーゴ) 2:45.7		
5:58.9 7:13.1 8:27.9 9:42.0		5. ハアウクス (英国) 2:46.3		
10:57.1 12:12.4 13:26.7 14:40.8		6. スキフオズイル (チェッコ) 2:46.4		
15:55.3 17:09.4 18:19.8		5. 200m バタフライ決勝		
2. 松木登八郎 (日本) 18:21.6		1. 吉無田春男 (日本) 2:20.2		
		2. キイセロオー (ソ連) 2:25.5		

3. ルウッター (西ドイツ)	2:28.8	5. ポーランド	3:58.6
4. ポベスクウ (ルーマニヤ)	2:29.7	6. チェッコ	4:01.0
5. ロッチアー (ブラジル)	2:30.8	8. 400m 混継泳決勝	
6. パアゾオリトック (チェッコ)	2:35.8	1. 日本	4:17.1
6. 100m 背泳決勝		福島, 敷石, 吉無田, 清水	
1. 福島磁雄 (日本)	1:05.3	1:04.4 2:18.3 3:20.2 4:17.1	
2. タラソー (ソ連)	1:05.8	2. チェッコ	4:18.5
3. キリチェック (チェッコ)	1:05.9	3. ソ連	4:21.4
4. ドオリシイック (ユーゴ)	1:06.7	4. ドイツ	4:23.8
5. グレナー (フィンランド)	1:06.9	5. ユーゴ	4:27.1
6. カアミンスキー (ルーマニヤ)	1:07.8	6. ルーマニヤ	4:30.2
7. 400m 継泳決勝		9. 高飛込決勝 (飛込)	
1. 日本	3:48.7	1. 金戸俊介 (日本)	154.59
清水, 福井, 吉無田, 藤本		2. パプキンス (英国)	143.82
57.9 57.9 56.2 56.7		3. パヌウ (ルーマニヤ)	114.13
2. ソ連	3:57.2	4. コチヨオロック (ユーゴ)	106.21
3. ハンガリー	3:58.1	5. キルムスイー (ドイツ)	103.20
4. ユーゴ	3:58.6	6. チェチメエデヂイフ (ブルガリヤ)	94.96

ハンガリー国際大会成績表

昭和36年8月16日～20日
於ブタペスト

1. 男子100m 自由形決勝		4. ウルソッチ (ハンガリー)	1:15.3
1. ドバイ (ハンガリー)	56.1	5. ペエリスイック (ユーゴ)	1:16.0
2. 福井清 (日本)	56.6	6. オルドッグ (ハンガリー)	1:18.4
3. ツアラムカア (ハンガリー)	57.3	4. 男子200m 平泳決勝	
4. 清水啓吾 (日本)	57.6	1. 敷石義秋 (日本)	2:38.9
5. ツァール (ハンガリー)	58.1		(1:16.7)
6. コオクモー (ユーゴ)	58.5	2. ウルリッチ (ハンガリー)	2:44.1
2. 男子200m 自由形決勝		3. ペェリイスイック (ユーゴ)	2:44.6
1. 藤本達夫 (日本)	2:04.8	4. クウンサァギイ (ハンガリー)	2:46.6
	(1:00.1)	5. ゴオンボス (ハンガリー)	2:50.9
2. ドバイ (ハンガリー)	2:06.8	6. オルドッグ (ハンガリー)	2:51.6
	(1:00.9)	5. 男子100m バタフライ決勝	
3. カトナ (ハンガリー)	2:08.9	1. クリドザア (ユーゴ)	1:02.1
	(1:01.5)	2. 吉無田春男 (日本)	1:02.2
4. 松木登八郎 (日本)	2:09.4	3. キリクスイ (ハンガリー)	1:06.7
	(1:01.5)	4. レエゴス (ハンガリー)	1:06.1
5. 清水啓吾 (日本)	2:09.7	5. ホオルアス (ハンガリー)	1:09.3
	(1:02.6)	6. スエレエニイ (ハンガリー)	1:11.2
6. ツアラムカア (ハンガリー)	2:10.9	6. 男子200m バタフライ決勝	
3. 男子100m 平泳決勝	(1:04.4)	1. 吉無田春男 (日本)	2:19.7
1. 敷石義秋 (日本)	1:13.5		(1:15.4)
2. クンサァギイ (ハンガリー)	1:15.2	2. カトナ (ハンガリー)	2:28.3
3. ゴオンボス (ハンガリー)	1:15.2	3. ラアグスイック (ユーゴ)	2:33.5

4. キリイクスイ (ハンガリー)	2:37.7	2. 福島 滋雄 (日本)	2:20.6
5. カアラクスニイ (ハンガリー)	2:44.1		(1:08.9)
6. ベルハアズイ (ハンガリー)	2:44.7	3. ツアーボー (ユーゴ)	2:23.9
7. 男子 100m 背泳決勝		4. スウダー (オーストリア)	2:27.4
1. クシカアニイ (ユーゴ)	1:04.0	5. トオロオス (ハンガリー)	2:29.2
2. 福島 滋雄 (日本)	1:05.2	6. ツエコオ (ハンガリー)	2:29.2
3. ツアーボー (ハンガリー)	1:05.2	9. 男子 400m 継泳決勝	
4. スウダー (オーストリア)	1:06.9	1. 日本	3:48.0
5. クセコオ (ハンガリー)	1:07.5	藤本達夫, 竹内和也, 福井 清, 清水啓吾	
6. ビスコオティ (ハンガリー)	1:08.8	57.0 1:54.5 2:51.2	
8. 男子 200m 継泳決勝		2. マグヤアル A	3:48.4
1. クシカアニイ (ユーゴ)	2:19.8	3. マグヤアル B	4:02.0
	(1:09.1)	4. マグヤアル C	4:02.7

(2) 水球ユニバーシアード大会参加及び遠征報告

水球コーチ 神 田 明 善

代表選手決定及び強化合宿（強化内容は前回に報告）

1960年度の成績により候補22名を決定。

1961年初めより4回の強化合宿を東京及び野沢温泉プールにて行う。

全日本選手権大会終了後選考委員会により代表選手を11名及びコーチ大会派遣審判を各1名決定総員13名。

1. 遠征日程

8月16日

日本学生選手権後祥平館に競泳飛込みと共に集合、根上専務理事奥野学生部会々長より激励の挨拶を戴く、23:36夜間遅いのに拘らず関係者多数の歓送裏に一同大会での活躍を誓いつつ、SAS機にて北極経由欧州に向う。

8月17日

アンカレーチで休憩の後羽田を出てから15時間コペンハーゲンに到着（現地時間 08:30）。

デュセルドルフ（西ドイツ）ウィーン（オーストリア）を経て、今遠征最初の目的地であるブタペストに20:00到着。ライキ氏以下ハンガリー水連役員の盛大な歓迎を受ける。共産圏国の入国検問は何時も手間が面倒で約1時間。宿舎はプールに近く環境が非常に良い所でダニューブ川が双股に分れているマーガレット島にあるグランドホテルであり、ハンガリーでは一流であろう。蒸し暑い東京に比べるとまるで別天地である。

8月18日

午前中休養

午後プールに行くさすがわ河童連水に漬けると活々として来る一同調整に励む。

水球専用の室内プールは目下改装中であるが一階観客席と二階との間に審判通路があり、美しい程の設備である。夜間ハンガリー役員と親善大会の打合せをする。

8月19日

午前水球専用室外プールにて約1時間練習。

飛込み競技は試合が早い為先に出發。

競泳はプールのコンディションが良い為好記録の続出。

19:00 両国コーチを先頭に水球チームの入場選手紹介ベナント交換あり。観客席は満員である。

相手チームはハンガリーのユニバーシアード代表軍でローマオリンピック選手が5名入っている。残念乍ら11対2にて負 試合経過及び戦評は別記。

8月20日

午前中約1時間練習、調子は上り坂であるが旅の疲労が幾分抜け切らぬ様だ。前日と同じく飛込みは先に試合場に行く。日曜日の為試合場以外のプールも何処も満員で年寄りから子供まで一家揃って一日中プールで楽しんでいる。前日と同じチームと対戦体格もいいが非常に強いチームで、オリンピックに出場しても確実に二、三位にはなるであろう。14対4にて負（戦評別記）。

夜間日本を初め本大会に参加したオーストリー、フ

ランス、スーゴの各国選手はハンガリー水連主催の宴會に招待を受ける。非常に盛大で、各人記念品を受ける。

8月21日

配機の都合上競泳、飛込みと別行動となり早朝ウィーンに向う。

ソフィヤに向う本部役員と入れ違いに10:00ウィーン到着。昼食後市内見物。

8月22日

午前中自由行動。

14:00ウィーンを出発、大会開催地ソフィヤに向う。約3時間後ソフィヤに到着。大会組織委員会の出迎えを受け各人花束(グラデオラス)を贈らる。選手村はオリンピックと違いさすがに大学生ばかりの大会であるだけに落ち着いていて品が良い。宿舎も4階ではあるが小綺麗で設備も整っている。食事も充分とまでは行かぬが此の国の情勢からすれば最大の御馳走であろう。

8月23日

毎日午前7時半より日本選手団の監督会議あり。午前約1時間半水球専用プールにて練習水温21度。16:30よりブルガリヤチームと練習ゲーム。旅の疲れが未だ残っている為か動きが鈍い。夜食後入村式あり、遠来の選手団に対し村長より敬意の言葉あり。式後北沢団長を先頭に開会式行進の練習を行う。

8月24日

08:00 選手起床体操食事、夜間遅くまで選手村が賑やかなので何としても睡眠が充分でない。初の海外遠征をする者は気疲れと珍しいもの見たさに少々疲れが治らぬ様だ。15:00より16:30まで練習。

日本チームの後にインドネシヤチームが練習をやっていたがハンガリーよりコーチ(ホルデス氏)を呼んで中々熱心にやっている。水が可成り重い様であるが昨日より浮力が付いて来た。欧州各国のチームは大会ギリギリに乗込んで来るらしく未だ殆んどが到着していない。選手村にある室内プールは10度以下でとても練習出来ない。

8月25日

午前約1時間練習、選手村よりバスにて約15分。午後1時間半練習、我々が日本内で使っている球と相当違うので早く慣れる事が大切である。

8月26日

午前約1時間練習。11:00より審判会議あり出場資格国及び組合せを決定する。参加数8ヶ国。ソ連より決勝リーグ6チーム案が出る。ハンガリーより8チームリーグ戦案提出、日本は賛成、インドネシヤ、オランダもこれに賛成。ユーゴはプログラム通り案、ルーマ

ニヤ何れでもよい。ブルガリヤは当然組織委員会決定のプログラム通り。

水球関係のチーフの説明にて次の点を述べる。

1. プロ編制まで参加国数が不服であった。
2. プロ通りでない試合数が多くなり1日に2試合をするチームも出て来る。

3. 強弱がある様に思われる。

結局原案のプログラム通りとする。試合はFINALルールに従う。順位は1位から8位まで決める。前回ユニバーシアードとオリンピックを参考資料として、ユーゴとハンガリーがシードチームとなり、ABグループに籤により別れる。

(Aグループ)ユーゴ、ソ連、オランダ、インドネシヤ(Bグループ)ハンガリー、ブルガリヤ、日本、ルーマニヤ、27日より9月1日までの組合せを決める。試合前10分間試合ボールにて練習、大会中帽子の番号は一貫して被ること。

18:30 大会開会式の為宿舎を出発会場傍の広場に各国選手集合、日本はブルガリヤのアルファベット順でYの為最後尾の主催国ブルガリヤ選手団の前である。

20:00 入場開始、場内の楽隊が貴賓席の下にあるのでグラウンドを半周するまではよく聴えない、併し東洋より遠来の我々に対し大観衆が歓叫と拍手を持って迎えて来れた。スポーツをやったものとしてこれ程の感激はない。一同手を振り乍ら観衆にこたえる。主催国の挨拶聖火の点火選手宣誓後スタンドの選手専用席に着く、マスゲーム、郷土舞踊があり盛大な花火の打上げ裏に開会式を終る。

8月27日

昨夜開会式が遅かった為午前中休養、午後ダイアナプールにて約1時間半練習、本日より水球戦が始まるが日本の第一戦は明日からなので2試合観戦する。オランダ対ユーゴ実力はユーゴが段然強く8対3、ソ連対インドネシヤ13対2でソ連、ハンガリー対ルーマニヤ、実力はハンガリーの方が上であるが退水の為接戦となる。5対4でハンガリーの勝。

8月28日

午前選手村のプールにて練習。一同大分ソフィヤの生活に慣れて来て調子も上々である。13:30より試合前のミーティングを行う。昨日のゲーム中の総ゆるゲースを考慮して種々注意を与える。第一戦なので少々上り気味である。

15:00より選手紹介の後試合開始。日本対ブルガリヤ3対9にて負。試合経過別記。オランダ対インドネシヤ12対2。ソ連対ユーゴ2対2。審判名取氏。

手に汁を握るような猛烈な熱戦でそのファイト振り

には驚嘆の他なし。

8月29日

午前中選手村プールにて練習。昼食後試合前のミーティングを行い出発。日本は今日は第二戦でハンガリーとやる。実力の差遺憾とも仕難く3対10にて負。

本日で競泳の全競技を終了。技群の成績であり日本選手団もプールには緑（日本選手のトレーニングが緑）の旋風が巻き起っていると自慢気であった日本選手本部の連中も総動員で応援である。応援というよりは寧ろいい気持を味わいに来て居るといった感じである。競泳監督古橋氏の選手のコンディションの持って行き方、試合前の心理指導等その采配は実に素晴らしく選手も試合一本に打込んでいた。又飛込コーチの馬場氏の指導もよく飛板高飛共に実力を発揮して優勝であった。

8月30日

午前選手村プールで練習。名取氏が午前中の審判会議で日本に誰か笛の経験のある者がいるかと聴かれたので神田がいると答えたので、試合開始1時間前にプールの会議室に呼ばれて色々質問を受けた始めから何うも空気がおかしいと思っていたがその内自分の呼ばれた理由が解ってきた。それはオランダから大会組織委員会の水球首脳部に昨日の審判技術に関する提訴があった為それを裁いて欲しいととんだ経験者になって了ったが、ここまでくればそっくり返って意見を述べてやるより他なしと覚悟を決めて了った。当方が妥当な意見を出したので、主催者側も満足気に納得していた。とんだところで貫録をつけたものだ。

15:00 より対ルーマニア戦開始、昨年オリンピックの時もそうであったが何時でも前半ルーマニアとは接戦をする併し本場の場数を踏んでいる試合うまさに後半押されて了った。結局4対8にて負。本日まで3日間の結果により決勝リーグ進出が不可能となり下位順位決定戦に望む。

8月31日

午前選手村プールにて練習。14:00 よりAグループ第三位のオランダと対戦。前半2対1で押していたが後半力尽きて2対5にて負、ハンガリー対ソ連は猛烈な激戦で地元ブルガリアの審判あまりの凄さにゲームに押され気味、最近になくもめた試合であった。

9月1日

午前練習。本日は慇々最終戦であり相手は勝つ自信は充分にあるインドネシアである、一同大張切り。試合場には日本チームの方が先に到着。

14:20 試合開始、結局4対4の引分けに終る。何故此の様な結果になったか戦評反省等は別記致します。

試合が終わっても誰も口をきく者がいない、此の劣戦を深く反省すると共に、苦い経験を将来の為に生かさねばならぬ。本日で水球の全試合が終了で順位は次の通り

1. ユーゴ 三連覇
2. ソ 連
3. ハンガリー
4. ルーマニア
5. オランダ
6. ブルガリア
7. 日本
8. インドネシア

日本とインドネシアは引分けであったが得失点率により日本の方が上位となる。

宿舎に帰りソフィヤに来てから始めての自由行動である。それも僅か2時間旅程の都合上明日朝が早いので就寝前に荷造りをする。

9月2日

06:30 出発、ブタペストに向う。ブタペスト空港では何時もならハンガリー水連の役員連が親切に迎えに来て呉れる。

本日より9月8日の午前中までライキ氏指導の下に強化練習であり、ユニバーシアード大会や旅の疲れもあろうが貪欲なまでになっても総ゆる技術を日本に持ち帰らねばならぬ。宿舎は前回に来たグランドホテルでプールに近く環境のとても良い所である。強化練習内容は別記。

午前、午後二度練習する。食事を執る時は立派な食堂のド真中でテーブルの中央に日の丸が立っている。ライキ氏が気を効かして呉れて、スポーツマンだから朝、昼、晩ともトレーニングシャツで食事をしても構わないと云って呉れたので窮屈な事の嫌いな一同大喜び。夜間ライキ氏が来られ今後の総ゆる事を打合せる

9月3日

日曜日なので此の川中島は人でいっぱいであり、プールの前などは行列して待っている。ハンガリー人は本当に水泳（裸になる事）が好きな国民だ。日光浴が好きで此の島全体に健康があふれている。

午前の練習は大プールが使えないので飛込みプールにて行おう、32度以上なので選手は皆茹蟪になって了った。午後の練習は水球専門のプールで時間になると我々の為に気持よく開けて呉れる。通訳のアイリーン嬢は実によくやって呉れて本当に親身になって世話をして呉れました。宿舎での色々な事特に食事等或はプールの行き帰り練習中でも何時も気を使って呉れて我々が練習一本に打込む事が出来たのも本当にアイリーンさんのお蔭です。自分の仕事などそっこのけで殆んど

着きっきりでした。

9月4日

午前大プールにて練習、藤本と竹内が選ばれてライキ氏の注文に応じて色々の動作をしてそれをカメラに修めていた。

17:00 よりソ連海軍代表チームと試合をする。泳ぎは日本チームの方が上であるがテクニックは一流であり中距離からのシュートは猛烈である。残念乍ら、12対6にて敗れた。審判を水球界のトップチャッチであるライキ氏にやって貰う、さすがオリンピックヨーロッパ大会など数々の大ゲームを捌いて来ただけあってタイミングといい、チャッチの見解といい一流中の一流である。

19:00 より日本公使館の招待を受け御馳走になりに行く。特命全権公使小川清四郎他堀田、岩崎書記官の厚遇を受ける。久し振りの日本食現金なもので腹一杯になると睡たくなって来た。

9月5日

午前中アイリーン嬢の案内にて市内見物をする。さすが中欧の古都、到る所に立派なものが建っている。市内のあちこちに未だ1956年内乱当時の弾痕が致る所に残っていてそのもの凄さを物語っている。ブダ側にある古い城壁から見る眺めは何時見ても素晴らしい。柴田選手がユ大会の時に痛めた右腕関節の筋が痛んで治らぬのでライキ氏の紹介して呉れた病院にて精密検査をして貰う。骨には全々異状がないので3、4日の安静で良くなるとのこと未だ大切な試合が残っているので早く治さねばならぬ。

9月6日

欧州では今頃の季節には全く雨が少なく晴天の連続でダニューヴ川の水面は通常より3、4m低い。

午前中約1時間半練習。午後招待試合の為バスにてソルノックと云う所に行く。ブダベストより約2時間掛る。連日の強練習の為全く調子が出ず10対2にて敗れる。試合後盛大な歓迎晩餐会を開いて呉れて全員に記念品の土産まで戴く。心からなる歓待を受け名残り惜みつつ帰路に着く。

9月7日

午前ライキ氏の連れて来た専門の撮映技士により色々の基礎技術を写す。柴田選手が今度は扁桃腺を腫らして39度の高熱が続いて下らないので医者^の薬の他に一生懸命冷す。明日早朝出発なので心配である。午後は競泳大会の見学とハンガリーナショナルチームの練習を見る。水泳場内の会議室にて水球に関する映画(ライキ氏作成)を2本見る、非常な参考となった。夜宿舎にライキ氏が来られ練習の批判、或いは今後の

方針等に就いて色々と打合せをする。今日でハンガリーともお別れであるが本当に色々とお世話になりました。此の貴重な期間中に身につけた色々の事(技術的にも精神的にも)は必ず将来日本水球界の為に良い結果をもたらすものと思います。

9月8日

早朝ブダベストを出発チューリッヒに向う。自由国は何時もなんとなく明るい。柴田が調子が悪いので医者に来て貰いペニシリンを射つ。ホテルの食事はハンガリー料理がいささか鼻についていたので実に美味かった。夜食まで自由行動、街そのものがあまり大きくないので1日あれば充分見学出来る。さすが時計の国到る所に有名時計店がある。宿舎はホテルウォルドフ。

9月9日

柴田がすっかり良くなった。旅先での病気は実に心配なものだ。充分気を付けなければならぬ。

12:30 SASの日本選手団チャーター機にてローマに向う。我々が最初の塔乗組なので全員ファーストクラスに乗込む実に快適な旅だ。ローマで競泳チームと合同アテネに向う。アテネにて陸上チームを乗せてカラチに向う。太陽と逆行するので時間どんどん過ぎて行く。

9月10日

朝食後カラチに着く。昨夜アテネを出てから9時間。実に暑いところで動くのも大儀である。カラチを出てインド大陸を横断ベンガル湾を眼下に、悠々東飛を続ける。あまり食欲はないが出されると全部平げて了う。不思議な食欲である。バンコックはカラチよりは遙かに涼しい、それでも少し動くと汗ばんで来る。真夜中の到着の為ホテル(ロイヤル)で食事が出来ずマネージャーの取計いで中華料理屋に行く、久し振りの懐かしい味一同御満悦の体。

9月11日

11:30 まで自由行動。ホテルより近かったのでワットポー寺院などを見学。建物の配色が素晴らしく瓦の焼物が実に美麗である。空港で昼食の後日航機でシンガポールに向う。シンガポール空港ではアジア大会以来の懐かしい面々が迎えに来て呉れていた。宿舎は海員ホテルで海に面した所で涼しいので助かる。桑原選手が胃痙攣を起し相当苦しんだ。夜間シンガポール水連役員や代表選手と会食。会食後街を案内して呉れたが、到る所に漢字があり大体判断出来るので一同キョロキョロ。明日の打合せをする。

9月12日

午前試合場になるプールで約1時間半練習。プールは

とても設備がよく管理が行届いている。12:30 日本人クラブの招待昼食会、懐しい日本食何んとも云えぬ。井上と清水が熱を出してしい今日は休ませる。午後約1時間練習チャイニーズクラブにてシンガポール水連主催の大晩餐会に授る。世話役や大人などが沢山来て実に最大な歓待であった。

9月13日

午前豪雨の中で約1時間練習、雨が激しいので予定を変更マラウ大学を見学せず水族館に行く。日本総領事の招待で昼食会に授る。素晴らしい領事館で心からなる接待を受ける。宿舎に帰り一休の後早夜食を執り試合場に向う。ダイビングのエキジビジョン等があった後19:30 試合開始、結局12対6にて大勝、戦果は別記。

仮設スタンドまで満員で在留邦人が皆応援して呉れる。第三ピリオードで柴田が負傷するも始終日本のペースで試合をする。我々に負けたのが余程悔しかったのか終っても観衆が去去らず警官護衛付きで帰る。

9月14日

朝食後 Mr. TANG が来て呉れて柴田を病院に連れて行く。午前約1時間練習。早夕食をとり試合場に行く。19:30 試合開始、Mr. KEE の笛。笛が不公平に思われたが最後まで不平そうな顔をせずよく闘った。結局6対4にて勝、スコアは余りよくないが完全に日本の勝で敵も全くのお手上げであった。クラブに帰り盛大な晩餐会を開いて呉れる。お互いに自国の歌などを披露し合い和気あいあいたる楽しい宴会であった。中庭に出て両国でエールの交換、全員肩を組み輪になって螢の光を合唱。

9月15日

早朝盛大な見送りの内に出発。11:20 バンコック着。配機の都合で約4時間空港ロビーにて待つ。16:15 バンコック発。20:30 香港着。ホテルミラマーに旅装を解く。

9月16日

11:00 まで市内見物。一応ホテルに集合するが台風の為延発となり19:00まで自由行動。21:00 香港を出発。2時間20分の後台北に着き一休の後東京に向う。

9月17日

05:30 羽田に無事到着。専用バスにて祥平館に行き解散。

2. 試合経過及び戦評

以下大体次の7項目に分けて報告します。

1. 相手, 場所, 時間, レフェリー, コンディション等。
2. 相手チームの特徴(身長, 体重, 其の他)

3. スコア・メンバー。

4. 味方得点のケース。

5. 敵得点のケース。

6. 敵の長所, 短所。

7. 味方の長所, 短所, 研究。

今度のユニバーシアード大会も遠征も選手は一貫した帽子を被りましたので以下番号のみにて記します。

- | | |
|---------|---------|
| ① 飯田 矩偉 | ⑦ 竹内 和也 |
| ② 青山 礼三 | ⑧ 臯月 啓左 |
| ③ 柴田 徹 | ⑨ 桑原 重治 |
| ④ 横山 隆 | ⑩ 井上 宏 |
| ⑤ 清水 洋二 | ⑪ 房野 康滋 |
| ⑥ 藤本 重信 | |

8月19日(ブタペスト)

第一次ハンガリー戦, 審判 ハンガリー役員, 水温23度, 気温24度, 開始 19:00

相手はハンガリーのユニバーシアード代表軍, 身長は日本より少し高い位であるが非常にガッチリしている。ローマオリンピック選手が5人入っている。

$$\text{日本} \quad 2 \quad \left\{ \begin{array}{l} 1-3 \\ 0-3 \\ 1-3 \\ 0-2 \end{array} \right\} \quad 11 \quad \text{ハンガリー}$$

第一ピリオード藤本, 清水よりパスを受けループを狙う様な体勢から同サイドを抜く。第三ピリオード清水藤本よりのパスを受け伸びて逆サイド

メンバー

第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧

第二 ① ② ③ ⑩ ⑤ ⑥ ⑨

第三 ① ② ③ ⑩ ⑥ ⑧ ⑨

第四 ⑪ ② ③ ⑩ ⑤ ⑧ ⑨

夜間の為GKが球に慣れずスピードがあるので苦勞する。少しのチャンスを実によく生かす。

一, 二回のタックルでは沈まず最後まで行かぬと打たれる。突込みはいいのであるがそれを活かすまで行かない。パスが少しでも狂うと取られる。そして逆モードになる。マークをしていて下から球をはねて取るのが非常にうまいからプレーする時は必ず遠くに置いて処理せねばならぬ。敵ボールになった時は必要のない所でも無精せずによく泳ぐので少しでもぼんやりしていると皆チャンスになって了う。併し肝心なゴール前は何時も空けてあってプレーし易い様にしてある。突込んで来る時のコースのとり方がうまい。全員がゲームをよく見ていて常に一貫した動きの中でプレーしている。世界の一流が相手であるから不足はないが後2.3点は決められた。国際経験のない若い者が多く最初は

ずい分とまごついていたが非常によい経験になった。

8月20日(ブタペスト)

第二次ハンガリー戦 審判 名取氏 水温22度, 気温24度, 開始 16:45

昨日と同じチーム

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧
- 第二 ① ② ③ ⑨ ⑤ ⑥ ⑧
- 第三 ① ② ③ ⑦ ⑤ ⑥ ⑧
- 第四 ⑪ ⑩ ③ ⑦ ⑤ ⑥ ⑨

日本 4 $\left\{ \begin{matrix} 1-4 \\ 0-4 \\ 1-4 \\ 2-2 \end{matrix} \right\}$ 14 ハンガリー

得点ケース

藤本よりのパスを清水伸びて打つ。竹内突込み藤本よりのパスをボレー気味。柴田ノーマーク, 桑原半中距離よりひっくり返り, 味方のミスを活かす事が非常にうまく, 中距離, 突込み, サイドからのバックシュート, フェイントとにかくハンドリングがいいので思う存分暴れまわる。止まらぬプレーでなければ通用しない。山パスでもいいから確実なパスがなければ全部チャンスが潰れて了う。未だ夜間試合に慣れぬため特にGKなど苦労している。

ユニバーシアード大会 参加8ヶ国

A, Bのグループに別れリーグ戦形式で上位2チームが決勝リーグに進出下位2チームが5位から8位までの決定戦をやる。

Aグループ	Bグループ
ユーゴ	ハンガリー
ソ連	日本
オランダ	ルーマニア
インドネシア	ブルガリア

8月28日(ソフィヤ)レパブリカプール

対ブルガリア戦 審判・サクノウスキー(ソ連)

水温23.5度, 気温27度開始 15:00

身長体重とも遙かに日本より大きい。大会前に練習ゲームをやりその特徴は大体掴んでいた。泳ぎは日本の方が少し上であるが, ボールワークでは上の様だ。列んでのダッシュでは煽られて了う。隣近国(ユーゴ, ルーマニア, ソ連, ハンガリー)との交換試合を持っているためゲーム運びが上手である。

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第三 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ① ② ③ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦

日本 3 $\left\{ \begin{matrix} 1-2 \\ 0-2 \\ 1-2 \\ 1-3 \end{matrix} \right\}$ 9 ブルガリア

得点ケース

藤本のフリースローボールを突込んで来た柴田が受けひっくり返りGKの脇の下を抜く。竹内抜けて来て逆サイドに半ループを打つ。危うく得点, 清水よりのパスを竹内が受けGKが藤本の方に牽制されている時に左肩越しを抜く。

敵得点

半中距離よりマークの油断している時に打って来る3点。二段モーションで逆サイドループ2点。敵退水中にゾーンディフェスの攻め方がまずく逆モーをとられて2点。強引にドリブルにより2点。

敵のスピードも第二ピリオードまでは続くがそれ以後パスをうまく使って補っていた。ゲーム慣れしている。チャンスは可成り出来るのであるがパスが通らない。ゴール前でも動いてプレーしているのでシュートまでは持って行くが未だ威力がない。

GK(飯田)は実によく止めた, もう一步バックマンとの連繋が欲しい。二段目のマークをもっと執拗に慎重にやっていたら得点差は開けられなかったと思う。

8月29日(ソフィヤ)レパブリカプール対ハンガリー戦

審判 SHOTO(オランダ) 水温24度, 気温27度, 開始 16:00

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑨
- 第三 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ⑪ ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦

日本 3 $\left\{ \begin{matrix} 1-3 \\ 0-2 \\ 2-2 \\ 0-3 \end{matrix} \right\}$ 10 ハンガリー

ブタペストに於ける対抗戦2試合の相手で熟知しており試合前よりなごやかな雰囲気であるが勝負は別もの少しでも多く得点することがエチケットと一同張切る。特にソ連, ユーゴが前日引分けていて最終的には得点失点が影響して来るので敵も手加減なしに一生懸命である。

得点ケース

清水フリースローから藤本に渡しリターンを受け得点, 敵がゾーンを敷く(1人退水中)時球を回し清水得点(あまり手についていなかったのが幸いか)藤本フリースローの時逆サイドに突込んだ竹内がGKの右肩越しを抜く。一点目の清水の得点と共に敵のミスに乗じた得点でなく完全にマイペースに

運んだもので動きさえよければチャンスは幾らでも生れる。

敵得点ケース

味方の僅かなチャンスを最大限に生かし逆モーをつかれる。当方も拾身で当たっているので逆を衡かれると完全にノーマークになって了った事が多い。いいパスから打つボレーシュートにはバックもGKも手も足も出ない時がある。併し日本チームも体格差のある相手に段々と当り慣れして来て調子も上り坂である。

8月30日(ソフィヤ)レパブリカプール
対ルーマニヤ戦 審判・シューレガルト(インドネシヤ)
水温24度, 気温27度 開始 15:00

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第三 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ① ② ⑩ ④ ⑤ ⑥ ⑦

$$\text{日本 } 4 \left\{ \begin{array}{l} 1-2 \\ 2-4 \\ 0-1 \\ 1-1 \end{array} \right\} 8 \text{ ルーマニヤ}$$

身体は差程大きくないが骨格がよく手が長い。国民性でもあろうがプレーは質実剛建そのものである。

得点ケース

藤本ペナルティスローで1点。敵がゾーン(退水中)を敷く時右サイドより藤本が2点。臯月ハンドツーハンドから右下に得点。

日本チームの攻撃が一段落した時が一番危険で逆モーにならぬ様プレーすると鋭さがなくなるので一発必中で行がその後がまだ研究せねばならぬ。思った程強くはないがヨーロッパ選手権やバルカンリーグ戦等で揉まれて来てる丈けあって試合運びが上手だ。球を握った様な恰好から二段モーションで投げるシュートは実に威力がありGKも苦戦をしていた。実力差の割に何時も接戦するので敵も一生懸命である。

8月31日(ソフィヤ)レパブリカプール
前日までの結果遂に決勝リーグに進出出来ずAグループの下位2ゲーム(オランダ, インドネシヤ)と順位決定戦を行う。

対オランダ戦 審判グーセチック(ユーゴー)
水温23.5度, 気温27度, 開始 15:00

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ③ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦
- 第三 ① ② ⑩ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦

$$\text{日本 } 2 \left\{ \begin{array}{l} 1-2 \\ 1-1 \\ 0-2 \\ 0-0 \end{array} \right\} 5 \text{ オランダ}$$

体格は非常によいが泳ぎは日本の方が上である。共産圏内のチームとは違い剛健なところは見られない。ゲーム運びはあまり上手でない。

得点ケース

左サイドより竹内半ループ気味に打って流れ込む藤本より清水へ逆のコーナー。

敵得点ケース

日本の逆モーを生かして2点。ゴール前ボレー1点。中距離1点。ペナルティー1点。

敵は第二ピリオド後半より動きが鈍くなってきたので今一步の頑張りが効けば追付けたのであったが焦りが返っていけなくオーバープレーとなりシュートは上わずりマークに付けば退水となり反対に追加点を与えて了った。併し若い選手には非常によい経験となった。

9月1日(ソフィヤ)レパブリカプール対
インドネシヤ戦 審判 グーセチック(ユーゴー)
水温23.5度, 気温27.5度, 開始 14:00

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ⑨ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第三 ① ② ⑨ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ① ② ⑨ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦

$$\text{日本 } 4 \left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 1-1 \\ 2-1 \\ 1-0 \end{array} \right\} 4 \text{ インドネシヤ}$$

日本よりは体格は落る。アジア大会の時もそうであるが手先の技をよく使う(リレー或は引掛け)

得点ケース

敵の退水の時藤本, 清水各1点。中距離より清水左サイド下, 竹内ゴール前を横に切れて右同サイド敵得点のケース

フローティングの引掛け3点。左中距離より右サイド真コーナー1点。

フローティングを少々心得た者が居て審判がアドバンテージをとるので一回のタックルでは何うにもならず, バックが反則を犯したと思って手を引き込める時にシュートされて了う, 若い上に国際経験の浅さからマークの仕方の変換が思う様に行かない内に3点とられて了う。シュート力は唯それ丈けであるが自分のボールの時にはとても大事にする危やふやなシュートはせずいかんと思ったら直ぐ後に返えしてでも攻撃の建直しをして来る。第三, 第四ピリオドでは可成りチ

チャンスを作ったのであるが若いプレーヤーは皆球が上
 わずっていいバーに当てたりオーバーしたり焦れば焦
 せる程決まらなくなってしまった。

何うして絶対食えると思ったインドネシアが此処ま
 で善戦したが

1. 水球をやる根性がプレーヤーに出て来たこと特に
 1962年のアジア大会を目標に非常なる熱意をもっ
 ている。
2. 気候的に何時でもトレーニング出来国費により可成
 りの強化練習をしている。
3. ハンガリーよりプロコーチが2年前から来ており
 手とり足とり熱心にコーチしている。

併し決して引分けをする様な相手ではなく充分に勝
 てることは確かである。唯この様な結果になったこと
 は、一重にコーチに責任があると痛感している次第で
 す。

9月4日(ブダペスト)ヤルグリット島内水球専用プー
 ル 対 C.C.C.P.海軍選抜チーム 審判 ライキ(ハ
 ンガリー)水温25度, 気温26度, 開始 17:00

メンバー

- 第一 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第二 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第三 ① ② ⑩ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦
 第四 ⑪ ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦

日本 6—12 C.C.C.P.

身体はものすごく大きく皆 180 cm以上で其の上面構え
 がすごく、ぐずぐずしているとぶっ飛ばされ相だ。出
 足や泳ぎは日本の方が遙かに上であるがゴール前のせ
 り合いは猛烈に強くボールをとってからのシュートが
 とても強い7、8 mからでもぼんぼん投げて来る。ゴ
 ール前でのせり合い或は横への切れではマークチェ
 ンジをうまくやればもっと防せげた。1回目位いは成功
 するのであるが繰返されると弱い。さすがはライキ氏
 世界一の名ジャッチである。笛のタイミングが実によ
 く選手をまるで自分の思うように動かしている。

9月6日(ソルノック)ブダペストよりバスで2時間
 対ソルノッククラブチーム, 審判 ブロンデー(ハン
 ガリーで2番目にうまい)水温20度, 気温24度,
 開始 17:00

メンバー

- 第一 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第二 ① ② ⑩ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第三 ① ② ⑩ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦
 第四 ① ④ ⑩ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦

日本 2—10 ソルノッククラブ

スピードは日本方が少し上の様であるが体格は勝れて

いる, GKがオリンピック選手で殆んど止めて了う途
 中より交替する。

得点ケース

藤本 パナルテ。桑原, 清水のフリースローを受
 けて同サイド。敵ボールになった時の出足がとても
 よく皆顔を上げてプレーしている。

第三ピリオードまでは本当に情けなくて話しになら
 ないプレーの連続であった。水温が低いのとボールが
 違うので相当苦勞していた。パスが悪く, 例えいつ
 も手につかず落して了う。何うやら第四ピリオードで
 動きがよくなった程度で此の位の悪コンディション
 や旅の疲勞位いで参って了うのではこれからの国際競
 技が思いやられる。

9月13日(シンガポール)リバーバレープール
 対シンガポール第一回戦 審判 名取(日本)
 水温26度, 気温28度, 開始 19:30

メンバー

- 第一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
 第二 ① ② ③ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第三 ① ② ⑨ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
 第四 ① ② ⑨ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦

日本 12 $\left\{ \begin{array}{l} 5-0 \\ 1-1 \\ 2-2 \\ 4-3 \end{array} \right\}$ 6 シンガポール

体格は1, 2名の者を除いてはガッチリしていてリー
 チが長く太い。

得点ケース

あまり沢山入れたので1つ1つ覚えていないが,
 藤本, 清水, 竹内, 柴田等日本チームの持っている
 コンビネーションをフルに活かして実に見事であっ
 た。特に敵ゴール前の横の動きがよくいいシュート
 を決めていた。唯敵GKがあまり上手ではなかった
 ので2, 3の凡シュートも決まってしまったが余裕が
 あるのだからもっと大事にコーナーを攻めるべきで
 ある。

旅と歓迎と暑さの為の疲れが完全に抜けないので未
 で本調子ではない様だ。特にGKは苦勞していた夜間
 試合の経験が少ない為ボールに対する感が時に狂う。
 非常にラフなプレーをする相手でレフリーの見てない
 所では殆んど握っていたり沈め様としている。第三ピ
 リオードで柴田が前歯を痛めたので審判許可のもとに
 桑原と交替随所にエキサイトしたプレーが行われた。
 観衆がプールサイドまで覆い被ぶさっていて熱狂的な
 声援をするので選手がとてもやりにくかった様だ。日
 本はヨーロッパの本場の笛に慣れているが敵は昔しの
 ままの見境でジャッチしているらしく解釈の違う点が

2, 3あった。

清水	3点	桑原	1点
竹内	2〃	柴田	1〃
皐月	2〃	横山	1〃
藤本	1〃	青山	1〃

水温がとても高く午前の豪雨の為約3度下ったのでやりよかったが明日は又28.9度まで上るであろう。

敵得点ケース

フローティスグ (メルボルン, マニラ, 東京アジア大会に出場している) システムで体格もよく少し水が空くと可成強烈なシュートが来る。最初の一件びは実に強いが2段3段と繰返さないで粘ったマークには弱い。後のプレーヤーは実に汚くポロだがレスリングだか分らない。動いたプレーで始終すれば何時もゲームはリード出来る。飯田の好守備が光っていた。

9月14日 (シンガポール) リバーバレープール

対シンガポール第二回戦 審判 キースンビー (メルボルン選手, マニラ大会主将, 東京大会監督) 水温28度, 気温26.5度, 開始 20:10

メンバー

- 第一 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第二 ① ② ④ ⑧ ⑤ ⑥ ⑦
- 第三 ① ② ⑧ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦
- 第四 ① ② ⑧ ⑨ ⑤ ⑥ ⑦

日本	6	$\left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 1-2 \\ 2-0 \\ 3-0 \end{array} \right\}$	4	シンガポール
----	---	--	---	--------

昨夜のこともあるので敵は最強メンバーを組んで来た。自国大観衆の前でやるので敵は皆上って眼まで血走っている。

得点ケース

前半調子が出ず苦勞する。

藤本	3点
竹内	2〃
清水	1〃

笛が全々旧態勢なのでフォーメーションより個々の力に頼るより他なかった。ボールのある所ある所で勝負するより他なし。前半の敵は実に滑り出しがよく少しの水空けでも最大に活かしていいシュートを決めて来た。オーバータックルは全々とらず笛も不公平極り, 昨日以上にプレーも汚いので後半は泳ぎまくった。敵はついて行けないので盛んに引ばったりしてあまりひどいので2回退水を犯した。

頭に来たプレーも1, 2あったが皆冷静に最後までよく頑張りました。敵の大観衆の面前で敵のボー

ル (ゴムであるが非常によく出来ている) で敵のレフエリーの笛で叩いたので完全に手を挙げた様だ。小生などあまりどなったり興奮して了ったので終っても震えが止まなかった。

今度の遠征の様に総ゆる悪条件下で若い選手が揉まれて来たことは実によい経験であり将来必ずや好結果をもたらすものと確信致します。

3. 1961年度ユニバーシアード大会 水球成績

8月27日

ソ連	13—2	インドネシヤ
ユーゴ	8—3	オランダ
ハンガリー	5—4	ルーマニヤ

8月28日

◎日 本	3—9	ブルガリヤ
審判	サフノフスキー	(ソ連)
ユーゴ	2—2	ソ連
審判	名取	(日本)
オランダ	12—2	インドネシヤ
審判	ヤコビニー	(ルーマニヤ)

8月29日

ソ連	4—1	オランダ
審判	ルセフ	(ブルガリヤ)
◎日 本	3—10	ハンガリー
審判	ショート	(オランダ)
ルーマニヤ	10—1	ブルガリヤ
審判	ヴーチェチフ	(ユーゴ)

8月30日

◎日 本	4—8	ルーマニヤ
審判	シーレガルト	(インドネシヤ)
ユーゴ	13—0	インドネシヤ
審判	イワノフ	(ブルガリヤ)
ハンガリー	6—2	ブルガリヤ
審判	ショート	(オランダ)

8月31日

◎日 本	2—5	オランダ
審判	ヴーチェチフ	(ユーゴ)
ブルガリヤ	10—2	インドネシヤ
審判	セコビニ	(ルーマニヤ)
ユーゴ	5—2	ルーマニヤ
審判	ルセフ	(ブルガリヤ)
ソ連	3—3	ハンガリー
審判	バルガパロフ	(ブルガリヤ)

9月1日

◎日 本	4—4	インドネシヤ
------	-----	--------

審判	サフノフスキー (ソ連)
オランダ	7—3 ブルガリヤ
審判	ボイエル (ハンガリー)
ソ連	5—2 ルーマニヤ
審判	シュレガルト (インドネシヤ)
ユーゴ	5—3 ハンガリー
審判	ショート (オランダ)

以上の結果

第一位	ユーゴ
第二位	ソ連
第三位	ハンガリー
第四位	ルーマニヤ
第五位	オランダ
第六位	ブルガリヤ
第七位	日本
第八位	インドネシヤ

4. ブタペストに於ける強化練習

ライキ氏指導のもとに9月2日より7日まで約6日間強化に当る。

最初日本に於ける年間スケジュールを説明

1. 競技会, 出場するチーム
2. ナショナルチームの練習
3. 普及
4. 今後の国際試合及びその準備
5. 東京オリンピックまでの選手強化策

日本の現情を理解して貰うと同時に今迄我々がやって来た練習を一通り見て戴いてそれに対する批判をして貰うことにした。

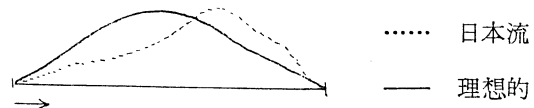
練習の種類

1. 泳ぎ 水球泳法, 出足, サイドストローク (チンバ抜) 方向変換, GKはプレスト, バタフライ, サイドウォーク等
2. ハンドリング 上, 下, プッシュ等
3. 変型パス
4. シュート, ゴール前を横に切れる, ドリブル, パラレル, 中距離等
5. フォーメーション (3人攻撃等)
6. ゾーンディフェンス
7. 浮力をつける練習
8. 耐久力をつける練習

これに対しライキ氏の意見

- ① 泳ぎは非常によい (試合中にこの泳法, 特に顔を上げることを実施すれば申分ない)
- ② サイドストローク (チンバ抜き) をもっと数多くやること

- ③ ドリブルを完全に身につけること
- ④ ハンドリングは型にはめず各自が一番キャッチし易くスローし易い方向に伸ばしてやるただ悪いくせはどんどん直す
- ⑤ 止まってもよいから最初は完全に身につけることこの為には身体の出しをよくすることは勿論である。
- ⑥ GKの練習が不充分
- ⑦ GKは攻撃者の近づいた時の構えが悪い
- ⑧ 1人でも確実にゴールに入れる練習を繰り返す
- ⑨ ゲーム中に起るケースを常に考えゴール前では横のパスより後からのパスを練習した方が有効である。横でも構わないが確実に渡すこと, 例え山なりでもよい
- ⑩ 3人攻撃のコンビネーションはいい
- ⑪ ゾーンディフェンスもとてもいい。2段目を真中のバックマンの動きが大切であるからGKの能力と合せてよく考える必要がある
- ⑫ もっとフロート力をつける必要がある
- ⑬ 1日の練習の強弱をもってゆき方



- ⑭ クーリングダウンを必ず 200~400 やるべきである
- ⑮ 以上基礎を身につけ顔の上ったプレーをするならば必ず一流になる道はそう遠くない

5. 今後の方向

今回のユニバーシアード大会に参加したオランダのコーチ Mr. SHOTO も本当に掛値なしにパリー大会の時のチームより遙かに強くなったと褒めてた。

事実昨年ローマ大会などと比較してみても相手のミスや好運で得点したケースより自分達で切開いて作ったチャンスをものにしていることが多く, 立派に本場のチームに対抗出来るケースが多くなったことは非常に明るい見通しである。

これから先更に国際競技で立派な成績を挙げるには

- ① 技術よりまず耐久力と根性を養生する。
- ② 交換試合を数多くもつこと。
- ③ 昨年及び今回の遠征に於て得た貴重な体験をフルに活かして一日も早く日本独自のものを造り上げること。
- ④ 優秀なるコーチの指導を受けること。
- ⑤ 広く人材を求めること。
- ⑥ 一貫した指導性。

(筆者は強化水球委員)

(3) 水球欧州遠征チーム, 水球審判, 視察報告書

水球国際審判員 名 取 正 也

今度のユニバーシアード大会参加及びハンガリーにて水球修業の為に派遣された神田コーチ以下12名の水球チームに同行して主として (1)水球競技の運営, 試合方式, 設備 (2)水球審判の実際とその編成 (3)水球規則の解説, ルールの適用等の勉強と経験を得るために行って参りました。その概要を御報告し東京オリンピック大会の準備に御役に立て度いと思います。

日本の水球審判員はFINAに登録するインターナショナルレフェリーを3名申請し登録されて居りますが, 未だヨーロッパに於ける国際競技の笛を正式に吹いたものは居りませんでした。今回のユニバーシアードに国際審判員として正式に笛を吹くことが出来, 更にFINA, 水球局のチェアマンであるハンガリーのベラ, ライキ氏に親しく指導を受ける機会を与えられたことは日本水球にとって此の上ない喜びであり, この経験を無駄にせぬ様尙一層の研究と精進を誓うものであります。

さて最初に, 古橋監督以下の競泳チームと馬場コーチの率いる飛込チームと合同で, ハンガリー, ブダペスト国立プールで行われた中部ヨーロッパ国際水泳大会に参加致しました。このブダペストナショナルプールは, 1932年ロスアンゼルスオリンピック大会の翌年に建設されたものとかで, 茶色い煉瓦作りの古めかしいものですが水泳の殿堂としては実に良く設計されて居り其後何回も改修されて現在室内プールを改築中でありました。競泳用の50mプールはターン壁面にオーバーフローの握りがない最古のものではないかと古橋監督も云って居り, 脱衣所から泳いでプールへ抜けられる運河の様な水路があり, 水球専用の33mの室内プールにはスタンド中段に突出したレフェリー用の廊下がありここで笛を吹ける様になっています。然も温泉をひいて暖められて常時26~7度, 特に飛込用プールは30度以上に暖めてあり飛込選手の練習には外気が寒いので全く有難い水温であると思います。この様に温泉を引いて暖めたプールが, ブダペスト市内に10数面もあり, 土曜, 日曜は家族連れ弁当持ちで満員と成り, 老幼男女全く水泳の好きな国民であると感じました。

競技は格式ばった所がなく, 至極ノンビリと, 然もスムーズに運営されていますが, 選手はむしろ勝負意識に徹し, レースに勝つということにファイトを燃している様です。競技会の見出しは左記の如く書かれてありました。

1961. AUGUSZTUS 19~20 NEMZETKÖZI
VERSNY.
SORRENDJE ÉS PÁLYA BEOSZTÁSA.

水球はハンガリーユニバーシアード代表軍との親善試合で, 第1日はハンガリーのポイエル氏のレフェリー, 12~2, 第2日は同じチームで, レフェリーは私が吹きました。此の試合は14~4でしたがペナルティースロー等の得点でなく全く自力で得点出来たことは大いに褒めてやってよいと思います。役員編成はレフェリー, ゴールスカラー(2), タイマー(1), ですがこの外にメンバー表を持ったのが交代と得点を記録して居り, 日本の方法の方が良い位で, 変わった点はありません。レフェリー, ポイエル氏も, 此の国の三番目に上手なレフェリーとの事でしたが, 外人にしては動きが小さく, 笛のタイミング旗の持ち方等二, 三の学ぶべき点もありましたが, 特に優れているとも思えません。但し氏は最後のユニバーシアードにこのチームを率いて, 大会でも笛を吹きました。この時の笛の方が数段シビアで, 良い笛だった様です。

私の笛に関しては現地の役員は相当心配していたらしく, 通訳のアイリーン嬢も前日何度も大丈夫かと聞いて居りました。私もコンディションを整え, 自分のベストを尽すつもりで, 日本でのやり方より, セスターを大きく, はっきりとやる様心懸け思い切って吹いて見ました。幸い大過なく吹けまして, 試合後, ライキ氏より過分の御褒めを戴きホッとした次第です。笛に関し此処で学んだことはそのままユニバーシアードで応用して見ました。

大会地ソフィヤへ飛び, 直に審判員として届出でました。水球練習用のダイアナプールでは, 現地ブルガリヤチームが盛に練習して居り, 之と練習ゲームを行い, 私が笛を吹きました。このゲームは我軍は疲れが出たか, ボーンヘッドが多く6~3で破れました。笛も特に変わったことはありませんでした。

ユニバーシアードの組織委員会はこの下に水泳競技委員会があり, 更に技術小委員会として水球部門が附属して居り第一回の会合では, 役員紹介, 各国審判員紹介, 競技使用ボール(ハンガリー製アルテック革ボールに決定)FISUのルール適用, 之で不備の場合はFINAのルールによること。次回26日に組合せ監督会議を行うこと等を決定しました。運営, 準備は総じて大陸的

であり、こんな調子が良いのかとこちらが心配になった程です。

組合せ会議に於ては、出場チーム8チーム、之を抽せんで4チームの2グループとする原案に対し、最初ハンガリーより総当り案を要求しましたが結局日程時間の関係で原案通りと成り左の通り組合せ及審判員を決定しました。

Aグループ

ユーゴスラビヤ (第一シード)

インドネシヤ

ソ連

オランダ

Bグループ

ハンガリー (第二シード)

ブルガリヤ

日本

ルーマニヤ

審判要員

役員長 ルチチ氏

審判員 ヴーチャーチツ氏 (ユーゴー)
(英語読みではヴーセーチック)

ボイエル氏 (ハンガリー)

ソフノスキー氏 (ソ連)

スコットフォーン氏 (オランダ)

バリント氏 (ルーマニヤ)

シーレガルト氏 (インドネシヤ)

名取 (日本)

ヤコビニ氏

ルセフ氏 } (ブルガリヤ)

バルカパロワ氏

細目

使用プールは、リパブリカメーンプール、用具はO.C.よりすべて準備。

試合当日の午前中にレフェリー割当て会議を行うと共に、意見の交換を行う。

予選4日間、各3試合。

決勝、順位決定は2日間各4試合とする。

エントリーはFISUの16名とし、試合前に11名のスターティングメンバーを提出する。

決勝同点の場合はFISUルールにより順位を決める。

競技規則はFINA、1961年ルールによる。

右の打合せを行ひ、審判員の資格問題等で、相当異論もありましたが、ブルガリヤ組織委員会の原案通り一応決定を見ました。

実際の試合は27日より開始し、私はインドネシヤ対ソ

連のタイムキーパー、ソ連対ユーゴスラビヤのレフェリーを割当られました。インターナショナルレフェリーの資格を持ったものは、此の中で約半数と思われ、ブルガリヤの3名のレフェリーには相当異論があつて、後に編成を替えることもありましたが、先は現地の力が強く私には此の一回しか割当てが廻って来ず、残念でした。

然し結果から見ると私の吹いた、ソ連対ユーゴスラビヤは、事実上の優勝戦であり、両軍共相当エキサイトし、観衆も大騒ぎで、タイムキーパーの笛も聞きとれぬ位で、貴重な経験と成ったわけです。

私自身上ってしまつてはならぬと思い、精神安定剤などを呑み、相当覚悟をして吹いたのですが、一度退水者側の旗を上げ、フリースロー側の旗色を示さなかつたことから、両軍キャプテンがタイムを要求してプールサイドへつめ寄り、騒然とした場面もありましたが、大きなゼスチャーで漸く切り抜け、退水者4~5名を数めたこのゲームも、4対4の引分け試合に終わりました。笛の程度はそう悪いものではなかつたと思つて居ります。

試合終了するや、ユーゴーのヴーチャーチツ氏と、ソフノスキー氏が駆け寄つて来て、握手して呉れました。

大会の笛ではやはり、ユーゴー、ソ連、ハンガリー、オランダのレフェリーがうまく、ブルガリヤの笛は日本でも二流と思われれます。むしろ、1961年新ルールの解釈では、日本は少しも間違つて居らぬと思われました。

交代は勝手に行われ、入る前にレフェリーに断つたチームは少く、入水したチームの帽子番号を見て記録するというやり方でした。

試合の約30分前に両軍選手は集り、レフェリーは、両軍のキャプテンを集めてトスを行つて、帽色、サイドを決め、定められた場所に待機、試合時間になると両軍は入水して、10分間の自由練習を行う、この際、一列に並んでチェアーを行うチームもある。10分経過すると、レフェリーは笛を吹いて両サイドに分け、直に試合を開始する。この方法はヨーロッパでの定型の様に思われます。

この大会で二つのトラブルが起りました。一つはブルガリヤのレフェリーに対してオランダチームの抗議であります。これはソ連対オランダ戦、4対1でソ連の勝ちに終わりましたが、抗議は(1)4メートル内の引きもどしによるメジャーファウルに対し、ペナルティスローを与へられなかつたこと、(2)はニュートラルスローの投げられたボールを空中で直接ソ連選手がカットしたのにそのままゲームを続行したこと、の二点であつて、このことが事実であれば、レフェリーの判断の問題ではなく、ルール違反となるわけで、ブルガリヤの水球委員会も大いに弱り、どういふ風の吹きまわしか、各取と、水球チ

ームコーチの神田を、委員会に呼び、意見を聞かせて呉れということに成り兩人で出席しました。非常にくすぐったい気持ちで、特に神田君は何で呼ばれるのか解らずびっくりして居りました。結局これは小生の語学力の不足が原因でしたが、要するに、ローマ大会に行った神田君に意見を聞くことだった模様で、我々が、適当な解決策を言上しブルガリヤの諸君も全く同意見であるという様な事で、改めて、オランダ、ソ連の監督と、同ゲームのレフェリーを呼び諒解してもらいました。日本水球が大いに面目をほどこした一幕でもありました。

次のトラブルは、ユーゴ対ハンガリーの白熱の一戦で、レフェリーはオランダのスコットフォーン氏、これ又大変なエキサイトした試合と成り、地元観衆は隣国のユーゴを応援し、王者ハンガリーも苦戦、第二ピリオドで、蹴っとばされたハンガリーの主将、ドクトル、キャルパティは、猛然相手を殴り、やられた選手は外国人らしい大きなゼスチャーで、ひっくり返ってしまい、キャルパティは退水、然も全試合中出来ませんでした。それでも5対3と肉迫したハンガリーの実力はさすがでした。これは正式には抗議もなくレフェリーの処置はそのまま認められました。

このキャルパティという選手はベテランで、ユニバーシアードの資格があるのは不思議なことですが、彼はソ連とのゲームでは、貴重な1点を生み出して居ります。そのプレーは、彼がボールを持ってソ連ゴールを持ってソ連ゴールに迫り、ソ連フルバックは2名、ゴール前で待ち受けて居りましたが、左サイドに味方の1人が突込んで来るや之にパス、レフェリーも観衆もこの選手のシュートを見守るうちに、ノーマークで、シュート、ゴールを奪いました。この時キャルパティは見当らずソ連フルバックは2名共ゴール前で無為、レフェリーは得点を宣して中央へもどるとき、漸く水中で相手バックを2名ともひっぱっていたキャルパティが浮ひ上り、ニヤリと笑って自陣へ泳いで帰ったものです。あの野郎やりやがった、とポロの解る人はその時気が付いた次第です。

レフェリーの動作で特に気が付いた点は、

- (1) レフェリーの動作は忠実にプールサイドを走り、常に最もプレイの見易い場所を占めると同時に、しばしば反対方向に目を配ること。
- (2) レフェリーとしての自己のスタイルをきめ、同一ゲームには同じ動作を行い、然もゼスチャーを大きくはっきり行うこと。
- (3) 「後ろに目のあるプレイヤーがうまいプレイヤーである」と云われているが、レフェリーにも全く同じことが云える。

(4) 細部に渡っては、プレー続行中は常に旗を水平に、両サイドの旗色を間違わずに示していること、このくせをつけると次の反則を示す場合にやり易い。

コーナースロー、ペナルティースローの場合は二本指及四本指で指示する。

反則には簡単な動作でその種類を示すことが望ましい。

退水の指示は旗の上に手を当てて旗色を示しプール外を指して退水をさせること。

得点は旗を上方で振るがそのあと得点した方のサイドを旗で指すのが良い。

試合再開の中央線からの開始にはボールを持った方の旗色を立ててこれを笛と同時にそのチームのサイドへ振ると判り良いと思う。

上の如き動作は日本に於ても各レフリーに練習させ、統一し度いと思つて居ります。又、ルール解釈の点では日本から質問事項として考えていったものを、大会後再びブダペストを訪れた際、ライキ氏に質問し答えてもらいました。

(1) メチャーフアウル、116項

恐らく得点と成ると思われる場合の反則とは何か、という事で、これに対しては、オーディナリーフアウルの各項で、それが直接シュートの動作に行われたり、得点に関係あるプレーと解釈すべきで、水を撥ねかけるとか、水底から飛び上るとか、相手方の背、肩足の上を泳いでシュートを出来なくするとかであると思われま

(2) ペナルティースローの126項

退水を命ずる程重要である場合とは、ハンガリーでは全試合退水の場合をこの重要である場合とし、1点のみの退水の場合はすべて退水させずにペナルティースローのみを与える方法で行つて居ります。大体之の線で各国共解釈を統一するものと考えます。

(3) ペナルティースローの方法

ペナルティースローの投げ方は水面からでも、球を持ち上げても良く、ただ、二段モーションに成ったために相手側にフリースローを与えられた例がありました。然しスローをするものの周囲ははっきり整理して、近距離には敵味方を置かぬ様厳重に行つて居りました。

(4) 交代の方法

大会では前に申した様にはっきりした決めはなく、ライキ氏は146項にある通り主将がレフェリーに口答で申出づるのが良からうという意見でした。

(5) 大会及びハンガリーでの試合中、アンダーウォーターのフアウルに疑問を生じたので、ライキ氏に意見を聞いた所、語学力の不足が、から本当の意味が相手に解らずじまいでしたが、ドリブル中でも球をかかえ込んで

しまった場合、タックルされてないのにアンダーウォーターをとった例が、ハンガリーでの試合に度々と見られ、未だに疑問に思っています。

其他の点では、ユニバーシアード大会では特に参考と成るケースはなく、レフェリー間にも相当相違があり、ロスタイムを嚴重にとり、フリースロー中の反則もびしびし退水にする人もあり、全くとらない者も居て、すべてハンガリー再訪のときに期待をかけました。

大会の結果は、日本チームとしては、まづい試合もあり、又見違える様な健闘もありましたが、水球競技が終了するや9月2日、他のチームと分れ、水球チームのみブダペストに帰り、ライキ氏の指導の下、練習、試合を行いました。

今回はライキ氏訪日の実現の確約をとる任務もあり、彼のスケジュールで充実した練習をやり、夜の打合せ会で、右の訪日の件、ヨーロッパ選手権参加の可否、ヨーロッパ水泳、水球チームとの交流計画等を話し合ったわけですが、難しい問題は筆談という奥の手を使っても駄目な場合もあり、もどかしく残念な思いも致しました。

ヨーロッパ水球選手権大会はオリンピックの中間の年に4年毎に行われ、明年はライブチツヒにて、8月に行われるが、これはヨーロッパの国々のみで、日本は参加出来ない。

ハンガリーは目下若い水泳人を真剣に育てて居り、水球も含めて日本との水球競技の交流を強く希望して居ること。

水球のエントリーはFINAに於ても今回の規則改正により11名出場出来ることから、当然増員を考えて居るので次回のFINAの会議には議題となるだろう。等の話し合いを行いました。

彼の来日に関しては、氏自身日本に行度いが、共産圏である為出国のビザが難しいこと、彼がFINAの副会長であると同時にヨーロッパ水泳連盟の会長でもあって行事に忙しいこと等で直にいつ行くかの返事は出来ないが、10月に日本へ行く案は彼としても望ましいので努力するという答えでありました。

ここでは、先づ日本の水球練習法を見せ、そのあとでライキ氏の批判を仰ぎ、ライキ氏の指導による基本練習法、3名のベテランによる実際動作、又これ等の撮影を行い、私は、その時行われて居たジュニア選手権の水球ゲームの笛を吹かせてもらい、笛に関しての助言を得ました。更に来洪中のソ連海軍チーム及ソルノック市のチームと2試合を行い正味5日間の日程を終り、最終の目的である、シンガポールへ向ったのであります。

レフェリーに関しては、我々が尙一層、研究と経験を積み、それによって強い自信と、信念を持つ様に成れば

よいので、我々の方向と解釈に違った点はありません。此のソ連チームとの笛をライキ氏が吹いてくれました。さすがに最高の笛という事で、よい勉強に成りました。特に言えることは、笛が正しく、適切に吹かれたというだけでなく、プレイヤーのやり易い笛という点、これは恐らく笛を吹くタイミングの問題であると思いますが、一つの聞きもらしもなく、整然とゲームが進行したことに感心致しました。

又ライキ氏から日本水球チームの練習法、試合ぶり等を見て種々貴重な意見を聞かせて呉れまして大いに参考に成りましたが、コーチ神田君の報告に任せるとしても特に私として感じたことを挙げますと、

- (1) 素材として見ると、日本のチームは決して悪くない、泳ぎも良いし、出足もある。
- (2) 水球の技術は1は出来て居るが、2、3、4をとばして5を教えている。即ち、重要な、ドリブル、ドリブルシュート、体触してのバックのマーク、ハンドリング、等の数点に欠点が見られること。
- (3) ゴールキーパーの養成、訓練が足りないこと。
- (4) パスワークが悪いこと。

右の諸点は我々が明日から直に訓練し直さねばならぬこととあります。

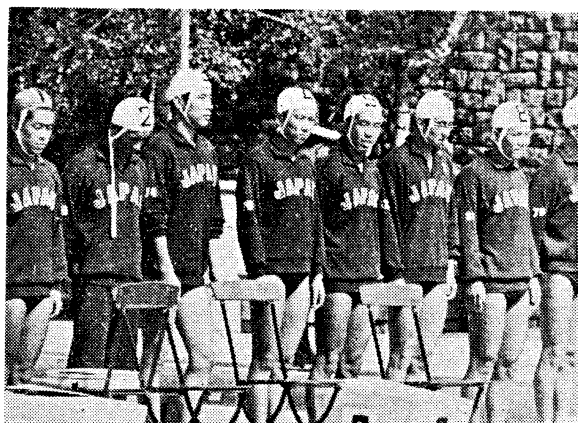
私共がブダペストを去る日、ライキ氏の映画を見せてもらいましたが、その間、外の水球プールでは、ハンガリーのナショナルチームが、2組に分れ、数人の老人迄加えて、延々と約2時間、練習ゲームを行って居り、選手は無帽、レフェリーは旗なしで、専らコンビネーションの養成、感の訓練を行って居りまして、これでこそ、正確でタイミングの良い動きとパスが生れてくるのかと感心致しました。

遠征旅行の最終日程は、招待を受けて居りましたシンガポールでの2試合ですが、第1試合はレフェリー名取、第2試合は現地のレフェリー、キー・スン・ビー氏によって行われました。シンガポールはマニラ大会からのベテランを数名入れて、どうしても日本チームに勝ってシンガポール水球の復活を念願として居り、相当の意気込みでぶつかって参りました。2試合共勝つことが出来ましたが、彼等の水球は勝つ為の猛烈なきたないプレーで、我軍には負傷者迄出る仕末、この方向では、シンガポール水球の将来はあまり期待が持てないと感じました。インドネシアと共に、明年のアジア大会に、日本が特に恐れるチームではあり得ないと思いました。

幸い今秋のライキ氏の訪日が実現すれば、水球技術の問題のみでなく、水球試合運営の問題、水球審判技術の問題等に飛躍的な向上進歩が望めることと思います。

さて最後に試合場施設の点では、ユニバーシアード大

会では、吊りゴールで 30×20 のフィールドを作り、一方はプールの端に接着してありました。ラインロープは発泡合成樹脂（恐らくスチロール樹脂）の浮きを使用、開始の際のボール受けも、同様浮材を用いて水中にひっぱり込む方式でした。計時時計は、押ボタン式に連絡した。ロンチン大型30秒ストップウォッチを使用、これに電動で連絡した大時計を飛込台前面に掲げ、同調して動いて居ります。但し大時計が5分区切りで20分加算する方式なので、ピリオドの終了のストップが、呼笛と同時に押さねばならず、難しいものでした。点数板は、上部

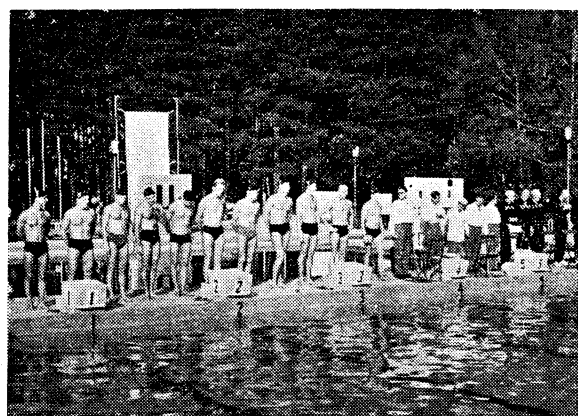


ユニバーシアード大会に出場した日本水球チーム
ソフィヤ、レパブリカプール

にチーム名、中間にピリオドを出し、下段に、青、白の点数板をかけ替える方式をとって居りました。特に設備の点で目新しいものはなく、この吊りゴール型式はヨーロッパでは最も一般的な方法と思われる。

私の主要なる任務の一つに、試合及びレフェリーの動作の撮影がありますが、カメラの破損等の事故で、失敗もありましたが、大体30巻のフィルムを持ち帰りましたので、之をまとめ、貴重な私共の勉強資料として、活用し度いと思つて居ります。

(筆者は本連盟常務理事水球委員長)



同大会におけるユーゴスラビヤ(左)とソ連チーム
中央は名取審判員

(81頁より続く)

200Br (2:38.2—2:39.0), 100Ba (1:05.3—1:06.3),
100Br (1:12.1—1:14.0), 200Bat (2:17.4—2:21.0)。

女子では、田中だけが Back で国際級の記録を出したが、他の者は非常に弱かった。

若い選手が10レースの中4レースの1着を頑張って争い、ベテランに勝ったが、年令的には若いですがすでに7～8年の練習経験をもっている。男子受賞者の平均年令は18.8才である。若い者の中では18才の福島、17才の伊藤(200m Ba で夫々 2:19.8, 2:23.7), 18才の梅本(400m Fr 4:31.8), 17才の松本(200m Br 2:38.0)が目立っている。

日本選手権大会は日本の社会に大きな興味をよんでおり、新聞、ラジオ、テレビはくわしく試合の進行を知らせていたが、“神宮プール”の観客席も毎日満員であった。この大会には優秀な外国選手、ブラジルのドス・サントス、アメリカのクラーク、サアーリ、ストック、トロイ、ジャストレムスキー等が招待されていた。

サントス、サアーリ、ストック、ジャストレムスキーは優勝し、彼らは今日の水泳レベルに特徴的な新しいものを示した。それは早いテンポであり、彼らは立派な体力の発育と大きな訓練によってレースの終りまでそのテンポを維持していた。たとえばジャストレムスキーは7

月26日、世界新記録樹立の2日前に5500mを練習し、そのうち2200mを高い最大のスピードで泳いでいる。

日本の水泳選手にとっては世界の記録保持者と並んで出場したことは、もちろん良い教訓になったであろう。

(109頁より続く)

申込まづに勝手にドヤドヤと乗り込んできて、国体料金で泊まれる旅館を探せと泊る或る県の視察団。それも頼み込むのではなくて、手配できぬのはけしからんという傲慢な態度。

以上は、大会終了後、地元の人々が話してくれた国体中に起った憤慨談の二三である。こう話してくれた人々は、失望したような面持ちから気をとりなおして、「でもよかった。多数の選手が楽しんでくれたし、おまけに地元で優勝が出来たのだし……」と満足げであった。

競馬の目的は、競って走らせることにより体格のよい馬に鍛え上げ、種の改良を計るにあるという。地元の人々が失望して語ってくれたスポーツ・マンやスポーツ関係者の態度が依然として今後も続くようならば、我々の「水泳」も、今に優秀な種馬作りという興行に惰落して行ってしまうのではないか。選手・役員・関係者のモラルについて、いささか考えさせられるところがあった4日間でもあった。(筆者は本連盟記録委員)

全米選手権大会等関係報告書

(1) 全米選手権大会に参加して

1. 参加報告
2. 日本水泳チーム渡米日誌（合宿～全米選手権）
3. 全米水上選手権個人記録表
4. 全米選手権ピッチ回数による資料

渡米高校選手団監督 加 藤 茂

1. 参加報告

全米男子屋外水上選手権大会は8月18日から3日間、ロス・アンゼルスズのオリンピックプールで、アメリカ、日本、アルゼンチン、メキシコ等の選手400名が参加して行われた。日本は男子高校生13名と山中選手が参加したが、大会内容は、水泳史上かつてないほどの内容の充実さであった。

1500m、400m自由形以外は全て世界新記録に更新された。日本チームで決勝レースに出場した者は、山中の200m、400m自と平泳の松本、山南、石川、背泳の伊藤の4名にすぎなかった。

自由形100mでは、スチーブ、クラークが54.4の世界新で優勝し、ブラジルのドス・サントスはクイックターンが出来ず、55.3で4位となり、決勝7位のブリックでも55.6であった。57秒を切って泳ぐ選手は予選で15名もいた。日本高校選手では崎久保の58.9ではとても歯がたたなかった。

200mでは山中が2:00.4の世界新で優勝し、ローズが2:00.9の世界新で2位、7位でも2分4秒台の記録であった。

400mでは山中が4:17.5、ローズが4:17.8で、山中がローズを400mで破り、日本チームの為にばんじょうの気を吐くことが出来た。

1500mではサアリ(16才)が17:29.8で優勝し、山中は練習不足もあって6位となった。この種目では若いアメリカの高校生が活躍した。3位のトニー・ラルフス(16才)17:44.7、4位のマイク・ウォール(15才)17:52.9、5位のビール・ファリー(16才)が17:55.7であった。特に目に付いたのは13才のフィリップ・ハウスが19:22.0で泳いだ事であり、ほとんどの高校生が頭を丸坊主にして出場しており、自分の記録を1秒でも短縮するために努力を払っていたことが特に目についた。

平泳では、ジャストレムスキーが100、200mで断然強

く、100m 1:07.5、200m 2:29.6という驚異的な世界新記録で優勝した。ポール・ヘイトが両種目とも2位で100m 1:09.0、200m 2:34.5で世界新であった。両種目を通じて7の世界新が作られ、日本チームは石川が100mで1:12.5、山南が1:12.7共に日本高校新で5、6位に食い込む事が出来た。200mでは松本が2:36.8(日本新)山南2:38.4(自己最高)で6、7位となった。

背泳100mでは、ベネットが1:01.3の世界新で優勝、6位のゲッチが1:02.6であった。

200mでは、トム・ストック1:11.5、ジド・グラフェー1:14.4の世界新で1、2位を占めた。日本チームは伊藤が予選で2:21.1の高校新を出し、決勝では2:21.3で7位となった。

バタフライ100mではフレッド・シミットが58.6の世界新で優勝、ニコラオ(アルゼンチン)が58.9で2位となった。6位のミリフが60.3であった。

200mではガール・ロビー(16才)高校2年が2:12.6の世界新で優勝し、2位はジュールフ2:14.5、3位以下は16秒台であった。

今大会を通じて言える事は、アメリカの選手は全体に年齢層が若く15、6才の高校生が主体となって活躍していたことは日本としては大いに脅威を感じた。アメリカの水準は豪州よりはるかに上まわり、世界第一であると思われる。

泳法についても我々の想像していた以上の急ピッチ泳法で、それで最後まで正しいフォームで泳ぎ切れることを見ると如何に苦しい練習法が取られているかを想像できる。泳ぎ全般から言えば、日本的な泳ぎは足に重点を置いているけれど、アメリカでは手に足を合せる泳ぎと言う感じがする。特に上半身の強化が考えられている様だが体格の相違からくる考え方もあり、下半身の運動を強くすると全般的なエネルギーの損失があるとも言っていた。この点についても我々は大きに考えねばならない。特に感じたことは個人メドレーが盛んであり、トレ

ーニングの為に大いに奨励されていることは日本でも一考を要する問題であり、東京オリンピックでは個人メドレーが追加されているから此の種目の強化を計らねばなるまい。

ジャストレムスキーが200m 平で 2:29.6 の世界新を出した30分後に 200m個人メドレーに出場 2:17.9の世界新で2位になったが如何にこの種目が重要視されているかが伺える。

今大会で活躍した日系米人では 200m 平で 2:35.6 の世界新を出したナカソネ (ハワイ出) 山下(16才) 100m 1:01.0, アウガスト・島 (18才) 200m自 2:12.9, ビル・奥(16才) 100m自 1:00.7, ジョン・佐藤(16才) 100mバタ 1:01.7, 大田正二(15才) 400m個人メドレ 5:24.5等が活躍し今後の期待がかけられる。

又黒人選手は今大会には出場していないが2年前からプライベートの水泳学校で練習が許される様になった。100m自 フランク・ヘコウ(小5年) 10才 1:11.0, マイク・ラソー(13才) 1:03.5 は南加AGグループでは6番目であり、北オクランドのロナルド・スコット (17才) 1:00.0ぐらいと言っていたが今後黒人選手がアメリカの水泳界に進出して来るのは時間の問題であろう。

フレスノ、サンフランシスコの大会を見ても男女10才以下と11・12, 13・14, 15・16とシニアの年令別競技が行われたが、それに加えて必ず個人メドレーと、フリースタイルのリレーが行われた。10才以下と11, 12才は各種目共 50m~55y, 13・14, 15・16才は各種目 100m~110y のレースであった。200m~220y リレは各年令別に行い、11, 12才以上のみ 200m~220y の個人メドレを実施していた。記録も相当高く12才ぐらいまでは女子の方が強く13才ぐらいから男子の記録が断然向上していた様である。

水泳学校についてはロスアンゼルスだけでも50校1500名の生徒がいる。南カリフォルニア州に約120校あるとのことである。これはメルボルン・オリンピック以後出来た学校で5年ほどになる。

アメリカ水泳チームが豪州のオリンピックで惨敗し水泳関係者が如何にしてアメリカを強くするかについて協議した。その当時、アメリカの青少年不良化問題もあって水泳学校を作ることによって不良化防止と体育とを兼ね合せて作ったことが5年後の現在大きな成果を上げた結果となった。一つの学校では50~100人の生徒を持ち4才から高校生初級ぐらいまで5段階に別けており、競泳指導と幼児に対する指導も合せて行っている。1ヵ月に12回の授業を30分~40分で25~30ドルの授業料を取って教えている。南加では11ヵ月は水泳が出来る気候なので水泳学校もXマスと新年の外はずっと開校している。

学校では練習をさせるという生優しいものではなく鍛練をさせていると言う様な指導法で精神的な訓練が施されている様である。先生、父兄、生徒、三者一体になって子供の教育について関心を示しているので強い選手が出てくるのも当然であろう。

アメリカの強化策がAGグループの競技会と水泳学校の教育と各都市にある体育クラブの専門教育とによって幼少より多数の子供を養成し、優秀なる選手を作りつつある規状を見て、我々としてはより一層の組織と専門教育とによりよりよい選手を造り出すことに最善の努力をはらわねばなるまい。今後の強化策としては、我々はアメリカの片鱗を見ただけであるので充分とは言えないので、出来るだけ早くアメリカの実体を再調査する必要がある。

アメリカが5年にして今日の成果を得ている例から見ても我々としても3年ぐらいで日本的な強化策を考えねばならない。中学2, 3年より上は大学卒業しても3, 4年は規役選手として立派に使える選手的环境にしておきたいものである。その為にはプールもある立派なコーチのいる会社へ就職させることである。高校生の優秀なものは大学への選定をあやまることなく出来る限り多くの者を進学できる様計ってやりたいものである。中学生にしても水泳がのびる高等学校への進学を考えてやることである。若い選手の芽をつむことなくどしどしと記録の向上が計れる環境にしておくことが必要である。

又未開拓の学校と云っては失礼かも知れぬがコーチのいない学校とか、選手をよくみることが出来ない学校でも相当優秀なる成績を修めている選手がぼつぼつと見当るので、これらの選手を水連がみっちり再教育することも忘れてはならない。現在の水泳指導というものは学校とか会社の好みで教へていることだけでは何となく心淋しく感じる。水泳連盟が直接指導出来る道場がほしいものである。そうする事によって万人等しく正しい水泳の指導を受けることが出来るし、その中から優秀なる人材を作り出すことも可能であると思われる。

プール施設については年間練習の出来るインドアのプールを持つことであり、泳ぎと体の鍛練を並行して行へる状態にしておきたいものである。アメリカが11ヵ月のシーズンであり、日本がわずか5ヵ月の練習期間では余りにも差があり過ぎると思う。

各ブロックに1ヵ所ぐらい年間自由に使えるインドアプールの設備が必要である。名古屋でも来春までには水連が自由に使えるインドアプールの建設の話が出ているので各地でも速刻インドアの設備を充実させ、各地の水連が思う存分選手の強化に力を入れることが出来たならば、東京大会には日章旗を上げることも夢ではないの

ある。選手の年間鍛練出来る場所を持つことが最大の急務であろう。(筆者は中部地区強化組織委員長)

2. 日本水泳チーム渡米日誌

(合宿～全米選手権)

7月31日(月)晴, 風強し(台風11号の影響か)

11.00 太栄館に集合

監督以下 16名(役員3名, 選手13名)

(註) 山中選手は国際レース終了後参加の予定

1. 合宿中の諸注意(夜間外出禁止)
2. 日課の作成と発表
3. 渡米までの日程発表
4. 主将 松本健次郎 副将 伊藤圭祐
5. 旅館主に合宿中の食事に就き特に配慮する様依頼す
6. 全米選手権大会へのエントリー案作成

注意事項

1. 健康の保持
2. 飲食, 寝冷えに注意
3. 団体生活に協力

8月1日(火)晴後曇, 風強し

朝食後, 田代右耳痛, 但し午前中の練習には参加

8.30 宿舎出発, タクシーを拾うのに時間を要し, 立教中プール到着は20分遅れる, 明日より何等かの処置要す, 午前中は全日本選手権大会終了のこととて精彩を欠く,

11.20 練習終了 水温 28.5 で稍高い

12.30 中食 時間をかけて食べる様注意

13.00~15.00 午睡 15.30 間食サンドウィッチ4切れ

16.30 午後の練習に出発

神宮プールでの練習は大分軌道に乗った感じ

田代は外耳炎にて不参加

蜂蜜を練習時少量与えた

19.40 夕食

各個人用の練習帳作製点検

4 チームとしての日誌を毎日交代で記入

夕食後

役員で日程の打合せ

練習法の検討

休養日の処置

8月2日(水)晴 風強し

午前の部 9.00~11.30 於立教中プール

水温 27.5 気温 30.0

200m×1分

50m×20×30秒

} 全員

25dash×10

ビート(300) レグレス(300) コンビ(400)

午後の部 17.00~19.00 神宮プール

100m×10×1分 } 全員
50m×15×10秒 }

練習次第に軌道に乗る, 特に不調者なし

事故者 田代, 森田 耳痛 2日間休養を要す為不参加

12.30 中食チキンライス, 吸物

15.30 間食果物, 桃二個

蜂蜜湯をプールに持参少量与える好評

13.00~15.00 午睡

20.00~20.30 夕食(質量共に良)

21.00~22.00 渡航説明会

註1. バタフライの金親の泳法に欠点(ストロークとキックのアンバランス, 従ってスピードにロス多し)

2. 松本は石川に比してスタートとターニングがまづい

3. 崎久保, 杉本のスタミナは豊かである。

8月3日(木)曇 午後雨

午前中の部 於立教中プール, 9.00~11.20

ビート 100×3 } 水温 27.8
レグレス 100×3 } 全員 気温 31.0
コンビ 100×4 }

200×8×1分 } 短と特殊用
25ダッシュ×8 }

400×5×90秒 } 長距離

25ダッシュ×8 } 石川はビート練習のみ

練習十分な者とそうでない者の差がはっきりと出る

全員極めて真面目に励む

田代, 森田耳病にて休む

午後の部 神宮プール 自17.00~至18.50

50m×20×30秒——全員

100m×10×20秒——長距離のみ

25ダッシュ×20——全員

田代, 森田は練習休む 耳病次第に快方

石川脚部痛みの為休む

選手全員よく食べよく眠る 宿舎の食餌良好

本日の間食(ざるそば)

相当強度の練習を実施しているが食欲は旺盛

8月4日(金)曇(昨日来の降雨にて涼し)

1. 健康の保持 2. チームワークを固める

3. チーム日誌及個人日誌の提出記入

8.30 出発 立教プール 水温 26.5 気温 28

9.00~11.15 練習

ビート 100×3 —但し平泳は 100×6
レグレス 100×3 " 100×2
コンビ 100×4 " 100×2
200×5×1分

スタート、ダッシュ 25×8

田代と森田はビート練習を中止(耳疾)

陸上にてトレーニング実施

石川は脚部(関節)の痛みの為練習休止

14.50 間食桃二個

16.20~17.20 練習 神宮プール 水温25.5 気温26.5

50m×20×30秒 } 全員
25×4 }

(註) 1. 田代, 森田ビート練習

2. 石川は休養

3. 全員稍疲労気味の為練習量を落した

4. 藤島は夕食直前に喉の軽い痛みと頭痛

合宿当初よりエビオス, アリナミンを投与している
選手の性格, 物の考え方, 態度など大体理解し得た

8月5日(土)曇 涼し

9.30~11.00 練習 於日大豊山高校プール(25m)

気温 27.5 水温 23.0

100m×5×20秒——全員

ビート 50×10×10秒

レグレス 50×10×10秒

コンビ 200×1

ダッシュ 25×10

} 連続実施——全員

藤島咽喉を痛めて休み 軽い扁桃腺炎さして心配無
し。石川も脚部痛にて休み, 電気治療を行う。

14.00 全員接種の為体協へ 入浴禁止

8月6日(日)曇 涼し

休養日 午前中練習中の記録の集計を命ず

シネマスコープ見物

石川を脚部の治療に行かせた

藤島次第に快方

藤田, 森田, 全快に近し

8月7日(月)曇

9.15~11.20 立教プール 水温 24° 気温 25°

1. 50m×4×5秒——短, 特種

2. 100m×10×10秒——長距

3. 150m×1を30分毎に2回反復——短, 特種

4. 300m×1を30分毎に2回反復——長

5. 25mダッシュ×8 ターニング練習を含む(全
員)

(評) 崎久保, 伊藤, 田代を除いては元気なし

特に藤島不調なるも風邪引後の故と思う

17.00~18.30 神宮プール 水温 24° 気温 28°

1. 55m×5を2回反復(20分毎)ターニング練習
を含む

2. スタート, ダッシュ } 総合練習
リレー引継 } 各人25分間宛
ゴール・タッチ }

200mリレー(崎久保, 田代, 岩崎, 森田)を
実施 1:47.7

3. 自由練習 10分間

20.00 夕食 非実質的のものが多いため宿舎に言渡す

事故者 石川 腹工合悪し, 食欲不振

金親 風邪引き発熱(朝37° 夜38°)

兩名共診断を受け治療を受く, 投薬

午前午後共に練習休止

8月8日(火)晴 暑さぶり返す

9.00~10.40 練習 立教中プール

1) ウォーム・アップ 400m

2) 短, 特種 50m×4×5秒

長 200m×5×20秒

3) 短, 特種 75m×2×1分10秒

長 800m×1

4) 自由練習

(評) 全体に昨日より好調, 特に崎久保, 田代良し

精神的にもピリッと引締った感じ

ソ連の水泳視察員2名が阪大の松本氏とプールに来る
前後2時間に亘って詳細に練習を見学した。

12.00 中食 いなり寿司

15.00 間食 西瓜

17.00~18.20 練習 水温 26° 気温 29°

1) 55m×5×10秒 全員 スタート, ターニング

2) 25m×10×15秒 全員

3) 自由練習 スタート, ターニング

ゴールタッチ, リレー引継

泳法研究

8月9日(水)晴

9.00~10.30 練習 立教中プール 水温26.5° 気温28°

1) ウォームアップ 400m 全員

2) 100×10×20秒 長距離

3) 50×4×5秒 短, 特種

4) 300×1 長

5) 150×1 短, 特種

6) 自由練習 20分間

接種の跡が化膿し腫張して脇の下(リンパ腺)の痛み
を訴える者多し(岩崎, 田代, 藤島は特に甚し)体協
医事室に電話して処置を伺う。泳がない方がよい由赤
チン消毒

15.30 間食 リンゴ

17.00~18.20 神宮プール 水温 26° 気温 29.5°

- 1) 55m×5×15秒 第1回 全員
 - 2) 55m×5×15秒 (第2回) 全員
 - 3) ダッシュ, スタート 全員
- その他

8月10日(木) 晴

9.00~10.30 練習 立教中プール 水温26° 気温28°

- 1) 400mウォーム・アップ
- 2) 50m×5×5秒 短, 特種
200m×5×20秒 長
- 3) 75m×2×60秒 短, 特種
400m×1 長

田代の 50×4×5秒 は甚だ悪いのでやり直し, 結果良好

森田の 400 に気合なし

金親も練習開始(自由練習)

伊藤練習軽減す

接種のあとの状態悪き者(岩崎, 田代, 藤島) 全員練習

16.30~17.30 練習

自由練習 ダッシュ。ロング 50m×20 (松本)

山中合宿に参加

8月11日(金) 晴

9.00~10.50 立教プール 水温26° 気温28°

- 1) アップ 200
- 2) 短, 特種 50×4×20秒
長 200×4×20秒
- 3) 短 75×1
短 75×3 + ダッシュ
長 300×1

山中 ビート800 レグレス800 コンビ800 9:45.0

12.00 社行会(丸ビル精養軒)

午後の練習中止

金親の食欲不振, 夕食にそば一杯食す

8月12日(土) 晴

9.00~11.00 練習 立教中プール 水温26.5° 気温32°

- 岩崎, 田代 50×8×20秒
- 長距 100×8×30秒
- 平泳 松本 100×5 + 50×7
" 石川 50×20 特に好調を示す
" 山南 75×2 + ビーティング
- バタフライ 50×8×20秒
- 背泳の伊藤, 五十嵐は自由練習

18.00~19.00 立教中プール

松本, 山南, 岩崎, 田代, 石川, 金親自由練習実施

8月13日(日) 晴

9.00~11.00 練習 立教中プール 水温26.5° 気温32°

1) アップ 300m

2) 各人に関し レースコース
又は 75m~150m~300m

実施しないもの 伊藤, 石川

16.50~17.50 神宮小プール 杉本, 石川, 岩崎練習

8月14日(月) (註) 時差の関係で2日分となる

5.30 起床

6.45 旅館発

7.45 羽田着 見送人 高石会長, 根上氏, 菊池氏,
石平氏

9.20 羽田発 BOACの機事故により日航810号

4.08 ウエーキ島着(日本時間 13.08) 給油

4.30 ウエーキ島発(日本時間 13.30)

10.42 ホノルル着(日本時間 17.42) 税関検査。
夕食。

12.30 ホノルル発(日本時間 19.30)

ジャストレムスキー, サニリー, サントス等と
同乗

8.08 ロスアンゼルス着(日本時間2.00)

出迎人 和田勇氏, 川田氏, 蓮見総領事, 新聞
社関係

自動車にてコロシウムホテルに投宿

プール迄徒歩8分

部屋割は各種目毎2名宛

11.30~14.20 パラマウント撮影所見学

ジャリー・マックレーンの歓迎レセプションあり,
エドワード・G・ロビンソン出席
フリーマン副社長, シュリー・ルイス プロの
撮影見学

14.20~16.10 ヘルメス体育館見学。シュラウダー主
事と面会见学す

練習 17.00~18.00 オリムピック・プールにて

1) ウォーム・アップ 300m 全員

2) ダッシュ 25m×5 "

3) 自由練習 山中, 松本は耳痛, 鼻血にて休む

18.30~19.00 夕食, ホテル食堂にて各自好みのもの

20.00~21.00 野球見物 ドジャース対カーヂナルス
時差の関係か全員ねむたい由
日蔭は涼しいのでしのぎ易い

8月15日(火) 晴

8.00 起床 体操, 全員何となく元気なし

10.00 練習

50×10 50×10 100×5 } の組合せ
スタート・ダッシュ }

12.30 中食 日本食弁当 精神的に弱っている様子

13.30~16.00 午睡

17.00~17.40 練習 全員 50m×6
杉本下痢にて練習休止（下痢は出発時より）
山中気管支を傷む
石川元気なし

18.00~20.00 日米協会主催歓迎会に出席（杉本欠席
せしむ）キップス氏、ペペ氏、アルゼンチン、ブラ
ジル選手も出席

8月16日（水）晴

7.00 起床 体操

7.30~8.00 朝食

9.00 各階の責任者を集合させスケジュール通達

10.00~11.30 練習。本日より左の時間に1コース~
3コースの使用権を得る

1) アップ 200

2) 50m×10×30秒

3) ビート 50m×8×10秒

4) レグレス 50m×6×10秒

5) コンビ 50m×5 杉本腹痛で練習中止

山中 ビート 200×4

山中 200m×4×60秒 (2:15.0)

12.30 中食弁当

12.50~14.00 休養

14.10~17.30 マリーナランド見学

午後の練習を16.00から実施の予定であったが帰館
遅れた為中止。松本、杉本はマリーナランド不参加
の為午後の練習を実施す

午前中の練習は元気が出て良好

外国選手のプール・マナー、練習態度の厳正さ、コ
ーチに対する服従、スタート、ターニングに示す真
面目さは範とするに足る

和田氏より果物寄贈さる

加藤氏、田辺氏と市役所訪問、ヘンリー市会議長、
ランドパーク市会議員と面会。名市長メッセージ手
渡す。

8月17日（木）晴

10.00~11.30 練習

1) アップ 200 全員

2) 75×4×40秒 //

3) ビート 100×2×10秒 //

4) レグレス 100×2×10秒 //

コンビ 50×3 //

この外に山中 100×10×15秒

1.00~3.00 休養

4.00~4.45 練習（日本チームの練習時間割当）

1) 50×8×20秒

2) スタート・ダッシュ 25m×6

3) 自由練習

5.30~8.00 和田氏邸に全員招待さる。ニコラオ、サ
ントス等も、日本料理焼肉等十分御馳走になる。

6.00 明日よりの1500、100自由の組合せ監督会議に
加藤監督出席 1500mは1本勝負で行いその時の記
録の優劣により1位~6位まで決定する。

尚山中はエントリーの記録により最強者7名選抜の
組に入り午後4時頃実施となる。その他は午前10時
頃より決行、100自由はタイムレースにて予戦決勝
を行う。

8月18日（金）晴 全米水上選手権第1日

10.30 試合開始（開会式など行わない）タイムレース

1) 100m自由形予

第3組 6コース 岩崎 59.2（ラップ28.2）

第5組 3コース 田代 59.1（ // 27.8）

第12組 3コース 崎久保 58.9（ // 27.8）

2) 1500m決勝

第4組 1コース 渡辺 4位 19:15.0

3コース 森田 2位 18:53.6

（12時50分終了）

午後4時より開会式らしき催しあり

第5組 4コース 藤島 6位 18:49

第6組 5コース 山中 5位 18:00.2

山中500以後急に疲れる、意識して落したか？

山中の順位は総合で6位となる。

（註）100m自由形では予選で55秒台が6名いる。

彼等は前半50mを26秒で入り、サントスは予選
の時クイックターンを行わず余裕を持っている。
100自由形決勝では全員55秒台特に1位の
クラークが54.4の世界新には感嘆（前半50は
24.4）

3) 100m自由形決勝

18才のクラークが54.4（世界新）で優勝

ブラジルのサントスはターニングの技術悪く敗れ
る。

個人メドレーを初めて見たが想像以上にアメリカ選
手はスタミナに溢れている、何れもハードトレーニ
ングから来たものと思われる。

大会運営は極めてスムーズに進められた。

午後の決勝開始前に開会式らしき行事あり、女を板
上にのせて各コースにつけ後より男子がおし、各国
（参加）国旗を持たせて50m渡る。

8月19日（土）晴 大会第二日

10.05 試合開始 タイムレース

200m自由予選

第2組 3コース 田代 2:12.6 (1:02.2)

// 6 // 5 // 崎久保 2:10.2 (1:01.9)
 // 3 // 3 // 岩崎 2:08.9 (1:01.1)
 第12組 4コース 山中 2:01.8 (58.6)

山中は第1位で決勝進出
 高校生3名共予選で落ちる

200m平泳予選

第2組 4コース 山南 2:39.0 (1:16.3)
 第7番目で予選パス
 第6組 4コース 石川 2:40.4 (1:16.5)
 予選失格
 第7組 4コース 松本 2:38.5 (1:14.3)
 第6番目で決勝へ

200mバタ予選

第1組 4コース 杉本 2:23.8(1:06.8)
 // 2 // 5 // 金親 2:27.2(1:08.0) } 予選落

100m背泳予選

第2組 5コース 伊藤 1:06.4(30.1)
 // 3 // 5 // 五十嵐 1:05.6(30.2) } 予選落

800mリレー予選

第1組 5コース ①崎久保 2:10.5
 ②森田 4:23.2
 ③藤島 6:38.0
 ④岩崎 8:49.7 } 8:49.7 (高校新)

16.10 200m決勝

第4コース 山中 2:00.4 (世界新) 優勝
 ラップ 50 27.8
 100 58.5
 150 1:29.1

200m平泳決勝

第1コース 山南 7位 2:38.4 { 50 35.2
 100 1:16.0
 150 1:56.8
 第6コース 松本 6位 2:36.8 { 50 34.0
 100 1:14.0
 150 1:55.6

優勝のジャストレムスキー2:29.6 (世界新)

(註) 200バタにも世界新が生れる

次々と大記録の出現で度胆を抜かれた感じ
 日本水泳界の強化法を考える
 必ず対策があるものと信ずる

8月20日(日) 晴 大会最終日

10.00 大会開始

200m平泳予選

第1組 5コース 伊藤 2着 2:21.1(1:07.8)
 // 5 // 5 // 五十嵐 3 // 2:23.7(1:08.8)

両者とも高校新, 自己最高記録

伊藤は7番目で決勝へ進む

100mバタフライ予選

第3組 3コース 金親 5着 1:05.7(30.0)
 // 3 // 6 // 杉本 4着 1:05.4(30.0) } 予選落

100m平泳予選

第1組 4コース 山南 1着 1:13.1 (34.8)
 // 4 // 4 // 松本 1 // 1:13.3 (34.1)
 // 5 // 4 // 石川 1 // 1:13.0 (34.0)
 山南7番目, 石川6番目で予選パス

松本8番目で失格

400m自由形予選

第3組 3コース 森田 4:42.6
 // 7 // 7 // 渡辺 4:54.0
 第8組 4コース 山中 4:25.7
 // 8 // 5コース 藤島 4:51.7

山中4番目で決勝へ, 藤島は最悪の出来

16.05 試合再会

200m背泳決勝

伊藤 1コース 7位 2:21.3 高校新

100m平泳決勝

山南 1コース 6位 1:12.7 (34.1) 高校新
 石川 7 // 5 // 1:12.5 (34.1) //

このレースでジャストレムスキーは1:07.5世界新を樹立した。腕の強さと脚力のコンビネーションに驚嘆

400m自由形決勝

山中 6コース 4:17.5 優勝

ラップ 100m 200m 300m 400m
 山中 1:01.5 2:06.8 3:13.0 4:17.5
 ローズ 1:00.5 2:05.9 3:12.0 4:17.8

スタートから375mまではローズのペース。山中約半身長の少差で続きラストのターンを行うや猛然とスパートしてゴール前20m付近でローズを捕え、ゴール寸前5mで頭一つ出て素早くタッチした。加藤監督より山中に指示を行い、常にローズに喰いついて泳ぐ。ラスト50mはローズがブラインド。山中の作戦奏功。

レースとしては昨日の200mと本日の400mの決戦が大会の白眉であった。

18.30 日本水連関西支部長 中山正善氏の歓迎会兼慰

労会に全員出席 中学生チームも参加する。

夜間の自由行動 (22.30 まで) 許可す

全米水上戦を無事終了して稍安堵した

アメリカに勝つ為の今後の問題は山積していることを痛感。斗志しきりに湧く。

3. 全米水上選手権個人記録表

氏名	距離	自己最高	記録	備考
山中	200自	2:01.2	2:00.4 (世界新)(自己新)	
	400自	4:16.6	4:17.5	
	1,500自	17:25.0	18:00.2	
崎久保	100自	58.3	58.9	
	200自	2:09.6	2:10.2	
田代	100自	58.7	59.1	
	200自	2:12.5	2:12.6	
岩崎	100自	59.0	59.2	
	200自	2:10.7	2:08.9 (自己新)	
森田	400自	4:41.4	4:42.6	
	1,500自	19:01.1	18:53.6 (自己新)	
藤島	400自	4:37.9	4:51.7	
	1,500自	18:35.4	18:49.1	
渡辺	400自	4:55.0	4:54.0 (自己新)	
伊藤	1,500自	19:20.6	19:15.0 (自己新)	
	100背	1:04.9	1:06.4 (高校タイ)	
			(フレスノ大会110ヤ1:04.8)	
	200背	2:22.8	2:21.1 (高校新)(自己新)	
五十嵐	100背	1:05.6	1:05.6 (高校新)	
			(自己タイ)	
	200背	2:24.0	2:23.7 (高校新)(自己新)	
杉本	100バ	1:04.4	1:05.4	
	200バ	2:19.9	2:23.8	
金親	100バ	1:03.9	1:05.7	
	200バ	2:23.8	2:27.2	
石川	100平	1:12.4	1:12.5 (日本新)(高校新)	
	200平	2:38.5	2:40.4	
山南	100平	1:13.9	1:12.7 (高校新)(自己新)	
	200平	2:39.1	2:38.4 (自己新)	
松本	100平	1:12.9	1:13.3 (高校新)	
	200平	2:37.4	2:36.8 (日本新)(高校新)	

4. 全米選手権ピッチ回数ニヨル資料

種目	選手	50m	50m	合計	平均	距÷ピ		秒÷ピ		距÷秒		ピ÷秒	
						m/1ストロク	秒/1ストロク	m/秒	ストロク回数/秒				
100m 背泳決勝	ベネット	47	49	96	48	1.04	0.64	1.63	1.66				
	グラエフ	43	45	88	44	1.12	0.70	1.62	1.42				
100m バタ予選	マクドナウ	25	27	52	26	1.92	1.13	1.69	0.87				
	シュミット	24	25	49	24.5	2.04	1.21	1.68	0.82				
	ニコラオ	24	29	53	26.5	1.88	1.13	1.66	0.88				
	平均												
200m 背泳予選	ストック	47	48	47	51	193	48	1.03	0.70	1.47	1.42		
	グラエフ	43	41	42	41	167	42	1.11	0.82	1.45	1.21		
200m バタ決勝	ロビー	24	27	27	28	106	26.5	1.88	1.25	1.50	0.78		
	シュルフ	23	26	29	29	107	26.7	1.86	1.25	1.48	0.79		
200m 平泳決勝	ジャストレムスキー	38	39	38	38	153	38	1.30	0.97	1.33	1.02		
	ヘイト	26	30	30	34	120	30	1.66	1.28	1.20	0.77		
200m 自由形決勝	山中	38	41	43	46	168	42	1.19	0.71	1.66	1.39		
	ローズ	38	44	45	45	172	43	1.16	0.70	1.65	1.42		
	ブリック	37	37	37	37	148	37	1.35	0.82	1.64	1.21		

(2) アメリカに遠征して

渡米高校選手コーチ 岡田 正 一

正直なところ、私は本年度のアメリカ水泳界の戦力にど胆をぬかれた。まさかと思われるような記録を続出せしめて然も平然とした顔付のアメリカ選手団や水泳関係者を見て、激しいショックを受けた。或るアメリカのコーチは「吾々は三年後の東京大会を前にして、余りにも早く調子を出しすぎたようだ」と、半ば嘆いたそうであるが、何にしても彼等は見事な成果をあげたものである。五年前のメルボン大会で一敗地にまみれたアメリカ水泳陣はその帰国途上の飛行機の中で鳩首、再建強化の話し合いを行った由であるが、それは本年度の全米水上戦で立派に実を結んだわけである。

我々渡米チームは出発に当って、少くとも平泳陣の上位入賞と背泳の下位喰込みを確信したのであったが、この予想は完全にくつがえされ、松本の200平泳決勝、2:36.8の日本新を以てしても第6位に甘んじなければならぬという驚くべき事実と逢着して文字通り脳天を一撃された程の衝撃を受けたのであった。

山南も2:38.4の自己最高をマークしたものの決勝7位という始末。1位から5位まではすべてアメリカ選手

によって独占され、然もその5人ともすべて世界新記録を樹立して、日本のお家芸とも言われて来た平泳種目のお株を奪ってしまった。つまり、アメリカは、ローマ大会後僅々1シーズンの間に、余り得意としなかった平泳に於ても驚異的な高水準に到達し、第1位のジャスレムスキーは、よもやと思われた30秒の壁を突破してしまったのである。大会最大の収穫とも言うべきか。

200背泳の伊藤も予選をパスし、決勝でも2:21.2の好記録をものにしたが、これ亦第7位に落ち、100平泳の石川も敢泳したが1:13.0で第7位に止まった。

総じて高校選手は、以上の選手の外に長距離の森田、渡辺、短の崎久保、岩崎、背の五十嵐など何れも自己の最高記録をマークしたが、アメリカの堅陣を抜くことが出来ず、殆んどが予選で散ってしまった。敗れて悔いのない戦いではあったが予想を大きく上廻るアメリカの強さに自信喪失の色の漂ったことは否めない。

以下少しく全米水上戦での主要記録と彼等の底力を物語ると思われる予選記録の概略、並びにフレズノ市に於けるエイジ・グループ大会の記録を拾ってみよう。

全米水上戦での記録

種目	予選記録	決勝記録	番外レース (エイジ・グループ)
100m 自由形	55.1 56.0	1位 54.4 (S.CLARK (18才) 世界新)	1位 57.4
	55.5 56.1	2 " 55.0 (J.LYONS)	2 " 57.7
	55.5 56.1	3 " 55.1 (S.SPREITZER)	3 " 57.8
	55.6 56.2	4 " 55.3 (M.D.SANTOS)	4 " 58.5
	55.7 56.4	5 " 55.7 (S.JACKMAN)	5 " 58.4
	55.8 56.6	6 " 55.5 (D.Mc DONOUGH)	6 " 58.7
	55秒台6名 58.7 (崎久保) 59.2 (岩崎) 59.7 (田代) 56秒台8名	7 " 55.6 (R.BLICK)	
200m 自由形	2:03.0(山中) 2:05.1	1位 2:00.4 (山中)世界新(50mは58.5)	1位 2:08.4
	2:03.9(ローズ) 2:05.2	2 " 2:00.9 (M.ROSE)	2 " 2:11.9
	2:04.0 2:05.4	3 " 2:01.5 (R.BLICK)	3 " 2:11.9
	2:04.2 2:05.5	4 " 2:02.3 (P.SINTZ)	4 " 2:14.2
	2:04.6 2:05.5	5 " 2:02.7 (S.CLARK)	5 " 2:15.2
	2:04.8 5秒台5名	6 " 2:03.4 (A.SOMERS)	6 " 2:21.3
	2:04.9 2:08.9(岩崎) 4秒台5名 2:10.2(崎久保) 2:13.0(田代)	7 " 2:04.6 (D.MCDONOUGH)	

種 目	予 選 記 録	決 勝 記 録	番 外 レ ー ス (エイジ・グループ)
400m 自由形	4:25.1 4:29.2 4:25.1 4:29.3 4:25.6 4:29.6 4:25.7 4:29.7 4:26.6 20秒台12各 4:27.1 4:28.2 4:28.9 4:42.6 (森田) 4:51.7 (藤島) 4:54.0 (渡辺)	1位 4:17.5 (山 中) 2 " 4:17.8 (M.ROSE) 3 " 4:23.2 (A.SOMERS) 4 " 4:23.5 (P.SINIZ) 5 " 4:25.5 (S.RERYCH) 6 " 4:30.8 (N.FIRLEY) 7 " 4:37.5 (J.HOUSE)	1位 4:33.3 2 " 4:33.6 3 " 4:33.9 4 " 4:40.6 5 " 4:46.2 6 " 4:48.3
1500m自由形	予選の記録を以て決勝順位 とした 18:49.1 (藤 島) 18:53.6 (森 田) 19:15.0 (渡 辺)	1位 17:29.8 (R.SAARI) 16才 2 " 17:32.2 (A.SOMERS) 3 " 17:44.7 (T.RALPHS) 16才 4 " 17:52.9 (M.WALL) 15才 5 " 17:55.7 (B.FARLEY) 16才 6 " 18:00.2 (山中)	
100m 背 泳	1:02.0 1:04.3 1:02.0 1:04.7 2秒台2名 1:04.9 1:03.2 1:04.9 1:03.3 4秒台4名 1:03.3 1:03.7 1:05.6(五十嵐) 3秒台4名 1:06.4(伊 藤)	1位 1:01.3 (B.BENNETT) 世新17才 2 " 1:01.7 (J.GRAEF) 3 " 1:01.9 (E.BARTREH) 4 " 1:02.3 (T.STOCK) 5 " 1:02.6 (T.MANN) 6 " 1:02.6 (R.GOETTSCHE)	1位 1:05.2 2 " 1:06.0 3 " 1:07.3 4 " 1:08.6 5 " 1:16.5
200m 背 泳	2:15.2 2:21.1 (伊 藤) 2:17.7 2:23.7 (五十嵐) 2:17.8 2:17.9 2:18.6 2:19.2 2分10秒台6名	1位 2:11.5 (T.STOCK) 世新 2 " 2:14.4 (J.GRAEF) 世新 3 " 2:16.4 (R.GOETTSCHE) 4 " 2:16.4 (E.BARTSCH) 5 " 2:18.0 (T.MANN) 6 " 2:18.6 (T.STICKLES) 7 " 2:21.3 (伊 藤)	1位 2:23.8 2 " 2:24.4 3 " 2:26.3 4 " 2:33.8 5 " 2:36.6 6 " 2:38.8
100m 平 泳	1:07.8 1:13.0 (石川) 1:09.6 1:13.1 (山南) 1:10.1 1:13.3 (松本) 1:11.4 1:13.5 1:12.0 1:13.7 1:12.3 1:13.8 1:12.3 1:13.9 6名 7名	1位 1:07.5 (C.JASTREMSKI) 世新 2 " 1:09.8 (P.HAIT) 世新 3 " 1:11.6 (K.NAKASONE) 4 " 1:12.0 (P.FOGARASY) 5 " 1:12.5 (石川) 6 " 1:12.7 (C.TREMEWAN) 6 " 1:12.7 (山南)	1位 1:14.3 2 " 1:14.5 3 " 1:15.9 4 " 1:16.9 5 " 1:17.0 6 " 1:17.5
200m 平 泳	2:34.6 2:39.0 (山南) 2:35.5 2:40.4 (石川) 2:36.4 2:41.6 2:36.8 2:41.7 2:37.5 2:37.9 2:38.5 (松本)	1位 2:29.6 (C.JASTREMSKI) 世新 2 " 2:34.5 (P.HAIT) 世新 3 " 2:35.6 (K.NAKASONE) 世新 4 " 2:36.0 (C.TREMEWAN) 世新 5 " 2:36.1 (P.FOGARASY) 世新 6 " 2:36.8 (松本) 日新 7 " 2:38.4 (山南)	1位 2:44.9 2 " 2:46.5 3 " 2:47.8 4 " 2:48.6 5 " 2:49.0 6 " 2:55.1

種 目	予 選 記 録	決 勝 記 録	番 外 レ ー ス (エイジ・グループ)
100m バ タ	59.4 1:2.0	1位 58.6 (F.SCHMIDT)	1位 1:2.2
	59.6 1:2.5	2 " 58.9 (I.NICOLAO)	2 " 1:2.2
	60.0 1.2.6	3 " 59.2 (L.SCHULHUF)	3 " 1:2.3
	60.1 1:2.8	4 " 59.4 (B.BENNETT)	4 " 1:2.9
	60.2 1:2.9	5 " 59.6 (D.MCDONOUGH)	5 " 1:4.4
	60.7	6 " 60.3 (M.MEALIFFE)	6 " 1:4.7
	6名 1:05.4 (杉本) 1:05.7 (金親)	7 " 60.0 (T.TASHNICK)	
200m バ タ	2:15.5 2:23.8 (杉本)	1位 2:12.6 (C.ROBIE) 走新	1位 2:22.1
	2:16.0 2:27.2 (金親)	2 " 2:14.5 (L.SCHULHUF)	2 " 2:23.2
	2:16.0	3 " 2:16.3 (F.SCHMIDT)	3 " 2:25.0
	2:16.2	4 " 2:16.5 (T.TASHNIK)	4 " 2:25.0
	2:16.3	5 " 2:16.9 (M.TROY)	5 " 2:25.3
	2:17.9	6 " 2:19.7 (I.SUVANTO)	6 " 2:27.2
	2:19.9	7 " 2:20.1 (B.FOSS)	
7名			

次にフレズノ市に於ける第16回ウォーキン・バレイ選手権大会に於けるエイジ・グループの主要記録を掲げてみよう。この大会は西部地区を中心とするもので全米的なものではない。

種目	性別	年 令	順位	男		女	
				記 録	記 録	記 録	記 録
55ヤード	自由形	10才 以下	1	32.0	32.8		
			2	32.0	33.2		
			3	32.0	35.1		
自由形	11才 }	12才	1	29.0	29.9		
			2	29.4	30.1		
			3	30.3	32.7		
			4	31.7	32.8		
110ヤード	自由形	13才 }	14才	1	59.3	1:08.8	
				2	1:01.5	1:09.2	
				3	1:02.0	1:09.4	
				4	1:02.1	1:09.6	
自由形	15才 }	16才	1	56.5	1:05.3		
			2	56.9	1:07.2		
			3	58.7	1:08.2		
			4	58.7	1:09.4		
			5	58.7 (岩崎)			
			6	60.0 (森田)			

220ヤード	自由形	SENIOR 17才以上	1	2:00.4	2:26.9	
			2	2:06.0	2:30.5	
			3	2:07.5	2:32.3	
			4	2:08.3	2:35.4	
			5	2:08.5	2:36.9	
			6	2:09.6		
55ヤード	背 泳	10才 以下	1	38.6	43.2	
			2	38.6	43.9	
			3	38.6	45.2	
			4	36.4		
110ヤード	背 泳	11才 }	12才	1	34.6	36.3
				2	35.0	36.7
				3	36.3	36.7
				4	36.4	
110ヤード	背 泳	13才 }	14才	1	1:08.2	1:17.6
				2	1:10.2	1:17.9
				3	1:11.3	1:19.0
				4	1:10.3	
SENIOR	自由形	15才 }	16才	1	1:06.2	1:17.4
				2	1:08.6	1:22.6
				3	1:09.8	1:24.6
				4	1:05.6	1:15.9
SENIOR	自由形	15才 }	16才	1	1:05.9	1:18.1
				2	1:06.1 (伊藤)	1:18.2
				3	1:06.1 (伊藤)	1:18.2
				4	1:04.8 (予)伊藤	

種目 性別	年 令	順位	界	
			記 録	女
55ヤード	10才 以下	1	41.9	43.0
		2	42.0	44.6
		3	44.2	45.2
平 泳	11才 } 12才	1	40.1	42.8
		2	41.0	42.8
		3	43.0	43.4
		4	43.3	43.4
110 ヤード	13才 } 14才	1	1:16.9	1:26.4
		2	1:18.0	1:26.7
		3	1:18.5	1:27.0 (田上)
平 泳	15才 } 16才	1	1:14.0 (石川)	1:28.7
		2	1:15.1 (山南)	1:29.1
		3	1:15.7	1:29.9
220 ヤード	SENIOR	1	2:34.1	3:03.2
		2	2:41.3 (山南)	3:03.5 (田上)
		3	2:41.4 (松本)	3:05.5
		4	2:50.2	3:08.1
55ヤード	10才 以下	1	35.4	36.3
		2	36.0	39.0
		3	36.8	40.1
		4	36.9	41.2
バタ フライ	11才 } 12才	1	31.9	32.1
		2	32.7	33.3
		3	33.0	35.7
		4	33.2	
110 ヤード	13才 } 14才	1	1:05.1	1:14.3
		2	1:06.0	1:16.9
		3	1:06.4	1:17.6
	15才 } 16才	1	1:02.8	1:16.2
		2	1:03.0	1:16.2
		3	1:03.6	1:17.4
バタ フライ	SENIOR	1	1:00.2	1:14.1
		2	1:01.7 (山中)	1:15.5
		3	1:04.3	1:16.4
		4	1:05.1	
		5	1:05.6 (杉本) 1:05.7 (金親)	
220 ヤード	11才 } 12才	1	2:45.4	2:46.4
		2	2:47.3	2:49.4 (予)
		3	2:48.2	2:52.6 (予)
	13才 }	1	2:29.5	2:45.5
		2	2:33.3	2:49.4 (予)

個人 メドレー	14才	3	2:37.4	2:56.6 (予)
	15才 } 16才	1	2:24.4	
		2	2:27.1	
440 ヤード 個人 メドレー	SENIOR	1	4:57.1 (世新) (T.STICK LES)	5:50.7
		2	5:23.9	6:01.2
		3	5:26.9	6:06.3
		4	5:28.2	
		5	5:33.1	
		6	5:35.3	
		7	5:44.8 (松本)	

以上の諸記録を見て感ずることの2, 3を列挙してみると、

- 1) 二つの大会を通じて、アメリカ選手の入賞記録は何れも高水準にあるということ。世界記録が100自由に1, 100背に1, 200背に2, 100平に2, 200平に5, 200バタに1, 200個人メドレーに2, 400個人メドレーに3, で計18にも達している。(山中とローズの200自由を除く。)
- 2) 優秀選手の層が極めて厚いこと。全米水上の予選記録の項を参照願えれば一目瞭然である。
- 3) 年少選手や新人選手の抬頭が著しいこと。今まで耳にしなかった無名の新人が活躍して、来年も再来年も更に次の新人の出現が推定される。
- 4) エイジ・グループ水上大会の内容が想像以上にすぐれていること。特に10才以下のグループや11才~14才の少年少女の高水準に驚く。
- 5) 一体にアメリカ選手は泳ぐ度に記録を上昇せしめているようだ。予選記録よりも決勝記録が常に優れている。そしてその試合が重大なものであればある程、それに並行していい記録を生んでいる。且つ最も感心させられることは、好記録を出すにしても何分の何秒というような小きざみな新記録でなく思い切り飛び上るような自己最高をマークしている。1500mのサーリーや200平泳のジャストレムスキーなどがその適例である。平素の鍛錬の程が思いやられるというものである。
- 6) 上記の記録の中には、黒人選手のものが唯の一つも入っていない。陸上競技や野球などであれだけ活躍している黒人であるのに、水泳に限ってどうしていい選手が生れないのかと不思議な気がするが、黒人の恵まれない練習時間とか、水泳履歴が浅いこととか、又は黒人には水泳に適しない身体的な何かがあるとか色々と言われてるようである。

× × ×

さて、アメリカは一体どのようにして強化を計り、それを推進して来たのであろうか。これを解明することが我々の渡米の重大使命の一つとも考えられるので、簡単にそのことに触れて置き度い。

第一は、アメリカ水泳界は、メルボルンの敗戦を転期として総力をあげての再建にのり出したと聞いた。それは恰も真珠湾の一撃でアメリカ国民が俄然、拳国一致体制を取ったように。このことはアメリカ水泳界発展の最大の基盤ともなるべきものと思われる。

第二に組織力の広さと深さをあげたい。その最も端的な例がエイジ・グループのしくみである。一步一步を前進する為の基礎を青少年に求めて激しく彼等を訓練する組織は我々の想像を絶するものがある。例えばロスアンゼルス市だけでも、所謂水泳学校と称するものが120余校もあって、情熱豊かなコーチと整備された設備が水泳クラブ員を待っている。この学校では、幼い頃から正しい泳法をみっちり叩き込まれる。長い距離を泳ぐのではなく基本となる各種の泳法を完全に教え込まれ、その後には於て激しいトレーニングに移る方式のようである。

第三は、アメリカの社会政策とか教育政策が、水泳を重要視して奨励しているということである。不良化防止の一環としての水泳奨励とも聞いたが、実際に水泳学校での練習は不良化防止などという生やさしいものではなくて、かなりすさまじい情景であると聞く。出発点はそのような社会政策にあったのであろうが彼等の練習風景は、むしろ戦時色に彩られていると言った方が適切のようだ。

第四として、コーチの権威の強いことをあげておきたい。年若いコーチも老練なコーチも、そして女性のコーチも一様に強い権威を持ち誇りと希望と自信に満ちている。そして完全に各々の選手を掌握している。不安な顔付をしたコーチの姿をただの一人も見発することが出来なかった。水泳にすべてを打込めるアメリカのコーチを羨らやむ前に、自分を省みて恥かしい思いがしきりであった。

第五は、選手の真面目さ、練習熱必、程よいプールマナーなどを指摘したい。コーチに対する選手は、上官に対する兵卒にも似て絶対服従に近い。それも盲従的でなく常に研究的であるから見ていて気持ちいい羨ましい。レースに臨んで彼等が頭髪を丸刈りにしたり丸剃りにしたりすることは、それがアメリカという国柄であるだけに我々はその真面目さと執念に驚かされた。

第六には、練習方法の問題である。インターバル方式に

は間違いないがその実態は我々の想像をはるかに超えるものである。トム・ウインターという青年は、ロス市では名の通った個人メドレーの選手であるが、彼の口から聞いたところによると、100mの30秒インターバル制限タイムが1分6秒×10本という強いもの。その直後に400のインターバル4本、続いて200のインターバルという有様で、一日に1万米を泳ぐということである。ホラ吹き青年でもなく至って真面目な彼のことだから信用していい話として聞いた。豊富な練習時間に恵まれていることに感心するよりも營々として努力に終始する彼等に感服する。

第七は、オフ・シーズンの鍛錬である。従来、日本選手に軽視され勝であった冬季の訓練にアメリカ選手は非常なウエイトを置いている。「似て非なる運動は効果なし」などという学説はアメリカでは通らないようだ。ジャストレムスキーの陸上トレーニングを聞いたが驚き入る他はない。腕、肩、腰、脚など、水泳に使わない筋肉の強化をも重視する合理的なもので、彼の早いピッチやラストスパートの強さの秘密は実にここに在るのではないかと思ひ程のものである。基礎体力の問題なのであるが、これが養成強化は決して短時日で出来上るものではあるまいから、オフ・シーズンには全力をこの強化に傾注すべきだと思う。

第八には、選手練成に当って一貫した指導理念を持ち、これをあらゆる場所で適用実施している。コーチの個人プレーよりも明快にして簡易実用的な泳法指導と練習指導の理論体系を確保し、常に之が先行している。勿論数多くのコーチは各自の方法と理念とを持ってはいるが、それ等の裏付けとなっているものは何れも科学的で基礎的な指導の原案である。諸流各派の分立対峙する時代は既に過ぎ去った。我々は、この意味でもアメリカに学ぶ点が多かったことは事実である。

× × ×

尚、全米水上戦やフレスノ大会を他の角度から眺めてみると、次のような諸点が日本のそれとは異なっていて興味もあり、参考となることもあるので附記して置きたい。

大会及レースに関して

- 1) 大会の雰囲気、日本のような悲壮感や重苦しさが感じられず明快且つのびのびとした空気に終始している。所属チーム毎に固い結束を保ちつつ各選手は勝つことに専念してはいるが沈うつな表情は見られない。
- 2) 選手のプール・マナーは立派である。特に勝利を掴むことへの強い執念は、真面目な形となって現われ堂々の陣を張っている。頭髪も五分刈りや丸剃りが多く脚毛も剃り落して斗志旺盛。選手で喫煙者はなく、平

素もコーヒーなどの刺戟物を避けている由である。

- 3) 総ての出場選手のレース展開振りは、申し合わせたように積極戦法で前半から激しくダッシュして行く。しかもラストスパートも十分である。余程の練習を積まない限り出来ないレース運びである。
- 4) 彼等は勝負に敗れても割合に淡々としている。口惜しがるのも一時的である。スタンドの応援にしても熱狂的ではあるが適當の限度を心得ている。
- 5) 大会運営は極めてスムーズである。日本のそれに劣らぬ位、正確に運営されるが、異なる点を記してみると、
 - (A) 開会式は大会第1日目のトップ行事として行わず毎日、午前中の予選レースが終り午後の決勝が開始される直前に変わった形で行われる。それは大会参加各国の国旗を捧げた女子選手をボート型の板の上に乗せ、その板を男子選手が静かにバタ足で押し進める内に国歌の吹奏、満場一斉に起立して胸間拳手の礼、50mの行進で式は終る。至って明朗軽快でショー的な要素をも含んでいる。いかにもアメリカらしく愉快だが、日本でこれを模倣する必要はあるまい。
 - (B) 快勝レース開始の直前に出場選手を一人宛観衆に紹介する。選手は手をあげて観衆の拍手に応える。
 - (C) 快勝レースでのラップタイムは素早く速報されるが、いよいよゴール近くなると第1位の選手のタイムの秒読みをする。観衆には親切なやり方である。

- (D) 出発合図員のテイク・ユア・マークの声がかかる時、選手は一斉にスタートの姿勢をとる。日本選手がユックリと構えて、きびしい注意を受けた。
- (E) 同時にゴールインして優劣の判定困難な場合は同着として発表する。
- (F) 快勝レースに7名残る場合、予選記録の第7番目の者が2名以上の時は、その者だけで再レースを行って快勝出場権を決定する。
- (G) 審判、監察が極めて厳しい。フレズノ大会で石川君がゴールタッチの時、日本式に水をハネ上げてオミットされた。
- (H) 場内整理が明確で、いわゆる顔での入場とか、役員席へ部外者を絶対に入れない。

——・——・——

我々のアメリカ遠征は僅々2週間に過ぎなかったが、ロス市での全米大会(8/18~8/20)、フレズノ大会、サンフランシスコ大会の前後9日間に亘る大会出場で得た刺戟と教訓は、日本では得ることの出来ない程の量と質であった。出場選手達も勿論ではあるが、それ以上に我々コーチ陣にとっては、何物にも代え難い貴重な体験であった。

今から何年間、プールサイドでの生活が続くかわからないが、私は今回の経験を生かして更に一段の努力を傾注する覚悟である。(筆者は佐伯鶴城高校水泳部長・大分県水泳連盟理事長)

(3) 滞 米 感 想

渡米高校選手団マネージャー 鈴木重幸

2週間の滞米中、全米水上選手権大会、サン・ウオキング・ヴァレー水上選手権大会(主としてエイジグループ)から受けた感じや印象を簡単に率直にのべると、日本で想像した以上に現在のアメリカ水泳界が質、量共に日本の水泳界より、はるかにすぐれているということである。

質においては全米水上選手権大会において、世界新記録が自由形、背泳、平泳、バタフライ、個人メドレーの各種目に続出したことと、加うるに選手の年齢がほとんど10代であることから容易に理解出来るであろうし、量の方でもサンウオキング・ヴァレー水上選手権大会に参加した多数のエイジ・グループの泳法の巧くみさと猛烈なる斗志とスタミナによる優秀なる記録がそれを説明している。

アメリカがメルボルン・オリンピックに惨敗してから僅か5年の間に、何故に、こんなに強くなったかの理由は、多々あると思うが、僅か2週間の滞在ではあったが実際にこの事に関して感したことは左の通りである。

アメリカは流石に大国である。物量の豊富さは驚嘆に値するが、それは決して物だけには止っていない。

精神的面においても素晴らしいということはこの目で確めたのである。この巨大なアメリカが、一寸水泳の方に力を入れただけで、こんなに強くなったのだから、心底から水泳に本腰を入れるようになれば、一層強大となると感じた。

何故にどのように考えたかという点、私が見るところでは、政府は左程力を入れていないように感じられるし、又新聞を開いても、日本のように、仰々しく取り扱

っていないのが、むしろ気になる位である。勿論アメリカが水泳に強くなった大きな理由の一つは、青少年不良化防止の社会政策と水泳がマッチしたことが、急速にこの種の学校が、増加し今でも、その学校が増えつつあるということは事実である。

けれどもこの水泳学校は、ほとんどが、民間経営の学校であることは注目に値する。アメリカの水泳に関心を持つ家庭は、大体授業料25ドルから30ドル位払ってこの学校で水泳を子弟に習はせているということは、それだけ生活にゆとりがあるということも理由の一つになるし、更にレースから受ける感しは、その予選記録と決勝記録を比較してみれば、その大部分の決勝記録が、はるかに予選記録より優秀であることと、又驚いた事には、全米水上選手権大会において、丸坊主頭（中にはそっている）の選手が27名もあって、これ等がレースでは猛烈に頑張ったことから、その斗志がどんなに熾烈であるかがわかるであろう。

午後における入場式に、アメリカ国歌が吹奏されると、人種のルツボといわれるアメリカ人が一斉に水を打ったように静かになり、敬虔な態度であったことには感心させられた。

アメリカは精神的に一つに統一されていると感じた。私としては、吾々が知っていたアメリカは丁度南極に浮かんでいる氷山の海上に出た部分だけを知っていたのみで、海面下にある氷の巨大な塊りを忘れていたのではないかと思う。

現在のアメリカ人の心の奥底にひそむものは、やはり開拓精神と常に世界 No.1 を求めて止まない斗志であって、これが愛国心とつながった時には、誠に思うだに空恐ろしい巨大な力となって現われ出るのであると信じている。

次にアメリカが、今迄のべたようなものを基礎にして実際に強くなった理由を具体的に箇条書にならべると、エイジ・グループの質と量、4才位から各私営の水泳学校（ロスアンゼルスだけで100以上あるといわれる）において練習を初める。

父兄も同行していく熱心さである。その練習たるや、統制がとれて厳格である。

生徒は練習中は先生に対して絶体服従である。

最初からフォームにウエイトをおく。4種目をしっかりやらせる。従って皆個人メドレーをやる。だから1種目だけやっておいては、具合の悪い者でも、他の種目では成功する場合が多々あるということである。知らず知らずのうちに、水泳サーキット・トレーニングをやっている訳である。

もう一つ、つけ加えて置きたいのは、エイジ・グループのうち、200m（220ヤード）上はやらせないのではないかと思う。

何故なれば、このことについてアメリカの某コーチに聞いたところによると、長いのは子供が嫌気を起すからいけない。フォームが崩れないように、相当のスピードを出して何回も繰り返してやった方が、よろしいと云ったことを記憶している。（大体これは14才頃までではないかと考える。）又アメリカのあるコーチが、吾々は強い選手を作るのに50m（55ヤード）のプールでなくても小さいプールで造くれるといったことを、川田氏から聞いているが、私のみた、又聞いた水泳学校のプールは25ヤードプールが、ほとんどそのすべてであった。

従って、短いプールを充分に活用し、ゆっくり泳ぐことなく、平生から相当なスピードで泳ぐように訓練されている訳である。

コーチの生活が安定していること。

この点に関しては、水泳学校のコーチ、クラブのコーチ、大学のコーチは勿論、それぞれ水泳に専心出来るように裏付がしてあることで、その1例としてフレズノ市においてクラブのコーチが年収9千何百ドルとっていること云ったことを附言しておく。

家庭学校の水泳に対する関心（考え）

不良にならない方法として、水泳を習得させるのであって、最初から水泳選手に仕立ようというような考えで水泳学校に行かせる父兄はほとんどないように感じられた。

水泳が生活の全部でなくて、子弟を教育して行く過程の一部として考えられておる。

どんなに水泳が速くても、学校の成績が悪いと学校からストップさせるとのことである。

聞いたところによると、水泳学校で強くなるとクラブに、クラブから水泳のある大学へと進んで行くのだそうだが、実に合理的であると思った。

その他強い選手の年令別、スタート・ターニング、泳法等に関することは、紙面の都合上止むを得ず割愛するが、アメリカの水泳は、そのもてる巨大な力を未だ充分に出し切っておらず、東京オリンピックが近くなるにつれて、愈々その真価を発揮し、来年は、本年よりもアメリカの水泳界は一層飛躍する丈の潜在勢力をもっていることをのべて、お互に尚一層の研究と努力の必要なることを強調して、残念乍ら擱筆致します。

（注）記録は重複するので省略致しました。一編集一

（筆者は中京商業高等学校水泳部長）

(4) アメリカに遠征して

渡米中学チーム監督 三枝美貴子

渡米中学チーム日程

- 8月19日 午前9時羽田発
- 8月19日 午後3時ロスアンゼルス着
コロシウムホテル宿泊
- 8月20日 午後3時～4時練習
- 8月21日 午前8時～9時半練習
午後デズニールランド見学
6時より領事主催パーティ出席
- 8月22日 午前8時半、フレズノへ出発
午前10時、競技場着
SAN JOAQUIN VALLY 大会に出場、宿舎田島、金田家に分宿
- 8月23日 午前9時競技開始
- 8月24日 午前9時 “ ” , 終了後直にサンフランシスコ向け出発
宿舎Y M C A ホテル
- 8月25日 FAR WESTERN A.A.U. 大会に出場
- 8月26日 上 同
- 8月27日 上 同
- 8月28日 市街見物、正午A A U招待パーティ出席、
午後6時領事主催パーティ出席
- 8月29日 午前10時40分、サンフランシスコ発
- 8月30日 午後9時羽田着

中学選手の渡米が許可され、突然本当に思いもよらぬことをおおせつかり、途惑うばかりでしたが、多くの方々の勇気づけをいただき非力を顧みずお助けした次第です。“元気でいっていらっしやい、病気丈はしないように、見聞を広めていらっしやい”と異口同聲の温いお言葉にもかかわらず選手一同、初の空の旅、外国での試合、生活などの不安、あこがれ、その他準備などのために10日間の合宿生活もアツク云う間に過ぎ、落ち着かぬままに機上の人となる。途中飛行機の故障にあい一度羽田にひきかえすスリルなども味い、思わぬ長時間の飛行にほとんどが酔ってしまう。ロスアンゼルスに無事着いたものの大変疲れ顔色もない体であった。

川田、和田氏などに迎えていただき空港より車で30分程のホテルに入る。プール迄5分位、一寸神宮外苑を思わせる環境で選手も“これで日本語なら少しも外国に居るような気がしない”という程心の安らぎを覚える。しかし、ここにおける2日間は、試合見学、パーティ出席、名所見学、練習、と盛りたくさんなスケジュール、

車から車の乗つぎに飛行機の疲れが重り、不馴れな食生活も影響して元気がない。殊に女子は体力的に弱いのか車に酔うので、窓際に席がとりたくお互に争う始末である。見学も取り止め休養させる事にした。22日朝再び飛行機にてフレズノに飛ぶ。空港につくと同時に待ちうけていた車が、“平泳の選手は試合をせずに待っていますから、すぐに乗って下さい”と何が何やら解らぬままに乗車、後から追いかけた私共の車が競技場に着いた時は、田上選手の緊張しきった顔がスタート台側に見える。プログラムを受取る間も、もどかしく飛んで行き一言“おちついて、まだ予選よ……”。が外国でのそれも初の試合に臨むにあたって、日本の競技会に出る程の準備も出来なかった不安に動揺している私自身を発見、とにかくプログラムを一瞥、220ヤード平泳予選(シニヤー)2組第6コースを確認する。1組の結果最高が8秒これならとホット一息スタンドに着く。

いよいよスタート、シット見つめる中を浮き出しで頭一つ先づリード、一かき、二かき、着実にぐんぐんぬいて行く、ピッチも正常である。が泳ぎが非常に固い。力が入りすぎているようだ。110ヤードを1:28.1で折返す、相当あがっているのだ。無理もない。はじめての出場でその上、陸におりてから30分もたっていない。しかしよく頑張張り通した。2位以下を大きく離し3:06.7で予選通過する。

続いて110ヤードバタフライ予選(13~14才)1組5コース川上選手出場、出足からピッチをあげてよく頑張るが矢張り水に乗っていない、隣のWilhelmの掻手がきいた泳ぎに55ヤードで1.5m程の差がつくが、2着でゴールイン、1:20.2で予選通過する。

本日最後の予選種目220ヤード自由形(シニヤー)3組3コースに早川選手が出場。発表になっている1、2組の結果は35秒台、油断がならぬレースである。

平常の態度からもセーブするなど考えられぬが最初からものすごいピッチである。風車のように腕を廻しシリシリとせめあげる人一倍小さな身体、無我無中で泳ぎきった。110ヤードの折返しでは1位と3秒の差、ゴールインでは0.9秒の差で2:33.5と2位を得、観衆よりわかるような拍手をおくられる。午後2時より決勝に入る。

女子220ヤード平泳決勝(シニヤー)

5コース田上選手は最初から4コースのRennieをマ

記 録

	着順	氏 名	予選記録	決勝記録
女子 220 平泳	1着	C. Rennie	3:05.4	3:03.2
	2 "	田 上 和 子	3:06.7	3:03.5
	3 "	P. Rodato	3:09.4	3:05.5
女子 110 バタ	1着	C. Grand	1:18.0	1:14.3
	2 "	J. Ferris	1:17.1	1:16.9
	3 "	P. Hagood	1:17.2	1:17.4
女子 220 自由	1着	J. Spaulding	2:30.1	2:26.9
	2 "	D. McKinnon	2:32.4	2:30.5
	3 "	早 川 一 枝	2:33.5	2:32.3

ーク。観衆の注視を集め重苦しい中にスタートする、予選よりずっとよい泳ぎ。110を 1:26.7のタッチ差で折返す。ピッチ泳法で力強く泳ぐ田上と身体は大きくないが筋肉質の体力にものをいわせこれもよく頑張る Rennie は最後迄大接戦を展開、両者25m当りからラストパート遂に力およはず優勝を逸す。

女子110ヤードバタフライ決勝(13~14才)

午前中より水に乗った軽快な泳ぎである。最初からよくとばし25m位迄首位と頭を並べていたがアメリカ選手のように腕が強くない日本選手は、実力の差大きく残念だが 1:19.1 で5位に入賞となる。

女子220ヤード自由形決勝(シニヤー)

4コース Spaulding を中心に3コース早川、スタート台につくと予選の奮闘とあまりの小ささにあちらこちらから驚嘆のささやきがもれる。さすが決勝グループは、筋肉質の本当にスポーツマンの身体をもっている。泳ぎも一見レグレスの様に見えるが、脚に弾力がありこれをフルに活用している。早川選手よく頑張る、自分の得意でない種目に3位入賞を得た。目まぐるしい中に、第1日目の試合は無事終了。初舞台ではあり、条件も揃わなかったのに皆大変よく頑張った。記録的には充分と云えないがその闘志は、中学生らしく若さがあふれて選抜選手としても大変立派であったと思う。ただ出場種目のなかった選手達はどうかであったらうか。

ここフレスノは大変暑い東京と同程度であるが湿気が少いので太陽が非常に強く感じられるし眩い。この子供達が鼻の頭丈赤く皮がむけているのもうなずける。特別に控室などなく、青々とした芝生に夫々クラブのテントを張って休んでいる。私達もその一部を拝借した、昼食は二世の方々の御骨折で何時も日本弁当皆よるこんでいただく。

23日、当日の出場は女子110ヤード平泳予選並びに決勝(13~14才)のみであった。

昨日の決勝で惜敗した田上選手は、予選から“今日こそ”と闘志満々8コースを飛び出す。4コース Rodato は脚の長い選手でスタミナのある泳ぎ、昨日の結果は田上選手に続き3着である。又も接戦を演ずるが実力を出しきれず2位、矢張泳ぎが固い。今日はアップも充分にしてあるが、あがっているのか、昨日、今日と3回タッチの差で敗れている。自重し休養に専心する様促す。

“決勝”予選の結果5コース田上、4コース Rodato と並ぶ、共に牽制しあったか、スタートからほとんど一線、折返しも変わらずはげしいせりあいのまま残すは15ヤードとなる。とたん今まで遅れていた3コース Ferris がススット出た。虚をつかれ慌てて共にスパートするがすでに遅く、Ferris の勝利に終り田上選手は3位となる。

記 録

	着順	氏 名	予選記録	決勝記録
女子 110 平泳	1着	J. Ferris	1:28.1	1:26.4
	2 "	P. Rodato	1:27.1	1:26.7
	3 "	田 上 和 子	1:28.0	1:27.0

24日、女子110ヤード自由形予選(13~14才)に早川選手、男子110ヤード自由形予選(15~16才)に菅野、木田選手の2名が出場、男子は初の出場である前2日間は出場出来る種目がない、アメリカの子供達はなんでも泳げ“なんの選手か”の質問に必ず2種目以上をあげる。それでも木田選手は第1日目に220ヤード個人メドレーに出場して見る。勿論経験をした、ということで終わった。この日の短距離は男女共落選する。自分の得意種目でないという事もあるが、実力の差が大きく証明される。男子は記録は1位が56.5、8位が1:01.7である。菅野 1:04.6、木田 1:06.3 であった。

女子の早川選手は予選で5コースの White と同タイムで 1:12.1、30分後に2人丈で再レースを行い決勝出場資格を争うことになる。再レースの2人は実に素晴しくたたかった。折返しは34秒、0.8の差得意の後半よく水に乗り同時にタッチして、1:10.2の好タイムである、判定の結果落選となったが十分に戦いぬいた快感に本人も大変満足しこれで先生にお土産が出来たと大よるこびである。決勝記録は1位 1:08.8、2位 09.2、3位 09.6 であった。

以上で3日間の試合が終了ホットする隙もなくプールより飛行場に直行、お世話になった二世の方々に厚く感謝しサンフランシスコに出發する。

ここサンフランシスコは風が冷く大変寒い。たった1時間程の飛行でこんなに気候が変わるものであろうか。翌朝試合前に衣類を買いに行く。街行く人々はコートや衿巻までしてこんなで競技会をもつ事に驚く。プールに着いて見ると話し通り400mもある長い海水プールである。スタート側から50mの所にターンニング台がつけられ、海からの強風に揺れているようだ。水も辛く馴れない者には眼に大変しみるよう。一同すっかり吃驚“こんなでは泳げない”の連発である。与えられたいかなる条件のもとにおいても競技を行うのがスポーツマンであることを理解させる。

ここでもレースは年令別に行われたが長距離は矢張17才以上でないとなき、結局木田選手は大人の部に出場、気の毒なことになってしまう。競技会の運営も“西部選手権”というにフズノより大変悪く時間の関係で準決や決勝があったり、なかったり、その日その日の進行具合できめるなど選手達も大いにまごつきファイトをなくす結果ともなったようだ。記録もフズノより悪いが3日間の競技日程も無事に終了ホットする。

アメリカの強さ、それも底辺の広い確実な強さを充分に知らされた6日間であった。日本にない事をあげて見ると、

1. 年令別競技が非常に盛んである。10才以下、11~12才、13~14才、15~16才、シニヤールの部(17才以上)に別れている。
2. 個人メドレーが11才~12才のグループからある。そして予選が何組も行われている。
3. 男女共200m以上の自由形はシニヤールグループ丈である。
4. どの種目も13~14才が一番強く年令が多くなる程記録が悪い(殊に女子)。
5. 強い選手の体格がそんなに大きくはないが筋肉質である以上に弾力がある。
6. 組織によると思うが両親が非常に熱心である。

生活面からは

生活の区別がしっかりと自分で出来る。遊ぶ時には非常にはでに振舞うが何時迄もズルズルした気分でない。又指導者の云うことは絶対である。街でこんなこともあった。サンフランシスコ最後の日選手をつれて有名なケーキ店に入った。それぞれに注文、飲物とは聞かれ、皆の希望を入れ、はじめてコーヒを飲むがコーヒが運ばれて来ると周囲のアメリカの子供達がこちらを一斉に注視している様、何か不作法な事でもと気にして見るか解らない。そこで連れの方に聞いて見た処“こちらではコーヒは大人のもので子供は絶対に飲みません。コココーラも家庭によっては与えません。それで見ているのでしょうか”との事、なる程生活の区別はこんな処から出来ているとつくづく感じさせられた。

中学生の渡米は、勝つという事より、外国にあっていかに実力が発揮出来るかという事であったと思う。

その点一番惜しい事は、生活の区別がつかない事であったと思う。見聞を広める事は結構であるが、アメリカの選手達と遊びすぎて、試合に全能力をあげる事に欠けはしなかつたろうか、日本の競技会におけると同様、自分のペースを守るに一生懸命になれたであろうか。

もう一つは体力が弱い事である。なんでも、多く食べられるということ。これは強い選手になる絶対条件である。それから馴れもあると思うが車や飛行機に酔わないようになる事など、不断は何でもないような事が重要になって来るのである。

“速いという事は”技術面丈でなくあらゆる精神的要素が土台となったものでなければ、遠征などには勝てるものでないことをつくづく思う。

その点私も今まで選手に対してずいぶん甘やかしていたように思う。アメリカ選手の厳しい生活は大変よい教えである。選手達もそれぞれに何かを吸収したであろうが、楽しかった思い出と共に前進への糧となることを祈りながら筆を置きます。

(5) 滞 米 日 記

—シンクロ・チーム及び高校、中学生チームに同行して—

川 田 友 之

7月3日(月) 水連や家族の方々に見送られて羽田空港9時発のジェット機に乗込む。出発前の繁雑から解放されてこれで本当にアメリカに行くんだとホットした

ら10時半中食、超高空飛行なので下界は全然見えず退屈しているうちに、14時半夕食、この辺りで急に夜になる。16時半のホノルル着は規地では7月2日の21時半、

夜景がとても綺麗なと南国のムットする熱気で、急に異国に来たことを体感する。ドギツイ色のムウムウと匂いの強い香料に連中は目をパチクリ。予期していたハワイ水連の人達には逢えず高石会長の意向は手紙か帰りに伝えることにし、18時日本航空の夜食の後、18時半現地の23時出発。

7月3日(月)二度目の7月3日7時15分日本時間の23時15分スモッグに包まれたロスアンゼルス着、2日前に日本から帰られた和田氏と共に乗継いでサンフランシスコに向う。9時半日本時間では夜半の1時半賑やかな出迎えてサンフランシスコに着き、シンクロのメッカ、オークランドの郊外 Dr Deissler 家のプール付の別荘に入る。

睡眠不足の選手達を寝かせて、和田さんと共にサンフランシスコのオリンピッククラブでのAAU太平洋協会の午餐会に出る。会長 Rae, Sehorn, Olsen, Dempsy, 会計 Sandel, Luick, 協議事項 8月25, 26, 27日の西部選手権大会、その直後の加州祭えの中学生選手の参加、並に高校選手の入入れ準備。実力者の Sehorn が帰りに各地で皆がお前の来るのを楽しみにしているから、出来る丈多くの人達と会い率直な意見を交はす様にと云った。御多忙な和田さんは直ぐにロスアンゼルスに帰られた。

7月4日(火)アメリカの独立祭。選手には出来るだけ睡眠をとらせ時差に依る変調の回復を計る。11時シンクロ王国のアゼンスクラブ見学、25ヤード×10ヤードの小さなプールを飛込、シンクロ、エイジグループの競泳と三つに分けて練習している。亡命ハンガリー人 Zadar コーチが50人近い子供達にエラク気合いを入れて4000ヤードに及ぶ猛練習をしていた。そしてたくさんの親達が子供がシボられるのを満足そうに見ているのには驚いた。12時半から サンフランシスコの Balboa Park プールで1時間練習し2時からの独立祭記念水泳大会には飯田のソロとマリオンツツクラブのチームがエキシビジョンとして出た。5尺6寸(1.7m)16貫(60kg)級の娘さん達が闘牛士姿でカルメンの曲に合せたポリュームとスピーディな演技に皆どぎもを抜かれる。“モウ日本え帰ろうよ”の声あり、夜は Georgian 親子に招かれて豪華な夕食を見ながら独立祭の花火見物。

7月5日(水)まだ3日しか経たないがもう1週間もいるような気がする。アメリカに来たと云う甘い考えか見物招待には仲々元気がなくせに、疲れがとれないと云って練習に身が入らない。一発ヤキを入れる。10時から正午まで4年前に米チームの監督で来た Miss Dineen の指導で同家のプールでコッチリとスタントをしぼる。午後6時から Oakland 高校のプールで練習後 Olsen 家の

夕食に招ばれる。暴食気味。明日から Olsen 家に移る。

7月6日(木)早朝から Miss Dineen の指導で日本製スタントを直す。元気も恢復し、仲々好調。11時荷物をまとめて引越し、スロモー飯田。オークランド市長の中食招待。貸切機で午後4時500軒南の Santa Clara のエキシビジョンえ、飛行2時間、市長の夕食会后8時から開会シンクロとダイビング、コミック等で9時半終演観衆800人位約半分は日本人、12時サンフランシスコ空港着就寝2時。

7月7日(金) Balboa Park プールの中食休みを利用して練習さして貰う為11時に出発する筈だったが、昨夜の疲れか島崎以外は時間オンチ。12時半から1時間 Marian Kane の好意で昨夜失敗した佐藤、島崎組のデュエットとチームの練習をする。日本人町に寄り久し振りに箸をもってめし、“あの顔であんなに喰うかやシンクロ嬢”体中皆胃袋かと疑いたい程。午後6時から Oakland 高校のプールで Dineen にエントリー用のルーティンシートを全部チェックして貰う。Mr. Olsen の誕生日なので、日本人町で仕入れて材料でスキ焼、12時迄 Olsen 夫妻 Dineen 嬢とシンクロ談議。

7月8日(土)7時半 Santa Rosa え出発。絵の様なハイウエイ快走180軒2時間たらず。50人余りのシンクロ講習会、マリオンツツクラブの連中がスタントの模範演技、それにまじって佐藤、島崎組のデュエットと、飯田、鈴木のソロ2つをやる。割合に上出来で大分場馴れがして来てこの分なら心配なし。午後湖畔のピクニック即ち又しても食傷気味の“Hambarger”に閉口、6時帰宅。選手達の家から便りの藪いのをしかって来ているので夜は皆手紙書き、最後は3時になったと云う。外国旅行者からの便りは嬉しいものだが、選手達にもこれを要求するのは考えものだ。

7月9日(日)9時朝食11時練習の予定が10時半漸く朝食と云うだらしなさ。一発カツを入れる。11時から前米シンクロ委員長 Olsen 夫人の“Slave Clinick”所謂ヤキ入れ用奴隷練習でスタントを絞る、中食抜きで3時迄、側で見ている者も水の中も全くの油汗で終わったら皆へたへた。漸く目が覚めて今夜から10時消灯を厳守する由。夕方から Georgian 家に招かれ日本に来たアゼンスクラブの先輩達と又々“Hambarger”を会食。

7月10日(月)朝6時から2時間 Olsen 夫人のスタント指導は昨日以上にコッチリ、日本流と米国流の違いに苦勞しているので自信を失なわない様にスタント改造はこの程度に止める方針、12時半160軒南の Santa Barbaraへ出発、暑い山の中、エキシビジョンの始まる8時迄の時間を Dineen に全部のルーティンをチェックして貰い、全米大会えの仕上げにはげむ。日本にいた時から

見ると随分うまくなった。シヨウには全種目をやる。観衆800人半分は日本人。ドサ廻りもこれで最後。終って例のパービキューだが日本人世話役が多く盛会だった。11時発1時帰宅、車中皆コクリコクリ。

7月11日(火)昨夜同行したアゼンスクラブが朝いつもの通り練習すると云うので、Olsen 夫人が最後の仕上げをやろうと張切った。かわいそおだが心を鬼にして頑張らせる。多くの人達としげく接したお蔭でロスアンゼルス及ソルトレーキ中心のエキシビジョンを省略出来2000軒の自動車旅行をやめて、明日ジエット機でクリーブランドに直行出来ることになった。午前中に大略の荷造りをして午睡させた。午後サンフランシスコへ始めて買物に行く。喜々として各々勝手な店へ飛込む。二つの目玉で4人の女の子を見守る事の難しさよ。マリオネツクラブの夕食とアイスショウの招待、明朝早いので早く中座しようといふら面白さにつられ結局帰宅12時。Olsen 夫妻からこれからの色々な事に就いて親切な注意をうけて2時就寝。

7月12日(水)8時半サンフランシスコ空港出発迄は昨夜遅かったのと例の時間オンチと荷造り忘れもので気のみ通しだった。天下に知れた女の国丈に心は烈火の如くであっても顔はほほえみをたたえて女子を奉まつらなければならないアメリカの馬鹿々々しさと、何んでこんな役目を引受けたかと己の愚かさを嘆じた。シカゴ經由クリーブランドへの飛行は快適だった。午後2時三世の本田姉妹に空港迄出迎えをうけ、郊外の物静かな町ベレアの Bennett 家に選手4人、Millward 家に私がお世話になった。主催者の Dr. Lechner から早速懇談の為各地の水泳関係者からは是非自分の家へ来て一泊出来る様予定して呉れと依頼が来ている旨電話して来た。選手と一緒にならとも角、私1人だけとは無理なはなし。

7月13日(木)このベレアは本当に閑静な町で映画に出て来る故郷の町そっくりだ。その故か好人物が多くセッカチな吾々から見ると幾分間の抜けたところも多い。ジュニア選手権を催しながら練習プールのことを全然考えていないので、本田嬢がコーチしている高校のプールを朝早くと夜9時以後使わして貰う。選手の泊っている Bennett 夫人が夜遅くまで女の子達がさわいでいて寝ないことばす。

7月14日(金)選手のスタント練習を本田嬢に頼み、230軒のコロンバスに行く、道々数箇所の水泳学校を見学、午後から競技を行うプールが使えたが公開しているので子供が一杯。ラジオ、テレビのインタビューの後又高校プールで深夜練習をする。

7月15日(土)朝7時半からの練習割当も又例の時間オンチと夜ふかし雑談には元気だが練習と云うとすぐ頭

痛がする悪癖で競技第1日の滑出し不良、10時からオープンカーのパレード、町の中心街を各選手試合用の衣裳でオープンカーに分乗し楽隊と共に行進。日本は先頭。午後1時からスタント競技、朝寝坊して練習時間に間にあわず水に入らなかったのが気になりアガっているのに和らげるのに苦心する。20番目の島崎は中程度の出来だが演技を間違え1½点が出る16.470点40位。これが皆に伝染してコチコチ。32番目飯田はアメリカ流に攻めた筈なのに自信がないのか又日本流の悪癖丸出しで自分が考えていた程点をとれずガッカリ20.195点26位。35番目の佐藤は普通の出来、演技にはいる前のモタツキと日本流と体が小さいのでこれも予想以下18.320点31位。50番目の鈴木はキップの不出来の他はうまくこなしたが、19.675点で27位。ガッカリした4人を連れてスパゲッティ屋で夕食、初めて50人以上の競技会に出た事と、物々しい競技会雰囲気や物馴れのしないジャッジ方法では無理ないよと元気づけて女子宿舎へ送る。

7月16日(日)昨夜早く寝るように云ったが、又々手紙書きで12時過になった故か、8時半の練習時間割当に遅れて来た。レコード係をうまくやって飯田、鈴木組を3回、佐藤、島崎組を2回練習した後で、なんの目的で此処迄来たのかと一発カマす。選手と別れて宿舎に帰りガッカリして寝る。午後2時デユエット競技開始両組とも割合に落ついて出来は悪くはないが、日本流スタントが禍してもう一息というところ、佐藤、島崎組完遂度5.5, 4.5, 4, 4.5, 5.5, 美しさ6.5, 4.5, 5.5, 5.5, 6で59.045点17位。飯田、鈴木組完遂度5, 5.5, 5, 5.5, 7, 美しさ6, 6.5, 6.5, 6, 8で66.135点12位。然し決勝出場の最下位は76.20点なのでもう10点ばかり不足、早くアメリカ流をこなさないと全米大会でも又々これを繰返しては大変だと注意。夜の決勝を見ず先方の都合で2台の車に分乗して夜道450軒を飛ばして夜半ナイアガラに着く。豪雨の為1台は遅れて朝3時過ぎに到着。交通事故ではないかと心配でマンチリともしなかった。

7月17日(月)10時 Hendricks 氏の電話で起きられ急いで朝食後ホテルのプールで練習、婦人クラブの午餐に招かれ、ナイアガラ市長から名誉鍵を貰う、午後瀑布見学、夜ヒューストン組と日本組のエキシビジョンをやる。

7月18日(火)朝9時半愈々最終目的地ニュージャーシーに向う、前から気になっていたが、女の子達の荷物が多いので1台の車に積切れるかと心配していたら、Hendrick 氏荷物用トレーラーを借りてきて解決、全行程800軒、国立公園の様に美しい山野の景色と美しい程完備したハイウエーを時速130軒で飛ばし、夕方宿舎の

Harms 宅に着く。庭前のプールは各地から来た人達でパーティの最中、良く来たなあと皆喜んで呉れる。日本から1万2千軒距離も相当だが良くシンクロを出して呉れたものと感激した。私は Harms 家の二階の一室、選手達は4台はいる大きなコンクリートのガレージの二階にお客様用に造られた30畳程の部屋、風呂、台所、電気冷蔵庫、テレビ付に落つく。夕食後有名な Mckeller に見て貰ってスタントを練習、選手一同に臨戦態勢を宣言し、好成績を挙げる為全力を尽すことを皆で約束する。夜半過ぎ迄各地から到着する人を迎えてパーティは賑かだった。

7月19日(水)朝食前庭先のプールで練習、冷たくてかわいそおだったが、昨夜の臨戦態勢宣言がきいたらしい。9時半、10軒程離れている競技会場の Brookside Swim Club に行く。ユダヤ人の経営する水泳場で設備は悪くないが、ユダヤ人だらけで気分は良くない。日本では想像もつかない程はげしい練習時間の取合いで、きめられた時間が来ると演奏中の他人のレコードを勝手にはずして自分達のをドンドン始める程で、特売品売場のうばい合いよりもっと物凄い様態に驚いた。漸く午前中ソロ各組1回づつ、午後デュエット各組2回づつの割込みに成功。午後怪しげな日本人モデルを連れて来て変な男が選手と一緒に写真をとらせると云う。危険なので Cushman 委員長の責任でOKする。この大会のスポンサーでありクラブの経営者の Mitsky と云う人物はユダヤ人中でも相当な人物で初対面から諸事ユダヤ的、ニューヨーク中の日本人全部を見物に来る様にしろと云う。夜は大会出場者及役員全部の夕食会があり、その後で競技順序の予選が行はれ、スタント飯田9、島崎16、鈴木57、佐藤70、ソロ佐藤5、飯田8、島崎15、鈴木19、デュエット飯田、鈴木組9、佐藤、島崎組21、チーム4の順序が決った。全参加人員114名。

7月20日(木)9番目と16番目の飯田、島崎を先づ会場に連れて行き、午後になる佐藤と、鈴木と入れ換えるつもりだった。飯田はベレアの失敗に張切り過ぎて馬鹿に上り規定種目の最初のカタリナリバースで失敗3、2、1½、2、3、2½、4と出た点にガッカリ、後の2種目を終えて撰択種目に移る前にションボリして“日本へ帰れなくなっちゃった”と泣顔、全く元気のつけ様もなかった程。ところが天祐と云うか11番目にかかる頃から突然物凄い豪雨が襲来して午頃迄沛然と続き競技は中止。午後規定と撰択の二個所に分けて全部をやり直すことになったので本当にホットし、こわばっていた飯田の顔も漸く和らいだ。宿舎に残した2人を連れて行く様子を見知らずに気をもんでた為これも泣顔。

(9) 飯田 紀子 24.620 54位

リーバス カタリナ
4.5 5 3 4.5 4.5 4.5 4
ドルフィン フットファースト
4.5 4.5 4.5 4 4.5 4 4.5
マーラン 4 4.5 4 5 4.5 5 4
フラメンゴ ¾ツイスト
4 6 5 6.5 6 6 5
バラクダ バックパイク
4 4 5 4 4 4 3.5
エレベーター
4 5 5 5.5 5 6.5 4.5

(16) 島崎 鈴子 23.335 59位

カタリナ リバース
4 4 4.5 4 4 4 3
ドルフィン フットファースト
4 5 4 5 5 3.5 4
マーラン 3 5.5 3.5 5 4 4 5.5
カタリナ ¾ツイスト
5 5.5 5.5 4.5 5.5 5 5
バラクダ バックパイク
5.5 4.5 5 5 5 4.5 5
ドルフィン ½ツイスト
5 4.5 4.5 3 4.5 4.5 4

(57) 鈴木佐智子 25.460 47位

リバース カタリナ
4.5 4.5 4 4 4 4 4.5
ドルフィン フットファースト
4.5 5 4 5 4.5 5 3.5
マーラン 5 4.5 4 4.5 4.5 5 3.5
カタリナ 5.5 5.5 5.5 6 5.5 6 5.5
バラクダ バックパイク
5.5 5 5.5 5 5 5 5
クレーン 5.5 4.5 5 5.5 5.5 5 6

(70) 佐藤せつ子 23.220 60位

カタリナ リバース
5.5 5.5 5.5 4 4.5 4.5 4.5
ドルフィン フットファースト
5 4 4.5 5 4 4.5 4
マーラン 3.5 3 3.5 3 4 2.5 3
フラミンゴ
5.5 4 4.5 4 5 4.5 4.5
バラクダ バックパイク
4.5 4.5 5 6.5 5.5 4.5 5.5
エレベーター
4.5 4.5 4 4 4.5 4 4

1位パプシー・ジョージアン 43.970点, 2位パーバ

ラ・パーク41.520点, 3位ルエラ・ソマース40.355点, 4位マーガレット・ドゥブrow41.520点, 5位ソアー・ジャック35.595点, で1位かオークランド, 2位5位がロスアンゼルス, 3位4位サンフランシスコで太平洋岸の選手が圧倒的に優位をしめている。日本選手の得点はベレアと比較して0.8点位上廻っており, 全米大会とベレアでは1点位からいと謂はれるので約2点近く進歩したことは事実。どのジャッジも熱心にやっているが, この種採点法の競技にあり勝ちな選手の所属するクラブ名や有力指導者名にとらわれて感情的である点是否定出来ない。

7月21日(金) ソロ競技が9時開始の予定だったが役員が集らず10時になる。5番目の佐藤は小柄で損をし, 島崎は大柄の演技で得をし, 鈴木はスペイン物の撰曲で目立たず乍ら皆実力を出した。飯田の演技は今迄になかった程熱がこもり実に素晴らしい出来で, 観衆の物凄い拍手でジャッジも点が掲げられぬ程, 又採点後も拍手が止まず次の選手が待ちくたびれた程だった。スタイルの得点22.5は5番目, 然し計時員から陸上動作で1.5秒の超過があったとクレイムされ, 得点合計76.920点から2点減点されて9位から13位に落ちた。彼女が米国式スタutzを身につけてたら6位以内確実と皆が云う。

(5) 佐藤せつ子	22位	68.770						
完遂度	6	6	5	5.5	5	16.5点		
美しさ	5.5	7	6.5	5	5.5	17点		
(8) 飯田 紀子	13位	76.925						
完遂度	6.5	6.5	6	5.5	6.5	19点		
美しさ	7	7.5	7.5	6	7.5	22点		
(15) 島崎 鈴子	21位	69.235						
完遂建	6	6	4.5	5	6	17点		
美しさ	5.5	6.5	5.5	5	6	17点		
(19) 鈴木佐智子	17位	72.710						
完遂度	5.5	6.5	6	6.5	6	17.5点		
美しさ	6	7	5.5	5	6	17.5点		
1位 Geovgian	113:320							
	9	8.5	8	8.5	8.5	25.5点		
	8.5	9	8.5	9	8.5	26点		
2位 Burke	111.870							
	8.5	8.5	8.5	8.5	9	25.5点		
	9	9	9	9.5	8.5	27点		
3位 Stephenhurst	95.410							
4位 Schaack	93.795							
5位 Armstrong	93.440							

上位2人の順位に昨日スタutzに優った方が僅少の差で勝った。Ferris氏がソ連に行って留守なのでAAUからSimms氏があいに来て呉れた。招待費の件を話す心

配するなどの事, Kiputhさんから電話で泊りに来られないなら明日あいに行くと。

7月22日(土) 選手権大会最終日で午前デュエット, 午後チーム, 夜両方の決勝が行はれた。飯田, 鈴木組はいつも心配な所を巧みにこなし素晴らしく呼吸があい, 上出来で観衆の拍手をあげた。佐藤, 島崎組の演技は島崎がチームの衣裳を忘れたので取り帰った為見られなかった。

(9) 飯田, 鈴木組	13位	72.90						
完遂度	7	5.5	5.5	4.5	5.5	16.5点		
美しさ	7.5	5.5	6.5	6	6.5	19点		
(21) 佐藤, 島崎組	17位	67.125						
完遂度	4	5	6	5	5	15.5点		
美しさ	5.5	5	6	6	6	17.5点		
1位 Barke	Shaack組(ハリウッド)							
2位 Sommers	組(マリオネツ)							

午後のチームはこの日チョット普段と違う島崎が二度間違えていつもの出来迄いかず, 僅かに撰曲衣装日本ブームに救われたかたちで69.9275点9位, 完遂度5.5, 4.5, 5, 4.5, 4.5, 14点, 美しさ6, 5, 6, 4.5, 5.5, 16.5点だった, 優勝したマリオネツはサンフランシスコ以来の馴染だが本当に最高の出来だった。

AAUのHeinsworth氏とKiputh氏と大物達がいに来たので役員連中ビックリして今更私を見直す。これも日本水連のお蔭。キッパスさんが“面倒な役を引受けて来たな”と同情して呉れ“こんな所で選手権をやるとはヒドイな”と。

7月23日(日) 初参加とは云え予選で皆落ちたのは残念だった, 然し考えて見るとスタutzの重大さを井の中の蛙式にチットも知らなかった事が最大原因で, 足さえあがれば良い日本式と水中動作迄極度に重視する米国式とでは5年の開きがあると云う。帰国したら先ず役員達を再教育しなければならぬと思ひ最高権威者Mckellerに朝早く来て貰い, 皆代る代るノートをとって日本への最大の主産とする。大会終了の翌朝にしては酷だと思ったが日本シソクロ将来の為我慢して貰う。午後ここから100軒の太平洋岸マンモス海岸へ渡日組と一緒にエキジビションに行く。今夜からマリオネツの4人同宿することになって娘8人のハーレムは洵にお賑やか。

7月24日(月) 紐育見物, 遊覧バスに乗せといてその間に旧友と会う考えていたら説明が判らないので案内して廻る。昔とチットも変わらない街や跡かたもなくなった所や20年前の想い出と共に感慨にふける。帰宅したらどうやらロスアンゼルス迄の飛行切符が入手出来て明後日出発出来るとの吉報が待っていた。

7月25日(火) 書類報告礼状等の整理で半日, 午後は

土産物買いのお伴で長い半日だった。夜は荷造り。Harms 夫人に未決済の件をとくと交渉、8月末迄に解決すると云う。

7月26日(水)米大陸横断旅客機中一番安いのでニューワーク飛行場からロスアンゼルスへ。デトロイト、シカゴ、デンバーと給油20分、機中食車も湯茶のサービスもなく11時間。だがお蔭でゆっくり空から各都市やグランドキャニオン、ロスアンゼルス夜景が見物が出来た。夜9時笑顔の和田さんに迎えられ和田邸で久しぶりの和食をよばれてフィガロホテルに泊る。

7月27日(木)選手は久しぶりに寝坊、こちらは水連えの報告作り、午後和田さんの案内でティズニーランド見物。

7月28日(金)選手達は大野夫人(旧性飯島富子)に頼んでショッピング、日本航空その他出国手続を済まし午後全米水上の担当団体AAU南太平洋協会の事務所を和田氏と共に訪れ打合せ、夜ダイビングの毛利君の宅で心づくしに舌づつみをうち夜のハリウッドを見物。

7月29日(土)荷造りはしたものの重量超過で皆大騒ぎ、毛利大野両氏の車で午過ぎ空港へ、出来る丈のことはしたが一緒に帰れないのであれ程あこがれていたワイキキ見物をさせずに東京直行が唯一の心残り“許せよ”。離陸するのを見定めて1ヵ月の禁酒を断って毛利君と乾杯。毛利大野両家をお礼の意味で支那料理によぶ。

7月30日(日)オリンピックプールに行ったが日曜で誰もいない。旧友の車でロスアンゼルス見物、到る所に人家がふえ町が拡がりハイウェイが出来てとても1人歩き出来ない位変わってしまった。

7月31日(月)バスでプールへ行く時間を計ろうとしたが、仲々来ないので結局タクシー、プールは有名なDalandが50人近い選手達に張切った練習をさせていたので見学後トククリ話し込む、水連から中学選手の渡米受入れの交渉をする様との電報なので、ロス近辺プレスノ、サンフランシスコと長距離電話、プレスノOK

8月1日(火)移民局へ行って滞在延期手続をすま。水連から中学生渡米の電報再来、和田さんと全米大会の切符取継依頼の為近郊を回る。夜オリンピックプールへ行って水泳リーグ戦を見る。とても熱心で気迫は日本以上。

8月2日(水)ロス周辺の水泳学校が126あるときかされていたが、今日はその代表的なものを撰んで朝から友人の自動車で行く、メイウッド、ハウソーン、イングルウッド、カルバシテイ、コンプトン、ロスアンゼルスAC、と終日見て歩いた。技術的指導法にはそれ程感心するものはないが、どこに行っても3、4才から15、16才の子供達が目の色を変えて頑張った練習を続け

ているのと、皆クロール、バック、バタ、平泳とどれも同じ様にこなしているのに驚いた。大抵20から25碼位のインターバル、クロール、腕、足、バック、腕、足、バタ、腕の足、平泳、手、足の順で4、5千碼位泳ぐと云う偉いことだ。

8月3日(木)水連から中学生渡米に就き受電、和田さんのハンティントンパークのマーケット見学、広く且つ活気あり。

8月4日(金)午前中電話とタイプ、午後パサデナ、グレンデール、エルモンテの水泳学校見学、夜オリンピックプールの水球見物、每晚3ゲーム4月から9月迄続けている。そして東部に勝って東京オリンピックに行くとは皆張切っている。

8月5日(土)珍らしく手紙も電話も来ず、返事を出す所もなく、退屈の余りどこかに行こうかと思ったが車がなくて島流同然なので、半日寝て暮らすうち、どうもこのフィガロホテルの生活とプールとの距離に疑問を感じたので、もっとプールに近く安いホテルはないものかと午後の暑い陽ざしに汗をかきながらホテル探し半日。

8月6日(日)朝の電話でフィガロホテルは和田さんの推選と思っていたら、BOACの片山氏が水連から一任されて来て彼の推選と云う訳が解った、ところが片山氏とは10日になるが一度も会えず又電話で話しも出来ない始末。和田さんと一緒に中山正善氏を訪問。“全米大会は是非見たいと”。

8月7日(月)オリンピックプール附近一帯をホテルアパート探し、車の国だけにテクテク歩くと遠いこと、和田氏の了解を得たので水連宛特別の理由があっても、もっと便利な所に移った方が選手の為に良いと思うから移ることを了承願いたい旨種々理由を列記して懇請、東京からエントリーが届いたがサインだけしかしてないので深夜作業で作成。

8月8日(火)エントリーの締切日なので昨夜作ったエントリーをAAUに出す。山中、松本以外は参加料を出せと云い、松本が高枚生だから招待からはずすと云う。結局解決。午後やっとBOACの片山氏に会う、どうしてこの人に水連ともあろうものが万事一任したのだろうか? プールから見えるし歩いて5分程のコロシウムホテルに移る事にきめ予約をする。

8月9日(水)文句を云ったが平あやまりでフィガロホテルの予約を取消し荷物をまとめてコロシウムホテルに移る。このホテルならトレジャットレパンでいられるし勝手にプールに歩いて行けるし、バスは直ぐ前に停るし、日本人の洗濯屋も近いし選手連には好都合だ。雑屋だって1人1日1ドル安いがそれ程の差はない。フ

レスノ・サンフランシスコのエントリーをタイプし住所移転連絡と共に発送。

8月10日(木) 和田さんが“BOACはロスアンゼルス直行便がないから、ホノルルかサンフランシスコで乗継いで来るので、誰か世話をやいてやらぬと高校チームは苦勞するよ、川田さん、あんた出迎かえてやりなさいよ”と心配。朝は良いとして昼か晩の一食は日本食を用意してやりたいので和田さんと日本食の弁当を作って届けて呉れる店を探して廻る。

8月11日(金) 愈々明日は日本へ行った米選手が帰って来るし、次の日は高校チームが着くので今日一日は全くの私用にあてる。土産物を買って漁り、日本人町で日本食。

8月12日(土) 昨夜出迎えの都合があるので度々日航に問合せたが米選手はハワイで降りて乗ってない。高校チームもBOAC故障の為日本航空で直行して来る旨の入電で万事めでたし。ロスアンゼルス地区を総括している南太平洋水泳協会のロス氏とギルクリストに昼食の招待、和田さんと一緒に行く。来年夏日本チームの招聘の意向を聴き実現方を約す。両氏とも水泳出身だし裕福なのでこのAAUより遙かに好印象。ホテルから15軒程離れているが寿司長と云う店が味も好みもすぐれており、南加大留学中の牧野君が張切って選手のためにやりましようとするのでここから毎日日本食を届けて貰うことに決める。

8月13日(日) 和田さんが会長をしている和歌山県人会のピクニックに招かれる、甚々盛会。明日到着の高校チームは、学習院水泳出身で産経特派員藤崎君、共同岩田君、読売川口君、毛利君、和田さん達の手車でサービスして貰うことになった。片山氏は都合で出迎えられないと断って来た。

8月14日(月) 朝8時一同安着、クラブを降りて来る顔はこわばっていて堅い。米選手も一緒に帰って来た。Henning 米水泳委員長も出迎えてフラッシュを浴びながら握手。選手達の顔色に精彩が乏しいのが気になる。各車に分乗してホテルについたが、勘定に入れてなかった南米組も同宿する事になり、有望な特種目選手の為に特約した良い部屋を割愛させられ切角の努力が無くなった。南米組を招待したのはAAUなのだが、何から何迄この始末で頭に来る。11時半パラマウント撮影所で午餐と見学、ヘルムスホールに寄り5時から軽い練習。プールは著名コーチ選手達で一ぱい旧知新規の顔見知りとヤアヤア。6時半英語のメニューを見なくても実物を指させば、欲しいものが食べられるホテルのカフェテリアで、食事をする方法を教えて満腹。これで夕食は解決。招待されていたので食後オリンピック競技場で

行はれるドジャースの野球試合を半分位の者が見に行ったが余りの寒さにふるえ途中で帰った。

8月15日(火) 朝食のメニューを日本語で書いて1番とか3番と云へば事足りる様にしておいたらうまく行った。これで朝食も解決。練習が一番良い時間の3コースを2時間貰えた。米側では日本を優遇し過ぎると文句が出た様だ。寝過ごした2人を置きざりにして練習に行き午後迄気がつかない由、大分上っている。昼食の弁当予定よりやや遅れて届けられたが、内容は至極上等で好評、10何軒探して歩いた甲斐があった。昨日以来不調を訴える連中を医者にみせる。山中気管支、杉本は日本以来の下痢、森田風邪。杉本はひどいが後の2人は神経性だから直ぐなほる由。午後の練習時間は40分しかない、アメリカの習慣かと尋ねたら6時からロスの水球リーグ戦がある為だと、全米大会中位止められないものか。日米協会日本人商工会議所の夕食会に病気以外の全員出席。米側ヘニング、キップス、ペッペ、リップマン、フェロス来会。どこへ行く時でもどの車も皆山中を乗せたがる、その為いつも誰かが巻添えをくって残されそうになるので、これを収容して行く役目が自然に回って来る。

8月16日(水) 3日目ともなると皆馴れて世話がやけなくなるが、それ丈に勝手達をいしてホテルから苦情が来る、苦情引受所の役も楽ではない。午前の練習は大部熱がはいり、Henning 氏の好意で特にスターターをつけて呉れ特別練習。“用意”がかかっても仲々動作にはいらぬ日本式をやるとフアルス1回と見なすアメリカ式に皆一驚。午後 Henning, Peppe 両氏と50軒東南ブエナパークのコヨテカントリークラブで開催される飛込競技場を見学に行く。有名な Tobian が運転。どうして日本選手権への招待に来なかったのかと尋ねたら“是非行きたかったが6月に卒業して今新人社員だから会社は理解して呉れたが遠慮したんだ”と。プールは顔見知りの Harper, White, Gompf 等30人程のダイバーで4つの台から盛んに練習していた。驚いたのはポータブルの3m飛込台があり誰も具合が良いとほめていた。そのうち日本にも欲しいかと云うと、連絡さえして呉れたら送ってやると Peppe が云う。Henning, Peppe, Ross と4人で夕食後10時迄懇談、水連の支払超過、シンクロの件、対日接待、今後の日米対抗、エイジ・グループ育成組織、米水連の創設、米水泳界の気運、等々変有益な話題ばかりだった。選手達は午後マリナランド見物に行き午後の練習をしなかった由、然し誰かプールサイドで更衣して泳いだ者があり、これをプール管理者に見つかったので、お国柄、更衣室以外での脱衣は堅く禁ぜられ法律違反になる為、Smith 場長が随分私を探したそう

だ。面倒至極。もう一つ定められたカフェテリアでなく朝食をとるコーヒーショップで夕食をした者が大分お話しが通じない為要領を得ず双方から苦情が出た。どうも留守をすると困った事がおきる。

8月17日(木)朝一番にプール場長のSmithを訪ね、3貫目も痩せたかと思う位冷汗を出し平身低頭漸く報告書の取下げに成功。午前の練習は皆元気。午後鈴木コーチ、読売胡麻鶴君、産経藤崎君とバーバンクの水泳学校見学、“こんなに小さい時からああ真剣にやられてはかなわん”と皆ビックリ。和田邸の晚餐招待を中座して加藤君とコーチ会議に出席。日本なら簡単に出来るしまう組合せだが、この国では仲々手間と時間がかかる。席上Henning委員長から皆に紹介され又多年の日本水連の好意に対し丁寧な謝辞があった。日本の代議員会の様な会合が1時間位で済むから、皆と一杯やろうと云うが、早朝以来の疲労を話し断って帰る。

8月18日(金)全米大会第1日、日本不振に張切っていた邦人ファンガッカリ。記者連中の批判もキビシイ。フレズノ大会の打合せにFishsr氏が来て呉れ3時間余り打合せ。

8月19日(土)全米第2日、山中は元気だがその他はバツせず。中学生搭乗の日航機12時50分安着、選手達は元気に降りて来たが、三枝さん憔悴気味で御苦労。女子は4人1室、男子は私の隣室に入り夕方迄寝る。泳ぎたいと云うのでプール探しの後中井さんのプールを使わせて貰う。

8月20日(日)全米最終日、中学生の練習プール探して大わらわ、例の事件以来かえって昵懇になったSmith場長の好意でオリンピックプールを使はして貰う。高校生と一緒に体操し、食事し、レースを見物してジャベロンは気を揉むが中学生は皆元気。決勝の間を利用し中山正善氏挨拶、競技進行方法参考になる点が多い。夜中山氏の招待。雑談しに来た奴にゴロ寝の儘ベッドを朝迄占領され被害甚大。

8月21日(月)中学チームを練習に連れて行き直ぐ帰って支払準備、高校チームは朝ゆっくり。チームは11時半又例の乗車区分でスタモンの末ディズニーランドに出発。途中ナツベリーファームで南太平洋水泳協会の中食招待。こちらはフレズノ行飛行機予約、ホテル、食堂、弁当代、其の他の諸支払、遠路AAU事務所から招待費の受領、銀行、Ross氏と山中留学の件等々、夕方パサデナの総領事官邸でチームと一緒にいる迄々多忙

8月22日(火)早朝ユナイテッド航空でフレズノへ。飛行場から直ぐプールへ、そしていきなり競技参加と息つく間もないあわただしさ。田舎の大会とあなどれぬ位何事も立派。邦人各団体の大変な歓待、邦人家庭に分宿

久し振りに日本の様にうまい水、酷暑ときいたが冷房があるので諸事快的。

8月23日(水)サンウォーキン大会第2日目、夜Fisher氏宅に招かれその後で会長Whitty氏宅の全役員招宴に皆で出る。

8月24日(木)最終日団体に優勝、終了後6時50分の飛行機でサンフランシスコへ。7時50分着寒いので皆驚く。YMCAに泊る。留置場の様な感じの部屋、和田さんに気の毒。

8月25日(金)西部選手権第1日、YMCAに近い支那人の食堂で朝食後チームはバスでフライジャッカープールへ、加州大学の中村先生の車で、岡田、鈴木の両君と総領事館新聞社邦人団体を歴訪、午過ぎプール着。飛込が遅れて決勝なし、寒い海水なので皆に体に気をつける様注意する。

8月26日(土)雨降りて日本の11月の気候、サンラファエルに岡田、鈴木両君と水泳学校見学、BOACと連絡とれず皆不安になる。

8月27日(日)昨日来高校チームは帰国の飛行機の手で日航と一緒に帰る意見が強く、お蔭で加藤、岡田、鈴木3君ともレースを見ずに片山氏と接渉数時間、結局来る時故障とはいえ日航に乗り帰路ハワイ迄ユナイテッドに乗った後又日航に乗られてはBOACは0で困ると泣きつかれBOACに決定したが、一時は仲々面倒なことだった。夜和田さんの慰労の宴をささやか乍ら張る。和田さんは“今迄幾度か機会があったがこんなに慰労されるのは始めてだ”と喜ばれ盛会。

8月28日(月)全日程終了、10日間に800軒の旅行と9日間のレースは大変強行日程、病人も出ず各地の連絡も良く且歓待をうけ先は結構至極。AAU太平洋協会の昼食日本人会の夕食の招待に出席以外は各自自由。山中1人先にハワイに発つ。

8月29日(火)高校チームは朝のうち出発、中学チームは日航なので午前中市内見物や買物をして午後サンフランシスコ発。4時間後ホノルル着、先に着いた高校チームはバスで市内見物、中学チームは丸1時間を有効に自動車を走らして市内見物、こちらはハワイ水協のDr. Kobayashiと佐川氏と3人空港ビルで日布水泳交歓の接渉や従来の経緯を話し最後の1分迄懇談、慇々ホノルル発、一路空港へ。

8月30日(水)ホノルルから飛行5時間、午後8時多くの人達に迎えられ無事帰国。(完)

附記：同氏はシクロチームを引率し、全米シクロ選手権を初め各地競技会に参加したが、競技会終了後はアメリカに残留され、渡米高校チーム、中学生チームに合流し主として対外面を担当、同選手団のアメリカでの活躍に寄与された。(編集)

全米男子戸外選手権 詳報

全米戸外選手権は、昭和7年第10回オリンピックの開催されたロサンゼルス、オリンピック・プールにおいて8/18~20催された。この大会には毎年他国の選手が参加して、世界で最も国際色豊かな選手権であるが、本年度は、わが国からは山中以下14名、日本から帰国途上のドス・サントス（ブラジル）、ニコラオ（アルゼンチン）他にメキシコ、フィンランド等の選手が出場してバラエティに富んだ競技会であった。

試合の内容は、世界新記録26、対記録1その他アメリカ新記録、大会新記録の続出で、各種目ともその充実ぶりは、世界の強豪を集めた昨年のローマ・オリンピックを凌ぐほどであり、アメリカの若い溢れる力を遺憾なく発揮した大会であった。その正式報告書が届いたので詳細を報告したい。3年後の東京大会に必勝を期するわが国としては、最強の相手であるアメリカについての認識を深めておく必要があると思う。

100m 自由形 (82名出場)

順位	選手名	国籍	予選	決勝
1.	S. クラーク	①7	①56.0	54.4 (世新)
2.	D. ライオンズ	①7	①55.5	55.0
3.	J. スプライツァー	②7	②55.7	55.1
4.	M. ドス・サントス	②22	①55.5	55.3
	(ブラジル)			
5.	S. ジャックマン	①	①55.6	55.7
6.	D. マグドノウ	①	①55.8	55.5
7.	R. ブリック	①	①55.7	55.6
	M. ローズ	②22	②56.1	
	(オーストラリア)			
	M. オースティン	①	①56.1	
	P. シンツ	①	①56.2	
	R. ジャコペーガー	②	②56.4	

来日中は1度もドス・サントンに勝てなかったクラークは帰国後復調して待望の世界新記録をマークした。一方コーチの指示によって1500を捨てこの種目にまわったローズは惜敗した。それにしても56.1で落選とは短距離王国ならではあるが、56秒台では世界の1級選手ではないということでもある。

決勝に残った7名中ドス・サントスとブリック以外はティーンエイジャーである。

選手層を調べてみると次のとおり（この外に有望選手で不参加のものが相当数ある）○内の外国選手を含む。

~54.9	1	
~55.9	7	①
~56.9	14	②

~57.9 23 ②

~58.9 35 ③

200m 自由形 (79名出場)

1.	山中 毅	②22	(日本)	(58.5)①	2:01.8 (米新)	2:00.4 (世新)
				1:29.5	27.8	58.6
2.	M. ローズ	②22	(オーストラリア)	(59.0)①	2:02.2 (米新)	(58.6)2:00.9 (世新)
3.	R. ブリック	①		(59.2)①	2:03.0	(58.1)2:01.5 (世対)
4.	P. シンツ	①		(60.0)①	2:03.9	(58.6)2:02.3
5.	S. クラーク	①7		(58.4)①	2:04.2	(58.6)2:02.7
6.	A. ソマーズ	①19		(59.5)①	2:04.0	(59.5)2:03.4
7.	D. マグドノウ	②		(59.0)②	2:04.6	(57.5)2:04.7
	S. ジャックマン	③		(59.8)③	2:04.8	
	E. タウンセンド	②		(59.5)②	2:04.9	
	S. レリック	①		(58.0)①	2:05.1	
	J. ハウス	①		(59.3)①	2:05.2	
	J. スプライツァー	①17		(61.4)①	2:05.4	

ローズはこれまで滑り出しがスムーズでなかったが、その点は大幅改善されている。現在のアメリカは800リレーにナショナル・チームを編成すれば、どんなオーダーを組んでも世界新記録は間違いない。

選手層は、

~2:00.9	2	②
~2:02.9	5	②
~2:04.9	9	②
~2:06.9	16	③
~2:08.9	22	④

400m 自由形 (53名出場)

1.	山中 毅	②22	(日本)	①	4:25.7	4:17.5 (米新)
				(1:02.4	2:11.5	3:17.5)
				(1:00.9	2:06.7	3:13.3)
2.	M. ローズ	②22	(オーストラリア)			

	① 4:25.9	4:17.8 (米新)
	(1:03.2 2:10.7 3:18.1)	(1:00.6 2:06.3 3:12.4)
3. A. ソマーズ	⑱	
	① 4:25.6	4:23.2
	(1:03.4 2:10.4 3:18.0)	(1:01.9 2:08.8 3:15.7)
4. P. シンツ		
	① 4:27.1	4:23.5
	(1:02.3 2:10.6 3:19.1)	(1:01.9 2:09.5 3:17.5)
5. S. レリック		
	② 4:26.6	4:25.5
	(1:04.1 2:11.5 3:19.2)	(1:02.9 2:09.5 3:18.5)
6. N. カービー	⑳	
	① 4:25.1	4:30.8
	(1:01.8 2:09.5 3:17.6)	(1:02.9 2:09.5 3:18.5)
7. J. ハウス		
	② 4:28.2	4:37.5
	(1:02.4 2:10.8 3:19.5)	(1:04.4 2:13.4 3:23.7)
R. ブリック		
	① 4:28.9	
D. アレン		
	① 4:29.2	
R. サアリ	㉑	
	① 4:29.3	
W. フェレー	㉒	
	② 4:29.6	
J. マセド		
	② 4:29.7	

山中とローズの従来との対戦とは全く逆で、ローズがスタートからリードし山中がそれにピッタリついてラストに追い抜く形となり、稀にみる白熱戦であった。アメリカは福井、藤本クラスは多士済々であるが、未だ切札的存在がない。

~4:19.9	2	②
~4:24.9	4	②
~4:29.9	12	②
~4:34.9	18	②
~4:39.9	24	③

1500m自由形 (37名出場)

1. R. サアリ	㉑	2. A. ソマーズ	㉒
1:03.7		1:03.8	
2:12.9		2:12.6	
3:22.6		3:21.6	
4:33.0		4:31.4	
5:42.8		5:41.0	
6:52.6		6:50.7	
8:02.8		8:01.3	

	9:13.8	9:12.5	
	10:24.5	10:23.5	
	11:35.5	11:35.0	
	12:46.9	12:46.3	
	13:58.4	13:57.7	
	15:08.9	15:09.4	
	16:18.8	16:21.8	
	17:29.8 (米新)	17:32.2	
3. T. ラルフス	㉓	4. M. ウォール	㉔
	1:05.6	1:06.0	
	2:16.7	2:16.9	
	3:26.6	3:28.0	
	4:37.1	4:40.1	
	5:49.0	5:52.1	
	6:58.7	7:04.5	
	8:09.3	8:16.4	
	9:20.6	9:29.0	
	10:32.2	10:41.0	
	11:43.7	11:52.8	
	12:55.6	13:04.9	
	14:07.7	14:17.4	
	15:20.1	15:30.2	
	16:32.6	16:42.5	
	17:44.7	17:52.9	
5. W. フェレー	㉕	6. 山中 毅	
	1:05.4	1:03.5	
	2:16.4	2:13.2	
	3:27.1	3:22.7	
	4:37.4	4:32.9	
	5:49.1	5:43.6	
	6:59.9	6:54.9	
	8:10.9	8:07.0	
	9:23.1	9:19.3	
	10:36.3	10:32.2	
	11:50.6	11:46.3	
	12:04.8	13:00.7	
	14:19.3	14:15.6	
	15:33.3	15:30.0	
	16:46.9	16:45.5	
	17:55.7	18:00.2	
7. J. デイ		8. B. フォス	㉖
	1:06.4	1:03.3	
	2:17.9	2:13.7	
	3:30.9	3:23.7	
	4:44.9	4:35.3	
	5:57.9	5:48.2	

7:11.4	7:01.8
8:24.7	8:15.3
9:38.6	9:31.0
10:52.4	10:47.0
12:05.9	12:03.1
13:19.2	13:20.0
14:33.5	14:36.7
15:46.8	15:52.3
17:00.6	17:08.2
18:12.9	18:22.8

200, 400にあればどの実力をもつ山中のこの成績は、宿敵ローズの欠場による戦意の喪失？ 山中を除いては19才のソマーズが最年長で、この種目は若い者の世界である。ファーレーが54.0、ウォールは1:14.0 昨年よりも躍進しているが、わが国の若い選手達も大巾な上昇を願いたいものである。

~17:39.9	2
~17:59.9	5
~18:19.9	7 ①
~18:39.9	9 ①
~18:59.9	17 ③

100m 平泳 (48名出場)

1. C. ジャストレムスキー ⑳
(31.7)① 1:07.8(世新) (32.0) 1:07.5(世新)
2. P. ヘイト
(一)① 1:09.6(世新) (32.5) 1:09.8(世新)
3. K. ナカソネ
(32.8)① 1:11.4(世新) (33.4) 1:11.6(米新)
4. P. フォガラシー ⑳
(34.0)① 1:12.0 (34.0) 1:12.0
5. 石川 健二 ⑮ (日 本)
(34.5)① 1:13.0 (35.0) 1:12.5(日新)
6. G. トリームワン⑱
(34.1)① 1:12.3 (33.8) 1:12.7
6. 山南 宏一 ⑯ (日 本)
(34.8)① 1:13.1 (34.7) 1:12.7
松本 健次郎 ⑰ (日 本)
(34.3)① 1:13.3
- R. グレイサー
(34.4)② 1:13.5

ジャストレムスキーとヘイトはともに素から100mは得意な種目であるが、10秒を割られては歯が立たない。

~1:09.9	2
~1:10.9	2
~1:11.9	3
~1:12.9	7 ②

~1:13.9	12 ③
~1:14.9	15 ③

200m 平泳 (50名出場)

1. C. ジャストレムスキー ⑳
(1:12.6)① 2:34.6(世新) 2:29.6(世新)
(33.8 1:12.2 1:51.0)
2. P. ヘイト
(1:13.2)① 2:35.5(世新)(1:13.2) 2:34.5(世新)
3. K. ナカソネ
(1:14.2)① 2:36.8(米新)(1:14.5) 2:35.6(世新)
4. G. トリームワン ⑱
(1:14.2)① 2:36.4(世新)(1:14.7) 2:36.0(世新)
5. P. フォガラシー ⑳
(1:13.2)① 2:37.9 (1:14.8) 3:36.1(世新)
6. 松本 健次郎 ⑰ (日 本)
(1:14.4)① 2:38.5 2:36.8(日本)
(35.0 1:14.6 —)
7. 山南 宏一 ⑯ (日 本)
(1:16.2)① 2:39.0 (1:16.0) 2:38.4
J. シュリツ
(1:16.6)① 2:39.5
石川 健二 ⑮ (日 本)
(1:16.7)① 2:40.4

今年は平泳のあたり年であるが、ジャストレムスキーは潜水泳法の記録をも破って一挙に20秒台に突入した。この種目の急激な上昇ぶりは30秒突破も近い将来だとは考えられたが、実現が早過ぎた観がある。

アメリカはトップは充実しているが、2線級以下は極めて手薄である。47名(日本の3選手を除く)の出場者中50秒を割った者は半数にも満たない20名、45秒以内は僅かに9名に過ぎない。(開催地が西部のため東部の選手の出場が少い)

~2:33.9	1
~2:35.9	3
~2:37.9	6 ①
~2:39.9	8 ②
~2:41.9	11 ③

100m バタフライ (57名出場)

1. F. シュミット ⑰
(28.6) ① 59.4 (28.2)58.6(世新)
2. L. ニコラオ ⑯ (アルゼンチン)
(27.3) ① 1:00.2 (28.3)58.9
3. L. シュルヘフ
(28.1) ① 59.6 (28.0)59.2
4. R. ベネット ⑰
(28.5) ① 1:00.1 (27.7)59.4

5. D. マグドノウ
(27.0) ① 59.1 (27.2) 59.6
6. M. ミリフェ ⑳
(27.8) ① 1:00.7 (28.2)1:00.3
7. T. タシュニック ㉒
(28.5) ① 1:00.0 (28.3)1:00.0
- M. トロイ ㉑
(28.0) ② 1:01.2
- C. ロビー ⑮
(29.0) ① 1:01.5

この種目では好敵手日本が近年足踏状態であるのに対し、アメリカは限りなく前進を続けている。上位がこれほど競っていることは、やがて大きな上昇を約束されているようなものである。

- ~ 58.9 2 ①
~ 59.9 5 ①
~1:00.9 7 ①
~1:01.9 12 ①
~1:02.9 17 ①

200m バタフライ (35名出場)

1. C. ロビー ⑮
(1:04.0) ① 2:15.5 (1:03.3)2:12.6 (世新)
2. L. シュルヘフ
(1:02.8) ① 2:15.4 (1:02.3)2:14.5
3. F. シュミット ⑰
(1:04.7) ① 2:17.8 (1:04.3)2:16.3
4. T. タシュニック ㉒
(1:06.4) ① 2:21.9 (1:02.8)2:16.5
5. M. トロイ ㉑
(1:05.5) ① 2:18.0 (1:03.9)2:16.9
6. I. スヴァント ⑰ (フィンランド)
(1:06.1) ② 2:22.0 (1:05.9)2:19.7
7. B. フォス ⑱
(1:05.5) ① 2:19.1 (1:05.0)2:20.1
- J. レイトマン
(1:08.2) ② 2:22.1
- K. ウエップ
(1:07.2) ② 2:22.7
- F. ブラネル
(1:07.0) ② 2:22.8

この種目に限ってあまり躍進がみられないが、上位は新人達によって占められ脱皮途上にあるようだ。ローマ大会にも出場したフィンランドの留学生が6位に喰いこんでいる。

- ~2:13.9 1
~2:15.9 2

- ~2:17.9 5
~2:19.9 7 ①
~2:21.9 7 ①

100m 背泳 (40名出場)

1. R. ベネット ⑰ ①1:02.0 1:01.3(世新)
2. J. グリーフ ①1:02.0 1:01.7(米新)
3. E. パーチェ ①1:03.3 1:01.9(米対)
4. T. ストック ⑱ ①1:03.7 1:02.3
5. T. マン ①1:03.3 1:02.6
6. R. ゲッチェ ⑰ ①1:03.2 1:02.6
7. L. カットラー ①1:04.7 1:05.3
- B. モールトン ②1:04.9
- T. マセド ③1:04.9

豪州の背泳トリオが引退し、フランスのクリストフの衰えた現在では世界のトップ・クラスはアメリカが独占した形であり、また昇り坂の若い選手ばかりである。

- ~1:01.9 3
~1:02.9 6
~1:03.9 6
~1:04.9 10
~1:05.9 16 ①
~1:06.9 21 ②

200m 背泳 (34名出場)

1. T. ストック ⑱
① 2:15.2 (世新) 2:11.5 (世新)
(30.4 1:04.5 1:40.0) (29.8 1:03.1 1:37.5)
2. J. グリーフ
① 2:17.7 2:14.4 (世新)
(31.4 1:06.1 1:41.7) (30.1 1:04.1 1:38.8)
3. R. ゲッチェ ⑰
① 2:18.6 2:16.4
(31.0 1:06.2 1:42.6) (30.6 1:04.7 1:41.2)
4. E. パーチェ
① 2:17.8 2:16.4
(31.0 1:06.6 1:42.4) (30.3 1:05.5 1:40.0)
5. T. マン
② 2:19.2 2:18.0
(32.0 1:07.2 1:44.3) (30.2 1:05.4 1:42.4)
6. T. スティックルス ⑱
① 2:19.9 2:18.6
(32.2 1:07.0 1:43.1) (— 1:06.6 —)
7. 伊藤圭祐 (日本)
② 2:21.1 2:21.3
(32.5 1:07.5 1:44.0) (32.4 1:07.2 1:45.2)
- D. パタスン
(1:09.1) ② 2:23.3

五十嵐 武清 (日 本)

(1:08,7) ③ 2:23,7

背泳はスピードの点においてバタフライに追い抜かれて久しいが、200mの方は躍進目覚ましくバタと比肩する状態である。その中心はストックであり、これに続くは皆若手揃いである。

~2:13.9	1
~2:15.9	2
~2:17.9	4
~2:19.9	6
~2:21.9	7 ①
~2:23.9	9 ②

200m 個人メドレー (38名出場)

1. T. スティックルス ⑨
2:19.6 2:15.9 (米新)
2. C. ジャストレムスキー ⑩
2:21.9 2:17.9
3. R. サアリ ⑩ 2:21.6 2:21.5
4. B. アトレー ⑩ 2:22.4 2:21.9
5. R. マッキー 2:25.0 2:22.1
6. J. デイ 2:24.1 2:23.0
7. N. カービー ⑩ 2:22.0 2:22.9

400m 個人メドレー (36名出場)

1. T. スティックルス ⑨
① 5:06.1 (1:06.5 1:17.7 1:28.2 1:13.7)
4:55.6(世新)(1:07.1 1:15.4 1:24.7 1:08.4)
2. G. トリームワン ⑩
① 5:08.8 (1:08.6 1:18.5 1:27.1 1:14.6)
5:01.5(世新)(1:08.0 1:17.6 1:25.7 1:10.2)
3. C. ロビー ⑩
① 5:11.7 (1:04.6 1:20.5 1:34.9 1:11.7)
5:04.4(世新)(1:04.5 1:19.9 1:32.6 1:07.4)
4. N. カービー ⑩
① 5:11.6 (1:08.8 1:20.2 1:33.6 1:09.0)
5:06.3 (1:06.9 1:19.8 1:32.9 1:06.7)
5. B. アトレー ⑩
① 5:11.2 (1:09.9 1:17.6 1:33.2 1:10.5)
5:10.6 (1:10.4 1:18.0 1:33.7 1:08.5)
6. F. ライス ⑩
② 5:18.5 (1:09.4 1:26.1 1:33.0 1:10.0)
5:19.0 (1:09.5 1:24.6 1:35.1 1:09.8)
7. T. タシュニック ⑩
① 5:18.1 (1:05.1 1:20.8 1:38.6 1:13.6)
5:21.2 (1:05.3 1:22.2 1:41.0 1:12.7)

K. ウエップ

② 5:18.8

C. シュリンスキー

③ 5:19.1

側人メドレーの家元だけに見事な成績である。それぞれ得意な泳法による優劣でレースの経過が判断できて興味深い。平泳の巧劣が勝敗の鍵らしい。決勝に残った選手の大半がラストの100mを10秒以内で泳いでいるのに特に注目したい。

~4:59,9	1
~5:04,9	3
~5:09,9	4
~5:14,9	5
~5:19,9	9
~5:24,9	12

800m リレー (26チーム出場)

1. インディアナポリス "A"

(ソマー, アレン, トロイ, シンツ) 8:17.9
(2:02.8 2:06.8 2:06.1 2:02.2)

予選(2:07.5 2:11.3 2:09.9 2:07.8)8:36.5

2. サンタクララ "A"

(マセド, タウン, ウォー, クラー) 8:19.6
(2:05.5 2:03.8 2:06.5 2:03.8)

予選(2:09.0 2:06.7 2:10.1 2:09.7)8:35.5

3. ロサンゼルス "B"

(ラウンサ, コーフ, モール, フェー) 8:31.5
(ヴェル, マン, トン, レー)
(2:07.2 2:08.0 2:09.2 2:07.2)

予選(2:06.9 2:06.1 2:10.4 2:10.4)8:33.8

4. ミネアポリス・ゴファー

(ジャック, バーグ, パタス, ジョン) 8:37.4
(クマン, マン, シン, スン)
(2:06.1 2:09.0 2:11.8 2:10.5)

予選(2:08.0 2:10.7 2:12.4 2:10.6)8:41.7

5. ローズミード

(ウイン, ルーミ, ホッパ, カービ) 8:44.2
(ス, ー, ー, ー)
(2:11.1 2:13.9 2:15.3 2:03.9)

予選(2:11.7 2:13.8 2:15.4 2:08.0)8:48.9

6. ニュー・ヘブン

(タイラ, ブッシ, モリス, カレット) 8:47.3
(ー, エル, ー, スキー)
(2:12.3 2:11.9 2:11.7 2:11.4)

予選(2:13.7 2:11.8 2:10.5 2:10.4)8:46.4

失格 ロサンゼルス "A"

(ライス, ウイン, ハウス, ローズ) 8:37.2
(ターズ, ー, ー, ー)
(2:08.1 2:09.6 2:09.3 2:10.2)

予選(2:09.6 2:09.6 2:09.5 2:07.4)8:36.1

新記録の生れなかったのはこの種目だけであるが、なかなか賑やかで、比較は適当でないかもしれないがインカレと対照願いたい。

~8:20.0	2	-
~8:30.0	2	
~8:40.0	5	
~8:50.0	9	①
~9:00.0	13	①

400m メドレー・リレー (31チーム出場)

1. インディアナポリス "A"

(ストック, ジャス トレム, シュル, シンツ) 4:03.0
(ク, スキー, ヘフ,) (世新)

(1:01.9 1:07.1 59.0 55.0)

予選(1:03.3 1:08.7 1:01.5 57.3)4:10.8

2. インディアナポリス "B"

(マッキ, ナカソ, トロイ, ソマー) 4:12.0
(ニー, ネ, ズ,)

(1:03.7 1:11.3 1:01.2 55.8)

予選(1:03.6 1:12.0 1:00.9 56.8)4:13.3

3. サンタクララ "A"

(マセド, ヘイト, タウン, クラー) 4:12.5
(ク, センド, ク,)

(1:05.1 1:10.3 1:03.4 53.7)

予選(1:05.3 1:09.7 1:03.5 54.2)4:12.7

4. ロサンゼルス "A"

(ビティ, グレイ, ミリフ, ライス) 4:13.5
(ック, サー, ー,)

(1:03.2 1:13.4 1:00.1 56.8)

予選(1:03.7 1:13.7 59.9 56.8)4:14.1

5. ミネアポリス・ゴファー

(パタス, コルヴ, バーク, ジャック) 4:18.0
(ン, イン, マン, クマン)

(1:05.0 1:16.0 1:01.4 55.6)

予選(1:05.2 1:16.1 1:02.2 54.5)4:18.0

6. ニュー・ヘブン "A"

(カニン, ユーロ, カレット, オース) 4:18.1
(ガム, ー, スキー, ティン)

(1:06.3 1:14.9 1:41.8 55.1)

予選(1:06.5 — — 55.9)4:18.4

失格 インディアナポリス "C"

(スティック, トリー, プラネ, オニー) 4:17.9
(クルス, ムワン, ル, ル)

(1:04.5 1:12.4 — —)

予選(1:04.8 1:12.6 1:03.8 57.6)4:18.8

クラブ・チームが世界新記録とはまことに恐れいっ
たものである。もしもナショナル・チームを編成すれ
ば 4:00.0 位は出そうである。なおサンタクララのアン
カーS, クラークは 53.7 であるのに注目。

~4:10.0	1
~4:15.0	4
~4:20.0	9
~4:25.0	9
4:30.0	12

3 m 飛板飛込

1 D. ハーパー	156.65	304.40	482.40
2 R. マドリガル (メキシコ)	153.15	286.75	440.85
3 A. ガキシオラ (")	149.30	287.30	418.40
4 L. アンドリーセン	143.30	261.20	414.70
5 G. ジャフ	142.10	269.00	414.50
6 L. ヴイツッシ	133.95	268.25	409.45
7 S. スヴィストラップ	170.80	274.20	407.85
8 F. フラウンフェルター	147.55	278.95	375.35
9 K. パールマン	137.90	260.60	
10 T. ゴムブ	144.55	260.25	

高 飛 込

1 J. ヴォガル	485.50
2 L. ヴイツッシ	476.70
3 T. ゴムブ	476.35
4 A. ガキシオラ (メキシコ)	470.45
5 D. ハーパー	468.90
6 F. フラウンフェルター	437.90
7 K. シッツバーガー	432.50
8 L. アンドリーセン	397.35
9 R. マドリガル (メキシコ)	234.10
10 J. フェリー	228.30

得点:個人 C. ジャストレムスキー	19
チーム ① インディアナポリス	125.5
② サンタクララ	41
③ ロサンゼルス	37
④ ニュートライヤー	21
⑤ 日本	18.5
⑥ ヴェスパーBC	18

(坂本 宗隆)

日本の水泳選手は思いがけぬ贈物を準備している

ソ連水連書記長
中央体育研究所助手

エヌ・クリューコフ
エム・ナバートニコフ
(大阪大学 松本 博士 訳)

本稿は、今夏日・ソ スポーツ交流計画の一環として日本の水泳事情を視察のため来日したソ連水泳コーチの両氏が、帰国後「ソビエト・スポーツ」紙10月13日号に登載したものであり、この程高石会長あて送付されてきたものである。

～ ～ ～ ～

3年後には世界の最強の水泳選手たちが東京のオリンピックプールのコースで顔を合わすことになっている。水泳の愛好者は「ヌオトのスタジアム」における豪米選手の競争を忘れていない。いずれも他の競争者をはるかに離しており、ほとんどのメダルを奪ってしまった。これらの大陸の選手たちは東京においてもその優位を保ち得るだろうか？ この問いに対する答えはむずかしい。欧州の選手も、次のオリンピックの主宰者である日本の選手たちもワキ役を演じないことはまちがいが無い。われわれは日本の1月間の滞在によって、このことを確信することができた。

水泳は日本においては最もポピュラーなスポーツの一つであり、それだけにローマにおける日本水泳選手の不成績は非常に痛い経験であった。水泳連盟の前指導者は退任し、現在では多くの組織的、方法的問題が新しく解決されている。特に、以前には最強の選手強化の中央指導が行われなかったが、現在では委員会（我々のコーチ理事会に似ている）がつくられ水泳技術、練習方法に対し統一的に勧告している。この勧告の受けとり方に対して委員会が統制している。

日本の水泳選手の練習における特徴は何であろうか？
まず、選手の大部分は冬期には泳ぐことができないことである（日本にはプールはたくさんあるが、ほとんどが屋外であり温水ではない）。すなわち、日本は陸上における一般的体力の強化に注意をむけた世界の最初の国の一つである。これは秋、冬における水泳の短縮を代償しているといえる。

しかし室内プールのある所でも、選手は一般的な体力強化を必ず、しかも新鮮な空気の下で行なっている。この点については有名な日本の専門家である K.吉田 が次のように書いている、「水泳だけを行っていると一定の筋群が異常な発達をし、柔軟性が非常に悪くなる。水

泳選手はできるだけ多く水上で練習すべきであることは知っている。しかし、その後の強化に役立つところの特殊な運動を複合せせることも大切である。

つい最近まで日本人は関節の可能性の発展と、筋肉の弾性の増大のために体操の訓練が

良いとしていた。しかし最近コーチたちは強い訓練に注目しだしている。メジシンボール、エクスペンダー、垂鈴が選手たちによく使用されている。

室内プールのない所の選手は10月から4月までは毎日1～2時間陸上訓練を行なっている。水上の練習は低温（12～16度）にもかかわらず4月からは始めている。成績が示すようによく考えられた一般の強化のシステムによって冬期間も良いフォームが保たれている。そして夏の強い練習後に彼らは高い成績を出している。

日本の水泳選手は冬には毎日1回、夏には2回練習を行なっている。負荷量の大きいことは以前からでありそれは彼らには普通のノルマになっている。たとえば1952年に日本選手団のコーチであった遊佐は「出来るだけ多く泳ぐ、そして泳ぐ、また泳ぐ。ここに我々の秘訣がある。業績がそれを証明している。テクニックが同じような時には練習における頑張りが勝利をしめる」といっている。

しかし、最近日本の練習は強い練習を原則としている（70～80%）。このことは世界記録保持者山中毅の例でよく分る。数日、彼は9000m泳いでおり、その大部分を強く泳いでいる。どのような量（%に関して）を7月14日から22日までのスピード練習として山中が行なったかを



クリューコフ氏



ナバートニコフ女史

見ると、82—76—100—83—73—84—100—100である（7月18日には休んでいる）。7月23日の記録会で山中は1500m Fを17:43.5で泳いでいる。

反復—インタバル練習法（日本のコーチはこれを単にインタバル法と呼んでいる）の主な目的

は特別な持久力の向上にあることを知らねばならない。短距離（25～50m）を全速力で泳ぐことは試合直前まで行うのを原則としている。その他の期間は選手は何回も短、長距離を試合のスピードで泳いでいる。しかし日本のコーチたちはこのシステムを理想的だとはみなは考えていない。なぜならば特殊な持久力の向上はスピードの質には損害を与えることに注目しているから。したがって彼らはスタートから最大スピードで25mを10回泳ぐという練習を最も多く行なっている。

大部分の選手は規則的に（週に1～2回）自分の種目の距離を全力で泳いでいる。これによって頻繁なスタートになれば、恐れなくなり、試合では競技ごとに成績のよくなるのが普通である。このことは単に力の配分のできることに由来だけでなく、練習において何回も続けてスタートすることになれているからである。

つぎのことは大切なことである。濠洲選手と同様に日本選手は自分の泳法しか練習しない。そのテクニックは短かくいえば二つの言葉で現わされる、軟かくて効力がよい。日本人はテクニックの基礎を少年時代に充分身につけて、その後は完成に向って努力する。この意味で最も成功しているのは山中である——最も生き生きとして、同時に日本の水泳界で典型的な型である。彼のクロールのテクニックはメルボルンの時とくらべると変わっている。第一に手を水中に入れる時に“ドルフィン様になること”がなくなっており、その他に足が非常に深く打つようになり、水面にほとんど出なくなっている。最も重要なことは、山中のテンポが早くなり長距離を泳ぐ際に平均していることである。このことは次の表を見れば明かである。

距離	レコード	1分間のテンポ	前進の長さ (cm)
1956年			
400m	4:30.4	70.8	112
1500m	18:00.3	62.4	119
1961年			
400m	4:17.6	77.4	108
1500m	17:25.3	67.8	113

山中の体は水面に全く平坦になっており、頭、肩は腰、足より少し高く、手の運びは水面より高く上らず、肘でほとんど曲っていない。手を水中に入れた時には沈んで止まるようなことがなく、すぐに前一下の方に動かしている。山中のキャッチは肘関節を半ばまげて行なっており、その際、右手の手首は体の縦の線にそっているが、左手の手首は若干それている。手の動きを肩帯がエネルギーに助けているので、肩のゆれがひどく認められる。その際、腰はいつも安定した位置を保っている。手はたえず“追い越す”ように働いている、一つの手がキャッチしている時に、他の手はすでに水につかっている。山中の足は膝関節でよく曲り、また伸びて“ペダルのように”だといえる。手は6ビートに1回である。普通、選手は吸期に足を“引きずる”が、彼は呼期の時にする。山中は左手で呼吸をし、キャッチの終わりにすばやく吸いこむ。

山中は非常に勤勉であり、自分のテクニックを磨くことにあまることがない。彼は小柳コーチを非常に信頼しており、1957年から彼の指導を受けてその指示にはすずて反対せず従っている。また山中は現在日本の選手団の第1人者ではあるが、非常に謙虚である。

当分日本では山中に匹敵する相手はいないが、若い選手たちは非常に早い進歩をしている。私にはこのことを日本選手権大会で見ることができた。試合は個人単位であったが、500人以上が参加し、プログラムは多く、オリンピック種目の他に女子200, 800m F, 男子100m バタ、とプレストなどがあった。

予選は1日で全部終了し、朝10時より夜9時まで行われた。選手は少ない休息時間で相当の巨難を泳いでいる。これはすべて悪い気候条件下であり、湿度は高く、気温は日蔭で+31から+37度、プールの水温は26～27.5度であった。

それでも日本の選手たちは高度な技術を示した。大会では1世界新記録、5日本新記録、若干の少年（高校）新記録が作られた。特徴的なことは男子決勝の記録が非常に接近していることである。

若干のレースの1着と6着の記録を示してみよう。

(48以下頁へ続く)

日・米・伯・亞 国際水上競技大会 (大阪)

8月3日4日 大阪プール(50m)公認

100m 自由形		4 浦 満広 (八幡製鉄) 9:40.4	2 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:18.4	
1 ドス・サントス		5 梶山 稔 (日本鋼管) 9:55.3	3 ルイス・ニコラオ	
(ブラジル) 55.0		100m 平 泳		
2 スチーブ・クラーク		1 チエット・ジャストレムスキー	(アルゼンチン) 2:20.4	
(アメリカ) 56.0		(アメリカ) 1:09.8	4 増永 文昭 (西田病院) 2:22.4	
3 石原 勝記 (BSタイヤ) 57.0		(世界新)	5 古川治一郎 (宇部興産) 2:28.9	
4 ロイ・サアリ (アメリカ) 57.0		2 重松 盛人 (八幡製鉄) 1:12.8	100m 背 泳	
5 近藤 至男 (勝村建設) 59.1		3 中野 勇治 (宇部興産) 1:13.7	1 トム・ストック	
6 山本 新吾 (東邦商会) 59.6		4 坪田 充功 (日本鋼管) 1:13.7	(アメリカ) 1:02.3	
7 白井 克郎 (旭化成) 59.8		5 名倉 健蔵 (BSタイヤ) 1:14.7	2 富田 一雄 (BSタイヤ) 1:04.4	
8 中間 勉 (BSタイヤ) 1:01.4		6 永井 正員 (東京日産自) 1:15.4	3 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 1:05.1	
200m 自由形		200m 平 泳		
1 山中 毅 (大洋漁業) 2:01.4		1 チエット・ジャストレムスキー		
2 福井 誠 (八幡製鉄) 2:02.2		(アメリカ) 2:34.7	1 トム・ストック	
3 スチーブ・クラーク		(世界新)	(アメリカ) 2:13.3	
(アメリカ) 2:04.6		2 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:36.3	(世界新)	
4 石原 勝記 (BSタイヤ) 2:06.5		(世界新)	2 富田 一雄 (BSタイヤ) 2:21.0	
5 マイク・トロイ		3 坪田 充功 (日本鋼管) 2:42.7	3 中原 紀 (八幡製鉄) 2:22.8	
(アメリカ) 2:09.4		4 中野 勇治 (宇部興産) 2:43.5	4 酒井 良明 (BSタイヤ) 2:29.0	
6 中間 勉 (BSタイヤ) 2:12.7		5 小寺 隆昭 (尼崎北高) 2:44.2	5 渡辺 和夫 (東京トヨベ) 2:29.6	
400m 自由形		6 名倉 健蔵 (BSタイヤ) 2:45.0	800m リレー	
1 山中 毅 (大洋漁業) 4:18.2		100m バタフライ		
1:00.0 2:05.2 3:11.0		1 ルイス・ニコラオ	1 山中・石原・庄司・福井	
2 福井 誠 (八幡製鉄) 4:28.0		(アルゼンチン) 1:00.0	(日本選抜) 8:16.2	
3 ロイ・サアリ (アメリカ) 4:35.6		2 マイク・トロイ	2 トロイ・クラーク・サントス・	
4 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 4:39.0		(アメリカ) 1:01.2	サアリ (米伯混成) 8:22.6	
5 浦 満広 (八幡製鉄) 4:41.2		3 佐藤 好助 (八幡製鉄) 1:02.6	400m メドレーリレー	
6 梶山 稔 (日本鋼管) 4:49.8		4 増永 文昭 (西田病院) 1:03.2	1 スtock・ジャストレムスキー・	
800m 自由形		5 古川治一郎 (宇部興産) 1:06.6	トロイ・クラーク	
1 ロイ・サアリ (アメリカ) 9:09.8		200m バタフライ		
2 山中 毅 (大洋漁業) 9:10.3		1 マイク・トロイ	(アメリカ) 4:08.0	
3 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 9:30.8		(アメリカ) 2:16.7	2 富田・重松・佐藤・石原	
			(日本選抜) 4:15.7	

日・米親善水上競技大会 (名古屋)

8月6日 振甫プール(50m)公認

気温 29° 水温 26°

100m 自由形		2 スチーブ・クラーク	4 近藤 至男 (勝村建設) 59.6
1 ドス・サントス		(アメリカ) 55.6	5 中間 勉 (BSタイヤ) 1:00.6
(ブラジル) 55.3		3 石原 勝記 (BSタイヤ) 56.7	6 白井 克郎 (旭化成) 1:00.7

- 7 亀蔦 輝雄 (中京商) 1:02.8
200m 自由形
 1 山中 毅 (大洋漁業) 2:01.1
 2 福井 誠 (八幡製鉄) 2:04.6
 3 ロイ・サアリ (アメリカ) 2:06.8
 4 加藤 太郎 (中京商) 2:18.2
800m 自由形
 1 ロイ・サアリ (アメリカ) 9:38.2
 2 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 9:43.4
 3 浦 満広 (八幡製鉄) 9:47.0
 4 靱山 稔 (日本鋼管) 10:00.7
 5 大池 巖 (愛知高) 10:02.4
 6 清水 清彦 (中京商) 10:20.0
200m 平 泳
 1 チェット・ジャストレムスキー (アメリカ) 2:36.0 (世界新)
 2 重松 盛人 (八幡製鉄) 2:37.5
 3 中野 勇治 (宇部興産) 2:43.4

- 4 坪田 充功 (日本鋼管) 2:45.0
 5 兵藤 正時 (長良高) 2:45.4
 6 名倉 健蔵 (BSタイヤ) 2:46.8
 7 成田 洋二 (中京商) 2:48.5
 8 木村 弘次 (四日市高) 2:49.0
200m バタフライ
 1 マイク・トロイ (アメリカ) 2:17.6
 2 増永 文昭 (西田病院) 2:19.2
 3 佐藤 好助 (八幡製鉄) 2:19.3
 4 ルイス・ニコラオ (アルゼンチン) 2:19.7
 5 古川治一郎 (宇部興産) 2:27.8
 6 伴 国雄 (中京商) 2:28.0
200m 背 泳
 1 トム・ストック (アメリカ) 2:14.5 (世界新)
 2 富田 一雄 (BSタイヤ) 2:20.9
 3 中原 紀 (八幡製鉄) 2:23.2

- 4 酒井 良明 (BSタイヤ) 2:28.0
 5 渡辺 和夫 (東京ト) 2:30.4
 6 角間 三雄 (輪島高) 2:34.0
 7 沢田 義勝 (長良高) 2:37.6
800m リレー
 1 庄司・福井・石原・山中 (日本A) 8:30.4
 2 サアリ・サントス・クラーク・トロイ (米伯混成) 8:41.5
 3 浦・靱山・中間・中原 (日本B) 8:56.0
400m メドレーリレー
 1 ストック・ジャストレムスキー・トロイ・クラーク (アメリカ) 4:12.2
 2 富田・重松・佐藤・近藤 (日本) 4:22.8
 3 沢田・兵藤・伴・亀蔦 (中部高校選抜) 4:35.0

日本高校選手権

8月18日 19日 20日 金沢市営プール(50m) 公認
 気温 26° 30° 29° 水温 25° 25° 24°

男子の部 100m 自由形

予選A

- 1 吉見 行雄 (日大豊山) 1:01.5
 2 松尾 清彦 (長崎東) 1:01.8
 3 堤 秀雄 (三 瀬) 1:01.8
 4 温井 鎮夫 (伊 東) 1:03.5

B

- 1 久保田宇利 (自由ヶ丘) 59.7
 2 杉山 彰 (成 蹊) 1:02.0
 3 堀川 俊一 (高知商) 1:02.3
 4 桑原 穰 (銚子水産) 1:03.5
 5 有馬 征 (天 理) 1:03.6

C

- 1 広木 邦昭 (朝 倉) 1:01.6
 2 吉田 英機 (多度津工) 1:01.6
 3 平島 昭治 (鳥取工) 1:03.5
 4 前田 正明 (桜 宮) 1:03.6

D

- 1 葉室 正孝 (鹿 本) 1:01.4

- 2 沢田 武 (四日市) 1:01.6
 3 西野 勝弘 (興誠商) 1:01.6
 4 岡本 顕 (大ノ田) 1:03.1
 5 浅野 興一 (中京商) 1:03.3

E

- 1 多和昭之進 (天王寺) 1:02.6
 2 小江 義昭 (三 瀬) 1:02.8
 3 石津 敏夫 (榛 原) 1:03.0
 4 原 万次郎 (大 島) 1:03.3

準決勝A

- 1 久保田宇利 (自由ヶ丘) 1:00.6
 2 広木 邦昭 (朝 倉) 1:01.8
 3 吉田 英機 (多度津工) 1:02.0
 4 堤 秀雄 (三 瀬) 1:02.2
 5 松尾 清彦 (長崎東) 1:02.2
 6 小江 義昭 (三 瀬) 1:02.6
 7 多和昭之進 (天王寺) 1:02.8

B

- 1 沢田 武 (四日市) 1:00.7
 2 杉山 彰 (成 蹊) 1:00.9

- 3 吉見 行雄 (日大豊山) 1:00.9
 4 葉室 正孝 (鹿 本) 1:01.2
 5 西野 勝弘 (興誠商) 1:02.0
 6 堀川 俊一 (高知商) 1:02.0
 7 石津 敏夫 (榛 原) 1:02.4

決勝

- 1 吉見 行雄 (日大豊山) 1:00.8
 2 久保田宇利 (自由ヶ丘) 1:00.8
 3 沢田 武 (四日市) 1:01.0
 4 杉山 彰 (成 蹊) 1:01.2
 5 葉室 正孝 (鹿 本) 1:01.2
 6 吉田 英機 (多度津工) 1:01.2
 7 広木 邦昭 (朝 倉) 1:01.3

200m 自由形

予選A

- 1 山川 泰男 (法政二) 2:15.8
 2 吉見 行雄 (日大豊山) 2:15.8
 3 加藤 太郎 (中京商) 2:16.1
 4 遠藤 憲行 (返子開成) 2:21.3
 5 宅川 精一 (天 理) 2:23.4

B

- 1 堤 秀雄 (三 瀨) 2:17.8
- 2 堀川 俊一 (高知商) 2:17.9
- 3 尾形 俊樹 (浜松商) 2:24.3
- 4 岡野 凱夫 (土 佐) 2:25.1
- 5 多和昭之進 (天王寺) 2:25.9

C

- 1 久保田宇利 (自由ヶ丘) 2:15.5
- 2 吉田 英機 (多度津工) 2:18.4
- 3 石津 敏夫 (榛 原) 2:21.2
- 4 沢田 末隆 (八代商) 2:22.5
- 5 森沢秀太郎 (高 知) 2:25.7
- 6 安岡 博臣 (高知商) 2:26.6

D

- 1 西野 勝弘 (興誠商) 2:17.5
- 2 向井 岩喜 (諫早商) 2:20.5
- 3 鈴木 孝治 (磐田農) 2:20.5
- 4 仲矢 昌夫 (佐伯鶴城) 2:21.5
- 5 高橋 和雄 (高知商) 2:23.4
- 6 萩原 伸吾 (尾道商) 2:28.1

E

- 1 広木 邦明 (朝 倉) 2:16.7
- 2 沢田 武 (四日市) 2:18.4
- 3 上村 政之 (姫工大付) 2:18.5
- 4 佐藤 博 (法政二) 2:20.1
- 5 岡本 顕 (大 田) 2:20.1
- 6 平島 昭治 (鳥取工) 2:22.9

F

- 1 杉山 彰 (成 蹊) 2:19.3
- 2 小江 義昭 (三 瀨) 2:20.2
- 3 村田 稔彦 (天 理) 2:20.8
- 4 中井 勝 (五 条) 2:22.7
- 5 岩重 和夫 (岩 国) 2:23.5
- 6 上出 勲 (上 宮) 2:23.8

決勝

- 1 久保田宇利 (自由ヶ丘) 2:13.6
- 2 山川 泰男 (法政二) 2:16.2
- 3 吉見 行雄 (日大豊山) 2:17.0
- 4 西野 勝弘 (興誠商) 2:17.2
- 5 加藤 太郎 (中京商) 2:18.3
- 6 吉田 英機 (多度津工) 2:18.7
- 7 堤 秀雄 (三 瀨) 2:19.0
- 8 堀川 俊一 (高知商) 2:20.3
- 9 広木 邦昭 (朝 倉) 2:21.7

400m 自由形

予選A

- 1 長野 優 (三 瀨) 4:50.3
- 2 清水 清彦 (中京商) 4:59.7
- 3 山田 博昭 (日大豊山) 5:00.5
- 4 杉山 禎彦 (天 理) 5:00.8
- 5 中村 信昭 (高松工芸) 5:03.0

B

- 1 笠井 利昭 (大 阪) 4:54.5
- 2 上村 政之 (姫工大付) 5:00.8
- 3 向井 岩喜 (諫早商) 5:02.0
- 4 村田 稔彦 (天 理) 5:05.8
- 5 高橋 和雄 (高知商) 5:06.7

C

- 1 山田 忠信 (小松実) 4:53.0
- 2 宮本 勝弘 (法政二) 5:00.7
- 3 仲矢 昌夫 (佐伯鶴城) 5:01.9
- 4 三宅 明夫 (観音寺商) 5:03.3
- 5 岩村 和平 (姫工大付) 5:04.2

D

- 1 丸井 久人 (日大豊山) 4:52.7
- 2 高橋 豊 (浜松商) 4:59.8
- 3 沢田 末隆 (八代商) 5:01.0
- 4 遠藤 憲行 (逗子開成) 5:04.9
- 5 中村 宏複 (天王寺) 5:09.8

E

- 1 藤丸 靖久 (三 瀨) 4:55.6
- 2 重永 義則 (熊本工) 4:56.2
- 3 松波 守 (中京商) 5:00.9
- 4 山田 兼三 (瀬戸田) 5:07.2

F

- 1 大池 巖 (愛 知) 4:56.5
- 2 加藤 太郎 (中京商) 4:56.5
- 3 白井 正剛 (逗子開成) 5:03.2
- 4 中田研太郎 (大 田) 5:06.5

決勝

- 1 長野 優 (三 瀨) 4:44.9
- 2 山田 忠信 (小松実) 4:51.1
- 3 大池 巖 (愛 知) 4:52.8
- 4 笠井 利昭 (大 阪) 4:53.1
- 5 丸井 久人 (日大豊山) 4:54.1
- 6 重永 義則 (熊本工) 4:55.5
- 7 加藤 太郎 (中京商) 5:00.7
- 8 藤丸 靖久 (三 瀨) 5:01.1
- 9 清水 清彦 (中京商) 5:02.3

1500m 自由形

予選A

- 1 長野 優 (三 瀨) 19:15.8

- 2 清水 清彦 (中京商) 20:05.4
- 3 宮本 勝弘 (法政二) 20:14.4
- 4 芦刈 功 (鎮 西) 20:18.5
- 5 中村 信明 (高松工芸) 20:19.1
- 6 沢田 豊治 (魚 津) 20:58.2

B

- 1 山田 忠信 (小松実) 19:37.4
- 2 丸井 久人 (日大豊山) 19:42.8
- 3 松波 守 (中京商) 20:04.8
- 4 堤 信典 (中大杉並) 20:26.6

C

- 1 大池 巖 (愛 知) 19:48.3
- 2 藤丸 靖久 (三 瀨) 19:49.2
- 3 渡辺 正信 (角 田) 20:06.3
- 4 高橋 豊 (浜松商) 20:17.7
- 5 福森 立身 (福 山) 20:29.8
- 6 梅本 三郎 (伊 都) 20:52.5

D

- 1 重永 義則 (熊本工) 19:47.0
- 2 杉山 禎彦 (天 理) 19:58.4
- 3 久保 勉 (田 辺) 20:18.6
- 4 水田 敬司 (尾道商) 20:39.9
- 5 田原 雅尚 (柳井商工) 20:48.8

E

- 1 笠井 利昭 (大 阪) 19:45.8
- 2 白井 正剛 (逗子開成) 20:11.0
- 3 岩村 和平 (姫路工大) 20:11.9
- 4 加藤 和春 (東 山) 20:48.7

決勝

- 1 長野 優 (三 瀨) 18:57.2
- 2 山田 忠信 (小松実) 19:01.5
- 3 丸井 久人 (日大豊山) 19:33.5
- 4 藤丸 靖久 (三 瀨) 19:40.1
- 5 大池 巖 (愛 知) 19:54.0
- 6 重永 義則 (熊本工) 19:55.6
- 7 杉山 禎彦 (天 理) 20:04.6
- 8 松波 守 (中京商) 20:09.1
- 9 笠井 利昭 (大 阪) 20:17.9

100m 平 泳

予選A

- 1 栗林 徳治 (五 条) 1:16.9
- 2 古屋 英昭 (諫早商) 1:17.6
- 3 吉田 正昭 (臼 杵) 1:18.8
- 4 梅村 晃司 (浜松商) 1:19.1
- 5 渡辺 英世 (国士館) 1:20.0

B

- 1 重松 親征 (朝倉農) 1:16.6
- 2 山田 清 (八代東) 1:16.6
- 3 鈴木 欽次 (磐田農) 1:16.8
- 4 脇内 竹則 (天理) 1:17.6

C

- 1 小寺 隆昭 (尼崎北) 1:17.3
- 2 加根魯純二 (八代商) 1:18.5
- 3 坂井 元次 (三瀨) 1:18.9
- 4 折戸 博 (桜宮) 1:19.9

D

- 1 成田 洋二 (中京商) 1:17.8
- 2 西前 彰一 (天理) 1:17.9
- 3 田中 章元 (法政二) 1:18.1
- 4 山本 浩 (日本学園) 1:19.6

E

- 1 兵藤 正時 (長良) 1:16.5
- 2 木村 弘次 (四日市) 1:18.2
- 3 川島 勇 (磐田農) 1:19.5
- 4 栗屋幸一郎 (岩国) 1:19.8

準決勝A

- 1 兵藤 正時 (長良) 1:17.6
- 2 栗林 徳治 (五条) 1:17.9
- 3 鈴木 欽次 (磐田農) 1:18.4
- 4 成田 洋二 (中京商) 1:18.4
- 5 木村 弘次 (四日市) 1:18.5
- 6 脇内 竹則 (天理) 1:18.5
- 7 加根魯純二 (八代商) 1:19.4

B

- 1 重松 親征 (朝倉農) 1:16.5
- 2 西前 彰一 (天理) 1:17.3
- 3 田中 章元 (法政二) 1:17.6
- 4 小寺 隆昭 (尼崎北) 1:18.1
- 5 山田 清 (八代商) 1:18.6
- 6 吉田 正明 (臼杵) 1:19.0
- 7 古屋 英昭 (諫早商) 1:19.6

決勝

- 1 重松 親征 (朝倉農) 1:16.6
- 2 小寺 隆昭 (尼崎北) 1:17.5
- 3 栗林 徳治 (五条) 1:18.0
- 4 西前 彰一 (天理) 1:18.0
- 5 田中 章元 (法政二) 1:18.1
- 6 兵藤 正時 (長良) 1:19.0
- 7 鈴木 欽次 (磐田農) 1:19.1

200m 平 泳

予選A

- 1 兵藤 正時 (長良) 2:45.7

- 2 山田 清 (八代東) 2:46.2
- 3 古屋 英昭 (諫早商) 2:47.3
- 4 溝脇 国和 (伊都) 2:52.2
- 5 梅村 晃司 (浜松商)

B

- 1 西前 彰一 (天理) 2:47.7
- 2 小寺 隆昭 (尼崎北) 2:47.8
- 3 折戸 博 (桜宮) 2:51.0
- 4 花輪 生雄 (山形南) 2:51.3
- 5 山本 浩 (日本学園) 2:52.7

C

- 1 平川弘三郎 (鎮西) 2:48.4
- 2 吉田 正明 (臼杵) 2:48.6
- 3 前田 治 (天理) 2:50.3
- 4 蓮池 正弘 (修徳) 2:52.9

D

- 1 成田 洋二 (中京商) 2:47.4
- 2 重松 親征 (朝倉農) 2:47.4
- 3 田中 章元 (法政二) 2:50.8
- 4 加根魯純二 (八代商) 2:51.6
- 5 高安 敏之 (磐田農) 2:52.7

E

- 1 鈴木 欽次 (磐田農) 2:44.7
- 2 木村 弘次 (四日市) 2:48.1
- 3 阪中 竜夫 (伊都) 2:50.7

決勝

- 1 重松 親征 (朝倉農) 2:45.1
- 2 小寺 隆昭 (尼崎北) 2:46.2
- 3 兵藤 正時 (長良) 2:48.0
- 4 山田 清 (八代東) 2:48.2
- 5 西前 彰一 (天理) 2:49.0
- 6 古屋 英昭 (諫早商) 2:49.3
- 7 鈴木 欽次 (磐田農) 2:49.8
- 8 成田 洋二 (中京商) 2:50.9
- 9 木村 弘次 (四日市) 2:52.4

100m バタフライ

予選A

- 1 大賀 睦郎 (八代東) 1:02.9
- 2 小手川 達 (臼杵) 1:05.4
- 3 遠藤 英康 (日大豊山) 1:05.8
- 4 馬場 満男 (修道) 1:06.5
- 5 小泉豊太郎 (甲府商) 1:07.8

B

- 1 甲斐田茂男 (三瀨) 1:06.2
- 2 新井 沐 (天理) 1:06.9
- 3 斎藤 勝 (伊東) 1:07.8

- 4 川村 邦彦 (日大豊山) 1:10.0

C

- 1 中村 康博 (鳥取東) 1:05.7
- 2 乾野 正之 (天理) 1:06.9
- 3 管 隆則 (佐伯鶴城) 1:07.0
- 4 田村 温 (岩国) 1:07.0

D

- 1 松田 磨 (佐伯鶴城) 1:05.9
- 2 伊藤 武夫 (甲府工) 1:08.3
- 3 北村 慶二 (諫早商) 1:08.6
- 4 五味 宗一 (尾鷲) 1:09.1

- 5 星川 勲敬 (磐田農) 1:09.8
- 6 石井 享 (日大豊山) 1:09.9

E

- 1 伴 国雄 (中京商) 1:05.2
- 2 中村 征春 (伊都) 1:07.7
- 3 近野 憲三 (都島工) 1:07.9

F

- 1 粕谷 敬 (安房) 1:05.5
- 2 大野 幸夫 (今治西定) 1:06.8
- 3 永井 成明 (東邦) 1:08.7

準決勝A

- 1 大賀 睦郎 (八代東) 1:02.8
- 2 中村 康博 (鳥取東) 1:05.7
- 3 甲斐田茂男 (三瀨) 1:06.2
- 4 粕谷 敬 (安房) 1:06.3
- 5 乾野 正之 (天理) 1:07.3
- 6 馬場 満男 (修道) 1:07.3
- 7 管 隆則 (佐伯鶴城) 1:07.3

B

- 1 伴 国雄 (中京商) 1:05.2
- 2 松田 磨 (佐伯鶴城) 1:06.1
- 3 遠藤 英康 (日大豊山) 1:06.4
- 4 新井 沐 (天理) 1:06.4
- 5 小手川 達 (臼杵) 1:06.9
- 6 田村 温 (岩国) 1:07.6
- 7 大野 幸夫 (今治西定) 1:08.1

決勝

- 1 大賀 睦郎 (八代東) 1:04.4
- 2 伴 国雄 (中京商) 1:04.9
- 3 中村 康博 (鳥取東) 1:05.4
- 4 松田 磨 (佐伯鶴城) 1:05.7
- 5 粕谷 敬 (安房) 1:06.3
- 6 遠藤 英康 (日大豊山) 1:07.0
- 7 甲斐田茂男 (三瀨) 1:07.8

200m バタフライ

予選A

- 1 中村 征春 (伊 都) 2:28.6
- 2 松田 磨 (佐伯鶴城) 2:31.9
- 3 岡本 秀夫 (水戸農) 2:35.1

B

- 1 新井 沐 (天 理) 2:32.9
- 2 中野 照良 (姫路工大付) 2:38.7
- 3 江本 正 (柳井商工) 2:39.0
- 4 川村 邦彦 (日大豊山) 2:40.9
- 5 船場 一幸 (鎮 西) 2:41.4

C

- 1 大賀 睦郎 (八代東) 2:28.5
- 2 管 隆則 (佐伯鶴城) 2:36.8
- 3 真部 国雄 (高松工芸) 2:37.3
- 4 桑原 征平 (京都外大西) 2:40.7
- 5 永井 成明 (東 邦) 2:41.4

D

- 1 伴 国雄 (中京商) 2:25.6
- 2 乾野 正之 (天 理) 2:33.4
- 3 星川 勲敬 (磐田農) 2:37.7
- 4 北野 尙武 (観音寺商) 2:41.7

E

- 1 遠藤 英康 (日大豊山) 2:30.6
- 2 北村 慶二 (諫早商) 2:31.0
- 3 粕谷 敬 (安 房) 2:32.0
- 4 伊藤 武夫 (甲府工) 2:37.6

F

- 1 中村 康博 (鳥取東) 2:29.9
- 2 田村 温 (岩 国) 2:31.2
- 3 小池 康隆 (諫早商) 2:38.5
- 4 田中 恒夫 (修 徳) 2:38.5
- 5 宝勝 忠幸 (泉 丘) 2:42.3

決勝

- 1 伴 国雄 (中京商) 2:26.4
- 2 中村 征春 (伊 都) 2:27.4
- 3 中村 康博 (鳥取東) 2:30.9
- 4 松田 磨 (佐伯鶴城) 2:31.2
- 5 田村 温 (岩 国) 2:31.2
- 6 大賀 睦郎 (八代東) 2:31.8
- 7 粕谷 敬 (安 房) 2:32.5
- 8 北村 慶二 (諫早商) 2:36.3
- 9 遠藤 英康 (日大豊山) 2:36.3

100m 背 泳

予選A

- 1 林 祐士郎 (諫早商) 1:07.9

- 2 三木 隆二 (八代東) 1:10.2
- 3 山田 正剛 (日大三島) 1:10.7
- 4 角間 三雄 (輪 島) 1:10.9
- 5 辻野 公二 (天王寺) 1:11.4
- 6 筑井 国勝 (豊 津) 1:11.9

B

- 1 三杉 庄治 (天 理) 1:09.0
- 2 鈴木 勝幸 (中大杉並) 1:10.4
- 3 沢田 義勝 (長 良) 1:11.2
- 4 清水 正一 (法政二) 1:11.7
- 5 中本 明邦 (岩 国) 1:12.6

C

- 1 井上富美造 (東 山) 1:09.8
- 2 加藤 泰三 (浜松西) 1:10.0
- 3 光本 市郎 (山 鹿) 1:11.3
- 4 宮崎 勝利 (天 理) 1:13.0

D

- 1 浜砂 昭光 (向 洋) 1:09.6
- 2 青木 守喬 (日大豊山) 1:11.4

E

- 1 田中 広征 (伝習館) 1:09.4
- 2 山影 武士 (関 西) 1:11.2
- 3 木下 豊和 (東 山) 1:11.6
- 4 松田 史剛 (修 道) 1:12.1

準決勝A

- 1 林 祐士郎 (諫早商) 1:08.7
- 2 浜砂 昭光 (向 洋) 1:09.8
- 3 井上富美造 (東 山) 1:10.9
- 4 光本 市郎 (山 鹿) 1:11.3
- 5 鈴木 勝幸 (中大杉並) 1:11.6
- 6 山影 武士 (関 西) 1:12.0
- 7 山田 正剛 (日大三島) 1:12.5

B

- 1 加藤 泰三 (浜松西) 1:09.8
- 2 三杉 庄治 (天 理) 1:10.1
- 3 田中 広征 (伝習館) 1:10.5
- 4 角間 三雄 (輪 島) 1:10.5
- 5 三木 隆二 (八代東) 1:10.5
- 6 沢田 義勝 (長 良) 1:11.5
- 7 青木 守喬 (日大豊山) 1:11.7

決勝

- 1 井上富美造 (東 山) 1:09.1
- 2 田中 広征 (伝習館) 1:09.2
- 3 林 祐四郎 (諫早商) 1:09.2
- 4 加藤 泰三 (浜松西) 1:09.6
- 5 浜砂 昭光 (向 洋) 1:09.8

- 6 三杉 庄治 (天 理) 1:09.8
- 7 角間 三雄 (輪 島) 1:10.2

200m 背 泳

予選A

- 1 三杉 庄治 (天 理) 2:30.8
- 2 宮良 高志 (日大豊山) 2:33.6
- 3 光本 市郎 (山 鹿) 2:37.0
- 4 辻野 公二 (天王寺) 2:38.1
- 5 木下 豊和 (東 山) 2:38.8
- 6 杉山 悟 (磐田農) 2:40.3

B

- 1 林 祐士郎 (諫早商) 2:29.0
- 2 角間 三雄 (輪 島) 2:32.0
- 3 鈴木 勝幸 (中大杉並) 2:34.4
- 4 松田 史剛 (修 道) 2:36.2
- 5 小山 敏行 (日大豊山) 2:39.1

C

- 1 浜砂 昭光 (向 洋) 2:30.0
- 2 加藤 泰三 (浜松商) 2:34.5
- 3 三木 隆二 (八代東) 2:34.9
- 4 筑井 国勝 (豊 洋) 2:36.5
- 5 合田 佳弘 (高 知) 2:37.7
- 6 飯守 一郎 (伊 都) 2:41.4

D

- 1 田中 広征 (伝習館) 2:31.5
- 2 清水 正一 (法政二) 2:34.9
- 3 井上富美造 (東 山) 2:36.1
- 4 山影 武士 (関 西) 2:39.5
- 5 宮崎 勝利 (天 理) 2:39.9
- 6 丹地 保堯 (盈進商) 2:43.5

E

- 1 沢田 義勝 (長 良) 2:33.9
- 2 山田 正剛 (日大三島) 2:34.2
- 3 中本 明邦 (岩 国) 2:36.6
- 4 渡辺 勲 (柳井商工) 2:36.0
- 5 青本 守喬 (日大豊山) 2:39.4

決勝

- 1 林 祐士郎 (諫早商) 2:29.0
- 2 三杉 庄治 (天 理) 2:29.7
- 3 角間 三雄 (輪 島) 2:31.1
- 4 田中 広征 (伝習館) 2:31.4
- 5 浜砂 昭光 (向 洋) 2:31.7
- 6 宮良 高志 (日大豊山) 2:34.2
- 7 山田 正剛 (日大三島) 2:34.5
- 8 鈴木 勝幸 (中大杉並) 2:36.3
- 9 沢田 義勝 (長 良) 2:38.2

400m リレー

予選A

- 1 長野・甲斐田・藤丸・堤
(三 瀨) 4:10.0
- 2 松井・鈴木・牧野・河村
(磐 田 農) 4:17.6
- 3 小川・神初・杉山・別所
(成 蹊) 4:20.9
- 4 下津・西出・松田・石井
(和歌山商) 4:21.3
- 5 高橋・安岡・十万・堀川
(高 知 商) 4:22.9

B

- 1 亀葛・伴・加藤・浅野
(中 京 商) 4:09.6
- 2 青木・泉田・野中・葉室
(鹿 本) 4:13.9
- 3 西・大宮・小林・笠井
(大 阪) 4:20.2
- 4 浜元・相賀・杉江・杉村
(都 島 工) 4:22.2
- 5 小路・宮本・川本・山田
(瀬 戸 田) 4:22.5
- 6 遠藤・白井・清水・中村
(逗子開成) 4:23.5

C

- 1 丸井・加藤・山田・吉見
(日大豊山) 4:12.9
- 2 松井・鹿内・松田・仲矢
(佐伯鶴城) 4:13.1
- 3 林・小池・吉田・向井
(諫 早 商) 4:18.4
- 4 加藤・井上・草川・池田
(東 山) 4:18.7
- 5 角田・中田・古谷・岡木
(大 田) 4:20.3
- 6 安藤・吉田(要)・三島・吉田(英)
(多度津工) 4:23.6

D

- 1 有馬・木村・杉山・宅川
(天 理) 4:14.1
- 2 三木・大賀・田辺・井上
(八 代 東) 4:17.3
- 3 寺田・加藤・横山・菊地
(浜 松 北) 4:20.2
- 4 境・西田・加根魯・沢田

(八 代 商) 4:22.0

E

- 1 山川・佐藤・宮本・石村
(法 政 二) 4:14.6
- 2 尾形・高橋・平田・松浦
(浜 松 商) 4:17.7
- 3 上村・西川・岩村・堀内
(姫路工大付) 4:20.4
- 4 岡本・百々・森沢・浜田
(高 知) 4:21.8
- 5 岩本・中村・田原・渡辺
(柳井商工) 4:23.8
- 6 温井・斎藤・岩沢・森下
(伊 東) 4:25.0

決勝

- 1 長野・甲斐田・小江・堤
(三 瀨) 4:05.4
- 2 亀葛・伴・加藤・浅野
(中 京 商) 4:09.3
- 3 遠藤・丸井・山田・吉見
(日大豊山) 4:11.5
- 4 有馬・木村・杉山・宅川
(天 理) 4:13.5
- 5 山川・佐藤・石村・宮本
(法 政 二) 4:13.7
- 6 松井・鹿内・松田・仲矢
(佐伯鶴城) 4:13.9
- 7 青木・泉田・野中・葉室
(鹿 本) 4:14.8
- 8 三木・田辺・井上・大賀
(八 代 東) 4:15.8
- 9 鈴木・松井・牧野・河村
(磐 田 農) 4:19.9

800m リレー

予選A

- 1 長野・堤・小江・藤丸
(三 瀨) 9:23.6
- 2 仲矢・松井・松田・鹿内
(佐伯鶴城) 9:31.2
- 3 加藤・草刈・井上・池田
(東 山) 9:39.3
- 4 吉川・吉田・向井・林
(諫 早 商) 9:40.2
- 5 中田・角田・古谷・岡本
(大 田) 9:52.4

B

- 1 加藤・松波・亀葛・浅野
(中 京 商) 9:24.5
- 2 泉田・青木・野中・葉室
(鹿 本) 9:38.8
- 3 杉村・原・相賀・杉江
(都 島 工) 9:46.4
- 4 姫野・横川・早川・堤
(中大杉並) 9:52.0
- 5 浜田・百々・岡本・森沢
(高 知) 9:57.5

C

- 1 木村・有馬・村田・宅川
(天 理) 9:26.8
- 2 岩本・中村・田原・渡辺
(柳井商工) 9:40.8
- 3 遠藤・白井・清水・中村
(逗子開成) 9:42.5
- 4 安岡・高橋・十万・堀川
(高 知 商) 9:44.4
- 5 向・梅本・応長・西畑
(伊 都) 9:51.5
- 6 吉田・安藤・三枝・山本
(多度津工) 9:52.8

D

- 1 松井・河村・青山・鈴木
(磐 田 農) 9:32.3
- 2 高橋・尾形・平田・松浦
(浜 松 商) 9:34.6
- 3 加藤・寺田・横山・菊地
(浜 松 北) 9:43.4
- 4 上村・城尾・堀内・岩村
(姫路工大付) 9:46.4
- 5 宇田・田中・小林・野崎
(修 徳) 9:50.5
- 6 笠井・植村・西・大宮
(大 阪) 9:55.4

E

- 1 宮本・山川・佐藤・高木
(法 政 二) 9:23.5
- 2 丸井・山田・小島・吉見
(日大豊山) 9:24.2

決勝

- 1 長野・小江・藤丸・堤
(三 瀨) 9:12.1
- 2 遠藤・山田・丸井・吉見
(日大豊山) 9:20.9

- 3 加藤・清水・亀薦・浅野
(中京商) 9:25.2
- 4 仲矢・松井・松田・鹿内
(佐伯鶴城) 9:26.3
- 5 木村・村田・杉山・宅川
(天理) 9:26.4
- 6 山川・佐藤・宮本・高木
(法政二) 9:28.9
- 7 高橋・尾形・松浦・平田
(浜松商) 9:37.8
- 8 青木・葉室・泉田・野中
(鹿本) 9:42.4
- 9 松井・河村・青山・鈴木
(磐田農) 9:44.2

400mメドレーリレー

予選A

- 1 三杉・平野・新井・木村
(天理) 4:36.8
- 2 若林・成田・伴・亀薦
(中京商) 4:38.2
- 3 清水・田中・佐藤・山川
(法政二) 4:41.2
- 4 合田・山崎・武市・百々
(高知) 4:53.4
- 5 鈴木・梅村・今井・平田
(浜松商) 4:57.6

B

- 1 林・古屋・北村・向井
(諫早商) 4:36.6
- 2 杉山・鈴木(欽)・星川・鈴木(孝)
(磐田農) 4:41.8
- 3 中本・栗屋・田村・岩重
(岩国) 4:42.6
- 4 岡本・渡辺・大塩・斎藤
(国士館) 4:50.9
- 5 水坂・栗林・梅本・中井
(五条) 4:52.6
- 6 北村・森・渡辺・高橋
(日大一) 4:59.1

C

- 1 成清・高島・甲斐田・堤
(三瀨) 4:41.4
- 2 辻野・児玉・高砂・多和
(天王寺) 4:45.0
- 3 井上・溝川・岸田・池田
(東山) 4:51.8

- 4 大堀・加根魯・境・沢田
(八代商) 4:55.4
- D

- 1 三木・山田・大賀・田辺
(八代東) 4:36.4
- 2 篠原・児玉・松田・松井
(佐伯鶴城) 4:42.7
- 3 中田・蓮池・田中・宇田
(修徳) 4:43.4
- 4 岸上・山本・近野・相賀
(都島工) 4:52.6
- 5 川本・池田・橋本・宮本
(瀬戸田) 4:57.8

E

- 1 青木・山田・遠藤・吉見
(日大豊山) 4:34.7
- 2 松崎・吉田・小手川・森下
(臼杵) 4:40.1
- 3 飯守・坂中・中村・向
(伊都) 4:51.2

決勝

- 1 三木・山田・大賀・井上
(八代東) 4:35.6
- 2 青木・山田・遠藤・吉見
(日大豊山) 4:37.1
- 3 若林・成田・伴・亀薦
(中京商) 4:38.0
- 4 成清・高島・甲斐田・堤
(三瀨) 4:38.3
- 5 林・古屋・小池・向井
(諫早商) 4:38.6
- 6 三杉・平野・新井・有馬
(天理) 4:38.6
- 7 松崎・吉田・小手川・森下
(臼杵) 4:42.7
- 8 杉山・鈴木(欽)・星川・鈴木(孝)
(磐田農) 4:45.3
- 9 清水・田中・佐藤・山川
(法政二) 4:47.9

得点

- 1 三瀨 34点
- 2 日大豊山 33"
- 3 中中商 27"
- 4 八代東 18"
- 5 天理 17"
- 6 諫早商 14"

- 7 朝倉農 14点
- 8 自由ヶ丘 12"
- 9 佐伯鶴城 10"
- 10 法政二 10"
- 11 小松実 10"
- 12 尼ヶ崎北 10"

女子の部

100m自由形

予選A

- 1 辻本 妙子 (五条) 1:11.2
- 2 飯田キヌエ (朝羽) 1:15.3
- 3 野村 倭子 (淑徳) 1:16.9
- 4 服部千賀子 (栢山) 1:17.9
- 5 高橋 勝子 (松蔭女) 1:19.8
- 6 土屋 節子 (二階堂) 1:19.8

B

- 1 小畑 昭子 (筑紫女) 1:13.5
- 2 正木 和子 (松蔭女) 1:15.3
- 3 殿上 玲子 (成女) 1:16.9
- 4 村北美恵子 (大垣) 1:19.3

C

- 1 小島寿美子 (横浜学) 1:14.7
- 2 釜堀 福子 (朝羽) 1:14.9
- 3 玉木 良枝 (成女) 1:16.0
- 4 原田美弥子 (成蹊) 1:17.1
- 5 飯尾千恵子 (信愛) 1:18.4

D

- 1 東 美代子 (五条) 1:13.2
- 2 林 恵美子 (信愛) 1:13.7
- 3 田崎 栄子 (八代東) 1:14.4
- 4 村上 容子 (土佐女) 1:16.3
- 5 戸田 史 (成女) 1:17.1

E

- 1 大岩 香苗 (栢山) 1:14.0
- 2 大坪 光子 (朝羽) 1:16.8
- 3 河田八重子 (竹原) 1:17.4

準決勝A

- 1 辻本 妙子 (五条) 1:11.0
- 2 大岩 香苗 (栢山) 1:13.8
- 3 釜堀 福子 (朝羽) 1:13.9
- 4 林 恵美子 (信愛) 1:13.9
- 5 大坪 光子 (朝羽) 1:16.2
- 6 飯田キヌエ (") 1:16.2
- 7 村上 容子 (土佐) 1:16.6

B

- 1 東 美代子 (五 条) 1:11.9
- 2 小畑 昭子 (筑 紫 女) 1:12.5
- 3 田崎 栄子 (八 代 東) 1:15.5
- 4 殿上 玲子 (成 女) 1:16.1
- 5 小島寿美子 (横 浜 学) 1:16.1
- 6 玉木 良枝 (成 女) 1:16.4
- 7 正木 和子 (松 蔭 女) 1:17.3

決勝

- 1 辻本 妙子 (五 条) 1:10.0
- 2 東 美代子 (") 1:12.4
- 3 大岩 香苗 (梶 山) 1:12.6
- 4 小畑 昭子 (筑 紫 女) 1:13.0
- 5 林 恵美子 (信 愛) 1:14.1
- 6 田崎 栄子 (八 代 東) 1:14.2
- 7 釜堀 福子 (朝 羽) 1:14.4

200m 自由形

予選A

- 1 小畑 昭子 (筑 紫 女) 2:40.5
- 2 野村 倭子 (淑 徳) 2:48.8
- 3 河田八重子 (竹 原) 2:53.7
- 4 高橋 勝子 (松 蔭 女) 2:57.4

B

- 1 釜堀 福子 (朝 羽) 2:46.6
- 2 小島寿美子 (横 浜 学) 2:48.4
- 3 正木 和子 (松 蔭 女) 2:54.2

C

- 1 辻本 妙子 (五 条) 2:44.5
- 2 大坪 光子 (朝 羽) 2:49.4
- 3 原田美弥子 (成 蹊) 2:51.2
- 4 服部 和子 (進 徳) 2:55.3
- 5 牧野 保子 (横 浜 学) 2:56.8

D

- 1 東 美代子 (五 条) 2:41.6
- 2 飯田キヌエ (朝 羽) 2:47.8
- 3 殿上 玲子 (成 女) 2:48.7
- 4 斎藤スサ江 (沼 田 女) 2:53.8
- 5 久保田泰子 (横 浜 学) 2:58.4

E

- 1 大岩 香苗 (梶 山) 2:44.9
- 2 田崎 栄子 (八 代 東) 2:45.0
- 3 藤原由美子 (天 理) 2:55.1
- 4 永井三枝子 (淑 徳) 2:55.5
- 5 土屋 節子 (二 階 堂) 2:56.1

決勝

- 1 小畑 昭子 (筑 紫 女) 2:38.6
- 2 東 美代子 (五 条) 2:40.8

- 3 辻本 妙子 (五 条) 2:42.0
- 4 大岩 香苗 (梶 山) 2:43.3
- 5 釜堀 福子 (朝 羽) 2:45.2
- 6 小島寿美子 (横 浜 学) 2:46.1
- 7 田崎 栄子 (八 代 東) 2:47.2
- 8 飯田キヌエ (朝 羽) 2:48.0
- 9 殿上 玲子 (成 女) 2:50.6

400m 自由形

予選A

- 1 江坂 君子 (梶 山) 5:23.9
- 2 角 和 (朝 羽) 2:52.3
- 3 鈴木ヒロ子 (天 理) 5:57.1
- 4 天野征矢子 (竹 原) 6:12.6
- 5 倉橋 睦子 (二 階 堂) 6:22.1
- 6 星野 楊 (沼 田 女) 6:24.7

B

- 1 木村トヨ子 (筑 紫 女) 5:32.4
- 2 青木いち子 (鹿 本) 5:48.3
- 3 飯尾千恵子 (信 愛) 5:59.3
- 4 西本 淑子 (五 条) 6:06.7
- 5 須賀 英子 (横 須 賀 大 津) 6:21.6
- 6 木村 晴美 (松 蔭 女) 6:23.3

C

- 1 高野 洋子 (淑 徳) 5:31.9
- 2 村上 容子 (土 佐 女) 5:53.6
- 3 矢野 柱子 (八 代 東) 5:55.5
- 4 後藤 章子 (五 条) 5:55.7
- 5 梅下 延子 (天 理) 6:02.1
- 6 武山 寿子 (成 女) 6:02.3
- 7 福島 和子 (山 鹿) 6:22.4

D

- 1 新子 正子 (五 条) 5:39.9
- 2 加藤 毬子 (淑 徳) 5:55.0
- 3 中野 厚子 (進 徳) 6:02.3
- 4 平山 治子 (成 女) 6:04.4
- 5 串岡 優美 (伏 木) 6:15.6

決勝

- 1 江坂 君子 (梶 山) 5:16.9
- 2 木村トヨ子 (筑 紫 女) 5:26.2
- 3 新子 正子 (五 条) 5:31.5
- 4 高野 洋子 (淑 徳) 5:35.2
- 5 角 和 (朝 羽) 5:52.4
- 6 村上 容子 (土 佐 女) 5:52.8
- 7 青木いち子 (鹿 本) 5:54.8
- 8 矢野 柱子 (八 代 東) 5:56.8
- 9 加藤 毬子 (淑 徳) 5:58.7

800m 自由形

予選A

- 1 江坂 君子 (梶 山) 11:21.0
- 2 後藤 章子 (五 条) 12:25.9
- 3 鈴木ヒロ子 (天 理) 12:38.3
- 4 天野征矢子 (竹 原) 13:03.5

B

- 1 木村トヨ子 (筑 紫 女) 11:20.0
- 2 青木いち子 (鹿 本) 11:52.8
- 3 平山 治子 (成 女) 12:50.9
- 4 福島 和子 (山 鹿) 13:02.7
- 5 岡本マサ子 (二 階 堂) 13:08.4

C

- 1 新子 正子 (五 条) 11:55.3
- 2 中野 厚子 (進 徳) 12:17.6
- 3 角 和 (朝 羽) 12:18.5
- 4 矢野 桂子 (八 代 東) 12:18.9
- 5 武山 寿子 (成 女) 12:38.0

D

- 1 高野 洋子 (淑 徳) 11:33.5
- 2 加藤 毬子 (") 12:14.6
- 3 梅下 延子 (天 理) 12:39.8
- 4 西本 淑子 (五 条) 12:46.8
- 5 須賀 英子 (横 須 賀 大 津) 13:09.7

決勝

- 1 江坂 君子 (梶 山) 10:59.2
- 2 木村トヨ子 (筑 紫 女) 11:09.4
- 3 新子 正子 (五 条) 11:22.2
- 4 高野 洋子 (淑 徳) 11:23.1
- 5 青木いち子 (鹿 本) 11:59.1
- 6 角 和 (朝 羽) 12:00.2
- 7 加藤 毬子 (淑 徳) 12:00.2
- 8 中野 厚子 (進 徳) 12:12.3
- 9 矢野 桂子 (八 代 東) 12:13.4

100m 平 泳

予選A

- 1 山本 憲子 (筑 紫 女) 1:28.8
- 2 磯村 昌子 (淑 徳) 1:30.5
- 3 浜野 増子 (佐 伯) 1:33.
- 4 佐藤 園子 (二 階 堂) 1:34.4
- 5 浜木 真弓 (瀬 戸 田) 1:36.5
- 6 山田 和美 (成 蹊) 1:36.7

B

- 1 吉岡 初衣 (帝 塚 山) 1:29.9
- 2 河合 和美 (淑 徳) 1:32.6
- 3 米倉富士子 (進 徳) 1:34.5

4 村島佐世子 (五 条) 1:35.4
5 中島 勝子 (佐藤学) 1:36.6

C

1 田中 清恵 (天 理) 1:28.9
2 松本 信子 (佐 伯) 1:31.6
3 服部加代子 (淑 徳) 1:32.6
4 田中 宏子 (信 愛) 1:34.2
5 宮内 舜子 (松 山 東) 1:34.4
6 野村 恵子 (鶴岡家政) 1:35.6
7 金山 進玉 (五 条) 1:35.9

D

1 岡本 玲子 (鳥 取 東) 1:28.4
2 大浜 邦子 (五 条) 1:32.5
3 水本 栄子 (成 徳) 1:33.7
4 今井 準子 (相 川) 1:34.0
5 那須田幸恵 (浜松市立) 1:36.7

E

1 山崎 幸子 (成 女) 1:30.3
2 岩井 一枝 (掛川西) 1:30.9
3 生田 敏子 (清水ヶ丘) 1:31.5
4 大谷 君子 (鳥 取 東) 1:34.3

準決勝A

1 岡本 玲子 (鳥 取 東) 1:28.6
2 山崎 幸子 (成 女) 1:29.0
3 吉岡 初衣 (帝塚山学) 1:30.0
4 松本 信子 (佐 伯) 1:30.8
5 生田 敏子 (清水ヶ丘) 1:31.3
6 浜野 増子 (佐 伯) 1:33.5
7 服部加代子 (淑 徳) 1:34.2

B

1 山本 憲子 (筑紫女) 1:27.6
2 磯村 昌子 (淑 徳) 1:29.5
3 田中 清恵 (天 理) 1:29.8
4 岩井 一枝 (掛川西) 1:31.1
5 河合 和美 (淑 徳) 1:32.7
6 水本 栄子 (成 徳) 1:34.7
7 大浜 邦子 (五 条) 1:34.7

決勝

1 山本 憲子 (筑紫女) 1:27.1
2 岡本 玲子 (鳥 取 東) 1:27.3
3 山崎 幸子 (成 女) 1:28.9
4 田中 清恵 (天 理) 1:29.6
5 磯村 昌子 (淑 徳) 1:30.0
6 松本 信子 (佐 伯) 1:30.9
7 吉岡 初衣 (帝塚山) 1:31.5

200m 平 泳

予選A

1 山本 憲子 (筑紫女) 3:07.3
2 生田 敏子 (清水ヶ丘) 3:08.9
3 山崎 幸子 (成 女) 3:12.7
4 岩井 一枝 (掛川西) 3:13.6
5 今井 準子 (相 川) 3:20.7
6 大谷 君子 (鳥 取 東) 3:23.3

B

1 吉岡 初衣 (帝塚山) 3:09.5
2 田中 清恵 (天 理) 3:10.5
3 秋山 幸子 (成 女) 3:17.8
4 河合 和美 (淑 徳) 3:19.2
5 垂水 昌子 (成 蹊) 3:24.9

C

1 磯村 昌子 (淑 徳) 3:12.1
2 浜野 増子 (佐 伯) 3:18.0
3 大浜 邦子 (五 条) 3:18.0
4 山田 和美 (成 蹊) 3:19.0
5 佐藤 園子 (二階堂) 3:20.6

D

1 岡本 玲子 (鳥 取 東) 3:11.4
2 松本 信子 (佐 伯) 3:15.3
3 服部加代子 (淑 徳) 3:16.5
4 宮内 舜子 (松 山 東) 3:17.5

決勝

1 山本 憲子 (筑紫女) 3:05.1
2 田中 清恵 (天 理) 3:06.7
3 岡本 玲子 (鳥 取 東) 3:09.4
4 磯村 昌子 (淑 徳) 3:10.9
5 吉岡 初衣 (帝塚山) 3:11.9
6 生田 敏子 (清水ヶ丘) 3:12.4
7 山崎 幸子 (成 女) 3:13.0
8 岩井 一枝 (掛川西) 3:16.9
9 松本 信子 (佐 伯) 3:23.2

100m バタフライ

予選A

1 斎藤 弘子 (梶 山) 1:16.2
2 山田佐代子 (五 条) 1:20.9
3 金井 輝子 (帝塚山) 1:25.8
4 天野万喜子 (進 徳) 1:39.2

B

1 中西美智代 (五 条) 1:17.6
2 村松美智子 (淑 徳) 1:25.2
3 高岸 勝子 (八代東) 1:29.0

C

1 黒田 梶子 (二階堂) 1:18.7

2 森下多恵子 (天 理) 1:18.8
3 下村 昌代 (進 徳) 1:29.4
4 太田登世子 (横須賀大津) 1:30.6
5 神田 礼子 (五 条) 1:33.6

D

1 和田 靖子 (淑 徳) 1:21.1
2 佐藤 公子 (天 理) 1:22.5
3 浅沼はる美 (横 浜 学) 1:23.7
4 須江 麗子 (津 山 商) 1:38.6

E

1 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 1:19.0
2 林 恵美子 (信 愛) 1:24.3
3 池田婦美子 (鹿 本) 1:26.7
4 酒巻加代子 (阿 波) 1:38.5

準決勝A

1 斎藤 弘子 (梶 山) 1:15.4
2 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 1:19.9
3 森下多恵子 (天 理) 1:21.2
4 佐藤 公子 (") 1:24.9
5 金井 輝子 (帝塚山) 1:25.6
6 池田婦美子 (鹿 本) 1:26.6
7 浅沼はる美 (横 浜 学) 1:27.1

B

1 中西美智代 (五 条) 1:17.5
2 山田佐代子 (") 1:19.4
3 黒田 梶子 (二階堂) 1:19.6
4 和田 靖子 (淑 徳) 1:19.6
5 村松美智子 (") 1:23.7
6 林 恵美子 (信 愛) 1:25.2
7 高岸 勝子 (八代東) 1:29.0

決勝

1 斎藤 弘子 (梶 山) 1:17.4
2 中西美智代 (五 条) 1:18.3
3 森下多恵子 (天 理) 1:19.2
4 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 1:19.9
5 和田 靖子 (淑 徳) 1:20.3
6 黒田 梶子 (二階堂) 1:20.9
7 山田佐代子 (五 条) 1:22.0

200m バタフライ

予選A

1 中西美智代 (五 条) 2:54.5
2 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 2:59.2
3 佐藤 公子 (天 理) 3:10.7
4 倉敷佐智子 (二階堂) 3:21.7

B

1 和田 靖子 (愛 知) 2:58.6

- 2 山田佐代子 (五 条) 2:58.7
 3 森下多恵子 (天 理) 3:00.5
 4 村松美智子 (淑 徳) 3:06.6
 5 下村 昌代 (進 徳) 3:15.7
 6 小原 弘子 (天 理) 3:20.7

C

- 1 黒田 栞子 (二階堂) 2:51.4
 2 斎藤 弘子 (栢 山) 2:54.2
 3 高岸 勝子 (八代東) 3:13.6
 4 太田登世子 (横須賀大津) 3:25.2
 5 岩野栄美子 (大 嶺) 3:28.3

決勝

- 1 黒田 栞子 (二階堂) 2:50.6
 2 斎藤 弘子 (栢 山) 2:54.1
 3 中西美智代 (五 条) 2:58.2
 4 山田佐代子 (") 2:58.6
 5 森下多恵子 (天 理) 3:01.9
 6 高橋 栄子 (佐伯鶴城) 3:02.6
 7 和田 靖子 (淑 徳) 3:05.9
 8 佐藤 公子 (天 理) 3:07.4
 9 村松美智子 (淑 徳) 3:09.4

100m 背 泳

予選A

- 1 松永 凉子 (天 理) 1:19.9
 2 山中サカエ (成 徳) 1:26.7
 3 国府 凉子 (筑紫女) 1:27.5
 4 秋山 邦枝 (大 嶺) 1:29.6
 5 内野 静代 (山 鹿) 1:29.7

B

- 1 岡田八詠子 (五 条) 1:21.3
 2 岸 赫子 (栢 山) 1:24.9
 3 白井 和枝 (二階堂) 1:28.4
 4 永坂美恵子 (淑 徳) 1:29.4
 5 河野 富子 (進 徳) 1:31.0
 6 加賀 和子 (藤 花) 1:32.7

C

- 1 林 かほり (淑 徳) 1:20.8
 2 北川 裕子 (栢 山) 1:25.8
 3 瀬戸 隆子 (宗 像) 1:25.8
 4 小栗美保子 (信 愛) 1:28.1
 5 望月三枝子 (成 女) 1:30.6

D

- 1 中島 孝子 (横 浜 学) 1:21.6
 2 宮井 春代 (朝 羽) 1:27.6
 3 斎田美佐子 (天 理) 1:28.1
 4 新田 春子 (進 徳) 1:29.2

- 5 蒲島とみ子 (鹿 本) 1:30.9
 6 犬飼 恭子 (片山女) 1:32.7

E

- 1 金井 厚子 (二階堂) 1:22.6
 2 松本 信子 (天 理) 1:26.3
 3 富田 早苗 (八代東) 1:26.9
 4 久保田貴代恵 (五 条) 1:27.7
 5 宮川 典子 (甲府湯田) 1:29.6
 6 中里みつえ (東 奥 女) 1:34.0

準決勝A

- 1 松永 凉子 (天 理) 1:18.9
 2 中島 孝子 (横 浜 学) 1:22.3
 3 金井 厚子 (二階堂) 1:22.7
 4 瀬戸 隆子 (宗 像) 1:25.1
 5 松本 信子 (天 理) 1:26.4
 6 国府 凉子 (筑紫女) 1:28.1
 7 宮井 春代 (朝 羽) 1:29.5

B

- 1 岡田八詠子 (五 条) 1:19.8
 2 林 かほり (淑 徳) 1:20.4
 3 山中サカエ (成 徳) 1:23.7
 4 岸 赫子 (栢 山) 1:24.5
 5 北川 裕子 (栢 山) 1:26.9
 6 久保田貴代恵 (五 条) 1:27.0
 7 富田 早苗 (八代東) 1:27.7

決勝

- 1 松永 凉子 (天 理) 1:18.8
 2 林 かほり (淑 徳) 1:19.2
 3 岡田八詠子 (五 条) 1:21.1
 4 中島 孝子 (横 浜 学) 1:22.5
 5 金井 厚子 (二階堂) 1:22.7
 6 岸 赫子 (栢 山) 1:24.1
 7 山中サカエ (成 徳) 1:24.5

200m 背 泳

予選A

- 1 松永 凉子 (天 理) 2:52.4
 2 岸 赫子 (栢 山) 3:06.5
 3 新田 春子 (進 徳) 3:09.4
 4 富田 早苗 (八代東) 3:10.0
 5 小栗美保子 (信 愛) 3:12.0
 6 永坂美恵子 (淑 徳) 3:12.8

B

- 1 林 かほり (淑 徳) 2:54.1
 2 山中サカエ (成 徳) 3:05.9
 3 北川 裕子 (栢 山) 3:06.9
 4 宮川 典子 (甲府湯田) 3:12.0

C

- 1 中島 孝子 (横 浜 学) 2:54.4
 2 国府 淳子 (筑紫女) 3:05.0
 3 久保田貴代恵 (五 条) 3:10.1
 4 望月三枝子 (成 女) 3:13.8
 5 河野 富子 (進 徳) 3:14.2
 6 那須田米子 (信 愛) 3:17.8

D

- 1 岡田八詠子 (五 条) 2:57.5
 2 白井 和枝 (二階堂) 3:04.2
 3 宮井 春代 (朝 羽) 3:04.9
 4 秋山 邦枝 (大 嶺) 3:10.2
 5 飯野 悦子 (天 理) 3:11.0

E

- 1 金井 厚子 (二階堂) 2:58.1
 2 瀬戸 隆子 (宗 像) 3:04.4
 3 松本 信子 (天 理) 3:04.5
 1 内野 静代 (山 鹿) 3:11.8

決勝

- 1 松永 凉子 (天 理) 2:49.0
 2 中島 孝子 (横 浜 学) 2:52.8
 3 林 かほり (淑 徳) 2:53.4
 4 岡田八詠子 (五 条) 2:55.3
 5 金井 厚子 (二階堂) 2:59.1
 6 瀬戸 隆子 (宗 像) 3:03.6
 7 白井 和枝 (二階堂) 3:03.6
 8 松本 信子 (天 理) 3:08.2
 9 宮井 春代 (朝 羽) 3:09.7

400m リレー

予選A

- 1 大岩・服部・斎藤・江坂
(栢 山) 5:02.3
 2 牧野・久保田・浅沼・小島
(横 浜 学) 5:08.0
 3 常田・土屋・淵井・館野
(二階堂) 5:19.7
 4 横山・岡北・河野・原田
(成 蹊) 5:53.1

B

- 1 高野・野村・和田・村松
(淑 徳) 4:57.3
 2 戸田・玉木・武山・平山
(成 女) 5:14.6
 3 鈴木・梅下・カヤ重・藤原
(天 理) 5:21.7
 4 河田・天野・味香・大島

(竹 原) 5:42.7
 5 福井・朝山・安藤・赤松
 (美 作) 5:54.6

C

1 東・西本・辻本・新子
 (五 条) 4:57.3
 2 蒲島・池田・小川・青木
 (鹿 本) 5:17.3
 3 中野・服部・坂本・新田
 (進 徳) 5:19.9
 4 太田・川澄・渡辺・須賀
 (横須賀大津) 5:49.2

D

1 木村・小畑・山本・国府
 (筑紫女) 5:04.3
 2 浜口・新井野・大谷・田中
 (鳥取東) 5:36.1

E

1 飯田・大坪・角・釜堀
 (朝 羽) 5:06.2
 2 小栗・鈴木・飯尾・林
 (信 愛) 5:10.3
 3 富田・矢野・上原・田崎
 (八代東) 5:16.2
 4 小池・倉橋・中村・磯貝
 (浜松市立) 5:44.7

決勝

1 東・西本・辻本・新子
 (五 条) 4:49.0
 2 服部・大岩・齋藤・江坂
 (梶 山) 4:50.5
 3 高野・野村・和田・村松
 (淑 徳) 4:53.4
 4 飯田・大坪・角・釜堀
 (朝 羽) 5:02.9
 5 平山・玉木・殿上・戸田
 (成 女) 5:04.0
 6 牧野・久保田・浅沼・小島
 (横 浜 学) 5:09.6
 7 小栗・鈴木・飯尾・林
 (信 愛) 5:11.2
 8 田崎・矢野・上原・富田
 (八代東) 5:13.0

400m メドレーリレー

予選A

1 岡田・大浜・中西・辻本

(五 条) 5:27.6
 2 新田・米原・下村・中野
 (進 徳) 5:54.1

3 楠本・吉岡・木村・金井
 (帝塚山) 5:55.2
 4 須知・大島・味吞・河田
 (竹 原) 6:32.8
 5 中川・本多(益)・金子・本多(松)
 (南 宇 和) 6:51.5

B

1 松永・田中・森下・鈴木
 (天 理) 5:29.6
 2 望月・山崎・武山・戸田
 (成 女) 5:55.8
 3 犬飼・中村・川上・白神
 (片山女) 6:34.3

C

1 岸・近藤・齋藤・江坂
 (梶 山) 5:33.9
 2 富田・鋤田・高岸・田崎
 (八代東) 5:45.4
 3 田中・岡本・諸山・浜口
 (鳥取東) 6:15.4
 4 渡辺・川澄・太田・須賀
 (横須賀大津) 6:20.4
 5 三橋・石井・金子・辻
 (東 横) 6:35.3

D

1 国府・山本・小畑・木村
 (筑紫女) 5:34.9
 2 秋山・杉山・岩野・池田
 (大 嶺) 6:03.6
 3 岩永・生田・大村・白石
 (清水ヶ丘) 6:19.2

E

1 金井・阿部・黒田・常田
 (二階堂) 5:37.3
 2 蒲島・片淵・池田・青木
 (鹿 本) 5:48.6
 3 柏木・山田・松井・原田
 (成 蹊) 6:20.9
 4 青柳・坂本・三井・樋口
 (甲府二) 6:35.3

決勝

1 岡田・大浜・中西・辻本
 (五 条) 5:20.7

2 大岩・伊藤・齋藤・江坂
 (梶 山) 5:23.9

3 松永・田中・森下・鈴木
 (天 理) 5:26.8

4 国府・山本・小畑・木村
 (筑紫女) 5:36.0

5 金井・阿部・黒田・常田
 (二階堂) 5:38.6

6 富田・鋤田・高岸・田崎
 (八代東) 5:47.9

7 新田・米原・下村・中野
 (進 徳) 5:51.0

8 蒲島・片淵・池田・青木
 (鹿 本) 5:52.8

9 楠本・吉岡・木村・金井
 (帝塚山) 6:01.1

得 点

1 五 条 62点
 2 梶 山 44"
 3 筑紫女 37"
 4 天 理 32"
 5 淑 徳 26"
 6 二階堂 14"
 7 横 浜 学 10"
 8 鳥 取 東 9"
 9 朝 羽 8"
 10 成 女 6"

第37回 日本学生選手権水上競技大会

8月14～16日

神宮プール (50m) 公認

100m 自由形			3 竹本 昭和 (早 大) 58.3	決勝	
予選A			4 杉本 汎史 (日 大) 58.6	1 藤本 達夫 (中 大) 2:04.5	
1 後藤 忠治 (日 大) 57.5			5 中村 良三 (明 大) 59.2	2 後藤 忠治 (日 大) 2:07.0	
2 竹内 和也 (早 大) 57.9			決勝	3 清水 啓吾 (慶 大) 2:07.0	
3 森之 義光 (日 体 大) 1:01.0			1 清水 啓吾 (慶 大) 57.7	4 講本 昌男 (同 志 社) 2:07.3	
4 岩本 功治 (明 大) 1:01.1			2 竹内 和也 (早 大) 57.7	5 国分 通男 (法 大) 2:07.4	
5 深谷 寿邦 (関 学 大) 1:01.8			3 見上 勝紀 (中 大) 58.0		
B			4 後藤 忠治 (日 大) 58.2	400m 自由形	
1 見上 勝紀 (中 大) 57.5			5 十河 英記 (早 大) 58.5	予選A	
2 十河 英記 (早 大) 58.2				1 坂元 昭紀 (法 大) 4:40.7	
3 松岡 義郎 (日 大) 59.0			200m 自由形	2 古木 輝己 (中 大) 4:42.7	
4 林 正夫 (立 大) 1:00.3			予選A	3 北村 忠夫 (立 大) 4:49.9	
5 梶原 文雄 (法 大) 1:01.0			1 講本 昌男 (同 志 社) 2:08.1	4 鈴木 勝 (慶 大) 4:54.8	
C			2 石田 修一 (中 大) 2:12.6	5 坂田 正明 (同 志 社) 4:56.3	
1 末永 豪 (法 大) 58.4			3 石川 浩 (法 大) 2:14.8	B	
2 福井 清 (早 大) 58.4			4 北村 忠夫 (立 大) 2:14.9	1 梅本 利三 (早 大) 4:33.5	
3 中村 良三 (明 大) 58.7			5 浅沼 宏志 (青 学) 2:15.4	2 佐々木末昭 (中 大) 4:35.7	
4 菅 正文 (中 大) 59.1			B	3 国分 通男 (法 大) 4:37.3	
5 清水 英利 (立 大) 1:00.2			1 石井 宏 (日 大) 2:10.4	4 石井 進一 (日 大) 4:50.4	
D			2 鈴木 高行 (立 大) 2:12.1	5 遠藤 守彦 (立 大) 4:57.9	
1 清水 啓吾 (慶 大) 57.7			3 北原 一彦 (早 大) 2:12.1	C	
2 竹本 昭和 (早 大) 58.2			4 鈴木 清男 (法 大) 2:13.5	1 藤本 達夫 (中 大) 4:33.5	
3 杉本 汎史 (日 大) 58.2			5 中谷 庸彦 (中 大) 2:14.6	2 松木登八郎 (日 大) 4:39.8	
4 戸崎 修身 (立 大) 58.9			C	3 山田 康弘 (早 大) 4:46.0	
5 小野寺正志 (法 大) 59.8			1 藤本 達夫 (中 大) 2:06.6	4 鈴木 高行 (立 大) 4:48.0	
E			2 後藤 忠治 (日 大) 2:06.8	5 吉田 憲司 (関 学) 4:56.6	
1 中谷 庸彦 (中 大) 58.9			3 末永 豪 (法 大) 2:10.0	D	
2 石川 浩 (法 大) 59.5			4 中村 良三 (明 大) 2:13.6	1 佐原 年昭 (中 大) 4:36.8	
3 小泉 弘 (立 大) 1:00.8			5 竹本 昭和 (早 大) 2:14.8	2 門口 伯康 (早 大) 4:36.9	
4 檜山 武美 (青 学 大) 1:01.8			D	3 講本 昌男 (同 志 社) 4:39.6	
5 石村 興二 (関 学 大) 1:03.8			1 清水 啓吾 (慶 大) 2:08.0	4 一色 譲 (日 大) 4:43.9	
準決勝A			2 岡部 幸明 (早 大) 2:08.8	5 岡村 文博 (明 大) 4:47.5	
1 後藤 忠治 (日 大) 57.5			3 国分 通男 (法 大) 2:09.3	E	
2 竹内 和也 (早 大) 57.7			4 見上 勝紀 (中 大) 2:09.8	1 阿部 紀夫 (法 大) 4:41.2	
3 十河 英記 (") 57.7			5 戸崎 修身 (立 大) 2:11.4	2 石井 宏 (日 大) 4:43.9	
4 福井 清 (") 58.0			E	3 岡部 幸明 (早 大) 4:45.2	
5 松岡 義郎 (日 大) 58.3			1 門口 伯康 (早 大) 2:07.3	4 井原 啓之 (立 大) 4:48.7	
B			2 松岡 義郎 (日 大) 2:11.7	5 今枝 啓裕 (明 大) 4:49.0	
1 清水 啓吾 (慶 大) 57.1			3 岩本 功治 (明 大) 2:12.3	決勝	
2 見上 勝紀 (中 大) 58.2			4 森元 義光 (日 体 大) 2:16.3	1 藤本 達夫 (中 大) 4:29.5	
			5 坂田 正明 (同 大) 2:16.6	2 梅本 利三 (早 大) 4:31.8	

- 3 松木登八郎 (日 大) 4:34.9
- 4 門口 伯康 (早 大) 4:35.5
- 5 佐々木末昭 (中 大) 4:36.8

800m 自由型

予選A

- 1 柳谷 透 (早 大) 10:14.9
- 2 遠藤 守彦 (立 大) 10:15.9
- 3 梶本 邦昭 (中 大) 10:16.6
- 4 唐松 長一 (明 大) 10:16.7
- 5 丸山 洋 (日 大) 10:16.8

B

- 1 阿部 紀夫 (法 大) 9:49.0
- 2 古木 輝己 (中 大) 9:53.3
- 3 竹林 功男 (慶 大) 9:58.0
- 4 石井 進一 (日 大) 10:02.2
- 5 今枝 啓祐 (明 大) 10:09.7

C

- 1 佐々木末昭 (中 大) 9:36.1
- 2 坂元 昭紀 (法 大) 9:46.0
- 3 一色 譲 (日 大) 9:53.5
- 4 山田 康弘 (早 大) 10:01.1
- 5 井原 啓之 (立 大) 10:01.3

D

- 1 梅本 利三 (早 大) 9:38.8
- 2 松木登八郎 (日 大) 9:39.3
- 3 佐原 年昭 (中 大) 9:40.7
- 4 岡村 文博 (明 大) 9:55.8
- 5 茂沢 方尙 (慶 大) 10:40.3

決勝

- 1 松木登八郎 (日 大) 9:28.0
- 2 梅本 利三 (早 大) 9:30.4
- 3 佐々木末昭 (中 大) 9:33.0
- 4 坂元 昭紀 (法 大) 9:37.2
- 5 阿部 紀夫 (") 9:40.6

100m 平 泳

予選A

- 1 中村 昌彦 (日 大) 1:15.6
- 2 佐藤 行男 (早 大) 1:17.8
- 3 東 英明 (明 大) 1:18.1
- 4 平野 国雄 (青 学) 1:19.1
- 5 小笠 勝二 (立 大) 1:19.3

B

- 1 加藤 浩時 (早 大) 1:14.2
- 2 寺尾 友孝 (立 大) 1:15.8
- 3 宮本 英 (中 大) 1:16.2
- 4 福永 恵輔 (日 大) 1:16.8

- 5 森 昭 (関 学) 1:17.3

C

- 1 野々村嘉昭 (中 大) 1:13.8
- 2 岡崎 貞彦 (明 大) 1:14.6
- 3 敷石 義秋 (日 大) 1:15.3
- 4 西口 寿悦 (関 学) 1:18.2
- 5 山田 碩哉 (法 大) 1:18.4

D

- 1 大崎 剛彦 (早 大) 1:11.6
- 2 樋口 裕 (中 大) 1:14.4
- 3 和気 統 (日 大) 1:15.0
- 4 沢村 常彦 (中 京) 1:16.4
- 5 鈴木 紘之 (慶 大) 1:16.9

E

- 1 中川 清 (早 大) 1:11.1
- 2 山中 堂志 (中 大) 1:14.8
- 3 木曾 雄吉 (立 大) 1:16.7
- 4 星野 茂 (青 学) 1:17.3
- 5 奥田 貫喃 (法 大) 1:19.7

準決勝A

- 1 中川 清 (早 大) 1:11.4
- 2 敷石 義秋 (日 大) 1:14.2
- 3 加藤 浩時 (早 大) 1:14.7
- 4 和気 統 (日 大) 1:14.7
- 5 宮本 英 (中 大) 1:15.5

B

- 1 大崎 剛彦 (早 大) 1:12.0
- 2 野々村嘉昭 (中 大) 1:14.5
- 3 寺尾 友孝 (立 大) 1:14.5
- 4 岡崎 貞彦 (明 大) 1:14.7
- 5 中村 昌彦 (日 大) 1:15.1

決勝

- 1 中川 清 (早 大) 1:11.0
- 2 大崎 剛彦 (") 1:11.9
- 3 敷石 義秋 (日 大) 1:13.7
- 4 野々村嘉昭 (中 大) 1:13.9
- 5 加藤 浩時 (早 大) 1:14.3

200m 平 泳

予選A

- 1 黒塚 正機 (中 大) 2:45.9
- 2 山田 碩哉 (法 大) 2:48.9
- 3 鈴木 紘之 (慶 大) 2:49.5
- 4 小笠 勝二 (立 大) 2:50.4
- 5 中山 尙武 (同 志 社) 2:56.6

B

- 1 樋口 裕 (中 大) 2:41.0

- 2 寺尾 友孝 (立 大) 2:41.7
- 3 岡崎 貞彦 (明 大) 2:41.9
- 4 篠原 豊 (日 大) 2:46.9
- 5 佐藤 行男 (早 大) 2:46.9

C

- 1 中川 清 (早 大) 2:35.7
- 2 敷石 義秋 (日 大) 2:43.7
- 3 野々村嘉昭 (中 大) 2:43.7
- 4 野村 常彦 (中 京) 2:46.2
- 5 小松 米雄 (青 学) 2:56.2

D

- 1 和気 統 (日 大) 2:41.2
- 2 加藤 浩時 (早 大) 2:42.4
- 3 篠田 博史 (中 大) 2:46.7
- 4 東 英明 (明 大) 2:47.6
- 5 星野 茂 (青 学) 2:52.5

E

- 1 大崎 剛彦 (早 大) 2:38.3
- 2 木曾 雄吉 (立 大) 2:45.9
- 3 木村 智彦 (明 大) 2:47.9
- 4 中村 昌彦 (日 大) 2:53.3
- 5 奥田 貫喃 (法 大) 2:53.3

決勝

- 1 中川 清 (早 大) 2:36.1
- 2 大崎 剛彦 (") 2:36.8
- 3 敷石 義秋 (日 大) 2:39.1
- 4 和気 統 (") 2:39.9
- 5 野々村嘉昭 (中 大) 2:40.6

100m バタフライ

予選A

- 1 中島 功 (日 大) 1:01.7
- 2 上田 紀男 (法 大) 1:03.9
- 3 来栖 寛 (天 理) 1:04.0
- 4 田中 英雄 (早 大) 1:04.3
- 5 小戎 紀一 (中 大) 1:05.5

B

- 1 岩本 光司 (早 大) 1:02.9
- 2 富安 守弘 (中 大) 1:03.2
- 3 神坂 忠一 (立 大) 1:04.1
- 4 飯田 智康 (法 大) 1:04.6
- 5 芥川己之助 (慶 大) 1:05.0

C

- 1 井筒 賢造 (早 大) 1:02.3
- 2 青木 洋一 (専 大) 1:03.4
- 3 武市 啓志 (日 大) 1:03.8
- 4 須藤 洋一 (明 大) 1:04.4

5 小島 英光 (法 大) 1:04.4
D
1 吉無田春男 (早 大) 1:03.5
2 大林 敦 (中 大) 1:04.0
3 山下 洋二 (東 教) 1:05.0
4 宮脇 隆史 (法 大) 1:05.2
5 岩岡 祐一 (同 志 社) 1:07.6
準決勝A
1 中島 功 (日 大) 1:01.7
2 青木 洋一 (専 大) 1:03.2
3 田中 英雄 (早 大) 1:03.6
4 上田 紀男 (法 大) 1:03.6
5 富安 守弘 (中 大) 1:03.9
B
1 井筒 賢造 (早 大) 1:02.3
2 岩本 光司 (") 1:03.0
3 吉無田春男 (") 1:03.0
4 武市 啓志 (日 大) 1:03.9
5 神坂 忠一 (立 大) 1:04.1
決勝
1 中島 功 (日 大) 1:01.1
2 岩本 光司 (早 大) 1:02.2
3 井筒 賢造 (") 1:02.4
4 吉無田春男 (") 1:03.0
5 青木 洋一 (専 大) 1:04.1
200m バタフライ
予選A
1 岩本 光司 (早 大) 2:21.5
2 武市 啓志 (日 大) 2:24.0
3 青木 洋一 (専 大) 2:26.1
4 芥川己之助 (慶 大) 2:27.5
5 宮脇 隆史 (法 大) 2:27.8
B
1 井筒 賢造 (法 大) 2:18.9
2 飯田 智康 (法 大) 2:21.3
3 馬場 政儀 (中 大) 2:24.9
4 神坂 忠一 (立 大) 2:26.2
5 富田紀久男 (日 大) 2:32.7
C
1 吉無田春雄 (早 大) 2:18.9
2 上田 紀男 (法 大) 2:20.8
3 富安 守弘 (中 大) 2:24.7
4 来栖 寛 (天 理) 2:25.7
5 岩岡 祐一 (同 大) 2:29.2
D
1 中島 功 (日 大) 2:21.5

2 三好 恭好 (中 大) 2:21.6
3 須藤 洋一 (明 大) 2:23.5
4 那須 純哉 (立 大) 2:26.7
5 小島 英光 (法 大) 2:29.4
決勝
1 吉無田春男 (早 大) 2:18.4
2 井筒 賢造 (") 2:18.7
3 中島 功 (日 大) 2:19.6
4 須藤 洋一 (明 大) 2:21.1
5 三好 恭弘 (中 大) 2:21.1
100m 背 泳
予選A
1 才野 武士 (立 大) 1:07.7
2 菅 征夫 (中 大) 1:07.7
3 高嶺 隆二 (慶 大) 1:08.6
4 河田 俊輔 (日 大) 1:10.2
5 藤原 浩 (法 大) 1:11.2
B
1 福島 滋雄 (日 大) 1:11.7
2 広瀬 俊之 (成 城) 1:06.1
3 勝又 完一 (明 大) 1:07.5
4 片岡 輝男 (立 大) 1:08.8
5 岡部 徹 (中 大) 1:11.0
C
1 大隈 潔 (明 大) 1:09.7
2 舟橋 淑行 (早 大) 1:10.5
3 小林 一三 (青 学) 1:10.5
4 阿久津勝男 (日 大) 1:10.5
5 井上 彬 (中 大) 1:10.6
D
1 国清 勲 (早 大) 1:08.0
2 徳武 茂 (中 大) 1:09.0
3 中島 勝昭 (明 大) 1:09.9
4 田中 透 (日 大) 1:11.2
5 久保田隆雄 (立 大) 1:11.6
準決勝A
1 福島 滋雄 (日 大) 1:06.1
2 片岡 輝男 (立 大) 1:07.9
3 才野 武士 (") 1:08.2
4 菅 征夫 (中 大) 1:08.6
5 舟橋 淑行 (早 大) 1:09.5
B
1 広瀬 俊之 (成 城) 1:05.5
2 勝又 完一 (明 大) 1:07.4
3 国清 勲 (早 大) 1:08.7
4 高嶺 隆二 (慶 大) 1:08.7

5 中島 勝昭 (明 大) 1:09.5
決勝
1 広瀬 俊之 (成 城) 1:04.9
2 福島 滋雄 (日 大) 1:04.9
3 才野 武士 (立 大) 1:07.4
4 勝又 完一 (明 大) 1:07.4
5 片岡 輝男 (立 大) 1:08.3
200m 背 泳
予選A
1 福島 滋雄 (日 大) 2:21.4
2 勝又 完一 (明 大) 2:30.9
3 舟橋 淑行 (早 大) 2:33.6
4 井上 彬 (中 大) 2:33.7
5 久保田隆雄 (立 大) 2:36.4
B
1 大隈 潔 (明 大) 2:29.2
2 片岡 輝男 (立 大) 2:29.9
3 田中 透 (日 大) 2:33.5
4 徳武 茂 (中 大) 2:35.7
5 藤原 浩 (法 大) 2:40.3
C
1 菅 征夫 (中 大) 2:30.7
2 中島 勝昭 (明 大) 2:34.0
3 倉辺 和男 (法 大) 2:34.9
4 阿久津勝男 (日 大) 2:35.6
5 高橋 征一 (早 大) 2:39.3
D
1 才野 武士 (立 大) 2:25.1
2 広瀬 俊之 (成 城) 2:25.7
3 高嶺 隆二 (慶 大) 2:28.9
4 国清 勲 (早 大) 2:30.2
5 河田 俊輔 (日 大) 2:34.5
決勝
1 福島 滋雄 (日 大) 2:22.7
2 広瀬 俊之 (成 城) 2:24.3
3 才野 武士 (立 大) 2:26.1
4 勝又 完一 (明 大) 2:27.7
5 国清 勲 (早 大) 2:27.7
200m リレー
予選A
1 菅・浅野・望月・石田 (中 大) 1:47.9
2 中村・岩本・秋元・今枝 (明 大) 1:50.0
3 浜田・渥美・森元・本田 (日 体 大) 1:50.8

4 和田・小山・栗木・大森
(中 京) 1:53.5
5 深谷・石村・崎山・刈屋
(関 学) 1:53.5

B
1 森田・杉本・松岡・後藤
(日 大) 1:43.9
2 竹内・北原・福井・吉無田
(早 大) 1:44.8
3 末永・鈴木・小野寺・石川
(法 大) 1:45.4
4 田村・清水・田村・餅米
(慶 大) 1:47.3
5 清水・林・戸崎・小泉
(立 大) 1:48.9

決勝
1 竹内・十河・竹本・福井
(早 大) 1:42.3
2 後藤・杉本・松岡・森田
(日 大) 1:43.4
3 見上・藤本・浅野・菅
(中 大) 1:44.4
4 末永・鈴木・小野寺・石川
(法 大) 1:45.4
5 中村・清水・高嶺・餅米
(慶 大) 1:47.3

400m メドレーレリー

予選A
1 片岡・木曾・那須・清水
(立 大) 4:30.5
2 小林・平野・曾我・木部

(青 学) 4:38.9
3 小林・森・北野・深谷
(関 学) 4:42.1

B
1 国清・加藤・岩本・十河
(早 大) 4:28.9
2 徳武・篠田・小戎・望月
(中 大) 4:34.3
3 高嶺・鈴木・芥川・餅米
(慶 大) 4:37.6

決勝
1 国清・中川・岩本・福井
(早 大) 4:18.8
2 菅・樋口・富安・見上
(中 大) 4:23.7
3 才野・寺尾・神坂・戸崎
(立 大) 4:25.4
4 高嶺・鈴木・芥川・餅米
(慶 大) 4:30.5
5 小林・星野・曾我・檜山
(青 学) 4:37.8

800m リレー

予選A
1 石井(宏)・丸山・石井(進)・後藤
(日 大) 9:02.2
2 岩本・中村・岡村・今枝
(明 大) 9:06.6
3 小泉・鈴木・遠藤・井原
(立 大) 9:11.6
4 石村・吉田・深谷・刈屋
(関 学) 9:22.0

5 和田・大森・栗木・小山
(中 京) 9:38.3

B
1 梅本・山田・門口・吉無田
(早 大) 8:56.7
2 阿部・石川・鈴木・小野寺
(法 大) 9:02.2
3 菅・石田・梶本・望月
(中 大) 9:02.3
4 竹林・田村・茂沢・清水
(慶 大) 9:07.8
5 坂田・田村・奥村・講本
(同 志 社) 9:15.1

決勝
1 梅本・門口・岡部・吉無田
(早 大) 8:28.0
2 中谷・見上・藤本・古木
(中 大) 8:37.8
3 後藤・福島・中島・松木
(日 大) 8:38.2
4 国分・末永・坂元・阿部
(法 大) 8:42.2
5 高橋・竹林・清水・茂沢
(慶 大) 8:51.1

得点

1 早 大 98点
2 日 大 62"
3 中 大 46"
4 慶 大 19"
5 立 大 17"
6 法 大 15"

第一回 中学生選抜水泳競技大会

8月23・24・25日 浜松市菅プール(50m)公認
気温 30°・30°・31° 水温 24.5°・25°・26°

男子の部

100m 自由形

予選A
1 江口 義樹 (瀬 高) 1:03.5
2 金本 博幸 (柳 井) 1:05.8
3 小島 治 (日大豊山) 1:06.0
4 三輪 祐三 (名古屋) 1:06.8
5 坂本 郁夫 (三 稜) 1:08.0

6 新藤 満 (千 倉) 1:08.0
7 掛村 敏三 (皇 子 山) 1:09.2
8 齋藤 実 (大 館 三) 1:09.7
9 佐々木勝義 (幾 春 別) 1:21.4
B
1 菊地 利定 (河 津 南) 1:04.5
2 島内 一有 (高 知) 1:05.7
3 石井 良松 (山 ノ 手) 1:05.8
4 中島 稔 (東 田) 1:06.8

5 今野 茂元 (愛 知) 1:06.8
6 貝沼 勲 (柏 崎 一) 1:08.8
7 立山 継志 (八 代 一) 1:08.8
8 横屋 善和 (加 茂) 1:09.6
C
1 大坪 繁喜 (十 文 字) 1:03.4
2 増田 民雄 (稻 生 沢) 1:04.7
3 笹田 憲元 (中 京) 1:05.0
4 武田 理郎 (常 盤) 1:07.2

- 5 沼田 信寛 (人吉一) 1:08.0
 6 中野 泰住 (室戸岬) 1:08.2
 7 藤本 勲 (中野) 1:08.7
D
 1 紙谷 竜夫 (立正) 1:05.5
 2 上松 昇 (下市) 1:06.0
 3 天野 政由 (篠原) 1:06.3
 4 小川 孝三 (文の里) 1:07.3
 5 土井 好美 (三原二) 1:08.0
 6 土森 道雄 (中村) 1:08.8
 7 野村 幸弘 (幾春別) 1:21.2

準決勝A

- 1 大坪 繁喜 (十文字) 1:03.8
 2 増田 民雄 (稻生沢) 1:05.0
 3 天野 政由 (篠原) 1:05.4
 4 金本 博幸 (柳井) 1:05.6
 5 笹田 憲元 (中京) 1:05.7
 6 三輪 祐三 (名古屋) 1:05.7
 7 石井 良広 (山ノ手) 1:06.2

B

- 1 紙谷 竜夫 (立正) 1:04.0
 2 江口 義樹 (瀬高) 1:04.2
 3 上松 昇 (下市) 1:04.2
 4 菊地 利定 (河津南) 1:04.2
 5 島田 一有 (高知) 1:05.2
 6 小島 治 (日大豊山) 1:05.4
 7 中島 稔 (東田) 1:05.5

決勝

- 1 大坪 繁喜 (十文字) 1:03.5
 2 紙谷 竜夫 (立正) 1:03.6
 3 江口 義樹 (瀬高) 1:03.9
 4 増田 民雄 (稻生沢) 1:04.4
 5 島田 一有 (高知) 1:05.2
 6 菊地 利定 (河津南) 1:05.0
 7 上松 昇 (下市) 1:05.8

200m 自由形

予選A

- 1 今井 勇二 (中京) 2:24.8
 2 木村 正夫 (上野台) 2:25.0
 3 石川 良広 (山ノ手) 2:25.9
 4 成瀬 好宏 (八幡) 2:28.0
 5 島田 一有 (高知) 2:32.0
 6 楸 康雄 (川越) 2:36.1
 7 峰田 秋郎 (山形六中) 2:38.9
 8 勝原 満雄 (桜宮) 2:40.0
 9 丸谷 里志 (少田南) 2:43.4

B

- 1 笹田 憲之 (中京) 2:24.0
 2 金本 博幸 (柳井) 2:25.6
 3 横山 徹郎 (中村) 2:25.8
 4 紙谷 竜夫 (立正) 2:26.0
 5 加藤 行成 (飾磨東) 2:31.9
 6 立山 継志 (八代) 2:33.4
 7 坂本 郁夫 (三陵) 2:34.2
 8 持田 幸雄 (栗田谷) 2:38.8
 9 小島 城治 (幾春別) 2:54.3

C

- 1 高瀬悦二郎 (八代三) 2:21.6
 2 鈴木 俊延 (竜洋) 2:25.4
 3 今野 茂之 (豊田前) 2:25.8
 4 渡辺 利夫 (立正) 2:26.0
 5 米井 要 (豊田前) 2:30.2
 6 福山 節男 (川内北) 3:32.8
 7 石川 力 (寺尾) 3:38.8
 8 貝沼 勲 (柏崎一中) 2:39.4
 9 二瓶 康治 (幾春別) 3:00.4

D

- 1 大坪 繁喜 (十文字) 2:22.2
 2 上松 昇 (下市) 2:27.9
 3 浜口 哲也 (北沢) 2:27.9
 4 植田 茂 (八代三) 2:29.2
 5 永井 一郎 (前橋三) 2:30.5
 6 武田 理郎 (常盤) 2:33.5
 7 伊藤 勝二 (相川) 2:37.8
 8 出田 邦夫 (柴雲) 2:40.1

決勝

- 1 高瀬悦二郎 (八代三) 2:20.0
 3 大坪 繁喜 (十文字) 2:22.6
 4 木村 正夫 (上野台) 2:22.7
 4 笹田 憲之 (中京) 2:22.7
 5 金本 博幸 (柳井) 2:24.6
 6 鈴木 俊延 (竜洋) 2:25.0
 7 今井 勇二 (中京) 2:25.7
 8 今野 茂之 (愛知) 2:26.2
 9 横山 徹郎 (中村) 2:27.5

400m 自由形

予選A

- 1 高瀬悦二郎 (八代三) 5:00.5
 2 岩本 和行 (常盤) 5:03.5
 3 藤野秋之助 (鶴見) 5:15.6
 4 天野 憲一 (篠原) 5:15.8
 5 小出 茂夫 (西脇) 5:24.4

- 6 宮村 静雄 (打出) 5:34.0
 7 楸 康雄 (川越) 5:34.8
 8 伊藤 勝二 (相川) 5:42.2

B

- 1 木村 正夫 (上野台) 5:04.3
 2 伊藤 常満 (愛知) 5:13.0
 3 榊田 久治 (明洋) 5:13.2
 4 根岸 宏治 (逗子開成) 5:24.0
 5 渡辺 利夫 (立正) 5:25.9
 6 榊井 次郎 (常盤) 5:31.6
 7 大石 幸雄 (竜洋) 5:32.0
 8 細川 清 (釜石二) 5:38.8

C

- 1 野口 和雄 (東田) 5:10.3
 2 横山 徹郎 (中村) 5:15.5
 3 福重 澄雄 (福山) 5:18.0
 4 今井 勇二 (中京) 5:22.7
 5 篠原 治己 (安芸津) 5:26.5
 6 東 永二 (東) 5:28.6
 7 中根 正雄 (上青木) 5:32.2

D

- 1 渡辺 吉松 (美須賀) 5:05.9
 2 中橋 雅之 (高知) 5:12.8
 3 小林兼一郎 (広田) 5:18.6
 4 市原 韶司 (郡山) 5:21.9
 5 権藤 哲郎 (吉井) 5:23.3
 6 福山 節男 (川内代) 5:33.7
 7 大島 守 (洞爺湖温泉) 6:13.3

E

- 1 鈴木 俊延 (竜洋) 5:10.8
 2 加藤 仁彦 (立正) 5:14.5
 3 中野 悟 (高陽) 5:17.2
 4 植田 茂 (八代三) 5:20.5
 5 細矢 邦夫 (岩手) 5:22.2
 6 湯山藍一郎 (城東) 5:24.6
 7 宇杉 弘明 (三橋) 5:35.4

決勝

- 1 高瀬悦二郎 (八代三) 4:55.3
 2 渡辺 吉松 (美須賀) 5:01.3
 3 木村 正夫 (上野台) 5:01.3
 4 岩本 和行 (常盤) 5:04.8
 5 野口 和雄 (東田) 5:05.0
 6 鈴木 俊延 (竜洋) 5:06.5
 7 中橋 雅之 (高知) 5:12.2
 8 榊田 久治 (明津) 5:12.3
 9 伊藤 常満 (愛知) 5:13.2

1500m 自由形

予選A

- 1 野口 和雄 (東 田) 20:37.6
- 2 中橋 雅之 (高 知) 20:59.3
- 3 市原 韶司 (郡 山) 21:21.1
- 4 有働 徹 (愛 知) 21:23.5
- 5 宮村 静雄 (打 出) 21:39.2
- 6 細矢 邦夫 (岩 手) 21:39.9
- 7 佐野 満喜 (西 岬) 21:47.8
- 8 小出 茂夫 (西 脇) 22:26.6
- 9 大地 顕範 (相川二見) 22:57.1

B

- 1 福重 澄雄 (福 山) 21:10.6
- 2 加藤 仁彦 (立 正) 21:11.2
- 3 中野 悟 (高 陽) 21:12.6
- 4 寺内 儀幸 (桜 宮) 21:19.4
- 5 大石 幸雄 (竜 洋) 21:19.8
- 6 根岸 宏治 (逗子開成) 21:28.5
- 7 中根 正雄 (上 青 木) 21:29.8
- 8 加藤 哲広 (中 京) 21:32.4

C

- 1 伊藤 常満 (愛 知) 20:27.3
- 2 渡辺 吉松 (美 須 賀) 20:27.5
- 3 米井 要 (豊 田 前) 20:51.5
- 4 天野 憲一 (篠 原) 20:53.4
- 5 小林兼一郎 (広 田) 21:22.8
- 6 西本 信也 (大 津) 21:34.4
- 7 水谷 譲 (東 田) 21:58.1
- 8 横山 顕介 (中 村) 22:26.9

D

- 1 岩本 和行 (常 盤) 20:39.8
- 2 梶田 久治 (明 洋) 20:39.8
- 3 湯山藍一郎 (城 東) 21:14.2
- 4 篠原 治己 (安 芸 津) 21:18.0
- 5 中村建二郎 (徳島大付) 21:22.2
- 6 尾石 忠 (杵 東) 22:13.0
- 7 榎本 陽司 (御 浜) 22:28.5
- 8 福田 晴彦 (柏 崎 一) 22:51.0

決勝

- 1 野口 和雄 (東 田) 20:13.0
- 2 伊藤 常満 (愛 知) 20:13.2
- 3 梶田 久治 (明 洋) 20:27.0
- 4 渡辺 吉松 (美 須 賀) 20:28.0
- 5 岩本 和行 (常 盤) 20:35.5
- 6 中橋 雅之 (高 知) 20:49.6
- 7 米井 要 (豊 田 前) 21:13.1

- 8 福重 澄雄 (福 山) 21:17.8
- 9 天野 憲一 (篠 原) 21:17.8

100m 平 泳

予選A

- 1 伏木 英和 (花 乃 井) 1:19.4
- 2 福原 義文 (八 代 二) 1:21.8
- 3 古川 剛 (伊 万 里) 1:23.0
- 4 秋谷 幸彦 (東 田) 1:23.0
- 5 岩本 行雄 (常 盤) 1:24.5
- 6 栗山 共造 (佐 賀 関) 1:24.7
- 7 藤原 清信 (稲 生 沢) 1:27.5
- 8 吉田 宏 (長 岡 南) 1:27.9

B

- 1 稲津 時雄 (城 東) 1:22.6
- 2 宮地 稔 (瀬 戸 田) 1:24.0
- 3 遠藤 孝良 (熊 西) 1:24.6
- 4 津村 満 (夕 陽 丘) 1:24.7
- 5 米田 滋 (栗 津) 1:25.0
- 6 竹内 雅之 (八 幡) 1:25.3
- 7 杉浦 修 (近 衛) 1:25.8
- 8 森川森太郎 (金 泉) 1:32.5

C

- 1 藤原 弘三 (三 原 三) 1:22.2
- 2 坂田 一平 (西 和) 1:22.9
- 3 桜井 実 (日 大 一) 1:23.1
- 4 青木 剛 (佐伯大入島) 1:23.4
- 5 舟津 政治 (芦 城) 1:23.5
- 6 川島 文雄 (竜 洋) 1:23.5
- 7 安岡 孝司 (汐 江) 1:24.0
- 8 松沢 佳己 (中 島) 1:30.0

D

- 1 古賀 浩之 (比 良 松) 1:21.8
- 2 辻 孝男 (近 衛) 1:21.8
- 3 本多 光彦 (日 大 一) 1:22.4
- 4 竹内 義伸 (鳴 門 二) 1:23.3
- 5 岡崎 政更 (川 越) 1:24.0
- 6 中本 義則 (国 泰 寺) 1:25.4
- 7 伊藤 数雄 (北 栄) 1:30.8
- 8 本間 勝彦 (相 川) 1:30.8

準決勝A

- 1 伏木 英和 (花 乃 井) 1:19.4
- 2 古川 剛 (伊 万 里) 1:21.2
- 3 辻 孝男 (近 衛) 1:21.4
- 4 藤原 弘三 (三 原 三) 1:21.4
- 5 坂田 一平 (西 和) 1:22.6
- 6 青木 剛 (大 入 島) 1:23.6

- 7 竹内 義伸 (鳴 門 二) 1:24.0

B

- 1 古賀 浩之 (比 良 松) 1:21.0
- 2 福原 義文 (八 代 二) 1:21.3
- 3 稲津 時雄 (城 東) 1:21.7
- 4 本多 光彦 (日 大 一) 1:22.6
- 5 秋谷 幸彦 (東 田) 1:22.7
- 6 桜井 実 (日 大 一) 1:24.0
- 7 舟津 政治 (芦 城) 1:24.8

決勝

- 1 伏木 英和 (花 乃 井) 1:20.1
- 2 孝 辻男 (近 衛) 1:20.4
- 3 藤原 弘三 (三 原 三) 1:21.0
- 4 古賀 浩之 (比 良 松) 1:21.4
- 5 古川 剛 (伊 万 里) 1:21.4
- 6 稲津 時雄 (城 東) 1:21.5
- 7 福原 義文 (八 代 二) 1:22.0

200m 平 泳

予選A

- 1 伏木 英和 (花 乃 井) 2:55.8
- 2 宮地 稔 (瀬 戸 田) 2:55.8
- 3 竹内 義伸 (鳴 門 二) 3:01.1
- 4 遠藤 孝良 (熊 西) 3:01.8
- 5 福原 義文 (八 代 二) 3:03.8
- 6 小林 昇 (春 日) 3:03.8
- 7 青木 剛 (大 入 島) 3:04.6

B

- 1 宮田 英明 (立 正) 3:00.2
- 2 林 敏久 (愛 知) 3:01.0
- 3 川島 文雄 (竜 洋) 3:01.6
- 4 岩本 行雄 (常 盤) 3:02.5
- 5 藤原 弘三 (三 原 三) 3:02.8
- 6 安田 博明 (館 山 三) 3:02.9
- 7 林 英一 (把 木) 3:08.2
- 8 森川森太郎 (金 泉) 3:20.9
- 9 中野 克彦 (洞 爺 湖 温 泉) 3:26.0

C

- 1 本多 光彦 (日 大 一) 2:58.4
- 2 辻 孝男 (近 衛) 2:58.5
- 3 上村 好司 (愛 知) 2:58.8
- 4 古川 剛 (伊 万 里) 3:00.2
- 5 柴田 正博 (篠 原) 3:04.8
- 6 須ノ内和久 (桜 宮) 3:05.7
- 7 松平 徳吉 (久 良) 3:06.4
- 8 米田 滋 (栗 津) 3:06.4
- 9 蒲生 次男 (内 郷 二) 3:14.8

D

1 岡崎 政更 (川越) 2:58.2
2 稲津 時雄 (城東) 2:59.4
3 今野 純 (五橋) 3:00.0
4 秋谷 幸彦 (東田) 3:02.6
5 杉浦 修 (近衛) 3:03.4
6 野崎 靖三 (大嶺) 3:05.2
7 中本 義則 (国泰寺) 3:06.5
8 管 逸郎 (東雲) 3:09.3
9 松沢 佳己 (中島) 3:18.5

決勝

1 岡崎 政更 (川越) 2:52.4
2 伏木 英和 (花乃井) 2:53.5
3 宮地 稔 (瀬戸田) 2:54.4
4 辻 孝男 (近衛) 2:54.4
5 古川 剛 (伊万里) 2:57.9
6 上村 好司 (愛知) 2:58.5
7 今野 純 (五橋) 2:59.1
8 本多 光彦 (日大一) 2:59.3
9 稲津 時雄 (城東) 2:59.9

100m 背 泳

予選A

1 和田 憲二 (館山二) 1:17.0
2 辻 義継 (平野) 1:19.0
3 末次 学 (城島) 1:19.2
4 熊野 次男 (山鹿) 1:19.3
5 高沢 久道 (野沢温泉) 1:19.4
6 渡海 正三 (坂越) 1:20.2
7 西山 強 (柏崎) 1:21.8
8 小川 啓一 (東田) 1:21.8
9 運天 政剛 (首里) 1:22.9

B

1 猪野 正久 (城東) 1:16.5
2 田中 晴夫 (足立七) 1:19.0
3 山本 紀男 (上野台) 1:19.0
4 正木 昭直 (稻生沢) 1:19.4
5 三島 一光 (嘉島) 1:19.4
6 小坂 純生 (上町) 1:20.9
7 渡辺 憲治 (常盤) 1:21.0
8 志村 新二 (甲府南) 1:24.4
9 藪上 和文 (向陵) 1:38.9

C

1 田中毅司雄 (常盤) 1:17.1
2 赤坂 成章 (飯塚一) 1:19.0
3 石川 勝彦 (竜洋) 1:19.6
4 森川 正広 (汐江) 1:19.6

5 南 道夫 (聖徳) 1:21.0
6 山田 富蔵 (柏崎一) 1:21.5
7 長尾 好宏 (高知) 1:22.4
8 刀根 英夫 (相川) 1:24.5

D

1 小林 弘 (北沢) 1:19.2
2 鈴木 安弘 (竜洋) 1:19.4
3 畑野 勉 (中京) 1:19.4
4 正田 農夫 (天王寺) 1:19.9
5 増田 海洋 (嘉島) 1:20.0
6 松島 義弘 (松任) 1:20.5
7 坂本 秋夫 (鮎原) 1:21.0
8 服部 哲夫 (浜田二) 1:23.8

準決勝A

1 猪野 正久 (城東) 1:16.7
2 末次 学 (城島) 1:17.6
3 小林 弘 (北沢) 1:17.8
4 田中 晴夫 (足立七) 1:18.5
5 辻 義継 (平野) 1:19.0
6 正木 昭直 (稻生沢) 1:19.1
7 高沢 久道 (野沢温泉) 1:19.4

B

1 和田 憲二 (館山二) 1:17.7
2 赤坂 成章 (飯塚) 1:18.0
3 田中毅司雄 (岩国東) 1:18.8
4 鈴木 安弘 (竜洋) 1:18.8
5 山本 紀男 (上野台) 1:19.0
6 畑野 勉 (中京) 1:20.0
7 熊野 次雄 (山鹿) 1:20.8

決勝

1 猪野 正久 (城東) 1:15.3
2 小林 弘 (北沢) 1:15.8
3 和田 憲二 (館山二) 1:16.3
4 末次 学 (城島) 1:16.9
5 田中毅司雄 (岩国東) 1:17.8
6 田中 晴夫 (足立) 1:18.0
7 赤坂 成章 (飯塚一) 1:18.2

200m 背 泳

予選A

1 和田 憲二 (館山二) 2:48.7
2 山本 紀男 (上野台) 2:50.4
3 鈴木 安弘 (竜洋) 2:54.0
4 南 道夫 (聖徳) 2:55.2
5 運天 政剛 (首里) 2:55.4
6 熊野 次雄 (山鹿) 2:55.4
7 岡宗 信寿 (大栃) 2:57.4

8 畑野 勉 (中京) 2:59.6

B

1 田中毅司雄 (平野) 2:50.3
2 高沢 久道 (坂越) 2:50.9
3 正木 昭直 (足立七) 2:51.6
4 三島 一光 (嘉島) 2:54.3
5 服部 哲夫 (浜田二) 2:57.9
6 長尾 好宏 (高知) 2:58.2
7 手代木正弘 (内郷二) 3:01.4
8 藪上 和夫 (向陵) 3:37.4

E

1 末次 学 (城島) 2:48.4
2 石川 勝彦 (竜洋) 2:50.0
3 渡辺 憲治 (常盤) 2:52.1
4 増田 海洋 (嘉島) 2:52.9
5 志村 新二 (甲府南) 2:55.8
6 小坂 純生 (上町) 2:58.3
7 平沢 幸男 (念珠関) 2:59.3

準決勝A

1 猪野 正久 (城東) 2:44.7
2 末次 学 (城島) 2:47.7
3 山本 紀男 (上野台) 2:47.8
4 和田 憲二 (館山二) 2:50.7
5 鈴木 安彦 (竜洋) 2:51.5
6 赤坂 成章 (飯塚) 2:52.4
7 田中 晴夫 (足立七) 2:52.7
8 渡辺 憲治 (常盤) 2:54.3
9 小川 啓一 (東田) 2:55.2

B

1 高沢 久道 (野沢温泉) 2:47.0
2 石川 勝彦 (竜洋) 2:49.1
3 辻 義継 (平野) 2:50.5
4 増田 海洋 (嘉島) 2:50.9
5 三島 一光 (嘉島) 2:50.9
6 田中毅司雄 (岩国東) 2:51.0
7 正木 昭直 (稻生沢) 2:52.2
8 渡海 正己 (坂越) 2:52.3
9 堺谷 真一 (山ノ手) 2:54.4

決勝

1 猪野 正久 (城東) 2:44.6
2 高沢 久道 (野沢温泉) 2:46.1
3 末次 学 (城島) 2:46.6
4 和田 憲二 (館山二) 2:46.7
5 石川 勝彦 (竜洋) 2:48.0
6 山本 紀男 (上野台) 2:48.4
7 辻 義継 (平野) 2:48.9

8 三島 一光 (嘉 島) 2:51.2
9 増田 海洋 (嘉 島) 2:57.2

100m バタフライ

予選A

1 福田 憲二 (山ノ手) 1:08.6
2 奥村新一郎 (垂 水) 1:13.4
3 広瀬 高尙 (高 知) 1:13.7
4 饗場 達雄 (甲府南) 1:14.7
5 三谷 和生 (桜 宮) 1:15.6
6 金崎砲一郎 (稻生沢) 1:16.5
7 佐藤 定 (八代一) 1:16.5
8 池原 健二 (川 下) 1:25.0

B

1 藤田 修孝 (日大豊山) 1:08.9
2 釜掘 彦三 (十文字) 1:14.6
3 飯田 正 (五 条) 1:15.4
4 益子原和夫 (安 岡) 1:16.8
5 西村 博志 (西 脇) 1:19.0
6 宮崎 明 (銚子一) 1:22.3
7 酒井 博義 (鳴門二) 1:24.5
8 須藤 達彦 (幾春別) 1:25.0

C

1 坂本 憲正 (花乃井) 1:12.2
2 権藤 哲郎 (吉 井) 1:14.4
3 鈴木 義一 (稻生沢) 1:16.2
4 本多 正登 (御 荘) 1:18.6
5 齋藤 哲 (立 正) 1:20.5
6 中谷 俊夫 (松 陽) 1:21.6
7 山本 修二 (桃 山) 1:26.4
8 小林 顕弘 (北 辰) 1:53.5

D

1 川村 豊 (高 知) 1:13.3
2 宮城 康次 (首 里) 1:13.5
3 岡本 公二 (十文字) 1:16.0
4 北岡 昭寛 (八代二) 1:17.4
5 木本 正美 (北 沢) 1:19.9
6 井上 徹 (港) 1:20.7
7 工藤 次夫 (本 荘北) 1:22.4
8 石名 坂力 (加 茂) 1:24.1

E

1 野村 克彦 (甲 南) 1:11.6
2 尾谷 康三 (館山二) 1:14.0
3 鈴木 英昭 (掛川西) 1:15.0
4 石上喜代志 (愛 知) 1:16.5
5 藤村 路則 (城 東) 1:16.7
6 石橋 起一 (北 沢) 1:18.5

7 原田 豊 (佐和田) 1:22.5

準決勝A

1 福田 憲二 (山ノ手) 1:07.8
2 坂本 憲正 (花乃井) 1:11.8
3 川村 豊 (高 知) 1:13.1
4 広瀬 高尙 (高 知) 1:13.8
5 鈴木 英昭 (掛川西) 1:14.7
6 尾谷 康三 (館山三) 1:15.8
7 饗場 達雄 (甲府南) 1:18.8

B

1 藤田 修孝 (日大豊山) 1:08.3
2 野村 克彦 (甲 南) 1:11.8
3 権藤 哲郎 (吉 井) 1:14.5
4 宮城 康次 (首 里) 1:14.5
5 釜掘 彦三 (十文字) 1:14.5
6 奥村新一郎 (垂 水) 1:14.5
7 飯田 正 (五 条) 1:14.8

決勝

1 藤田 修孝 (日大豊山) 1:06.3
2 福田 憲二 (山ノ手) 1:06.6
3 坂本 憲正 (花乃井) 1:11.5
4 野村 彦克 (申 南) 1:11.5
5 川村 豊 (高 知) 1:11.5
6 広瀬 高尙 (高 知) 1:11.8
7 権藤 哲郎 (吉 井) 1:13.3

200m バタフライ

予選A

1 川村 豊 (高 知) 2:44.3
2 野村 克彦 (甲 南) 2:44.7
3 山本 光吉 (雄 踏) 2:56.5
4 森 守 (中 京) 3:01.7
5 酒井 博義 (鳴門二) 3:07.3
6 中谷 俊夫 (松 陽) 3:08.7
7 渡辺 正敏 (柏 崎) 3:12.9
8 小川憲一郎 (詫 間) 3:13.6

B

1 藤田 修孝 (日大豊山) 2:44.6
2 飯田 正 (五 条) 2:52.0
3 鈴木 英昭 (掛川西) 2:55.0
4 饗場 達雄 (甲府南) 3:02.0
5 宮崎 明 (銚子) 3:02.9
6 原田 豊 (佐和田) 3:10.6
7 湊 基悦 (坂 越) 3:13.5
8 梅野 隆 (長 橋) 4:07.4

C

1 広野 高尙 (高 知) 2:46.8

2 尾谷 庸三 (館山二) 2:52.6
3 北岡 昭憲 (八 代) 2:57.7
4 井上 徹 (港) 2:59.3
5 内藤 信一 (盤田一) 3:01.8
6 豊島 久泰 (坂 越) 3:07.5
7 岩崎 正志 (川 越) 3:22.6

D

1 坂本 憲正 (花乃井) 2:42.7
2 釜掘 彦三 (十文字) 2:50.6
3 佐藤 定 (八 代) 2:59.2
4 山野内伸二 (佐伯鶴谷) 3:04.4
5 山本 修二 (桃 山) 3:12.8
6 木皿 晴彦 (五 橋) 3:17.6

E

1 福田 憲二 (山ノ手) 2:45.3
2 宮城 康次 (首 里) 2:47.2
3 石上喜代志 (愛 知) 2:51.0
4 藤村 路則 (城 東) 3:00.6
5 益子原和夫 (安 岡) 3:02.8
6 松田 在栄 (花乃井) 3:08.9

準決勝A

1 野村 克彦 (甲 南) 2:41.4
2 藤田 修孝 (日大豊山) 2:41.9
3 宮城 康次 (首 里) 2:42.7
4 坂本 憲正 (花乃井) 2:45.3
5 石上喜代志 (愛 知) 2:51.0
6 鈴木 英昭 (掛川西) 2:53.7
7 山本 光吉 (雄 踏) 2:56.8
8 藤村 路則 (城 東) 2:57.8
9 井上 徹 (港) 3:07.0

B

1 川村 豊 (高 知) 2:42.7
2 福田 憲二 (山ノ手) 2:43.5
3 広瀬 高尙 (高 知) 2:45.6
4 釜掘 彦三 (十文字) 2:49.1
5 尾谷 庸三 (館山二) 2:50.6
6 飯田 正 (五 条) 2:51.2
7 佐藤 定 (八代二) 2:53.7
8 北岡 昭寛 (〃) 2:57.1
9 森 守 (中 京) 2:59.0

決勝

1 藤田 修孝 (日大豊山) 2:39.5
2 野村 克彦 (甲 南) 2:40.9
3 広瀬 高尙 (高 知) 2:43.4
4 坂本 憲正 (花乃井) 2:45.0
5 釜掘 彦三 (十文字) 2:45.8

- 6 福田 憲二 (山ノ手) 2:46.2
- 7 宮城 康次 (首里) 2:46.3
- 8 川村 豊 (高知) 2:47.3
- 9 尾谷 庸三 (館山二) 2:47.9

400m メドレーリレー

予選A

- 1 猪野・稲津・藤村・湯山
(城東) 5:06.8
- 2 市野・伏木・坂本・藤島
(花乃井) 5:06.9
- 3 山本・坂下・木村・宇野
(上野台) 5:11.0
- 4 三木・江川・浜田・高瀬
(八代三) 5:16.5
- 5 新家・宮地・箱・西村
(瀬戸田) 5:22.5
- 6 山田・三宅・渡辺・貝沼
(柏崎一) 5:25.5
- 7 松野・村松・須藤・小島
(幾春別) 5:46.6

B

- 1 池永・笠毛・福田・石井
(山ノ手) 5:00.5
- 2 和田・安田・尾谷・川台
(館山) 5:08.9
- 3 正木・藤原・鈴木・増田
(稲生沢) 5:09.6
- 4 畑野・柴田・森・笹田
(中京) 5:09.6
- 5 渡海・土井・湊・入汐
(坂越) 5:21.9
- 6 利穂・竹内・酒井・吉田
(鳴門二) 5:30.6

C

- 1 小林・宮田・斎藤・紙谷
(立正) 5:06.0
- 2 鳥井・釜堀・釜堀・大坪
(十文字) 5:06.3
- 3 森本・中西・飯田・山内
(五条) 5:17.2
- 4 渡辺・岩本・福田・武田
(常盤) 5:20.0
- 5 山本・岡崎・岩崎・楸
(川越) 5:26.8
- 6 小島・藤田・工藤・木島
(本荘北) 5:31.5

決勝

- 1 猪野・稲津・藤村・湯山
(城東) 4:59.4
- 2 小林・宮田・斎藤・紙谷
(立正) 5:01.2
- 3 池永・笠毛・福田・石井
(山ノ手) 5:01.7
- 4 正木・藤原・鈴木・増田
(稲生沢) 5:03.0
- 5 市野・伏木・坂本・藤島
(花乃井) 5:03.9
- 6 鳥井・釜堀(昌)・釜堀(彦)・大坪
(十文字) 5:05.7
- 7 畑野・柴田・笹田・森
(中京) 5:06.7
- 8 和田・安田・尾谷・川名
(館山二) 5:09.8
- 9 山本・坂下・木村・宇野
(上野台) 5:11.8

800m リレー

- 1 今井・森・奥村・笹田
(中京) 9:56.3
- 2 加藤・加古・渡辺・紙谷
(立正) 10:02.5
- 3 内村・天野(政)・吉田・天野(憲)
(篠原) 10:08.2
- 4 宇野・富永・岩崎・木村
(上野台) 10:15.2
- 5 杉本・中西・浦西・上松
(下市) 10:46.7
- 6 西村・香川・箱・大西
(瀬戸田) 11:12.2
- 7 井手上・佐野・桜井・大宮
(五橋) 11:18.8

B

- 1 弘瀬・島内・中橋・長尾
(高知) 10:10.4
- 2 岩本・渡辺・榊井・武田
(常盤) 10:19.5
- 3 立山・佐藤・柴田・高岸
(八代一) 10:22.8
- 4 大出・坂本・林・酒井
(三稜) 10:37.9
- 5 大橋・塚本・久保・早杉
(三橋) 10:43.2
- 6 貝沼・福田・鈴塚・曾田

- (柏崎一) 10:43.3
- 7 麻生・大垣・滝本・根岸
(逗子開成) 10:53.6
- 8 富山・渡辺・桑田・陶山
(詫間) 11:04.4

決勝

- 1 今井・森・奥村・笹田
(中京) 9:55.3
- 2 渡辺・加古・加原・紙谷
(立正) 9:57.3
- 3 長尾・弘瀬・島内・中橋
(高知) 9:57.4
- 4 天野(憲)・内村・天野(政)・吉田
(篠原) 10:00.5
- 5 宇野・富永・岩崎・木村
(上野台) 10:11.4
- 6 立山・佐藤・柴田・高岸
(八代一) 10:13.7
- 7 岩本・武田・榊井・渡辺
(常盤) 10:17.6
- 8 宇杉・大橋・久保・塚本
(三橋) 10:31.4
- 9 大出・坂本・林・酒井
(三稜) 10:31.9

女子ノ部

100m 自由形

予選A

- 1 菊谷多鶴子 (下市) 1:10.9
- 2 中川 静子 (嘉島) 1:16.6
- 3 土ヶ内照子 (成女) 1:16.6
- 4 角田すみ子 (上町) 1:19.4
- 5 神谷よしえ (御荘) 1:19.5
- 6 水野喜代子 (梶山) 1:19.6
- 7 斎藤とし江 (沼田) 1:21.3
- 8 松本 幸子 (三原二) 1:25.3
- 9 佐藤 祥子 (加茂) 1:31.2

B

- 1 深谷 澄子 (梶山) 1:11.8
- 2 高島 美枝 (成女) 1:15.3
- 3 渡辺 君子 (山ノ手) 1:18.9
- 4 坂本 和美 (八代二) 1:19.5
- 5 中前アキ子 (下市) 1:20.9
- 6 梶原みつ子 (杷木) 1:21.3
- 7 山本十三子 (土佐女) 1:23.7
- 8 河野まゆみ (野沢温泉) 1:27.6

9 高野 幸子 (幾春別) 1:52.4
C
 1 内野 典子 (八王子四) 1:12.4
 2 横井真由美 (横浜学) 1:14.6
 3 伊藤 咲子 (淑徳) 1:17.2
 4 足立久美子 (杷木) 1:17.5
 5 川本 倫子 (瀬戸田) 1:20.8
 6 玉井 伸子 (五条) 1:22.0
 7 畠山 重子 (花巻湯口) 1:25.4
 8 大野 洋子 (豊田前) 1:25.4
D
 1 道家 和子 (椛山) 1:14.8
 2 池上久美子 (出水) 1:17.0
 3 宮本 聖子 (静大附浜松) 1:17.1
 4 虎野千鶴子 (帝塚山) 1:18.2
 5 湊 桂子 (雄新) 1:20.1
 6 安田 艶子 (加茂川) 1:20.9
 7 大辻 鈴子 (相川金泉) 1:25.0
 8 新井 栄子 (松蔭) 1:26.8
準決勝A
 1 菊谷多鶴子 (下市) 1:11.0
 2 横井真由美 (横浜学) 1:14.8
 3 道家 和子 (椛山) 1:14.8
 4 土ヶ内照子 (成女) 1:15.2
 5 池上久美子 (出水) 1:17.1
 6 足立久美子 (杷木) 1:17.7
 7 虎野千鶴子 (帝塚山) 1:18.1
B
 1 深谷 澄子 (椛山) 1:11.6
 2 内野 典子 (八王子四) 1:13.3
 3 宮本 聖子 (静大附浜松) 1:15.1
 4 高島 美枝 (成女) 1:15.4
 5 中川 静子 (嘉島) 1:16.2
 6 伊藤 咲子 (淑徳) 1:18.2
 7 渡辺 君子 (山ノ手) 1:18.3
決勝
 1 菊谷多鶴子 (下市) 1:10.6
 2 深谷 澄子 (椛山) 1:11.5
 3 内野 典子 (八王子四) 1:12.6
 4 道家 和子 (椛山) 1:13.8
 5 横井真由美 (横浜学) 1:14.0
 6 宮本 聖子 (静大附浜松) 1:15.3
 7 土ヶ内照子 (成女) 1:15.6
200m 自由形
予選A
 1 深谷 澄子 (椛山) 2:40.5

2 齋藤 妙子 (東) 2:47.5
 3 土ヶ内照子 (成女) 2:52.0
 4 大崎 世子 (横浜学) 2:54.0
 5 山本 理子 (富士) 2:54.2
 6 奥村 城子 (宮城) 3:06.0
 7 吉田 紀江 (岩美) 3:09.2
 8 矢野 梢 (比良松) 3:09.8
B
 1 菊谷多鶴子 (下市) 2:43.0
 2 中川 静子 (嘉島) 2:50.6
 3 皆月 洋子 (淑徳) 2:51.9
 4 虎野千鶴子 (帝塚山) 2:54.2
 5 柏原 道子 (三原二) 3:02.1
 6 野崎 寿枝 (八東中) 3:03.8
 7 関 英子 (詫間) 3:10.2
 8 中沢由美子 (浜田二) 3:10.2
○
 1 斎 尚子 (椛山) 2:43.8
 2 清水 善子 (皇子山) 2:47.0
 3 内野 典子 (八王子四) 2:47.2
 4 坂本 和美 (八代二) 2:58.3
 5 浜谷 幸子 (上野台) 3:03.0
 6 小林 繁子 (横浜学) 3:04.1
 7 山本 孝子 (鶴尾) 3:07.0
 8 大辻 玲子 (相川金泉) 3:09.9
D
 1 横井真由美 (横浜学) 2:48.2
 2 足立久美子 (杷木) 2:51.8
 3 伊藤 咲子 (淑徳) 2:53.4
 4 神谷よしえ (御荘) 3:00.0
 5 守重 達子 (成女) 3:02.2
 6 中前アキ子 (下市) 3:02.2
 7 松本 幸子 (三原二) 3:07.4
 8 本間 郁 (念珠関) 3:14.4
E
 1 高島 美枝 (成女) 2:44.0
 2 竹内 久子 (椛山) 2:47.8
 3 岩永 弘子 (嘉島) 2:55.2
 4 川本 倫子 (瀬戸田) 2:55.2
 5 瀬戸いつ子 (淑徳) 3:01.7
 6 玉井 伸子 (五条) 3:07.2
 7 今井理英子 (長岡南) 3:13.4
 8 島 まゆみ (鳴門二) 3:13.6
準決勝A
 1 深谷 澄子 (椛山) 2:41.8
 2 清水 善子 (皇子山) 2:43.9

3 高島 美枝 (成女) 2:46.8
 4 竹内 久子 (椛山) 2:47.5
 5 皆月 洋子 (淑徳) 2:49.5
 6 虎野千鶴子 (帝塚山) 2:52.4
 7 土ヶ内照子 (成女) 2:52.5
 8 山本 理子 (富士) 2:53.4
 9 横井真由美 (横浜学) 2:53.7
B
 1 菊谷多鶴子 (下市) 2:40.4
 2 齋藤 妙子 (東) 2:45.1
 3 斎 尚子 (椛山) 2:46.8
 4 内野 典子 (八王子四) 2:47.0
 5 中川 静子 (嘉島) 2:49.7
 6 伊藤 咲子 (淑徳) 2:54.2
 7 大崎 世子 (横浜学) 2:54.5
 8 足立久美子 (杷木) 2:57.3
 9 岩永 弘子 (嘉島) 2:57.7
決勝
 1 深谷 澄子 (椛山) 2:38.2
 2 菊谷多鶴子 (下市) 2:38.7
 3 内野 典子 (八王子四) 2:43.6
 4 清水 善子 (皇子山) 2:44.2
 5 齋藤 妙子 (東) 2:44.3
 6 斎 尚子 (椛山) 2:46.0
 7 高島 美枝 (成女) 2:47.7
 8 竹内 久子 (椛山) 2:48.5
 9 皆月 洋子 (淑徳) 2:51.7
400m 自由形
予選A
 1 齋藤 妙子 (東) 5:58.5
 2 笹 千枝子 (若松四) 6:09.8
 3 渡辺 君子 (山ノ手) 6:13.6
 4 柏原 道子 (三原二) 6:24.2
 5 瀬戸いつ子 (淑徳) 6:30.1
 6 小林 繁子 (横浜学) 6:38.2
 7 杉山 孝子 (西脇東) 6:44.0
 8 吉田 紀江 (岩美) 6:50.7
 9 島 まゆみ (鳴門二) 6:55.7
B
 1 斎 尚子 (椛山) 5:51.5
 2 清水 善子 (皇子山) 5:55.5
 3 大崎 喜子 (横浜学) 6:05.6
 4 岡田 信子 (花乃井) 6:17.5
 5 中島千恵子 (成女) 6:23.9
 6 齋藤トシ江 (沼田) 6:30.4
 7 山本 孝子 (鶴尾) 6:39.5

8. 天野 梢 (比良松) 6:51.4
9. 松下 一子 (垂水) 7:03.4
C

1. 竹田 久子 (椛山) 5:51.9
2. 湊 桂子 (雄新) 6:19.6
3. 浜谷 幸子 (上野台) 6:23.6
4. 藤井 文代 (川下) 6:25.0
5. 野崎 寿枝 (八東) 6:30.6
6. 池田 容子 (下田) 6:31.6
7. 石川 圭子 (京都学大付) 6:48.8
8. 河津八重子 (豊田前) 6:48.8
9. 今井理英子 (長岡南) 7:05.3
D

1. 皆月 洋子 (淑徳) 5:59.7
2. 岩永 弘子 (嘉島) 6:12.2
3. 河野まゆみ (野沢温泉) 6:16.6
4. 北鹿渡郁子 (成女) 6:20.8
5. 久保山美智恵 (杷木) 6:21.3
6. 畠山 重子 (花巻湯口) 6:37.8
7. 西部 千波 (竹原) 6:43.4
8. 荒木多恵子 (帝塚山) 6:49.2
9. 今坂 広美 (五条) 7:03.3

決勝

1. 齋 尚子 (椛山) 5:44.4
2. 清水 美子 (皇子山) 5:44.8
3. 齋藤 妙子 (東) 5:51.0
4. 竹内 久子 (椛山) 5:52.3
5. 皆月 洋子 (淑徳) 6:01.8
6. 簾 千枝子 (若松四) 6:08.6
7. 渡辺 君子 (山ノ手) 6:09.8
8. 大崎 喜子 (横浜学) 6:11.2
9. 岩永 弘子 (嘉島) 6:42.1

100m 平 泳

予選A

1. 葉室 加奈 (筑紫女) 1:31.1
2. 葉室カヤ子 (羽衣) 1:31.5
3. 田中 映子 (甲南) 1:33.6
4. 中山志奈子 (城南) 1:35.8
5. 野尻 博美 (成女) 1:35.9
6. 園田 芳子 (八代一) 1:39.1
7. 齋加 公子 (鶴尾) 1:39.5
8. 青木 敏子 (九度山) 1:39.5

B

1. 浅井 弘美 (淑徳) 1:30.3
2. 戸田かよ子 (信愛) 1:33.2
3. 中井 宏子 (五条) 1:34.7

4. 松本 直桃 (筑紫女) 1:34.7
5. 青木登喜子 (横浜学) 1:35.2
6. 山部美根子 (豊田前) 1:38.8
7. 庄境 瞳 (城東) 1:39.0
8. 今井 美子 (内郷二) 1:39.9
C

1. 渡辺 和子 (東田) 1:30.8
2. 山口 栄 (館山二) 1:33.4
3. 小森美知子 (淑徳) 1:34.5
4. 高嶺 恵 (横川) 1:35.2
5. 嶋津登志子 (川下) 1:35.2
6. 小沢 石志 (信愛) 1:36.1
7. 中村 頼子 (岩美) 1:42.5
8. 堀口ナナ子 (長岡南) 1:44.8
9. 藤本 律子 (幾春別) 1:53.0
D

1. 高野美代子 (東田) 1:31.8
2. 牧野 妙子 (椛山) 1:32.0
3. 三浦 都子 (竹原) 1:33.0
4. 川西 繁美 (五条) 1:36.1
5. 宮本 淑子 (嘉島) 1:37.2
6. 小川由里子 (羽衣) 1:37.4
7. 新井 敏江 (浜田二) 1:39.4
8. 只野ゆきみ (宮城) 1:48.5
E

1. 綱屋 千代 (鹿屋) 1:31.0
2. 山重百合子 (横浜学) 1:34.0
3. 竹内 陽子 (湖東) 1:34.2
4. 安達 絹子 (椛山) 1:35.6
5. 川村 静香 (瀬戸田) 1:35.8
6. 辻 由美子 (西脇) 1:36.0
7. 大下とし子 (御荘) 1:38.2
8. 若山絵美子 (長橋) 2:00.4

準決勝A

1. 浅井 弘美 (淑徳) 1:30.6
2. 葉室 加奈 (筑紫女) 1:32.5
3. 葉室カヤ子 (羽衣) 1:32.8
4. 戸田かよ子 (信愛) 1:33.0
5. 三浦 都子 (竹原) 1:33.6
6. 山重百合子 (横浜学) 1:34.3
7. 竹内 陽子 (湖東) 1:34.5

B

1. 渡辺 和子 (東田) 1:30.5
2. 綱屋 千代 (鹿屋) 1:31.4
3. 高野美代子 (東田) 1:31.8
4. 牧野 妙子 (椛山) 1:32.3

5. 山口 栄 (館山二) 1:32.6
6. 小森美和子 (淑徳) 1:32.9
7. 田中 映子 (甲南) 1:33.8

決勝

1. 浅井 弘美 (淑徳) 1:29.8
2. 綱屋 千代 (鹿屋) 1:30.0
3. 渡辺 和子 (東田) 1:30.3
4. 牧野 妙子 (椛山) 1:30.4
5. 葉室 加奈 (筑紫女) 1:31.0
6. 山口 栄 (館山二) 1:31.6
7. 高野美代子 (東田) 1:31.6

200m 平 泳

予選A

1. 高野美代子 (東田) 3:14.4
2. 葉室 加奈 (筑紫女) 3:19.5
3. 小島 央子 (椛山) 3:20.0
4. 森川富久子 (成女) 3:25.8
5. 川村 静香 (瀬戸田) 3:26.0
6. 川西 繁美 (五条) 3:27.4
7. 田中 文代 (船岡) 3:34.3
8. 堀口ナナ子 (長岡南) 3:42.6

B

1. 三浦 都子 (竹原) 3:19.1
2. 牧野 妙子 (椛山) 3:19.8
3. 嶋津登志子 (川下) 3:24.2
4. 宮本 淑子 (嘉島) 3:24.8
5. 竹内たみ子 (垂水) 3:27.1
6. 青木登喜子 (横浜学) 3:29.5
7. 小川由里子 (羽衣) 3:34.4
8. 本間ミハ子 (相川金泉中) 3:46.8

C

1. 葉室カヤ子 (羽衣) 3:17.4
2. 松本 直桃 (筑紫女) 3:18.5
3. 中山志奈子 (城南) 3:21.3
4. 安達 絹子 (椛山) 3:24.3
5. 山口 栄 (館山二) 3:24.6
6. 中井 宏子 (五条) 3:26.8
7. 新井 敏江 (浜田二) 3:38.0

D

1. 浅井 弘美 (淑徳) 3:08.2
2. 田中 映子 (甲南) 3:21.6
3. 戸田かよ子 (信愛) 3:23.5
4. 山重百合子 (横浜学) 3:25.6
5. 竹内 陽子 (湖東) 3:27.2
6. 齋加 公子 (鶴尾) 3:29.1
7. 庄境 瞳 (城東) 3:30.2

E

1 網屋 千代 (鹿 屋) 3:12.8
2 渡辺 和子 (東 田) 3:16.0
3 小沢 石志 (信 愛) 3:26.1
4 丹下 招子 (九 度 山) 3:29.4
5 桜木 芳子 (富 山 南) 3:30.1
6 園田 芳子 (八 代 一) 3:33.5
7 今 伊美子 (内 郷 二) 3:41.8

準決勝A

1 浅井 弘美 (淑 徳) 3:10.7
2 渡辺 和子 (東 田) 3:16.1
3 牧野 妙子 (梶 山) 3:16.6
4 葉室 加奈 (筑 紫 女) 3:18.0
5 葉室カヤ子 (羽 衣) 3:18.7
6 田中 映子 (甲 南) 3:21.5
7 戸田かよ子 (信 愛) 3:24.4
8 宮本 淑子 (嘉 島) 3:25.2
9 山口 栄 (館 山 二) 3:25.6

B

1 網屋 千代 (鹿 屋) 3:13.2
2 高野美代子 (東 田) 3:15.8
3 中山志奈江 (城 南) 3:18.7
4 三浦 都子 (竹 原) 3:19.5
5 小島 央子 (梶 山) 3:20.2
6 松本 直桃 (筑 紫 女) 3:23.0
7 山重百合子 (横 浜 学) 3:23.1
8 安達 絹子 (梶 山) 3:24.6
9 嶋津登志子 (川 下) 3:31.1

決勝

1 浅井 弘美 (淑 徳) 3:07.8
2 網屋 千代 (鹿 屋) 3:10.9
3 高野美代子 (東 田) 3:15.0
4 渡辺 和子 (") 3:15.7
5 牧野 妙子 (梶 山) 3:15.8
6 葉室 加奈 (筑 紫 女) 3:17.8
7 葉室カヤ子 (羽 衣) 3:18.3
8 中山志奈江 (城 南) 3:19.0
9 三浦 都子 (竹 原) 3:19.1

50m バタフライ

予選A

1 麻生真由美 (横 浜 学) 35.7
2 小緑 好子 (宮 之 城) 35.7
3 重信 幸子 (筑 紫 女) 37.8
4 浜田百合子 (山 ノ 手) 38.3
5 井野 和子 (梶 山) 39.2
6 佐々木芳美 (成 女) 42.6

7 岩淵 悦子 (皇 子 山) 43.2
8 鈴木るい子 (篠 原) 43.2
9 佐藤 咲子 (念 珠 関) 46.8

B

1 松田奈津子 (五 条) 37.7
2 西岡須磨子 (大 宮) 39.1
3 疋田 清子 (信 愛) 39.5
4 佐々木千鶴子 (御 園) 41.6
5 田村さつ子 (瀬 戸 田) 41.8
6 草野恵美子 (八 代 一) 41.8
7 大橋 空子 (文 の 里) 42.1
8 深見美智子 (垂 水) 43.7
9 谷川 且枝 (紫 雲) 45.3

C

1 高橋 淑子 (成 女) 37.2
2 道家 知子 (梶 山) 37.8
3 谷口十代美 (御 荘) 37.9
4 釜掘タミエ (十 文 字) 38.6
5 竹山 壮 (篠 原) 41.2
6 長畑恵美子 (三 丘) 41.2
7 池森登記子 (竹 原) 44.1
8 土岐由美子 (松 蔭) 44.7
9 水田 久美 (大 宮) 47.6

D

1 石山 洋子 (横 川) 38.2
2 川合美智子 (梶 山) 38.7
3 松田 菊江 (成 女) 39.0
4 下村 豊子 (帝 塚 山) 39.2
5 熊野 睦子 (三 原 二) 41.0
6 富井 暁子 (野 沢 温 泉) 42.2
7 佐藤 恵子 (内 郷 二) 42.9
8 五十嵐和子 (念 珠 関) 43.8

準決勝A

1 麻生真由美 (横 浜 学) 35.7
2 松田奈津子 (五 条) 37.6
3 道家 知子 (梶 山) 38.0
4 西岡須磨子 (大 宮) 38.0
5 浜田百合子 (山 ノ 手) 38.4
6 石山 洋子 (横 川) 38.4
7 松田 菊江 (成 女) 39.0

B

1 小緑 好子 (宮 ノ 城) 36.4
2 高橋 淑子 (成 女) 37.4
3 重信 幸子 (九 州 女) 38.3
4 釜掘タミエ (十 文 字) 38.6
5 谷口十代美 (御 荘) 38.6

6 川合美智子 (梶 山) 39.1

決勝

1 麻生真由美 (横 浜 学) 35.3
2 道家 知子 (梶 山) 36.5
3 小緑 好子 (宮 之 城) 36.6
4 高橋 淑子 (成 女) 37.5
5 西岡須磨子 (大 宮) 37.7
6 松田奈津子 (五 条) 38.0
7 重信 幸子 (九 州 女) 38.7

100m バタフライ

予選A

1 松田奈津子 (五 条) 1:27.2
2 石山 洋子 (横 川) 1:28.5
3 西岡須磨子 (大 宮) 1:31.8
4 疋田 清子 (信 愛) 1:35.1
5 草野恵美子 (八 代 一) 1:38.2
6 中丸 典子 (梶 山) 1:39.7
7 大橋 空子 (文 の 里) 1:40.2
8 佐藤 恵子 (内 郷 二) 1:43.3
9 佐藤 咲子 (念 珠 関) 1:51.8

B

1 小緑 好子 (宮 之 城) 1:27.6
2 麻生真由美 (横 浜 学) 1:29.2
3 井野 和子 (梶 山) 1:29.5
4 竹山 壮 (篠 原) 1:33.6
5 佐々木芳美 (成 女) 1:41.2
6 林 和江 (沼 田) 1:41.5
7 熊野 睦子 (三 原 二) 1:43.4
8 石谷寿美恵 (岩 手) 1:45.5

C

1 高橋 淑子 (成 女) 1:26.7
2 釜掘タミエ (十 文 字) 1:29.8
3 川合美智子 (梶 山) 1:33.6
4 長畑恵美子 (三 丘) 1:34.1
5 下村 豊子 (帝 塚 山) 1:34.9
6 鈴木るい子 (篠 原) 1:42.0
7 和田喜久江 (進 徳) 1:46.1
8 佐名 和枝 (詫 間) 1:46.8

D

1 浜田百合子 (山 ノ 手) 1:28.0
2 松田 菊江 (成 女) 1:29.7
3 田村さつ子 (瀬 戸 田) 1:34.4
4 富井 暁美 (野 沢 温 泉) 1:37.7
5 岩淵 悦子 (皇 子 山) 1:40.0
6 五十嵐和子 (念 珠 関) 1:41.8
7 谷川 且枝 (紫 雲) 1:45.3

8 深見美千代 (垂水) 1:45.6

準決勝A

1 高橋 叔子 (成女) 1:25.5

2 釜堀タミエ (十文字) 1:26.8

3 浜田百合子 (山ノ手) 1:27.5

4 石山 洋子 (横川) 1:27.5

5 竹山 壮 (篠原) 1:34.2

6 長畑恵美子 (三丘) 1:35.5

B

1 小緑 好子 (宮之城) 1:21.3

2 松田奈津子 (五条) 1:26.6

3 麻生真由美 (横浜学) 1:27.9

4 西岡須磨子 (大宮) 1:29.3

5 井野 和子 (榎山) 1:31.0

6 川合美智子 (〃) 1:33.5

7 田村さつ子 (瀬戸田) 1:34.7

決勝

1 小緑 好子 (宮之城) 1:25.0

2 高橋 叔子 (成女) 1:25.4

3 松田奈津子 (五条) 1:26.0

4 釜堀タミエ (十文字) 1:26.6

5 石山 洋子 (横川) 1:26.7

6 麻生真由美 (横浜学) 1:27.0

7 浜田百合子 (山ノ手) 1:28.2

50m 背 泳

予選A

1 水落志保美 (成女) 38.0

2 蓮田千穂美 (御荘) 40.3

3 梅田 雅子 (竹原) 40.5

4 植松 郁子 (横浜学) 42.1

5 吉岡 仲代 (大嶺) 42.5

6 美和 節子 (信愛) 42.9

7 宮本 親子 (川越) 42.9

8 西巻 文江 (柏崎田尻) 44.6

B

1 池田 静子 (比良松) 40.4

2 萩野由美子 (北沢) 40.8

3 佐藤 光代 (榎山) 41.0

4 児島 節 (文の里) 41.0

5 正木美津子 (西脇) 41.1

6 黒瀬まり子 (浜脇) 42.4

7 高柳 圭子 (鷺津) 43.3

8 本間 清子 (念珠関) 45.0

C

1 瀬崎 淳子 (榎山) 39.3

2 花田 妙子 (帝塚山) 40.7

3 白坂 淳子 (鹿屋) 41.0

4 井原 裕子 (和洋) 42.3

5 中西久仁子 (皇子山) 42.4

6 志倉 容子 (桐朋女) 43.2

7 渋谷 広江 (横浜学) 43.2

8 阪上 恭子 (長橋) 51.9

D

1 中村 淑子 (文の里) 40.1

2 大宮美枝子 (淑徳) 40.1

3 若月 幸恵 (成女) 40.6

4 上田橋真弓 (横川) 40.8

5 藤本 佳子 (進徳) 41.4

6 小川 福子 (下田) 42.0

7 森山 祐子 (杞木) 42.8

8 神谷 豊子 (長岡南) 48.6

E

1 浦上 涼子 (筑紫女) 38.5

2 木原美和子 (旭) 40.2

3 多田美美代 (羽衣) 40.4

4 田端 恵子 (嘉島) 42.6

5 天野みどり (竹原) 43.0

6 山本美喜子 (日和佐) 43.3

7 河田 逸子 (詫間) 44.0

準決勝A

1 水落志保美 (成女) 37.4

2 大宮美枝子 (淑徳) 39.5

3 萩野由美子 (北沢) 39.7

4 中村 淑子 (文の里) 39.8

5 池田 静子 (比良松) 39.8

6 花田 妙子 (帝塚山) 40.2

7 多田美美子 (羽衣) 40.8

B

1 浦上 涼子 (筑紫女) 38.7

2 瀬崎 淳子 (榎山) 39.8

3 木原美知子 (旭) 40.0

4 若月 幸恵 (成女) 40.2

5 梅田 雅子 (竹原) 40.5

6 上田橋真弓 (横川) 41.1

7 蓮田千穂美 (御荘) 41.4

決勝

1 水落志保美 (成女) 37.7

2 浦上 涼子 (筑紫女) 38.0

3 大宮美枝子 (淑徳) 38.3

4 中村 淑子 (文の里) 39.1

5 萩野由美子 (北沢) 39.7

6 瀬崎 淳子 (榎山) 39.8

7 池田 静子 (比良松) 39.8

100m 背 泳

予選A

1 水落志保美 (成女) 1:25.4

2 瀬崎 淳子 (榎山) 1:25.5

3 梅田 雅子 (竹原) 1:26.7

4 中尾サカエ (船岡) 1:33.1

5 井原 裕子 (和洋) 1:33.1

6 黒瀬まり子 (浜脇) 1:34.0

7 山本美喜子 (日和佐) 1:34.4

B

1 大宮美枝子 (淑徳) 1:24.5

2 白坂 涼子 (鹿屋) 1:29.4

3 蓮田千穂美 (御荘) 1:31.1

4 藤本 佳子 (進徳) 1:31.4

5 花田 妙子 (帝塚山) 1:32.0

6 沢 清華 (船岡) 1:36.0

7 河田 逸子 (詫間) 1:37.0

C

1 浦上 涼子 (筑紫女) 1:28.2

2 上田橋真弓 (横川) 1:30.2

3 山本ミドリ (豊田前) 1:30.9

4 児島 節 (文の里) 1:30.9

5 萩野由美子 (北沢) 1:32.8

6 天野由美子 (榎山) 1:33.4

7 西巻 文江 (柏崎国尻) 1:37.6

D

1 多田美美代 (羽衣) 1:27.6

2 佐藤 光代 (榎山) 1:30.7

3 田端 恵子 (嘉島) 1:31.3

4 美和 節子 (信愛) 1:31.6

5 橋口 雪子 (川内西) 1:31.6

6 菅井 礼子 (石巻) 1:35.1

7 宗実 良子 (松蔭) 1:35.3

E

1 池田 静子 (比良松) 1:27.2

2 正木美津子 (西脇) 1:28.9

3 中村 淑子 (文の里) 1:29.1

4 角田美栄子 (稻生沢) 1:31.5

5 天野みどり (竹原) 1:35.7

6 志倉 容子 (桐朋女) 1:37.7

7 本田 清子 (念珠関) 1:41.2

準決勝A

1 大宮美枝子 (淑徳) 1:24.9

2 池田 静子 (比良松) 1:27.0

3 梅田 雅子 (竹原) 1:27.1

- 4 中村 淑子 (文の里) 1:27.9
 5 佐藤 光代 (椛山) 1:28.9
 6 正木美津子 (西脇) 1:30.0
 7 児島 節 (文の里) 1:30.9

B

- 1 水落志保美 (成女) 1:24.4
 2 浦上 涼子 (筑紫女) 1:25.2
 3 瀬崎 淳子 (椛山) 1:26.0
 4 多田芙美代 (羽衣) 1:27.5
 5 上田橋真弓 (横川) 1:28.9
 6 白坂 淳子 (鹿屋) 1:29.1
 7 山本みどり (豊田前) 1:32.0

決勝

- 1 水落志保美 (成女) 1:23.5
 2 大宮美枝子 (淑徳) 1:25.7
 3 浦上 涼子 (筑紫女) 1:25.8
 4 瀬崎 淳子 (椛山) 1:26.4
 5 池田 静子 (比良松) 1:27.1
 6 梅田 雅子 (竹原) 1:27.7
 7 多田芙美代 (羽衣) 1:27.7

400m リレー

予選A

- 1 齋・竹内・道家・深谷
(椛山) 5:05.6
 2 小林・牧島・大崎・横井
(横浜学) 5:21.4
 3 吉田・梶原・吉瀬・足立
(杷木) 5:34.5
 4 杉本・岸・熊野・柏原
(三原二) 5:50.8
 5 河津・大野・山本・平松
(豊田前) 5:51.0
 6 西岡・武内・二宮・田中
(大宮) 6:06.5
 7 西巻・矢追・佐藤・大矢
(柏崎田尻) 6:41.2

B

- 1 伊藤・瀬瀬・大宮・皆月
(淑徳) 5:16.2
 2 虎野・奥田・荒木・花田
(帝塚山) 5:24.4
 3 神谷・谷口・池田・菊地
(御荘) 5:39.0
 4 中前・上村・西岡・菊谷
(下市) 5:42.6
 5 阪本・稲葉・渡辺・高野

(東田) 5:55.0

- 6 五十嵐・本間・佐藤・本間
(念珠関) 6:10.4

C

- 1 土ケ内・北鹿渡・中島・高島
(成女) 5:13.9
 2 岩下・松田・上村・中川
(嘉島) 5:23.4
 3 小緑・日当瀬(マ)・日当瀬(イ)・
奥山 (宮之城) 5:23.4
 4 尾崎・山根・花木・野崎
(八東) 5:46.8
 5 塚原・河野・富井・河野
(野沢温泉) 6:00.2
 6 早川・植田・上田・中林
(松陽) 6:02.8

決勝

- 1 齋・竹内・道家・深谷
(椛山) 5:01.0
 2 土ケ内・北鹿渡・中島・高島
(成女) 5:12.1
 3 伊藤・瀬瀬・大宮・皆月
(淑徳) 5:17.0
 4 虎野・奥田・荒木・花田
(帝塚山) 5:19.0
 5 小林・牧野・大崎・横井
(横浜学) 5:23.3
 6 吉田・吉瀬・梶原・足立
(杷木) 5:25.4
 7 岩永・松田・上村・中川
(嘉島) 5:25.7
 8 神谷・池田・菊地・谷口
(御荘) 5:25.7
 9 小緑・日当瀬・奥山・日当瀬
(宮之城) 5:45.5

400m メドレーリレー

予選A

- 1 瀬崎・牧野・井野・齋
(椛山) 5:48.9
 2 別府・釜掘・古川・大隅
(十文字) 6:08.6
 3 美和・小沢・疋田・村松
(信愛) 6:17.3
 4 梅田・三浦・西部・三浦
(竹原) 6:17.4
 5 山本・山部・平松・大野

(豊田前) 6:27.1

- 6 佐藤・今・佐藤・大和田
(内郷二) 7:06.7

B

- 1 大宮・浅井・伊藤・皆月
(淑徳) 5:51.3
 2 中井・田中・松田・玉井
(五条) 6:01.3
 3 中西・岩淵・清水・北村
(皇子山) 6:05.2
 4 花田・粟井・下村・虎野
(帝塚山) 6:08.4
 5 富井・河野・富井・河野
(野沢温泉) 6:24.1
 6 西巻・高橋・佐藤・大矢
(柏崎西尾) 6:51.2

C

- 1 水落・野尻・高橋・高嶋
(成女) 5:42.1
 2 上田橋・高嶺・石山・森園
(横川) 5:55.6
 3 蓮田・大下・谷口・神谷
(御荘) 6:05.4
 4 田端・林田・宮本・中川
(嘉島) 6:20.2
 5 徳永・沢村・西岡・田中
(大宮) 6:31.2
 6 山根・中村・石谷・吉田
(岩美) 6:37.3

決勝

- 1 水落・野尻・高橋・高嶋
(成女) 5:37.3
 2 瀬崎・牧野・井野・深谷
(椛山) 5:39.8
 3 大宮・浅井・伊藤・皆月
(淑徳) 5:46.8
 4 上田橋・高嶺・石山・森園
(横川) 5:57.5
 5 田中・中井・松田・玉井
(五条) 6:01.5
 6 蓮田・大下・谷口・神谷
(御荘) 6:02.4
 7 別府・古川・釜掘・大隅
(十文字) 6:02.9
 8 中西・北村・岩淵・清水
(皇子山) 6:03.8
 9 花田・粟井・下村・虎野
(帝塚山) 6:09.4

第16回国民体育大会夏季大会水上競技大会雑感

益 田 宗

昭和36年9月17日、府県対抗の優勝旗の一本は、永年のジックスを遂に破って白河の関を越え、東北の一隅・福島県チームに授与された。

これよりさきの15日に、自由形2種目をのぞく各種目の予選に5人の決勝出場者を出し、400mメドレー・リレーも予選第1位で通過するというめざましい活躍ぶりを示した福島県青年チームは、自由形2種目の首位と平泳ぎ下位入勝を足場に400mメドレー・リレーでも福島県と首位を入れ換え必死になって優勝をねらおうとする静岡県チームの追撃を却け、初優勝に輝くであろうことが、うすうす感じられはしていた。福島県水連関係者は内心の喜びをかくしきれないながらも、翌日に来襲を予想された超大型台風が、計りしれない影響を選手に与え、ために思わぬ不覚をとることもあろうかと、一沫の不安を懐きつつ夜を明したようであった。

決勝の第1は、400mメドレー・リレー。福島県チームの背泳ぎ(作山)は力泳これつとめ、トップで平泳ぎ(長沢)に引継いだので、バタフライ(佐藤)のズバ抜けた実力を計算に入れると、ほぼ優勝は確実となった。事実、佐藤が自由形(穂刈)に引継いだとき、追いつくであろうとする静岡県チームは15mの大差に泣いていた。予選における両者の差は僅か0.3秒。優勝して7点をとるか、2位に甘んじて5点となるかは、直接青年府県対抗の最終得点にも響くだけに、福島県チームは、緒戦から優位に立つことになった。あとで、福島県水連の人々は400mメドレー・リレーに勝てたとき青年府県対抗に優勝できると、思ったというが、まさにそのとおりであろう。事実、背泳ぎの作山は前日から好調を誇って、あわよくば第2位の座をねらわんとしているし、バタフライの佐藤の優勝はかたく、あわせて今1人(五十嵐)の下位得点も九分通り期待できたし、さらに平泳ぎにも下位得点を望みうるような有様であった。一方は、静岡は、水野が圧倒的な強みをみせて、100、400mの自由形の首位を占めたため、最終決勝種目200m平泳ぎまでの得点合計は、静岡19点、福島19点と同点になる。しかも平泳ぎの予選通過者はとみると、3位以下2分58~59秒台でひしめきあい、5位鍋木(福島)2分59秒2、7位長沢(福島)2分59秒6、8位横原(静岡)3分01秒3である。横原が地方予選でも3分01秒台の記録しか持ちあわせていないことを申込書で確めた福島県チームは、一瞬

ホッとしたが、今度は9位で入選した蔵本(鳥取)のことが心配となる。折角、横原を抑えたとして鍋木・長沢が7位8位では何にもならぬ。もっともリレー上位を優先するので、その場合でも福島県の青年優勝は成る。今から思えば杞憂にすぎないことではあったが、レースの結果をみてもわかるように、4位で入選した山崎(岡山)が等外に落ち、6位で入選した鈴木(愛知)が2位に喰込むなど、相当の異動をみたのであるから、むべなるかなであろう。スタートしてから前半の100で、横原(静岡)と蔵本(鳥取)が入賞圏内からはずれ、最悪の場合でも6・7位を福島県は確保できそうになり、初優勝の願いは成就された。台風の前触れの風雨ともに激しいなかを、万来の拍手と歓声に迎えられて、鍋木が5位に、そして長沢もよく健闘して6位に入り、3点を福島県にもたす。ここに、第16回国民体育大会夏季大会水上競技大会青年府県対抗の優勝は、福島県と決定した。

思えば、ここに至る道は遠いものであった。かねてから国体を招きたいという県民の願いと努力とは、去る昭和28年当地で行なわれた全国勤労者大会がまれにみる低温と冷水のなかで行なわれたため、意外の不評をかい、遂に水連主脳部に、全国大会の北限は宇都宮までだ、と言いつた放たれて、その後の数次にわたる交渉も空しく、実現をみるに至らなかった。昭和36年度の国体は本来は秋田県で行なわれる筈であるが、会場の都合や設備の都合で、急ぎ会津に変更されたため、数年も準備に費やす他の府県の場合とは異って、その労力と努力とは、我々の想像を絶するものがあったと思われる。卒直に言うならば、水連の主脳部には、漠然とではあるが、今年为国体はまどつくぞ、といった危惧の念が支配していた。けれども、いざ幕を開けてみると、4日間の大会は事もなくスムーズに運営され、不慣れどころか、よく訓練の行き届いた行動は、我々の目をみはらせた。その上また優勝旗の一本を手中に収めたのだから、その労は報われてなお余りあるものがあつたであろう。

○

高校は、アメリカ派遣選手が過労のためか一部振わず、自由形2種目に57秒台、4分30秒台のアナウスを聞きたいという我々の願いは空しく終わった。けれども松本健次郎(大分)は、200m平泳ぎの予選で2分36秒1と、世界記録を凌ぎ、観衆の歓呼を浴びた。決勝では後輩の

山南宏一（大分）や石川健二（東京）にたあいもなくひねられて、3者とも2分39秒台に終わった。同年輩の重松盛人（福岡）が実業団で2分38秒6の優勝を飾ったのに少しひけをとった感じがする。五十嵐武清（東京）と伊藤圭祐（愛知）は、200m背泳ぎで接戦を展開するかに思われたが、五十嵐が100mから150mにかけて積局的に出てリードし、勝負をつけ水をあけて逃げ切ったかに見えた瞬間、例の悪い癖が出て、ゴール・タッチの手が流れているうちに、みるみる伊藤が迫ってきて、あわやと思わせたが、150mまでの差が物を言って事なきをえた。五十嵐は、予選でもタッチを流して計時員を泣かせたのが、再び決勝で非を重ねたのは肯けない。常人なら1秒そこいらを流れて損をするのだが、彼の場合、2秒近くも流れる。一国の代表選手をかけたレースで、1秒の何分の1の差に泣いた選手が、今まで何人いたことか！ 今後の精進と努力を忘れずにいてもらいたい。

○

実業団では、予選56秒6の福井（福岡）・56秒9の山中（東京）・57秒8の石原三者の決勝での激突が注目されたが、折からの雨模様の悪コンディションに加えて、スタート直前、山中のパンツの紐が切れ予備のパンツを備える間、5分近くも雨中に選手がたたずむという結果が災して、記録への期待は薄らいだ。レースは、初めから終りまで石原の独壇場で運ばれ、ゴール直前の山中との差が1m余りもあったので、あるいは待望の55秒台が実現したかと、一瞬ざわめき立ったが、山中が遅すぎただけで、56秒6の記録にとどまった。山中は50mのターンでびっくりかえらず、その為もあって57秒1、福井は前日の調子が出ず57秒8であった。山中は今年も100m～1500mまでの自由形ライキング首位を独り占めにしようとしていたが、ここに挫折した感が深い。（目下のところ、本年度最高は石原の56秒4）佐藤好助（福岡）の200mバタフライ（2分18秒2）と、福岡県チームの200mリレー（1分43秒3）が光った。全日本選手権で若冠ながら18分台で1500mを流ぎ切った神奈川の靦山（今春中学卒）は、やはり400mは苦手らしく、4分44秒5の平凡な記録だった。

○

永年、女子府県対抗に覇を誇った奈良県も、今年は、11年連続優勝を讃える表彰状だけが地元へのみやげとなった。新興勢力の抬頭と、多年傘下に育てた選手を他県へ放出したためである。それにしても、田中聰子（福岡）と佐藤喜子（大阪）の両ベテランのみが精進よく盛時の記録に近い記録で泳ぎ切っただけで、全く低調であった。平泳ぎの覇者だった高松好子は、この大会にも出場できなかった。会社の方針として、個人的休暇を利用す

る以外には、対外試合に特別な便宜を計らないことになったためという。年に一度あるかないかの一般社員の出張に比べて、スポーツ選手だからといって、事実上は何も仕事をしていないのに出張扱いにするのは、株主に対する経営者の責任として許さるべきではないと言う。旦那（会社）の道楽にのみ一切がかけられている現在の実業団スポーツ界の善悪は別としても、就職する選手たちに一応考慮に入れておいてもらいたい事件である。

○

教員は、職場の関係もあって、そう飛び抜けた記録を望むのは無理だろうが、日体大とか教育大出身者の数が増してきたことは、彼らがかって水泳の合宿に参加して苦勞した人々であるだけに、新人の指導に良い影響を与えてくれるのではなかろうか。

○

水球は、昨年と同じようにインター・ハイの優勝校熊本の済々黉が京都の鴨沂高に破れた。これで京都は、水球が正式種目に加えられてから四速覇を遂げたことになる。それにしてもインター・ハイで圧倒的な強みをみせた済々黉が、国体になると鴨沂高の軍門に降るのは、どうしたことか。なお、予選リーグ終了後、本部役員が俄が仕立ての1チームを編成し、予選で敗退したチーム相手に指導を兼ねた練習試合を行なって、まだ水球競技に慣れない会津の市民に紹介をしていたのは、なごやかな雰囲気を作っていた。役員の中には、水球パンツの持ち合わせがないために、腹巻きにしていたサラシをほどいて水褌とし、巨体をザンブと水中に跳らせたものもいて、会場の爆笑を呼んだ。水球を隅々にまで正しく拵げるといふ目的に沿うたよい試みだと、地元でも評判であった。唯、中学生にはボールの大きさが大きすぎるのではないか。アメリカなどで採用している様に、やや小さめのボールを使ったジュニア水球の必要はないだろうか。陸上競技では、体格の完成しないうちには、成人向きよりやや小さめの器具を使うようだし、その方が入門しやすいのではなかろうか。もっとも、俺は中学1年から先輩の球を受けていたぞ、と経験から割り出してくる反対もあろうが。

○

大会の運営について、細かく言えば難点がないわけではない。一般的に競技の運営が古典的にすぎて、老大なプログラムをかかえる近代的な競技会には不向きと思われる点が二三あった。例えば、審判長とアナウンサーとの関係である。なるほどルール・ブックによれば、審判長は競技進行に関する一切の指導をとることにはなっている。けれども、参加者が何百人にもものぼる大会を進行させるには、審判長の指図ですべてを運んでいては、手

間どりすぎるのである。そこでアナウンサーが臨機応変の処置をとりつつ大会の進行をリードすることが必要となってくる。審判長の合図を待たずとも、最終の泳者が泳ぎ終ったとアナウンサーが判断したらば、次の組のコース順を読み上げる。ウォーミング・アップの選手が上るまで時間がかかりそうだとみれば、前の競技の入選者を発表する。このようなアナウンサーの臨機応変の処置を果敢な判断がとれるような自由な雰囲気、古典的な大会運営の方式によって障がられていたのではなかろうか。もっとアナウンサーに自由採量の余地を与えてよさそうであった。また、そのためには、アナウンサーの席はプール全体を見透せる地点におくべきだし、他の役員や新聞記者が勝手な注文をつけに来られないような場所に構えるべきであろう。

臨機応変の処置は、ひとりアナウンサーのみに求められるべきではない。計時員にも必要である。例えば、途中計時をする際、5・6・8コースの3名がトップを争って戻ってきた場合には、計時員は彼ら3人の途中時間をとるべきで、途中計時用の時計を持たされた計時員はとっさに5・6・8の三コースに分れて計時する。なぜなら、誰が100mの途中時間をとったかは、審判員のきめるべきことである。ターンの際には、選手はよく気を抜くため、やや遅れて入って来た選手の方が早くつくことがあるのだ。この点、途中計時員が、数名揃って一つのコースをとるよう訓練されたためか、上述のような臨機応変の処置に欠けていた。

○

青年府県対抗の参加申込資格をめぐる、岩手県側に誤解があり、数名の選手が失格となり、泳がずに故郷へ帰らねばならなくなったことは、選手の罪というよりも、岩手県水連関係者の落度といえよう。青年という資格は、今も昔も大学（大学の水泳部に限らない）に在学・卒業したことのない人にも限られ、また自分が一度でも勤労者大会（地方予選会も中央大会も）に出場したことがなく、その上、自分が現在所属している職場（健康保険加入の事業所）から勤労者大会に出場者を送っていないことが要件である。勤労者大会の地方予選に出たことのある人を、国体では得点しやすいからと言って青年の部に出すことは違反であり、また、一つの事業所のなかで、勤労者大会向けのチームと国体青年の部向けチームとをもつことも禁止されている。岩手県は昨年も今年同様申込違反をやって優勝者まで出したが、今年は調査の末、1名を除くほかすべてが失格とされた。その1名も、本来は臨時工であって、会社のチームと一緒に練習していたにすぎないからと申立てて、参加出場を認められたもの。だがもしこの1名がその会社で健康保険

の取扱いを受けていたら、これまた失格となるが……。なにも一県の失態を仰々しく採り上げるつもりはないが、県水連やチームの指導者たちに必ず申込資格を読む癖をつけてもらいたいためもあり、罪のない選手がプールを目の前にして泳がずに帰るような衰れた目に合わぬためにも、書いておきたかったのである。

○

郷土対抗リレーの参加資格である「水泳郷土」の解釈をもっと合理的にする必要がないか。福井誠は島根県の高校を出て八幡製鉄（福岡）に入社したが、それからもう4年もたっている。それなのに、彼の水泳郷土は島根だからということで福岡チームとして郷土対抗には出られない。それはよいとしても、三重県の中学を卒業して現在愛知県の中京商業に在学している選手が、愛知県チームに出られるのは一寸おかしくはないか。（崎久保の例）

郷土対抗は、かつてインター・カレッジのみが日本の水泳界を支えていた頃、国体にトップ・クラスの選手が参加しないのは興行的に不利だという考えから案出されたものである。現在のように実業団が強力になってきたからには、何か発展的解消をさせる案はないか。実業団、学生を一つの部として「一般」にするとか。それに目下のところ、国体としては、プログラムを削減する必要がある。飛込競技は半分以上、競泳と同時にこなっているのが現状である。これは競技本来の姿から云っても運営上から考えても好ましいことではなかろう。日本の水泳場の設備から云っても、飛込プールと競泳プールとが別々に建てられることは、まずないであろう。とすると、望ましいことは、郷土対抗を何とかすることではなかろうか。

○

選手団の態度について。第一話——男子高飛込決勝を観戦中の元オリンピック選手は、プール・サイドの椅子に腰をおろし、煙草をふかしている有様。プール・サイドは、禁煙という不文律を知らないのだろうか。第二話——県の好意により仕立てられた観光バスに乗るのに、予め定められた時間までには申込まず、夜おそくなって或る県から急に「明日、十数名乗車したい」と申込んできた。事務局も遠来の客をもてなすつもりで、いろいろとしたが、配車都合でどうしても2台に分乗してもらわねばならない。そう申入れたところ、酒気を帯びたその県の役員（これも元オリンピック選手）は、1台にまとめて乗せろといって聞き入れず、罵詈を吐いたという。第三話——数少ない旅館を、事前にうまく割当てようとするればこそ、宿泊の予定を申込んでもらっているのに、

（以下48頁へ続く）

FINA 規則 (抄)

1961—1964

(総 則)
(競 泳 規 則)
(オリンピック規則)

日 本 水 泳 連 盟

注：紙面の都合上必要事項のみ抜粋しました。

国際アマチュア水泳連盟 (FINA) 規則

第1条 本連盟はフェデラシオン・アンテルナショナル・ド・ナタシオン・アマトール (国際アマチュア水泳連盟) と称し、本規則の定めを遵守することを受諾し、同意した、総ゆる国に於ける水泳、飛込み、水球、およびシンクロナイズド・スイミングを管理する国家的機構から成るものである。

第1A条 本規則に於ては、別に規定するところ無き限り

「事務員」なる語は、本規則に基づいて任命されたFINAの事務局または常任理事会を意味する。

「総会」なる語は、本規則に基づいて任命されたFINAの総会を意味する。

「国」なる語は、FINAに加盟した国に於ける水泳、飛込み、水球、およびシンクロナイズド・スイミングを管理する国家的機構を意味する。

「FINA」なる語は、本規則に基づいて組織された国際アマチュア水泳連盟を意味する。

「規則」なる語は、FINAの本規則を意味する。

「主事」なる語は、FINAの名誉主事を意味する。

「会計」なる語は、FINAの名誉会計を意味する。

「水泳者」なる語は、飛込み、および水球の競技者を含む。

男性の意を表わす語は、女性をも含むものとする。

単数の語は複数を、複数の語は単数を含むものとする。

FINAの公式用語は英語およびフランス語とする。

総会に於て、総べての国の代表は、実用語たる英語への翻訳を保証する時は、自国語を以て話すことが出来る。

目 的

第2条 FINAの目的は次の通りである。

- (a) 全世界の水泳、飛込み、水球、およびシンクロナイズド・スイミングの発達を推進し、奨励すること。
- (b) 水泳、飛込み、水球およびシンクロナイズド、スイミングを行うに当って、その基礎となるべき「アマチュアの定義」を作成し施行すること。
- (c) 何れかの国の、または、何れかの国による、一切の(アマチュア資格の)一時停止を相互に認めること。
- (b) 水泳、飛込み、水球およびシンクロナイズド・スイミングの規則を作成すること。
- (e) 水泳の世界記録を公認する基礎となる唯一の規則を作成すること。
- (f) 総べての国で公開されるあらゆる競技が、本規則に基づいて組織されるよう保証すること。
- (g) 国際間に生じ、且、関係国によってFINAに付託された紛争を裁定すること。
- (h) オリンピック、または地域競技会で催される一切の競技を管理、統制すること。

総 会

第3条 FINAの総会は、次の者によって構成される。

- (a) 各国の代表2名。
- (b) FINAの役員たる会長、副会長、名誉主事、および名誉会計。

第7条 総会は少くとも4年毎に開かれる。総会の開催地および年度は、前回の会議に於て決定される。名誉主事は、決定された会議開催日の少くとも12ヶ月前に、正確な日取りを通知する。

第8条 執行部の決定、もしくは会員の $\frac{2}{3}$ の多数決による希望に基づいて、総会の特別会議を召集することが出来る。名誉主事は、かかる特別会議を召集するが、これは、かかる召集の日より5ヶ月以上早く開くことは出来ない。召集通知書には召集理由を明記し、それ以外の事項は、かかる特別会議に於て討論されないものとする。

事 務 局

第9条 事務局もしくは常任理事会は、各連盟の任命した代表の中から、各定期総会毎に任命され、第13条に規定した権限と義務を有するものとする。事務局は会長1名、副会長4名、名誉主事1名、名誉会計1名および理事7名より成り、各人とも夫々異った国から選ばれ、なるべく異った大陸から選ばれる。曾って会長たりし者は事務局の構成員として止まり、諮問投票権を有する。事務局の構成員は或る国の代表でなければならないが、その代表する国によって指名された場合は、実際に総会に出席する必要はない。

第10条 名誉主事の交通費および宿泊費はFINAが支払う。

第11条 会長はあらゆる事項に対して投票する権利を有し、投票が賛否同数の時は、第2の、または決定投票権を有する。

第13条 事務局の権限および義務には、次のものが含まれる。

- (a) 国家的統轄団体の(FINAへの)加盟。
- (b) 世界記録として提出された記録の認定、または却下。
- (c) 加盟国間に生じた紛争の裁定。かかる裁定を下すことを要請された場合、その裁定は最終的なものとなる。
- (d) 総会が事務局に附託した事項に関する考慮。
- (e) オリンピック競技会の組織、および之に関する一切の事項の遂行。
- (f) FINAの規則に関する事柄で、或る国が事務局に附託する事柄に対して規定を与えること。但し、かかる規定は次の総会に於て確認されなければならない。
- (g) その時期を問わず、総会に動議を提出すること。
- (h) 緊急の場合に決定を行うこと。かかる決定に対しては、直ちに従うことを要するが、次回総会に於て確認されねばならない。
- (i) 関係委員会の報告に基づき、水泳、飛込み、水球、およびシンクロナイズド・スイミングに関する技術規則を追加し、或いは改訂すること。

本規則変更の提案

第22条 技術的な事項に関するもの以外、本規則の変更、または、追加の提案は、

- (a) 或る国の連盟によって行なわれ、またFINAの事務局によっても行なわれ得る。
- (b) その提案が検討されるべき総会の、少くとも6暦月前に名誉主事の手許に届かなければならない。
- (c) かかる総会の少くとも5暦月前に各国に通達されることが必要である。但し、出席者および投票数の

$\frac{2}{3}$ 以上の過半数によって承認された緊急動議の場合は、総会は如何なる事項をも処理し得る。

第23条 水泳、飛込み、水球、およびシンクロナイズド・スイミングに関する技術規則改訂の提案は、FINAの名誉主事、ならびに 関係技術委員会の名誉主事に、直接、伝達するものとする。

第24条 水泳、飛込み、水球に関する規則はオリンピック競技会に先立つ12ヶ月の間には、変更することをを得ない。

総 則

アマチュアの定義

第49条 アマチュア・スポーツマンとは、楽しみのために、また肉体的・精神的利益のために、或いは自己の属する社会の利益のためにのみ、スポーツを行う者にして、彼にとってスポーツがレクリエーション以外の何ものでもないような者のことである。

以下規定するところを条件として、或る個人は、水泳その他ここに定義する運動競技に於て、下記の如き違反を犯すことにより、アマチュアとして競技し、或いはアマチュアと公開演技を行う資格を喪失する。

- (1) 直接または間接に、現金によると物によるとを問わず、報酬を受け、または物質的利益もしくは恩恵のために、競技し、教授し、コーチし、または公開演技を行うこと。
- (2) 競技者自身が知る限りに於て、関係する各国連盟の規則によればアマチュアではない者と競技、または公開演技に参加すること。但し、軍務にある時、軍の競技会に於ける場合は除く。茲にいう軍務とは、陸軍、海軍および空軍を指す。
- (3) 水泳者が実際に支出した、正当な金額以上に、宿泊費または旅費に対する償還を受けること。
註、水泳者が、実費を越えない範囲で雑費に対する補償として、日間もしくは他の期間に金を受取ることは認められる。
- (4) 水泳競技会に賭けること。
- (5) スポーツで勝ち得た賞を売却し、或いは現金化すること。
- (6) 直接または間接の報酬のために、水泳場または海水浴場の見張員すなわち救助員の職に就くこと。国家または都市の管理する、或いは私有の海岸またはプールに救助員として雇われている者は、その職に在る間は、アマチュアとして競技する資格がない。但しその職を退いてから90日たてば、完全なアマチュアとしての資格を再び取得し得る。
- (7) 自己の運動競技に於ける名声を利用すること。す

なわち (a)いかなる種類の商品または器具であるとを問わず、その販売の推進のために自己の名前を使うことを許可し、もしくは認可すること。(b)上記の商品または器具を使用することに対して、直接または間接に、代償あるいは対価を受取ること。(c)ある職業または取引に於て、自己の有用性または価値が、かかる職業または取引に附随する通常で当然の行為や責任を遂行する能力から得たと云うよりは、寧ろ、スポーツに於ける業績から得た名声または榮譽に対して与えられた評判から主として生ずるよりな場合、報酬もしくは財務的恩恵のためにかかる職業または取引に従事すること。 —

註、(1)自己みずから執筆しなかつた公刊物に自己の名を附し、或いは (2)広く認められた映画俳優でない者が、映画の製作に参加して、報酬を受け取ることも、上記規則の範囲内に該当するものと見なされる。

(8) 水泳競技に参加し、又は訓練を行うことによって失った時間或いは賃銀に対して、直接または間接に、報酬あるいは対価を受けること。

(9) 下記スポーツに於けるプロ選手は、水泳に於てもプロと見なされる。

陸上競技、バドミントン、野球、バスケットボール、ボーリング、拳闘、クリケット、サイクリング、フェンシング、蹴球、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、ラクロス、ロオンおよびコート・テニス、競漕、射撃、スケート、スキー、ヨット、重量挙げ、レスリング

(10) 下記の場合、水泳者のアマチュアとしての身分に変わりはない。

(a) 教育関係当局によって、通常の学校教育に従事せしめられている場合、その職務の一部として、別途報酬を受けることなく、専門学校、一般学校あるいは夜間学校の学生に初歩の水泳を教えること(競泳のコーチを含まず)。

(b) 賞金がかけられておらず、また賞金を受け取らないならば、下記ゲームに於て、プロとの公開演技または競争に参加すること。

野球、バスケット・ボール、クリケット、蹴球、ゴルフ、ハンドボール、ホッケー、ラクロス、ロオンおよびコート・テニス

(c) 一般に認められた人命救助団体の規則に基づいて行われる、通常の服装をして、他人または人形等を引っぱると云うような、純粋の人命救助競技に於て、水泳場見張員や海水浴場見張員、およびライフ・カードと競争し、或いは公開演技を行う

こと。但し、金銭の報酬を受けてはならない。

第50条 水泳者に対する管轄権 アマチュアの定義は、国内にあると国外にあるとを問わず、総べての国のメンバーを拘束する。

各国は、次の事項を相互に認める。

(a) 夫々が、その国に於ける水泳、飛込み、水球、シンクロナイズド・スイミングを管理する唯一の団体であること。

(b) 夫々が、その国に於ける国際関係を規制する資格のある唯一の団体であること。

(c) オリンピックまたは国際競技で、その国を代表する競技者を自国から選抜し得る唯一の団体であること。

各国は、自国の規則中に、水泳、飛込み、水球およびロナイズド・スイミングを国際的に管理する団体として、FINAが世界で唯一の公認団体であることを明記する。

或る国が、アマチュア資格の一時停止または資格剥奪を宣言した場合は、この宣言にすべての国を拘束する。

資格の復活

第51条 故意にアマチュアの規則を破ってプロとなった水泳者は、アマチュアとしての資格を再び与えられない。但し、

(a) 特別の理由、もしくは酌量すべき事情の存在する時は、水泳者は、アマチュアの定義に背いてから2年経過したならば再びアマチュアとしての資格を与えられる。

(b) もし、再び資格を与えられた水泳者が国際競技に参加を希望するならば、そのケースに関わりのある一切の事実を事務局に提出して、事務局が必要と認める措置を採る。

世界選手権

第55条 必要と認められた時は、事務局は世界選手権を設ける。

服 装

第56条 国際競技に出場する競技者および世界記録公認を受ける競技者は夫々次の服装を着用することが必要である。

男子：水着または水泳用パンツ、その下に下ばきを着ける。但し、水球の場合はパンツ、その下に別の下ばきを着ける。

女子：背中以外にくり抜きのない、1枚の水着。但し、

(a) (水着の)脚部は股から7.5cm(3吋)のところまで達し、脚のまわりを直線になるように裁断する。

(b) 水着は頸の正面の凹みから 12cm (4.5吋) 以上
剃り抜いてはならない。また腕の付け根から 5cm
(2吋) 以上剃り抜いてはならない。

(c) 留めがある場合は、肩の上とする。

一切の水着および水泳パンツの生地は透明ではい
けない。競技の審判長は、本規則に合致しない服装の競
技者の出発を禁ずる権利を有する。

註、上記の寸法は概略のものであって、要は不謹慎
な服装を禁ずることになる。

コ ー チ

第57条 水泳または飛込み競技で競技の行われている間
は、コーチをしてはならない。水球の試合に於ては、
実際のプレイが行われている間は、コーチをしてはな
らない。

規則の解釈および印刷

第58条 本規則の解釈、または茲に規定されていない問
題は総会に附託され、その決定が最終的となる。

第59条 FINAの規則のすべては、専ら、加盟国の利
益のためのものであり、これらの国々によって複写で
きる。本規則を刊行することを希望する。その他の団
体は、事務局の許可を得なければならない。

競 泳 規 則

下記規則は、オリンピック・ゲームで行われる競技、
および総べての公開国際競技に対して、あらゆる場合に
適用される。

役 員

第60条

(a) あらゆる競泳競技には、審判長、出発合図員、お
よび十分な人数の計時員、審判員、並びにターニン
グ監察員がいなければならない。

(b) 審判長は競技者に対する完全な統制権を有すると
共に、競技を出発合図員の手へ委ねる前に、全部の
審判員、計時員、および監察員が夫々適当な位置に
ついていてを十分に確かめなければならない。

(c) 審判員は競技者の配置を決定する。競泳競技に於
ては、審判員は決勝線に平行した高い台の上に位置
する。

(d) 審判長は、審判員の判定が相違するときはこれの
決定を下す。彼は競技の条件が守られていることを
確かめるために、いつでも、競技に干渉する権限を
有する。

(e) 計時員は第70条(記録)の規則に従って競技の計
時をする。

ある競技に於て、計時員の計時した時間が、決勝
線に於ける審判員の決定と一致しない時、また第2

位となった水泳者の時間の方がよい時には、1位お
よび2位の泳者は、1位および2位の双方について
計時された実際の時間の平均をとって計算された時
間を与えられる。審判員によって行われた順位と合
致しない時間を通告することは許されない。

(f) 出発合図員は、競技の前に次のことを説明する。

(1) 準備を命ずる言葉と合図、もしくは競技を開始
するために、出発合図員が言う言葉。

(2) 競技の行われる距離と、競技の終る場所。

(3) オープン・ウォーターで行う場合には、廻るべ
き目標物と、廻り方。競技を開始する時は、出発
合図員は、水泳場もしくは、プールの横側に位置
する。

(g) 泳法審判員を競技中の泳法を統制するための任命
することが出来る。

スタート

第61条 すべての競技に於けるスタートは飛込みによ
って行われる(但し、背泳の場合を除く。之については
第68条に規定の通り)。スタートの位置は第62条の規
定によって決定される。出発合図員は、「位置につい
て」という準備の命令を与えてから出発の合図を与
えるまでに十分な時間の余裕を置く。競技者は、実際
の合図(発射、呼子笛、または出発の言葉)が与えら
れるまで、動いてはならない。

出発合図員は、1回~2回出発がうまく行かなか
った時には、競技者を呼び戻して、出発の合図が発せ
られる前に出発してはならないことを、もう一度注意
する。3回目の出発と不正な出発が繰り返された時は
(同一の泳者によると他の泳者に依るとを問わず)、違
反したその競技者は失格となる。

一回の競技に於ける籤

第62条 あらゆる国際的水泳競技に於ては、スタートの
位置(コース、番号)は予選および決勝(予選が行わ
れない場合)に於ては籤で決められ、水路(コース)
に向って右側から第一コースとする。準決勝と決勝は
次のようにしてシードする。予選に於て最も早い時間
を有する水泳者またはチームは、奇数コースのプールの
場合は中央コースに、6ないし8コースのプールの
場合は夫々3ないし4コースに配置する。2番目に早
い記録の競争者はその左側に配置し、あとは、予選の
際の時間に応じて右と左へ交互に配置する。もし有資
格の競技者が同じ時間を有する時は、籤によって夫々
のコースを決める。

例： 9 8 7 6 5 4 3 2 1……コース

⑧ ⑥ ④ ② ① ③ ⑤ ⑦ ⑨……泳者

8 7 6 5 4 3 2 1……コース
⑧ ⑥ ④ ② ① ③ ⑤ ⑦……泳者

水泳場

第63条 プールの端の壁は垂直、且、真直ぐであって、水面下少くとも90cm（3呎）のところまで、突起や溝がなく、競技者が折返しをする時、その手または足を以て押すことが出来るように作られていなければならない。

プールのスタート台は、水面から75cm（2呎6吋）以上高くてはならない。またオープン・ウォーター（池又は海、河川）の場合は1m50cm（5呎）を越えてはならない。何れの場合に於てもその高さは、30cm（1呎）以下であってはならない。

背泳の場合には、出来ればスタート用握りを備える。かかる握りは水泳場またはプールの中に突出してはならない。之らの規定は、オリンピック、および地域競技会（アジア大会、欧州選手権）に於ては義務的なものである。

コース

第64条 静水での競技に対しては、コースははっきりとマークして、正しい角度から容易に見得るものでなければならない。決勝線がコースの末端にない時は、堅固に固定したポールを決勝点とし、競技者が容易に見得るよう、マークを付さなければならない。コース・ラインを備える。

競技

第65条

- 横に泳いだりその他の行為で、他の競技者を妨害する時は、その違反者は失格となる。また故意に反則を犯した場合、審判長は、その事実を競技の主権団体に通報し、且、違反者の属する団体にも通報する。
- 反則のために競技者の成功の機会が失われた時は、審判員は、その泳者が次の回に出場することを許す権限を有する。また反則が決勝で起った時は、その決勝をやり直すよう命ずることが出来る。
- 折返しの際、泳者は片手または両手を以て、プールまたはコースの末端に触れる。決勝点に横棒がある時は、競技者は横棒でなく壁に触れなければならない。折返しは壁から行うべきであって、水泳場の底に足をつけて折返しすることは許されない。
- レース中に底に立っても競技者は失格とはならないが、歩くことは許されない。
- 独泳の競技者は、全距離を泳ぎ切ることによって、勝利者としての資格を得る。
- リレー競技の場合、あるチームの前の泳者が壁に

タッチしないうちに、次の泳者の脚がスタート台を離れた時は、そのチームは失格となる。但し、違反した泳者がもとのスタートの壁まで戻れば失格とはならない。この場合、スタート台まで戻る必要はない。

- 競技中、競技者の速力、浮力、あるいは耐久力を高めるような装置（水かきのついた戸袋（ひれ状の足、ひれ等））を利用し、または着用してはならない。

平泳法

第66条

- 両手を、水面上、または水面下に於て肩のところから揃えて前方へ押し出し、腕を側方に同時に且均斉に伸ばして後方へ掻くようにしなければならない。
- 身体は完全に胸の上に保ち、両肩は水面に平行していること。
- 両足は一緒に引寄せ、膝を曲げて開く。次いで足を円く外側へ急速に動かして、足を揃える。両足を垂直面に上下に動かすことは禁止されている。
- ターンのタッチをする時、或いはゴール・タッチの時は、両手を同時に、水平面に於て両肩と同じ高さに伸ばしてタッチする。
- スタートとターンの後の腕の一掻（後方へ引張る動作）と肢の一蹴りを除いて水面下を泳ぐことは禁じられている。

バタフライ泳法

第67条

- 両手を、水面上にて、一緒に前方へ出し、同時に且均斉に、後方へ引く。
- 身体は完全に胸の上に保ち、両肩は水面に平行していること。
- 足の運動はすべて、同時に行われる。両足を交互に上下に動かすことは禁じられている。
- ターンのタッチをする時、ゴール・タッチの際は、両手を同時に、水平面に於て両肩と同じ高さに伸ばしてタッチする。
- スタートとターンの後で、水泳者は、水面上へ浮び上るために、水面下で一回ないし数回を蹴り、手を1掻きだけすることは認められる。

背泳

第68条

- 競技者は出発点に面して水中に並び、両手は、水泳場の端または横棒、あるいは、スタート用握りの上に置く。足指を含めて、両足は水面下になければならない。オーバーフロー（排水溝）の中に立つことは禁じられている。

(b) スタートの合図のあった時、あるいはターンをする時は、競技者は身体を押し出し泳ぎ始める。レースの間は、常に背を下にして泳ぐこと。スタートの合図の前に、水泳場の末端もしくは横棒の上に置いた手をはなしてはならない。

ターンをするため、或いはゴールタッチの際に、彼の一番先の手がコースの末端にタッチする前に、背を下にする正常の態位を捨てた競技者は失格となる。

抗議

第69条 抗議もしくは苦情は、発生後30分以内に、文書を以て審判長に提出する。

但し、レースの前に判った時には、スタートの合図の前にかかる抗議を提示しなければならない。

一切の抗議は、レースの行われている国の団体が任命した役員または委員が検討する。但し、オリンピック・ゲーム中に生じた時はFINAの専門委員会が検討する。

役員がその所属する団体によって認められ、または任命された時は、反則や配置の問題に関するその役員の決定に対して、抗議もしくは上告をすることは許されない。これらの事柄に対する決定は最終的なものとする。

世界アマチュア記録

第70条 世界記録に対しては、男女双方につき、下記の距離と泳法が認められる。

	ヤード	m
自由型	110	100
〃	220	200
〃	440	400
〃	880	800
〃	1,650	1,500
ブレスト } およびバタフライ }	110	100
〃	220	200
背泳	110	100
〃	220	200
個人メドレー		
1. バタフライ		
2. 背泳		
3. ブレスト		
4. 自由型	440	400
自由型リレー	4×110	4×100
〃	4×220	4×200
メドレー・リレー		
1. 背泳		

2. ブレスト

3. バタフライ

4. 自由型 4×110 4×100

プールの高さは次の通り。

mの場合 50メートル

ヤードの場合 55ヤード

メドレー・リレーの場合、自由型とは、バタフライ、背泳、またはブレスト以外のものをいう。

(a) リレー・チームのメンバーは同一国籍のものでなければならない。

(b) すべての記録は流れのない淡水または海水で作られねばならない。また公開して行われる競技会もしくは試泳会は、行われる少くともまる3日前に、公けに告知することを要す。記録はこれらの競技会または記録を目指す個人レースに於て作られねばならない。もし、同等の長さのヤードの距離に作られた現世界記録の方がメートルの記録よりよい場合は、その記録はメートルの距離に対しても通用するが、証書 (i)項参照) は一通だけしか与えない。

(c) コースの長さは、そのコースの所在する国の統轄団体が任命し、若しくは承認した検査員または資格ある役員によって正確に確かめられねばならない。

(d) 水面からのスタート台の高さは75cm (2呎6吋) を超えてはならない。

(e) 水泳者は総則第56条規定の通りの服装をしなければならない。

(f) 背泳の場合を除き、スタートは飛込みによって行われる。背泳の時は水中に於て、両手をスタート用握りの上にのせてスタートする。

(g) ペースメーカーキングを使用することは許されない。また、その効果を有する装置を用いたり、計画を採用してはならない。

(h) 記録は、関係国の統轄団体が任命し、または承認した3名の計時員によって記録される。彼らは、出発の合図と同時にストップ・ウォッチを始動させる。計時員の中、2名の記録した記録が一致する時は、その記録が認められる。しかし3名の記録が皆ちがう時は、真中の時計の記録した記録が認められる。審判長、または責任ある役員が使用された時計を検査し、時間を記録して之を公表する。すべての使用時計は、関係団体が満足するまで、正確であることが保証されねばならない。公認された電気器具で記録された時間は正式に認められるが、電気によると人間に依るとを問わず、如何なる場合にも、3人以下の計時員であってはならない。

(i) 記録の申請はFINAの定めた正式書式 (h)項参

照)によって行い、その記録を作った日から、まる21日以内に関係国の統轄団体に送らねばならない。その団体は、上記の規定がすべて正しく守られたことを確かめたならば、なるべく早く、或いは少なくとも、次の6月1日か12月1日までにF I N Aの名誉主事に届くよう。此の申請書を名誉主時宛に転送する。本規則に従わない申請書は受理されない。明らかに現在の世界記録を凌ぐ成績は、かかる成績を挙げた日から14日以内に、取敢えず電報または航空便を以て、連盟の名誉主事に報告し、次いで、本規則で先に規定してある通り、此の報告を転送する団体が之を確認するものとする。

(j) F I N Aが記録を受理した時は、その成績の認知として証書(会長または名誉主事が署名)を泳者に贈る。

(k) F I N Aの標準世界記録申請書様式。

F I N A
世界記録申請書

1. 泳法。 2. 距離。 3. タイム。 4. 水泳者の名前と国籍。 5. レースの日附。 6. コースの長さ。 7. プールの名前、およびその所在地。 8. 記録を受理した団体の名。 9. プールを測った、有資格の検査員の名。 10. 計時員の名前、および各計時員の報告した時間。 11. 海水、淡水の別。 12. 屋外、または屋内プールの別。 13. 貴下の意見では、F I N Aの水泳規則および世界記録規則が遵守されたか。	
日 附 _____	(会 長) _____ (名誉主事)
署 名 _____	
受附月日 _____	
転送月日、および認書授与月日 _____	
転送せず(理由) _____	

記録申請書は、その成績が挙げられた日の次の6月1日または12月1日までに、F I N Aの名誉主事宛に提出のこと。

オリンピック競技に適用する規則と条件

規則 169 総べての競技の実際の運営はF I N Aの統轄下に置かれる。

〃 170 運営委員会はF I N Aの理事会が当る。理事会の権限で、必要あればオリンピック開催国の代表1名をその構成員に加える。

運営委員会の任務は：

- (a) 諸計画の立案。
- (b) 競技の番組の作製。
- (c) 競技の総べての運営を引受ける。
- (d) 役員任命。
- (e) 競技中に起り得る抗議とかその他の問題の決定。

任命された委員が欠席の場合は残りの委員で代理を任命する権利がある。

委員定数は7名とする。この委員会はF I N A会議で確認される。

〃 171 競技の参加申込は各国のN O C名誉主事が署名した申込用紙に参加者名を記入し、I O Cが定めた日又はその日以前に開催国の組織委員会へ申込をする。F I N Aの名誉主事又はその代理は競技開始第1日目の少くとも7日前にこれらの参加申込書を請求しなければならない。

名誉主事は：

- (a) すべての競技の完全な組合せを作るため運営委員会の召集を速に行い。
- (b) 競技第1日の少くとも4日前迄に組合せを発表しなければならない。

〃 172 コースは長さ50mで幅は20m以下にならぬこと。

〃 173 各国の個人競技種目の参加者数は3名を越えないこと。補欠は許されない。

〃 174 チーム競技には各国から各競技に1チーム参加出来る。水球チームには4名、400mメドレーリレーには3名の補欠が許される。

競泳、飛込、水球競技の何れの種目にか参加している競技者は誰れでも自国のチームのリレー、水球の補欠として代表になれる。チームのメンバー、又は補欠は各回戦、準決勝、或いは決勝で自由に交替できる。

〃 175 競泳競技者は公式申込用紙に記載した競技者の時間(タイム)に従って予選の各組に平等に分けられる。

すべての競技者は審判によって裁決された順位に基くが、最終的には時間(タイム)により準決勝又は決勝に進められる。

明確な結果でも不明確な場合でも順序として次

の段階がとられる。

- (a) 各々の予選に於ける審判の決定
- (b) 3名の公式計時員の時間の会計
- (c) 予選から進出する競技者の権利はその予選のみに限られる。

注、若し以上できめられないときは運営委員会の決定により別に予選を行う。

規則 176 オリンピック開始、少くとも10日前に競技者を送り出している各国の理事長は競技開催国の理事長宛に不参加者を名簿から消すため出発しない者のリストを提出しなければならない。

〃 177 競技のプログラム：

100m, 400m	自由型, 男, 女
1500m	自由型, 男
200m	背 泳, 男
100m	背 泳, 女
200m	平 泳, 男, 女
200m	蝶 泳, 男
100m	蝶 泳, 女

高飛込, 飛板飛込 男, 女

リレー 4×200m 男

〃 4×100m 女

メドレーリレー 4×100m 男, 女

水 球 男

オリンピックのためのデイリープログラムはI O Cとの交渉の完了次第FINAにより公表される、プログラム増加の場合次の競技が推薦される。

- 1) 個人メドレー 400m 男, 女
- 2) 200m 自由型, 男, 女
- 3) 4×100mリレー 男

(チームはすでに他の競技に参加している泳者によって結成される)

〃 178 一度決定されたデイリープログラムはFINA運営委員会でのみ変更され、そしてそれは特別の場合のみ変更の知らせはオフィシャル・プレッテンに変更が記載される。

少くとも24時間前に提示しなければならない。

〃 179 競技は9日間行われ、日附はI O CとFINAで合議して決定される。午前と午後とに催される。

〃 180 オリンピックの飛板飛込みと高飛込、競技の時はFINAに定められた飛込の規則により行

われ、他の飛込は追加されない。

規則 181 水球の場合出来れば次のような原則に従い、グループ制が採用される。

規則 182 運営委員会は前オリンピックと大陸選手権勝抜戦、国際試合に基いてシード・チームを選出する権限を与えられる。

残りのチームは抽籤により組合せする。

各チームは3チームか4チームのグループに分けられ、どのグループも同グループ内のすべての相手と試合をする。各グループの第1位と第2位は次のグループ(第2予選又は決勝グループ)に於て総当り戦を行う。

前のグループである2チームの間で行われた試合は次のグループでは再度行わない。その結果はすべてのトーナメントを通じて算えられる。

同じチームには2度当らない。

各勝利チームに得点2点を引分けには得点1点ずつを与えられる。

最初の回戦で得た得点はその回数にのみ計算される。次回戦又は最終回戦の順位は、その回戦で得た得点に従って定められる。

得点が同点の場合はゴール数の平均で決定する。これはチームが得たゴールの数に100を乗じ、失ったゴールの数で除して出される。

ゴール平均数が同じと証明されたときは、判定のつくまで、規定外の時間をかけて両チームの間で新しい試合をする。

水球トーナメントに参加している3チームが棄権を宣言した場合、又は一試合以上無資格とされた時は、ゴール数5:0で相手方に勝が与えられる。

〃 183 オリンピック水球トーナメントに優勝したチームの名を1948年、前名誉会計の記念としてFINAが寄贈した“Dr. レオ・ドナス記念カップ”に刻まれる。

このカップは適切な保証をFINAに与えれば、次のオリンピックまで優勝チームが保持してもよい。

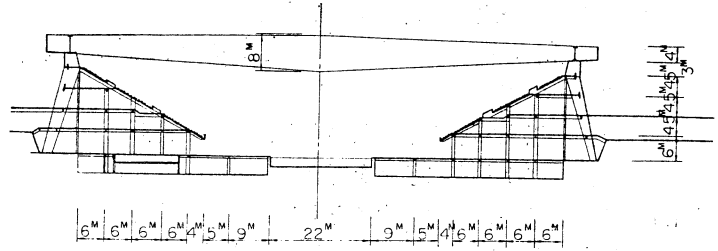
〃 184 オリンピック、プログラム以外の展覧会や陳列は望ましくない。FINAの運営委員会で認可されない限り行われない。

オリンピックプールの 基本設計について

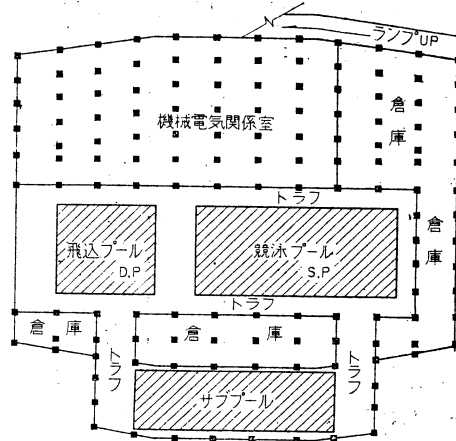
施設委員長 深谷 後明

水泳界のみでなく、日本国民からも注目されていたオリンピックプールが漸クワシントンハイツに決定したが、その間徒らに月日を空費し高石会長初め水泳人がひとしく念願していた本プールの早期使用は到底不可能な状態となった。これから実施設計に取組む段階となったが、ここに示す図面は、その基本設計というべきもので、さきにワシントンハイツ屋内総合競技場建設協議会から文部大臣に答申した案である。

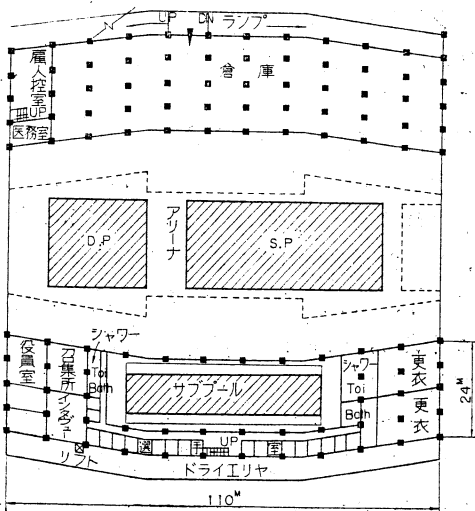
断面図



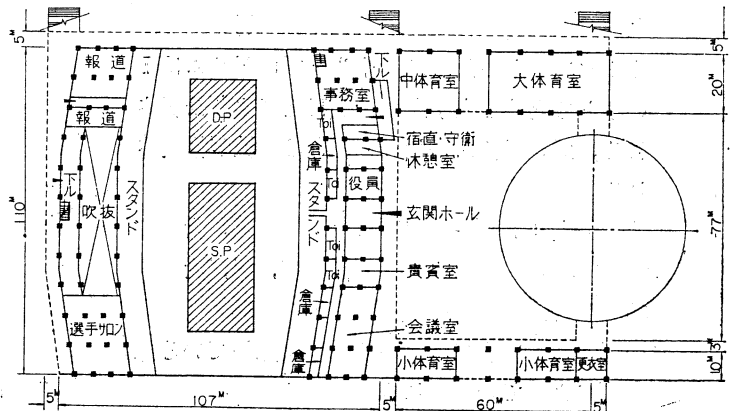
地下2階平面図



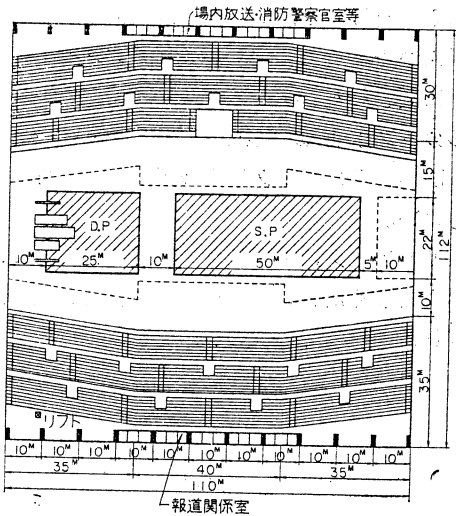
地下1階平面図



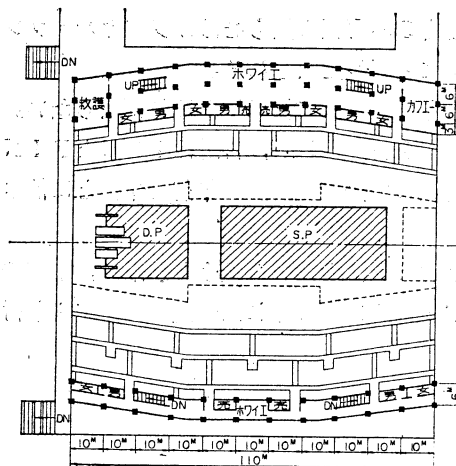
1階平面図



スタンド階平面図



2.3階平面図



日本競泳史上男子100傑 (10)

(昭和36年11月6日現在)

◎左肩に(日)とあるは当時の日本記録。

◎順位は同記録のものは同位とした。ただし2回出したものはその上位とした。

◎記録のところに◎とあるは最高記録を2回出したもの、表には先に出したもののみを記した。

◎次回は男子200m背泳の予定。

(島田)

100 m 背 泳

順位	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	富田 一雄	日本	1:03.5	(21)	ブメペスト	35-9-17	日洪交歓
(日) 2	長谷 景治	"	1:04.0	(23)	ホノルル	33-7-12	ナカマ記念
3	渡辺 和夫	"	1:04.2◎	(22)	ブタペスト	35-9-17	日洪交歓
4	福島 滋雄	"	1:04.4	(18)	ソフィア	36-8-29	国際学生
5	伊藤 圭祐	"	1:04.8	(17)	フレズノ	36-8-	フレズノ選抜
	五十嵐 武清	東京都	1:04.8	(17)	若松	36-9-14	国体高校
7	広瀬 俊之	成城大	1:04.9	(20)	神宮	36-8-16	日本学生
8	中原 紀	八幡製鉄	1:05.2	(18)	大阪	36-8-4	大阪国際
9	二宮 英雄	慶大	1:05.6	(20)	神宮	33-9-7	日本学生
10	石橋 幸男	八幡製鉄	1:07.0	(19)	"	35-7-24	日本選手権
	勝又 完一	駿台ク	1:07.0	(21)	"	36-7-30	"
(日) 12	清川 正二	日本	1:07.2	(23)	ペルリン	11-8-12	オリンピック
	山下 栄隆	"	1:07.2	(21)	大阪	33-8-23	日豪大阪
	古賀 宣樹	国士館大	1:07.2	(19)	神宮	36-7-16	東京選手権
	酒井 良明	BSタイヤ	1:07.2	(19)	大阪	36-8-4	国際交歓
16	片岡 輝男	立大	1:07.4◎	(19)	神宮	35-9-11	日本学生
17	才野 武士	"	1:07.4	(21)	"	36-8-16	"
18	梶浦 昇	早大	1:07.5	(21)	"	31-9-8	"
19	黒佐 清	日本	1:07.7	(22)	"	30-8-6	日米対抗
	菅 征夫	中大	1:07.7	(18)	"	36-8-14	日本学生
21	国清 勲	早大	1:07.8	(18)	振甫	35-7-17	早大対東海
22	林 祐士郎	諫早商	1:07.9◎	(18)	大牟田	36-8-5	九州高校
23	三杉 庄治	天理高	1:07.9	(16)	天理	36-10-1	奈良新人
24	吉田 喜一	早大	1:08.0	(21)	神宮	15-9-15	日本学生
	藤原 浩	法泳会	1:08.0	(20)	都屋内	35-4-2	室内選手権
26	児島 泰彦	慶大	1:08.2◎	(21)	神宮	14-9-7	日本学生
27	徳武 茂	白水会	1:08.2	(20)	"	34-7-21	日本選手権

28	林 芳 人	九 州	1:08.3	(19)	石 橋	34-6-28	日大対九州
29	高 嶺 隆 二	慶 大	1:08.6	(20)	神 宮	36-8-14	日本学生
30	山 口 定 市	明 大	1:08.7	(19)	〃	31-9-5	オリ記録会
	中 島 勝 昭	〃	1:08.7	(19)	都 屋 内	34-4-11	室内選手権
	岡 田 和 博	旭 化 成	1:08.7	(22)	高 岡	35-8-21	全国勤労者
	田 中 広 征	伝 習 館 高	1:08.7	(17)	石 橋	36-6-25	日大対九州
	三 木 隆 二	八 代 東 高	1:08.7	(16)	熊 本	36-9-24	熊本県民
35	星 野 稔	日 本 鋼 管	1:08.8	(20)	岡 山	36-9-3	全国勤労者
36	井 上 富美造	東 山 高	1:09.0②	(17)	天 理	36-8-27	天理体育
37	谷 口 利 弘	日 大	1:09.0	(20)	神 宮	14-9-17	日本学生
	倉 橋 範 彦	日 本	1:09.0	(20)	マ ニ ラ	29-5-8	アジア競技
	浜 砂 昭 光	向 洋 高	1:09.0	(17)	大 牟 田	36-8-5	九州高校
40	井 本 吉 郎	中 大	1:09.1	(21)	神 宮	14-9-7	日本学生
	尾 組 昇	岩 手 県	1:09.1	(20)	甲 子 園	31-9-21	国体実業団
42	中 村 隆 一	中 大	1:09.2	(18)	神 宮	30-9-10	日本学生
	大 滝 正 勝	駿 台 夕	1:09.2	(21)	浜 松	35-6-26	明大対浜名
	光 本 市 郎	山 鹿 高	1:09.2	(17)	神 宮	36-7-30	日本選手権
45	田 口 利 寛	中 大	1:09.3	(21)	〃	31-9-8	日本学生
46	西 野 泰 正	日 大	1:09.4②	(23)	〃	23-8-16	日本選手権
47	芦 田 拓 郎	日 本	1:09.4	(22)	マ ニ ラ	29-5-5	アジア競技
48	鈴 木 勝 幸	杉 並 高	1:09.5	(16)	神 宮	36-7-23	東京高校
	大 隅 潔	明 大	1:09.5	(19)	〃	36-8-14	日本学生
	舟 橋 淑 行	早 大	1:09.5	(22)	〃	〃	〃
51	山 本 速 水	日 本	1:09.6	(20)	振 甫	25-8-24	国際名古屋
	野 末 敏 夫	立 大	1:09.6	(23)	神 宮	30-9-9	日本学生
	坂 口 達 他	中 大	1:09.6	(18)	慶 大	35-6-26	中大対法大
	加 藤 泰 三	浜 松 西 高	1:09.6	(17)	金 沢	36-8-20	日本高校
55	入 江 稔 夫	日 本	1:09.8	(20)	ロ ス	7-8-12	オリンピック
	上 村 稔	日 大	1:09.8	(20)	神 宮	27-6-26	三大学対抗
	中 村 慶 介	白 水 会	1:09.8	(21)	〃	31-8-11	日本選手権
	青 山 欣 且	〃	1:09.8	(20)	〃	32-8-18	〃
59	沼 忠 慶	明 大	1:09.9	(19)	〃	32-9-8	日本学生
60	浜 崎 健	桜 泳 会	1:04.9	(22)	〃	33-8-14	日本選手権
61	河 津 憲 太 郎	日 本	1:10.0	(17)	ロ ス	7-8-12	オリンピック
	大 宅 秀 明	伊 都 高	1:10.0	(17)	高 知	33-8-23	日本高校
	河 田 俊 輔	日 大	1:10.0	(20)	神 宮	36-8-14	日本学生

64	青山昌三	中京商高	1:10.2	(17)	浜松	30-6-25	浜名高校
	近藤英毅	九州	1:10.2	(23)	石橋	32-6-16	日大対九州
	中田尹	中大	1:10.2	(19)	中大	34-7-13	中大対立命
	松田史剛	修道高	1:10.2	(16)	呉二河	35-7-31	中国高校
	沢田義勝	長良高	1:10.2	(17)	岐阜	36-7-2	岐阜高校
	辻野公二	天王寺高	1:10.2	(17)	大阪	36-8-5	近畿高校
	角間三雄	輪島高	1:10.2	(17)	金沢	36-8-20	日本高校
71	渡辺勲	山口県	1:10.3②	(16)	熊本	35-9-24	国体高校
72	阿久津勝男	日大	1:10.3	(18)	神宮	36-7-28	日本選手権
73	大久保憲二	聖ポール	1:10.4②	(20)	〃	28-7-31	〃
74	阪本响一	立大	1:10.4	(20)	〃	13-8-10	関東選手権
	宮地瑩	芦泳会	1:10.4	(21)	大阪	31-9-2	関西学生
	木村昭夫	天理高	1:10.4	(17)	天理	36-8-27	天理体育
77	中島雅好	稲泳会	1:10.5	(22)	大阪	29-8-18	大阪国際
	青木守喬	日大豊山	1:10.5	(16)	都屋内	36-4-1	室内選手権
	小林一三	青山学大	1:10.5	(20)	神宮	36-8-14	日本学生
80	宮田春雄	東京都	1:10.6	(23)	天理	29-9-21	国体実業団
	井上彬	中大	1:10.6	(20)	神宮	36-8-14	日本学生
82	田中透	日大	1:10.7	(18)	〃	36-6-18	日大対中大
	山田正剛	日大三島高	1:10.7	(18)	金沢	36-8-18	日本高校
84	待島啓三	早大	1:10.8	(19)	神宮	24-9-10	日本学生
	元村昭夫	立命大	1:10.8	(19)	〃	29-9-11	〃
	坪井慶治	法政大	1:10.8	(22)	〃	32-9-8	〃
87	久保田隆雄	和歌山県	1:10.9	(17)	浜松	32-9-22	国体高校
88	河野通広	日大	1:11.0	(19)	神宮	14-9-17	日本学生
	宮部修	都庁	1:11.0	(24)	天理	31-8-26	全国勤労者
	柿本伸	天理高	1:11.0	(16)	浜松	34-8-21	日本高校
	園部徹	中大	1:11.0	(18)	神宮	36-8-14	日本学生
	木下豊和	東山高	1:11.0	(16)	天理	36-8-27	天理体育
93	明文一	日立鉦山	1:11.2②	(19)	神宮	11-5-30	オリ予選
94	黒佐年明	八幡製鉄	1:11.2	(25)	〃	25-7-23	日本選手権
	阿部仁	白水会	1:11.2	(18)	〃	29-8-15	〃
	鈴木進	稲泳会	1:11.2	(22)	〃	30-7-22	〃
	木村勝	佐伯鶴城	1:11.2	(17)	石橋	31-7-25	九州各県
	徳永誠哉	日大	1:11.2	(20)	神宮	33-9-5	日本学生
	笠原一也	東京教大	1:11.2	(22)	〃	35-9-3	関東学生
	清水正一	法政二高	1:11.2	(17)	〃	36-7-28	日本選手権
	山影武士	関西高	1:11.2	(16)	金沢	36-8-18	日本高校

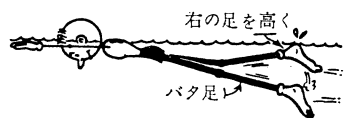
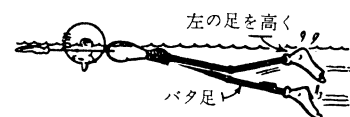
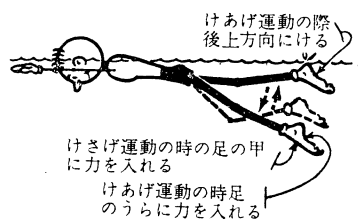
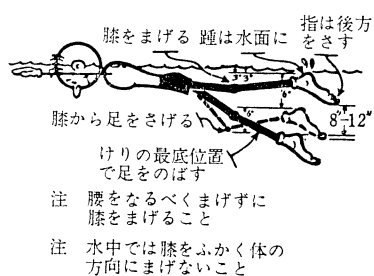
九 泳 法 の 説 明 図

これらの説明図は、水泳講習のため作成され、泳法の分析、説明に役立つものである。従って、水泳教師は、必要に応じ、これを掲示する。

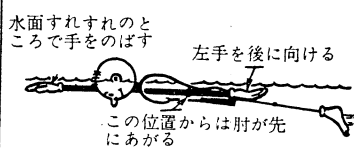
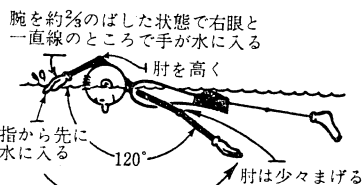
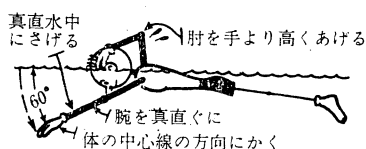
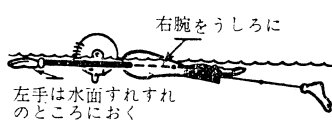
注：本説明はアメリカの水泳学校等において水泳教授の際基本的な、泳法解説として掲示されているものである。

米式クロール泳法

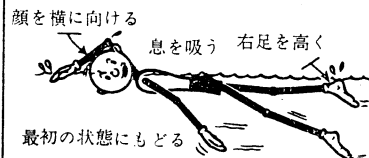
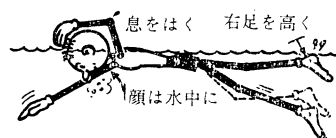
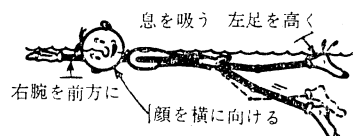
足の運動



腕の運動



総合運動

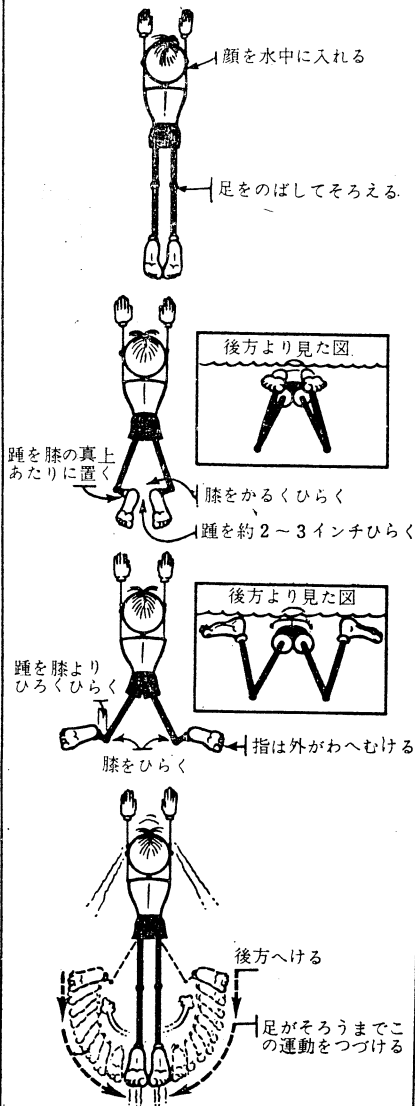


上記は九泳法の説明図の中の第五図である。
この説明図は“水泳教師のための泳法の教え方”より著者の御好意により複製したものである。

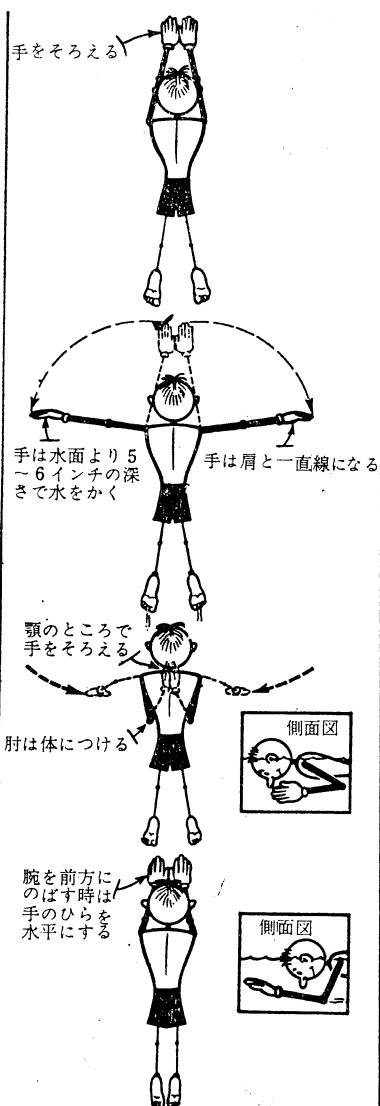
(米国赤十字社 水難防止事業部)

平 泳 ぎ

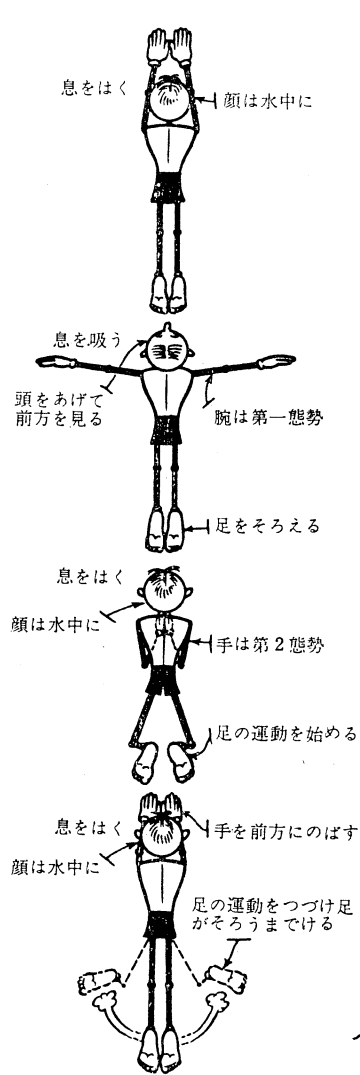
足の運動



腕の運動



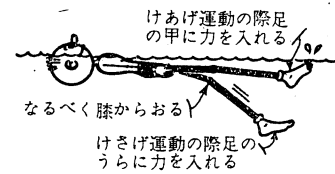
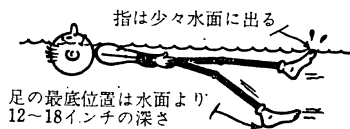
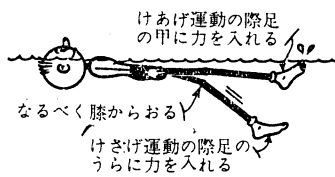
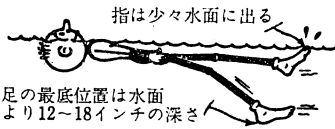
総合運動



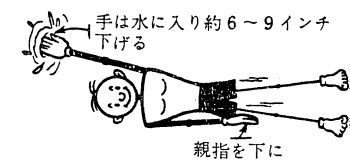
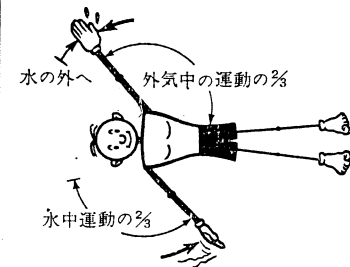
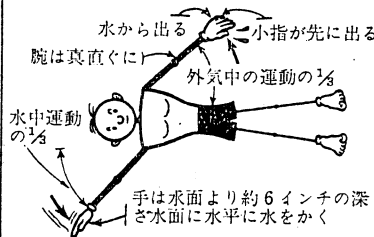
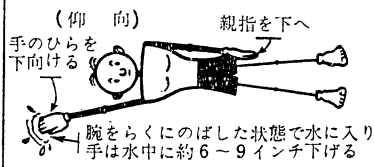
上記は九泳法の説明図の中の第六図である。

背面クロール泳法

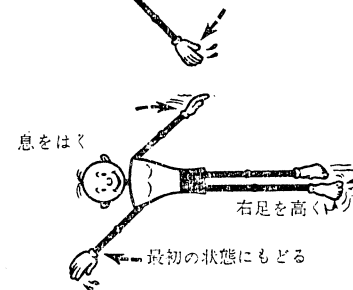
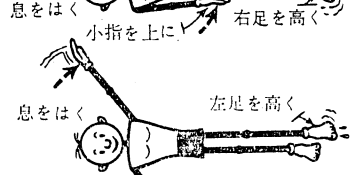
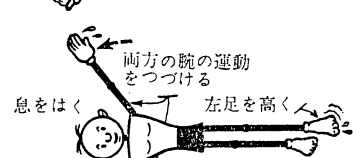
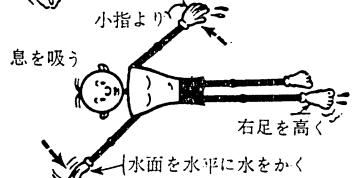
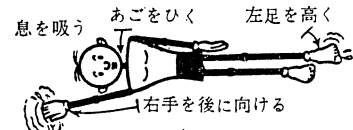
足の運動



腕の運動



総合運動



上記は九泳法の説明図の中の第九図である。

日本水泳連盟
機関誌

水 泳

第141・142号

昭和36年12月10日印刷
昭和36年12月15日発行

日本水泳連盟

編集兼発行所 栗村中丸
印刷所 株式会社成島印刷所

東京都中央区日本橋本石町3の4
電話日本橋(241)1701.6509.7082

東京都千代田区丸の内2-2
丸ビル722区

発行並申込所 日本水泳連盟

電話和田倉(201)3090・4885番
振替口座東京5178番